平成27年9月定例会

飯 島 町 議 会 会 議 録

平成27年 8月31日 開会
平成27年 9月18日 閉会

飯 島 町 議 会

平成27年9月飯島町議会定例会議事日程（第1号）

平成27年8月31日 午前9時10分 開会・開議

1 開会（開議）宣告

1 議事日程の報告

1 町長議会招集あいさつ

- 日程第1 会議録署名議員の指名について
日程第2 会期の決定について
日程第3 諸般の報告
日程第4 第1号議案 番号法施行に伴う飯島町個人情報の保護に関する条例及び飯島町手数料徴収条例の一部を改正する条例
日程第5 第2号議案 飯島町行政手続条例の一部を改正する条例
日程第6 第3号議案 平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定について
日程第7 第4号議案 平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第8 第5号議案 平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
日程第9 第6号議案 平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第10 第7号議案 平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第11 第8号議案 平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第12 第9号議案 平成26年度飯島町水道事業会計決算認定について
日程第13 第10号議案 平成27年度飯島町一般会計補正予算（第2号）
日程第14 第11号議案 平成27年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
日程第15 第12号議案 平成27年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
日程第16 第13号議案 平成27年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第1号）
日程第17 第14号議案 平成27年度飯島町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
日程第18 第15号議案 平成27年度飯島町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）
日程第19 第16号議案 平成27年度飯島町水道事業会計補正予算（第1号）
日程第20 発議第10号 飯島町議会会議規則の一部を改正する規則
（第10号議案及び第16号議案を委員会付託、審査）
日程第21 第10号議案 平成27年度飯島町一般会計補正予算（第2号）
日程第22 第16号議案 平成27年度飯島町水道事業会計補正予算（第1号）

平成27年9月飯島町議会定例会議事日程（追加日程第1号）

- 追加日程第1 議長の常任委員辞任の件

○出席議員（12名）

1番 本多 昇	2番 北沢正文
3番 久保島 巖	4番 折山 誠
5番 橋場みどり	6番 堀内克美
7番 三浦寿美子	8番 浜田 稔
9番 中村明美	10番 坂本紀子
11番 竹沢秀幸	12番 松下寿雄

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者																
飯島町長 高坂宗昭	<table border="0"> <tr> <td>副町長</td> <td>箕浦税夫</td> </tr> <tr> <td>総務課長</td> <td>宮沢卓美</td> </tr> <tr> <td>企画政策課長</td> <td>鎌倉清治</td> </tr> <tr> <td>住民税務課長</td> <td>大久保富平</td> </tr> <tr> <td>健康福祉課長</td> <td>宮下 寛</td> </tr> <tr> <td>産業振興課長</td> <td>唐沢 隆</td> </tr> <tr> <td>建設水道課長</td> <td>田沢義郎</td> </tr> <tr> <td>会計管理者</td> <td>堀内喜美江</td> </tr> </table>	副町長	箕浦税夫	総務課長	宮沢卓美	企画政策課長	鎌倉清治	住民税務課長	大久保富平	健康福祉課長	宮下 寛	産業振興課長	唐沢 隆	建設水道課長	田沢義郎	会計管理者	堀内喜美江
副町長	箕浦税夫																
総務課長	宮沢卓美																
企画政策課長	鎌倉清治																
住民税務課長	大久保富平																
健康福祉課長	宮下 寛																
産業振興課長	唐沢 隆																
建設水道課長	田沢義郎																
会計管理者	堀内喜美江																
飯島町農業委員会 会長 森本令子	飯島町農業委員会事務局長 (産業振興課長兼)																
飯島町教育委員会 委員長 下島恭子	<table border="0"> <tr> <td>教育長</td> <td>山田敏郎</td> </tr> <tr> <td>教育次長</td> <td>小林美恵</td> </tr> </table>	教育長	山田敏郎	教育次長	小林美恵												
教育長	山田敏郎																
教育次長	小林美恵																
飯島町監査委員 堀内克美	飯島町監査委員事務局長 (議会事務局長兼)																

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	宮下 務
議会事務局書記	宮下 弥紀

本会議開会

開 議
議 長

平成27年8月31日 午前9時10分

おはようございます。町当局並びに議員各位におかれましては大変ご苦労さまです。

これから平成27年9月飯島町議会定例会を開会いたします。今定例会は平成26年度各会計決算の認定など重要な議案審議が行われます。各議員におかれましては会期中の本会議及び委員会審査を通じて慎重かつ精力的にご審議をいただくとともに、円滑な議事運営にご協力いただきますようお願いをいたします。

また、森本農業委員会会長さん、下島教育委員長さん、には今会期中ご出席願いますがよろしく願いいたします。

会議に入ります前に、本年6月10日をもって任期満了となりました市村前教育委員長の後任として教育委員長に就任されました下島恭子さんが説明員として出席されておりますので、ここで就任のごあいさつをいただきます。下島委員長発言席へお進み下さい。

下島教育
委員長

皆様おはようございます。この度、市村幸一前教育委員長の後任として、6月15日より教育委員長の任を承りました下島恭子でございます。子育てを取り巻く環境、また子どもを取り巻く環境が日々大きく揺れ動き、親御さんや子どもにとって戸惑いの多い昨今です。またこの4月より教育委員会制度も大きく変わりました。この変化が時代の流れを的確に捉え、子どもの育ちに資するものではなくてはならぬものと捉えています。その中、教育委員は時代の変化をより敏感に感じ取り、公平公正に当然のことではあります、その役割を果たさなければならぬと強く感じています。元より微力なものではありませんが、他の教育委員さん方のお力添えをいただきながら懸命に努めてまいります。どうぞよろしくお願いをいたします。

議 長

これから本日の会議を開きます。本日の議事日程についてはお手元に配布のとおりです。開会に当たり町長からごあいさつをいただきます。

町 長

おはようございます。平成27年9月議会定例会の招集にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。なお、今議会から議場のビデオカメラが一新をされまして、より鮮明に放映をされるとのことでございますので、それぞれ心して対応しなければというふうに考えております。

さて、平成27年8月18日付飯島町告示第63号をもって、平成27年9月飯島町議会定例会を招集をいたしましたところ、議員各位には時節柄ご多忙中にもかかわらず全員の皆様のご出席を賜り心から厚くお礼を申し上げます。また下島教育委員長さん、森本農業委員会会長さんにおかれましても、大変お忙しい中ご出席をいただきまして併せて感謝を申し上げます。

さて、8月も末日を迎えました。明日からは9月となりますが、初夏の風に棚引き青々としていた稲穂も頭をたれ、これからは徐々に黄金色に染まりながら収穫の秋を待つ、そんな飯島町らしい初秋の風景が広がってまいりました。気象庁が今年の4月にエルニーニョ現象は秋にかけて続く可能性が高いと発表したことから、梅雨明け時期や冷夏、日照不足が心配をされたところでございますが、予想に反して例年より早く梅雨明けとともに、

全国的に記録的な猛暑の夏となりました。当町でもこの夏は猛暑とともに極端な少雨、河川の渇水により、一部地域では水田の水回しに苦慮されたとお聞きしておりますが、地域の皆さん方のご協力、助け合いによってこれを乗り切り、お盆明けには一定の降水があったことから水不足は解消に向かって、水稻は今のところ豊作型であり、他の農作物も一部の品目で少雨や高温による影響もあったようではありますが、今年は遅霜や雹などの影響もなく、果物をはじめ作物全般に質・量とも良い傾向にあるとお聞きしております、豊作の実りの秋が待たれるところでございます。

さて、このところ全国各地で火山噴火やそれに伴う噴火警戒レベルの上げが頻繁にされております。先の日永良部島の爆発的噴火は記憶に新しいところありますが、その後、浅間山の火口周辺規制、箱根山の入山規制、最近では桜島の避難準備などの噴火警報が連続して発令をされています。戦後最大の火山災害となった昨年の御嶽山噴火による6人の行方不明者の再捜索が7月から8月にかけて、安全面や装備面を充実したうえで関係機関の連携による大掛かりな体制の中で、上伊那消防本部の消防隊も参加して行われましたが、残念ながら発見できたのは1人に止まりました。火山災害における捜索活動の厳しさ難しさを痛感するとともに、発災時の避難場所の確保、入山規制のあり方、山岳観光、地域振興策の再構築、被災者支援など教訓とすべき災害であったと感じております。昨日も当町では地域分散型の地震総合防災訓練を行い、町民の皆様も行政も防災への備えを再確認をするとともに、防災への意識を高めたところであります。当町では火山噴火による直接的な災害は想定されませんが、地震災害や土砂災害の危険の予知、避難勧告や避難指示、避難誘導、避難所の運営、被災者支援、災害からの復旧・復興など課題を洗い出しながら最悪の事態を想定した中で備えを積み重ねていくことが大切だと認識を新たにしました次第でございます。

さて、今年は戦後70年、広島、長崎の被爆70年の節目の年であり、この8月は各界のリーダーのあいさつや談話に注目が集まりました。中でも安倍総理の戦後70年談話には世界が注目をいたしました。侵略や植民地支配、反省とお詫びなど国際的にも注目をされたいいくつかのキーワードは盛り込まれた一方で、その性格がいまひとつ不明格であったこともありまして、アジア諸国からは一定の評価がなされたものの、国内における評価は分かれているというのが現実の姿だろうというふうに思います。その談話の中で安倍総理は、これまで歴代内閣が表明してきたと同様に先の大戦に対して痛切な反省とお詫びを表するとともに、いま日本は戦後生まれの世代が人口の80%を超える現実を踏まえて、あの戦争には何ら関わりのない私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに謝罪を続ける宿命を負わせてはならないと。しかしそれでもなお私たち日本人は世代を超えて過去の歴史に真正面から向かわなければならない謙虚な気持ちで過去を引き継ぎ、未来へと引き渡す責任があるというふうにも述べております。またその翌日の全国戦没者追悼式では天皇陛下は先の大戦に対する深い反省を述べられました。追悼式のお言葉では初めてということでもあります。また平和の存続を切望する国民の意識にも新たに触れられ、それに支えられてわが国は今日の平和と繁栄を築いてきました、というふうに述べられました。戦後70年ぶれることなく貫いてきた平和主義を、国際協調主義の名の下で積極的平和主義に転換しようとする安保関連法案は現在参議院で審議中ではありますが、多くの学者や参考人が法案の違憲性を指摘する中で、未だ議論は噛み合わない印象を深く持ちます。世論

調査においても多くの国民が法案に反対、あるいは政府の説明不足と回答するなど、国民の疑念や不安は拡大する一方で、内閣支持率の急落にも反映をしております。直近の報道によれば県内77市町村議会の4分の3を越える58の市町村議会が、6月議会定例会及びそれ以降の臨時議会において法案の慎重審議や廃案を求める意見書を可決して、平和を望む国民の声、地域住民の叫びの声として国に対して意見書を提出しております。当町議会でも昭和59年に「非核平和宣言の町」を議決しており、安保関連法案はこの議決に反するものとしてこの6月定例会において安保関連法案に反対する決議がなされました。町議会として安保関連法案に対して反対する強い意志が示されたところであり、今国が果たすべき役割は平和憲法と非核三原則を守り、核兵器全面禁止、核兵器廃絶の先頭に立って平和外交を進め、世界の平和に貢献することだと考えます。唯一の被爆国として私たちは全世界の人々が等しく平和で安全に暮らせる未来を実現するために努めなければならないと考える次第であります。

一方、経済指標でも注目される発表がありました。内閣府が今月17日に発表した4月から6月期の国内総生産GDPは、速報値では物価変動を除く実質で前期比0.4%の減少、このペースが1年間続くと仮定した場合には年率換算では1.6%の減少で、3～4半期、これは9カ月ぶりのマイナス成長となりました。天候不順や物価上昇でGDPのおよそ6割を占める個人消費がいまひとつ振るわず、海外経済の減速により輸出も低迷したことが影響して、加えて企業の設備投資もマイナスに転じたことが要因とされております。昨年4月の消費増税後の落ち込みから景気は緩やかな回復に向っているとなっておりますけれども、ここにきてまた中国経済減速を懸念することに端を発した世界同時株安、円高は日本経済の先行きにも大変大きな影を落とすこととなっております、ここ数日は少し戻しつつあるものの、景気は回復が停滞するいわゆる踊り場の局面に入ったという見方が大勢を占めております。これまでのアベノミクス効果が地域の隅々まで浸透しない中、当町では税収面でいく分か上昇機運がみられておりますが、今後の経済動向をしっかり注視していかなければならない状況が続いております。

さて、現在、策定作業を続けております町の基幹となる計画策定につきましても、いよいよ審議の佳境に入っております。第5次総合計画後期計画の策定に関しては、この8月には全耕地・自治会ごとに計画の素案の概要について説明を申し上げ、多くの町民の皆様にご出席をいただき、様々なご意見やご提案をいただいております。寄せられたご意見やご提案につきましては基本構想審議会における審議に反映をしていただくとともに、すぐにでも行政に生かせるものはスピード感をもって対応をしてまいりたいというふうに考えております。また飯島版の地方創生総合戦略策定に関しましては、戦略推進会議において住民意識調査やワークショップでこの意見などをベースに、これまでの概念にとらわれることなく、効果的で個性的な、個性豊かな総合戦略として10月の計画策定に向けて現在具体的な戦略策定を進めているところであります。いずれの計画にいたしましても進捗状況を議員の皆様にご報告を申し上げますとともに、ご意見をお聞きする機会を設けてまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本定例会にご提案申し上げます案件につきましては、条例案件が2件、決算案件7件、予算案件7件の合わせて16案件でございます。特に9月議会は決算議会とも言わ

れますように、平成26年度の各会計の決算も確定し、認定のための審議をいただくわけ
でございます。その他条例案件、補正予算案件についてもいずれも重要案件でありますの
で、なにとぞ慎重なご審議をいただきまして適正なる決定を賜りますようお願いを申し上
げまして、少し長くなりましたけれども議会定例会招集のごあいさつとさせていただきます
す。どうぞよろしくお願いたします。

議 長 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。
本定例会の会議録署名議員は、会議規則第115条の規定により、5番 橋場みどり議
員、6番 堀内克美議員を指名します。

議 長 日程第2 会期の決定を議題とします。
本定例会の会期につきましては、議会運営委員会において協議しておりますので、議会
運営委員長の報告を求めます。
北沢議会運営委員長。

議会
運営委員長

それでは議会運営委員会の報告をいたします。本日8月31日召集された9月定例会の
運営について、去る8月21日午前9時10分より町側から町長、副町長、総務課長、企
画政策課長に出席をいただき、議長、副議長の立ち合いの下、議会運営委員会を開催をい
たしました。初めに会期について申し上げます。本定例会に提出された議案は、条例案件
2件、決算案件7件、補正予算案件7件、の16件、及び発議1件であります。請願・陳
情の受理は2件であります。案件の内容からして会期は本日8月31日から9月18日ま
での19日間とすることが適当であると決しました。次に審議方法について申し上げます。
第1号及び2号議案は本日即決とし、第3号議案から第9号議案の決算7議案について
は一括上程、総括質疑の後、常任委員会へ分割付託とし、最終日18日に委員長報告の後、
採決することといたしました。次に第10号議案から第16号議案の補正予算案件7件は
一括上程とし、10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算（第2号）及び関連する
第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算案（第1号）については、総括質
疑の後、常任委員会に分割付託とし、本日、常任委員会を開催していただき、本日の本会
議において委員長報告の後採決することといたしました。第11号議案から第15号議案
の補正予算案件5件、及び発議については本日即決といたしました。陳情案件のうち1件
は文書配布、1件は常任委員会に付託いたします。議員各位におかれましては以上ご理解
の上ご協力を賜りますようお願いを申し上げ委員長報告といたします。

議 長 お諮りします。ただいまの委員長報告のとおり、本定例会の会期は本日から9月18日
までの19日間、案件の審議方法は委員長の報告のとおりとしたいと思いますがご異議ご
ざいませんか。

（異議なしの声）

議 長 異議なしと認めます。従って会期は本日から9月18日までの19日間とすることに決
定しました。各案件の審議方法は委員長の報告のとおりといたします。

北沢委員長、自席へお戻りください。

議 長 会期の日程は事務局長から申し上げます。

事務局長	(会期日程説明)
議 長	<p>日程第3 諸般の報告を行います。</p> <p>議長から申し上げます。</p> <p>最初に請願・陳情等の受理について報告します。本日までに受理した請願・陳情等はお手元の請願・陳情等文書表のとおりであり、会議規則第92条の規定により所管の常任委員会に審査を付託します。</p> <p>次に例月出納検査結果について報告します。6月から8月における例月出納検査の結果、特に指摘事項はありません。</p> <p>次に本会議に説明員として出席を求めた方は別紙のとおりであります。本定例会は決算議会でありますので企画政策課財政係長に出席を願うこととしました。なお、橋場代表監査委員から一身上の都合により欠席との通知がありましたのでご報告いたします。</p> <p>次に上伊那広域連合並びに伊南行政組合関係の平成26年度決算につきましては、最終日の議会全員協議会の中で報告、質疑を受けることといたします。</p> <p>以上で諸般の報告は終わります。</p>
議 長	<p>日程第4 第1号議案番号法施行に伴う飯島町個人情報の保護に関する条例及び飯島町手数料徴収条例の一部を改正する条例を議題といたします。本案について提案理由の説明を求めます。</p>
副町長	<p>第1号議案番号法施行に伴う飯島町個人情報の保護に関する条例及び飯島町手数料徴収条例の一部を改正する条例について提案理由の説明を申し上げます。本条例案は行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、以下、番号法と申し上げます。これが本年10月5日に施行されるにあたり、飯島町個人情報の保護に関する条例の一部を改正することによりまして、番号法及び個人情報保護法との整合性を図るとともに、番号法施行に伴い送付される通知カードの再交付について、飯島町手数料徴収条例に新たな規定を設けるものでございます。細部につきましては担当課長から説明申し上げます。よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願い申し上げます。</p>
総務課長	(補足説明)
議 長 8 番 浜田議員	<p>これから質疑を行います。質疑はありませんか。</p> <p>この条例の制定に伴ってですね、情報の保護のために一定のハードウェア、ソフトウェアが必要になるのかなというふうに想定しますが、もしその想定があれば金額等についてお知らせしていただきたいと思えます。</p>
総務課長	<p>先ずあの基幹システムの修正が必要になってまいります。これについてはもう26年度予算と27年度予算で対応しておりまして、システム改修費として26度に10,000,000余りの補助金がまいっておりまして、すべて上伊那広域連合の負担金として納めてございます。それから27年度においては、今度はハード面の整備が必要になる部分がありまして、これはあの中間サーバーと言いまして、情報をやりとりするときにより厳格にするために置くサーバーでございますが、そのサーバーの設置負担金として4,000,000余り、これはあの本日の補正予算の中にも出てまいります。その他いくつか修正する力所があつて、今</p>

年度の国からまいる補助金はこれもおよそ 10,000,000 ほどの予定をされております。以上であります。

議 長
8 番

はい他にありませんか。

浜田議員

あの政府の広報番組等見てますとですね、このカードは大変便利だというかなりの宣伝が行われていて、例えばその裏面の数字を見せずに提示すればいろいろな機能があるというふうな説明も実際には行われているように理解しています。私はあの政府のこれまでの様々な失態といいますか、あの情報保護に対する失態を見るにつけですね、当町はあの政府がやろうとしているこの活用に対してですね、できるだけ抑制的に臨むべきではないかと、要するに当町の中でですね、情報の漏えいが起こるような甘い運用をしてはならないというふうに私は考えているのですけれども、それを最小限に止めるべきだというふうに考えますがお考えはいかがでしょうか。

総務課長

あのおっしゃる通りだと思います。ただしあの国の法律あるいは規定はそのまま守る必要がございますので、それを守った上で先ずあの個人情報流出する可能性もあるという前提に立って必要な措置を講じてまいることたいへん大事ではないかというふうに考えております。でしかもその、もし仮に流出したとしてもですね被害をできるだけ最小限に止めるためのそういった対応がより重要になってくるだろうというふうに考えております。

議 長

はい他にありませんか。

(なしの声)

議 長

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議 長

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第 1 号議案番号法施行に伴う飯島町個人情報の保護に関する条例及び飯島町手数料徴収条例の一部を改正する条例を採決いたします。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長

異議なしと認めます。従って第 1 号議案は原案のとおり可決されました。

議 長

日程第 5 第 2 号議案飯島町行政手続き条例の一部を改正する条例を議題といたします。本案について提案理由の説明を求めます。

副町長

第 2 号議案飯島町行政手続き条例の一部を改正する条例について提案理由の説明を申し上げます。本条例案は行政手続き法の改正に基づき、法の規定から除外されております地方公共団体が行う処分や行政指導の取り扱い等について、法の定めにより飯島町行政手続き条例の中で規定をする必要があるため条例の一部を改正するものでございます。細部につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願いいたします。

総務課長

(補足説明)

議 長

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

(なしの声)

議 長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。
これから討論を行います。討論はありませんか。
(なしの声)

議 長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。
これから第2号議案飯島町行政手続き条例の一部を改正する条例を採決いたします。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。
(異議なしの声)

議 長 異議なしと認めます。従って第2号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 日程第6 第3号議案 平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定について
日程第7 第4号議案 平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第8 第5号議案 平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
日程第9 第6号議案 平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第10 第7号議案 平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第11 第8号議案 平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第12 第9号議案 平成26年度飯島町水道事業会計決算認定について
以上、第3号議案から第9号議案までの決算7議案について、先ほど議会運営委員長の報告で決定されておりますので、これを一括議題とします。本7議案について提案理由の説明を求めます。

町 長 それでは第3号議案から第9号議案までの平成26年度各会計決算認定議案7議案につきまして、一括して提案理由の説明を申し上げます。平成26年度一般会計を始め7会計の決算につきましては、地方自治法及び地方公営企業法の定めるところに従い、過日監査委員の審査を経ましたので、ここに監査委員の意見を付して議会の認定をお願いするものであります。また会計年度における主要な施策の成果を説明する書類等といたしまして、行政報告書、財務分析資料、及び行政評価書を提出いたしますので併せてご覧をいただきたいと思います。なお、私からは決算のごく大綱を申し上げ、後ほど会計管理者及び水道事業会計につきましては所管課長が細部の説明をいたしますので、十分なる審査、審議をいただき認定賜りますようお願い申し上げます。

始めに平成26年度は第2次安倍内閣における特定秘密保護法の成立に至るまでの国会運営を始め、TPP交渉や集团的自衛権、近隣諸国との外交問題など多くの課題を抱えてスタートし、年末には衆議院の解散総選挙が行われ第3次安倍政権が誕生した年でありました。経済では景気の低迷が長引く中において消費税率8%の引き上げが導入されました。国や地方を取り巻く状況は目まぐるしく変化しているところであります。今後も今まで以上に政治や経済の動向に注視する必要があると考えております。このように変化の大きな一年ではありましたが、当町では若者定住を進める予算、健康づくりと地域医療確保

を進める予算、安全安心なまちづくりを進める予算、環境に配慮した自然エネルギーへの取り組みを進める予算、この4つの重点目標を掲げて行財政運営に取り組んでまいりました。全体的には厳しい財政環境の下ではありましたが、一般会計をはじめ各特別会計を含めた町全体の会計は、予算執行方針に基づき概ね計画どおりの行財政運営を行うことができました。これもひとえに町の議会をはじめ住民の皆様のご理解ご協力の賜であり、深く感謝申し上げる次第でございます。

さて当町のすべての会計を合わせました歳出決算規模は、総額でおよそ 7,750,000,000 円となり、平成25年度に比べましておよそ 230,000,000 円増加いたしました。これは水道事業会計がおよそ 40,000,000 円減少したものの、一般会計がおよそ 130,000,000 円、国民健康保険特別会計がおよそ 20,000,000 円、介護保険特別会計がおよそ 50,000,000 円、公共下水道事業特別会計がおよそ 50,000,000 円、農業集落排水事業特別会計がおよそ 20,000,000 円、それぞれ増額となったことが大きな要因であります。

それでは先ず第3号議案の一般会計決算概要について申し上げます。歳入総額はおよそ 4,950,000,000 円、歳出総額はおよそ 4,690,000,000 円となり、前年度に比べまして歳入では5.7%、歳出で2.8%の増額となりました。歳入歳出の差し引きから翌年度への繰越を除いた実質収支はおよそ 170,000,000 円の黒字決算となり、前年度繰越金を差し引いた単年度収支においてもおよそ 60,000,000 円の黒字、また積立金や起債の繰り上げ償還などを勘案した実質単年度収支におきましてもおよそ 90,000,000 円の黒字決算となりました。平成26年度は国庫支出金や県支出金の増額や、地域介護福祉空間整備事業、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業、飯島小学校トイレの改修事業などの普通建設事業が増加したことにより2年連続で増額となる決算規模となりました。それでは歳入の主な内容であります。町税につきましては前年度比2.5%の増額となりました。たばこ税以外の税目は増収となりました。特に固定資産税のうち償却資産が13.6%の増収となりました。収納率につきましては前年同様積極的な滞納整理に取り組んだ結果、町税で2.5ポイント好転をいたしました。まだまだ景気の影響によるところが大きいわけですが、今後も納税意識の高揚を図りながら効果的な収納対策に努めてまいります。地方交付税にあっては前年度に比べおよそ 30,000,000 円、1.9%の減額となりました。町債につきましては臨時財政対策債は減額となったものの、建設関係の起債発行が増額となったためにおよそ 10,000,000 円の増となりました。当町の重要な財源であり依存度の高い地方交付税、臨時財政対策債は全体的に減額となることが今後も予想されます。今後の動向に注視し続けなければならない重要な課題であることには変わりありません。次に歳出であります。土行政の効率化を図り経常経費の削減を続けております。また住民の皆様にも一部負担をいただく中で予算の執行を行ってまいりました。先ず平成25年度からの繰越事業としておよそ 230,000,000 円の事業を実施いたしました。主な事業として地域介護福祉空間整備事業、社会資本の整備総合交付金事業、飯島小学校トイレ改修事業などを行いました。次に若者定住促進関連としまして地域おこし協力隊制度を活用して、出会い・婚活と移住・定住をセットで進めてまいりました。また成婚定住祝い金の新設や定住に繋がる住宅リフォーム支援補助金についても補助を継続するなど、町の重要課題である定住促進対策について積極的に取り組んでまいりました。健康づくりと地域医療確保の推進といたしましては、地域医療の充実を図るために新設した開業医支援事業補助金や

医学生への奨学金、各種予防接種への補助、中学生のピロリ菌検査、各種検診への補助の拡大など健康づくりと地域医療の確保に向けて取り組みを進めてまいりました。安全安心なまちづくりの推進では、消防団が使用する積載車2台と指令車1台の計3台の車両の更新など消防団の機能強化を図りました。また町民の皆様の安全を確保するために、土砂災害など各種災害に対応する避難勧告等の発令判断基準を定めました。避難所の非常用電源を確保するため役場庁舎と文化館に非常用発電装置を整備いたしました。インフラ整備といたしましては、各町道の改良や広域農道の整備に向けて事業を進めてまいりました。また国、県及び関係機関の皆様にご尽力をいただき伊南バイパスが田切地区まで供用を開始し、同時に竜東線田切工区も供用となったところであります。その他林道整備や農業用水路改修など農林業の生産基盤の整備も進めてまいりました。活力あるまちづくりの推進といたしましては、超百大使である橋幸夫さんにご尽力をいただき、元気づくり支援金を活用した「まちおこしソング&ダンス」の披露イベントを実施いたしました。街中の活性化の取り組みに対して地域おこし協力隊制度を活用して取り組みを進めました。また国が進めている地方創生に対する取り組みも進めたところであります。この他、住民の皆様が活力をもって安全で快適に生活することができるよう各種事業を実施したところであります。次に環境に配慮した自然エネルギーへの取り組みの推進につきましては、町民の皆さんが主体となって取り組んでいただくよう自然エネルギー活用事業を地域おこし協力隊制度を活用して進めてまいりました。新たな補助事業といたしまして、自然エネルギーの適切な供給事業を行う町内企業を支援する目的で、自然エネルギー発電施設設置補助金を創設しその普及に努めました。次に基本計画に掲げた重点プロジェクトを推進する予算では、町を担う人づくりとしまして地域全体で学校を支援するため、七久保小学校をコミュニティースクールに指定をするとともに、学校支援コーディネーターを配置し、地域と学校を繋ぎ、学校、保護者、地域住民が一体となって児童の健全育成に取り組みました。また様々な町のPR事業に取り組み町の魅力を発信しているところであります。なお国の経済対策を活用した地方創生交付金事業、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業、社会资本整備総合交付金事業など、年度内の事業が完了不可能であった13事業およそ440,000,000円につきましては、平成27年度への繰越事業といたしました。このように多くの事業を実施する中、硬直化する財政の体質改善策として平成19年度から実施しております起債の繰り上げ償還を、平成26年度につきましてもおよそ40,000,000円実施をいたしました。基金につきましては起債の繰り上げ償還に充当するために、当初予算に計上した減債基金からの繰り入れ110,000,000円の全額を執行することなく、1年間の行政運営を行い基金残高を確保をすることができました。財政調整基金につきましては利子分のみの積み立てとなりましたが、年度末現在高は約1,000,000,000円を超えたところであります。また公共施設等整備基金におよそ20,000,000円の積み立てを行いました。町の公共施設の老朽化に伴います今後の維持管理費の増などを考えますと、今後もできる限りの基金造成を行う必要があると考えております。次に当町の財政状況についてであります。地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づきます実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4指標は平成26年度も国が示した一定の基準は超えておりません。実質赤字比率と連結実質赤字比率につきましては黒字決算であったために昨年同様数字は表れませんでした。実質公債費比率は1.8ポイント低下し1.1.

9%、また将来負担率は13.2ポイント低下し78.0%となりました。その他の主な財政指標については財政力指数が0.39と前年度と同数字となりました。経常収支比率につきましては人件費、物件費、扶助費、繰出金に充当した一般財源の額が増額となったこと、また普通交付税と臨時財政対策債が減額となったことなどによる一般財源の歳入が減少したことによりまして、前年度に比べて1.6ポイント増加し、77.4%となりました。昨年の大幅な減少から一転して増加となったところであります。今後ともより一層財政の健全化に向けて努力をしていかなければならないというふうに考えております。基金造成や起債の繰り上げ償還の実施、その他経常経費の削減などの取り組みを行ってまいりましたが、今後は今までに実施をしてまいりました大型事業の起債の償還が始まることや、地方創生に関連した事業を始めとする新規事業の取り組み、道路橋梁などのインフラ施設をはじめとする各種の公共施設への維持補修経費、一部事務組合などへの外部団体への負担金など負担増の要因も数多くありますので、今まで以上に慎重で健全な財政運営を行う必要があるというふうに考えております。

続いて第4号議案の国民健康保険特別会計の決算概要について申し上げます。歳入歳出差し引き額はおよそ44,000,000円の黒字となり翌年度への繰越金となりました。歳入では前年度に比べおよそ1,000,000円、0.1%の減額となりました。国保税につきましては前年度比でおよそ6,600,000円、2.7%の減収となりました。その他、国、県、共同事業交付金などは増額となりましたが、療養給付費交付金、前期高齢者交付金、繰越金などが減額となっております。また国保税の収納率につきましては前年度に比べ上昇しております。また収入未済額につきましてはおよそ7,600,000円減少し、およそ24,000,000円となっております。個々の事情もあろうかと思いますが、国保制度をご理解をいただき納税いただくよう今後とも努めてまいりたいと考えております。歳出につきましては前年度比およそ23,000,000円の増額となりました。保険給付費が前年度と比べておよそ19,000,000円、3.1%の増となったことが大きく影響しております。被保険者数につきましては若干増加してきております。今後も被保険者の皆様の健康を守る医療保険者として保健予防に努め、国保会計の健全運営に努めてまいります。

次に第5号議案の後期高齢者医療特別会計の決算について申し上げます。歳入歳出差し引き額はおよそ2,000,000円の黒字となり翌年度への繰越金となりました。歳入総額は保険基盤安定分の増などにより昨年度より2,000,000円ほどの増額決算となっております。歳出総額は前年度に比べおよそ2,000,000円、2.2%の増額となっております。なお保険料の収納率につきましては高い収納率を維持しており、対象の皆様のご理解ご協力に感謝を申し上げます次第であります。

次に第6号議案の介護保険特別会計の決算概要について申し上げます。歳入歳出差引額はおよそ15,000,000円の黒字となり翌年度への繰越金となりました。歳入総額は前年度に比べ52,000,000円、5.4%の増となりました。介護保険料につきましてはおよそ1,500,000円の増加となっております。また保険料の収納率は99.1%であり、昨年よりわずかではありますが低下をしております。被保険者数は前年度に比べ53名増加しており、年々増加傾向となってきております。歳出総額につきましては前年度に比べておよそ48,000,000円、5.0%の増加となりました。この増額の理由としましては保険給付費の増加分であります。給付費の適正給付や介護予防事業の実施により今後も引き続き適

正な会計運営に努めてまいります。

次に第7号議案の公共下水道事業特別会計の決算概要について申し上げます。歳入歳出差し引き額はおよそ28,000,000円の黒字となり翌年度への繰越金となりました。管渠の工事は終了し、現在維持管理業務中心の形態となっておりますが、つなぎ込み率の向上を目指しつつ飯島処理区の2池目の建設について検討をしております。安定した料金収入を確保するとともに健全経営を目指してまいります。

次に第8号議案の農業集落排水事業特別会計の決算概要について申し上げます。歳入歳出差し引き額はおよそ26,000,000円の黒字となり、翌年度への繰越金となりました。現在、維持管理業務のみの形態となっております。今後は公共下水道事業と同様につなぎ込みの普及を図るとともに健全な運営を目指してまいります。

最後に第9号議案の水道事業会計の決算についてでございます。平成26年度も断水までに至る大きな災害や取水停止もなく安定給水ができました。また公営企業会計制度の改正後の初の初年度でありました。主な事業といたしましては県道改良工事関連が1件、老朽管の布設替え工事が5件、樽ヶ沢浄水場の避雷機器機能強化工事を実施いたしました。業務面におきましては給水件数が前年度に比べ41件増加したものの、有収水量は前年比2.2%減の893,000立方メートルとなりました。単年度の収支はおよそ25,000,000円の黒字決算となりました。この結果翌年度までの繰越利益剰余金から差し引いた当年度の未処分利益剰余金はおよそ110,000,000円となりました。今後も安定給水や健全運営に努めてまいりたいと考えております。

以上、第3号議案から第9号議案まで平成26年度の各会計決算について概要を申し上げます。今後の地方行財政を取り巻く情勢は今まで以上に厳しいものがあると思われまます。公共施設等の維持管理経費や扶助費、繰出金等の増大も想定をされる中、細心の注意を払いながら健全な財政運営に努めつつ、「人と緑かがやくふれあいのまちづくり」を目標に、町民の皆様とともにこの町に暮らすすべての皆さんが夢を持つことができるまちづくりを「勇気・挑戦・感動」の実践により進めてまいりたいと考えております。今後とも議員各位の一層のご協力をお願いを申し上げ、よろしくご審議の上、認定賜りますようお願いを申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

会計管理者

それでは第3号議案から第8号議案までご説明申し上げます。なお後日委員会で審査いただくことになりましたので、私からはお手元の決算書、行政報告書で概要を説明させていただきます。説明が重複する箇所があるかと思いますがよろしく願いいたします。なお、決算計数につきましては万円の単位とさせていただきます。それでは決算書をお願いいたします。最初のページ会計別決算総括表が平成26年度各会計の決算額でございます。一般会計と特別会計、計6会計の決算総額は、歳入では7,793,060,000円、前年度に比べ5.3%の増、歳出では7,415,330,000円、前年度に比べ3.9%の増、翌年度への繰越金総額は377,720,000円となりました。続きまして各会計別に申し上げます。

第3号議案一般会計歳入歳出決算書について申し上げます。決算書1ページから5ページをお願いいたします。歳入につきましては収入済額を申し上げます。1款町税費1,147,600,000円、1項町民税430,090,000円、2項固定資産税638,210,000円、3項軽自動車税28,580,000円、4項町たばこ税50,710,000円、町税につきましては各税目におきまして前年度より増加いたしました。たばこ税につきましては減額となっております。

収納率は97.0%、前年度より2.5ポイント上がっております。収入未済額は29,460,000円で前年度より12,030,000円減少いたしました。徴収が困難なものにつきまして5,520,000円の不納欠損処理を適正に行っております。続きまして2款地方譲与税76,480,000円、3款利子割交付金1,990,000円、4款配当割交付金5,670,000円、5款株式等譲渡所得割交付金4,310,000円、6款地方消費税交付金114,210,000円、8款自動車取得税交付金8,130,000円、11款地方特例交付金3,650,000円、12款地方交付税1,781,980,000円、13款交通安全対策特別交付金1,660,000円、2ページをお願いいたします。14款分担金及び負担金63,440,000円、15款使用料及び手数料51,150,000円、収入未済額1,190,000円は町営住宅の使用料でございます。16款国庫支出金475,700,000円、収入未済額201,690,000円は地方創生事業などの繰越明許費の財源となっております。17款県支出金280,960,000円、18款財産収入19,020,000円、19款寄附金16,660,000円、この内、ふるさと飯島応援寄附金は16,370,000円で前年度の約8倍となりました。20款繰入金96,660,000円、21款繰越金124,430,000円、22款諸収入238,270,000円、収入未済額は町税の延滞金と民生費雑入の学童クラブ保護者負担分でございます。23款町債437,700,000円、収入未済額153,500,000円は農業施設整備事業債、町道整備事業債で繰越明許費の財源となっております。一般会計の歳入合計は4,949,750,000円となりました。予算現計に対する収入済額の執行率は93.5%、調定額に対する収入済額の執行率は92.7%でございました。

次に、行政報告書15ページをお願いいたします。歳入決算額の状況でございますが、歳入総額の36%を地方交付税が占め、次いで町税が23.2%、国県の支出金を合わせまして15.3%でございました。16ページ歳入決算額の推移でございますが、平成24年度から僅かずつですが増加しております。

次に歳出決算について申し上げます。決算書にお戻りいただいて、4ページから5ページをお願いいたします。歳出につきましては支出済額を申し上げます。実施事業の詳細につきましては委員会において担当課よりご説明申し上げますのでよろしくお願いいたします。4ページ1款議会費72,390,000円、主に報酬・手当での支出でございます。2款総務費690,460,000円、役場庁舎の非常用電源装置整備工事、防災展示ホールの改修工事を行いました。コミュニティー助成事業の補助金交付や定住促進事業における補助金の支給、循環バス運行事業を前年度に引き続き行いました。防災対策費では防災行政無線デジタル化増設工事を行いました。基金の積立といたしまして減債基金、公共施設整備基金、ふるさといいじま応援基金に新規積立をいたしました。翌年度繰越額13,100,000円につきましてはまちなか活性化事業などの繰越明許費の財源となっております。3款民生費1,252,320,000円、社会福祉費では前年度からの繰越事業といたしまして、地域介護福祉空間整備事業により高齢者障がい者交流センターの建設工事や新たな福祉施設の建設の補助金交付をいたしました。国の制度といたしまして臨時福祉給付金、子育て世代臨時特例給付金の給付事業を行いました。児童福祉費では児童手当140,990,000円の支給をいたしました。特別会計への繰出金といたしまして国民健康保険特別会計へ49,330,000円、介護保険特別会計へ151,860,000円、後期高齢者医療特別会計へ38,200,000円の繰出をいたしました。翌年度繰越額10,920,000円につきましては低所得者や多子世帯向け商品券給付事業などの繰越明許費の財源となっております。4款衛生費306,280,000円、新たに

開業医経営設備資金預託金といたしまして 16,000,000 円を預託し、開業医支援の融資準備といたしました。保健衛生費では妊娠・出産・育児包括支援事業に新たに取り組みました。また健康と福祉が連携した第1回健康福祉大会の開催を行いました。昭和伊南総合病院への負担金は 85,150,000 円で前年度より 15,000,000 円減少いたしました。翌年度繰越額 15,000,000 円につきましては開業医支援事業補助金の繰越明許費の財源となっております。6 款農林水産業費 499,890,000 円、農業費では昨年 2 月の雪害により被災した農業者向けの支援や田切の道の駅の用地取得、中央道跨水路橋の耐震診断、信州いいじまマルシェのリサーチ営業を行いました。林道整備では林道横根山線の改良工事を行いました。翌年度の繰越額 365,170,000 円につきましては、田切の拠点施設建設工事などの繰越明許費の財源となっております。7 款商工費 198,680,000 円、観光地のトイレ建設事業といたしまして坊主平に新たな観光地トイレを建設いたしました。商工振興資金預託金 120,000,000 円は継続いたしました。商工業者支援や各種イベント事業に対する補助金を支出しております。翌年度への繰越額 10,600,000 円につきましてはプレミアム商品券発行事業の繰越明許費の財源となっております。8 款土木費 474,310,000 円、道路橋梁の整備では北街道縦 3 号線、南田切線の整備と中央道に架かる上ノ原橋他 4 橋の橋面防水工事を行いました。町営住宅では北梅戸住宅、上通り住宅の耐震改修工事が前年度からの繰越事業で行われました。特別会計への繰出金といたしまして公共下水道事業会計へ 197,800,000 円、農業集落排水事業会計へ 145,000,000 円の繰出をいたしました。翌年度繰越 20,680,000 円につきましては橋梁長寿命化修繕工事委託料で繰越明許費の財源となっております。9 款消防費 232,300,000 円、消防団本部指令車の購入、可搬ポンプ積載車を第 3 分団・第 5 分団に購入いたしました。また消防施設整備事業では地域の消防設備の整備を行いました。10 款教育費 400,820,000 円、文化館の非常用電源装置整備工事、飯島小学校のトイレの改修など各施設の整備を図りました。また小・中学校の運営費は 131,730,000 円で、児童生徒の学習備品の購入や学校施設の修繕を行いました。翌年度繰越額 7,290,000 円につきましては子育て環境整備事業補助金などで繰越明許費の財源となっております。11 款災害復旧費 1,150,000 円、農業施設災害復旧事業 220,000 円、林業施設災害復旧事業 930,000 円でございます。12 款公債費 558,970,000 円、元金償還 494,370,000 円、内、繰上償還 36,830,000 円、利子 64,590,000 円でございます。13 款諸支出金 30,000 円、土地開発基金繰出金 30,000 円でございます。14 款予備費につきましては支出はございませんでしたが、税の還付金 600,000 円、経営所得安定対策事業交付金 2,480,000 円、農地整備事業工事費 500,000 円に充用いたしました。一般会計の歳出合計は 4,687,660,000 円となりました。平成 26 年度は 25 年度からの繰越事業 9 件、226,950,000 円を実施し、平成 27 年度への繰越は 13 事業 442,760,000 円となりました。予算現額に対する執行率は 88.5% ございました。以上が一般会計の目的別支出の状況でございます。

次に行政報告書の 19 ページをお願いいたします。第 6 表性質別決算額の状況でございますが、構成比率では人件費が 18%、投資的経費である普通建設事業費が 14.8%、繰出金 14.6%、補助費等が 13.6%、の順となっております。次に 20 ページ第 7 表の性質別決算額の推移でございます。前年度と比べ積立金、公債費が減少いたしました。が扶助費と普通建設事業費が増加し、全体では 2.8% の増でございます。ページを戻っ

ていただき14ページをお願いいたします。第1表決算収支の状況でございます。上の段の表、実質収支額は翌年度への繰越財源を除き174,520,000円の黒字決算となりました。下の段の表、実質単年度収支はさらに積立金を勘案し95,740,000円の黒字決算となりました。決算書に戻っていただき、116ページからは財産に関する調書でございます。公有財産の土地では道の駅田切の里の用地取得が主な内容になります。また建物では障がい者地域活動支援センターと坊主平のトイレの建築でございます。山林の増加につきましては保安林の面積修正によるものでございます。次に119ページをお願いいたします。123ページまで物品の現在高明細が載っております。26年度中の移動につきましては数量増減欄、増減額、及び備考欄に記載してございますのでお願いいたします。次に124ページをお願いいたします。3債権でございますが、ふるさと融資の貸付金が38,460,000円の減となっております。4基金でございますが、各基金ともそれぞれ積立と利息、一般会計への繰入により年度末総額は1,816,680,000円になりました。各基金ごとの変動内容につきましては125ページの基金付表のとおりでございます。次に126ページの基金の運用状況につきましては勤労者生活融資基金の貸与はございませんでした。奨学基金は5名、2,400,000円の運用がございました。127ページをお願いいたします。起債目的別現在高表でございます。借入額437,700,000円、元利償還金557,380,000円、年度末現在高は前年度より56,670,000円の減、4,964,160,000円となりました。以上一般会計の歳入歳出決算及び財政状況等について申し上げます。

続いて各特別会計について申し上げます。

第4号議案国民健康保険特別会計歳入歳出決算について申し上げます。決算書の1ページから4ページをお願いいたします。2ページ歳入総額1,006,890,000円、4ページ歳出総額963,340,000円、差引額43,550,000円を翌年度に繰越しました。町内の国民健康保険への加入率、被保険者数につきましては大きな増減はございませんでした。歳入では国税が収入済み額232,760,000円で前年度に比べ6,600,000円の減となっております。収入未済額は23,970,000円で前年度より7,600,000円減少いたしました。収納率は88.8%で前年度より1.3ポイント上昇いたしました。また滞納分の内5,490,000円の不納欠損処理を行いました。歳出では保険給付費が629,870,000円で前年度より18,880,000円、3.1%増の給付状況となりました。27ページ、財産に関する調書をお願いいたします。基金につきましては利子分が増加し、年度末現在高は198,270,000円となっております。

次に、第5号議案後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算について申し上げます。決算書1ページから2ページをお願いいたします。1ページ歳入総額116,750,000円、2ページ歳出総額114,590,000円、差引額2,150,000円を翌年度に繰越しました。対象者数は1,759人で、前年度より10人減少しております。歳入では保険料が76,040,000円で前年度より430,000円増加いたしました。収納率100%を達成いたしました。歳出では後期高齢者医療広域連合への納付金が106,750,000円となり、前年度より2,690,000円、2.6%の増となりました。

第6号議案介護保険特別会計歳入歳出決算について申し上げます。決算書1ページから2ページをお願いいたします。1ページ歳入総額1,020,300,000円、2ページ歳出総額1,005,090,000円、差引額15,210,000円を翌年度に繰越しました。被保険者数は8,75

9人で前年度より53人増加しております。歳入では保険料収入済額が192,310,000円で前年度に比べ1,540,000円、0.8%の増となりました。収納率は99.1%で99%台を保っております。滞納分の内約20,000円の不納欠損処理を行いました。歳出では介護保険給付費が945,100,000円となり、前年度と比べ47,900,000円、5.3%増加いたしました。17ページ財産に関する調書をお願いいたします。基金につきましては利子分が増加し、年度末現在高は41,190,000円となっております。

第7号議案公共下水道事業特別会計歳入歳出決算について申し上げます。決算書1ページから2ページをお願いいたします。1ページ歳入総額410,730,000円、2ページ歳出総額382,460,000円、差引額28,270,000円を翌年度へ繰越しました。歳入では一般会計からの繰入金197,800,000円、起債の借入80,000,000円、受益者負担金の収入済額は16,240,000円で、新たな福祉施設の建設により前年度に比べ10,600,000円約3倍に伸びました。収入未済額1,990,000円は加入金の滞納繰越分と使用料の現年分と滞納繰越分でございます。歳出では施設の維持管理が主体となっております。下水道事業の起債の償還を元金と利子を合わせ309,430,000円を行いました。12ページ財産に関する調書をお願いいたします。公共下水道事業地方債残高でございますが、26年度の借入は資本金平準化債80,000,000円、元金の償還が226,070,000円、このうち繰上償還37,000,000円を行い、年度末残高は4,098,170,000円で、前年度末より146,070,000円の減となりました。

第8号議案農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算について申し上げます。決算書1ページから2ページをお願いいたします。1ページ歳入総額288,610,000円、2ページ歳出総額262,170,000円、差引額26,430,000円を翌年度へ繰越しました。歳入では一般会計からの繰入金145,000,000円、地方債の借入74,600,000円、新規加入者負担金は2件1,370,000円でございます。収入未済額220,000円は使用料の現年分と滞納繰越分でございます。歳出では施設の維持管理が主体となっております。起債の償還を元金、利子合わせ201,300,000円行いました。12ページ財産に関する調書をお願いいたします。農業集落排水事業地方債残高でございますが、26年度の借入は74,600,000円、元金の償還が159,200,000円、このうち繰上償還35,390,000円を行い、年度末残高は2,130,330,000円で前年度末より84,600,000円の減となりました。

以上で各特別会計の決算報告といたします。

なお、支払資金といたしまして財政調整基金700,000,000円を繰替え運用し、利息1,560,000円とともに再度、財政調整基金に積立をいたしました。

以上で第3号議案から第8号議案までの説明とさせていただきます。細部の事業につきましては委員会において各担当からご説明を申し上げますのでよろしくお願いいたします。

建設水道課長

それでは第9号議案平成26年度水道事業会計決算につきまして細部説明をさせていただきます。大きな災害もなく、引き続き安定給水をすることができました。また公営企業会計制度の改正初年度でありました。それでは決算書の一番最後に水道事業会計決算書がございます。8ページをご覧ください。上段(1)業務量の表にあります年度末給水件数の欄をご覧ください。平成26年度末では41件増加し3,659件となりました。次に下段の給水量でございますが平成25年度までは900,000立方メートルを維持しておりましたが、平成26年度につきましては893,496立方メートルとなりました。続きまして3ページにお戻りをいただいて、ご覧をいただきたいと思います。こうした状況の中で事

業損益計算書の1の営業収益と3の営業外収益を合わせた収入額では212,670,000円と、前年度より8%増の収入となりました。一方、2の営業費用と4の営業外費用、5の特別損失と合わせた支出総額では210,220,000円と、昨年より0.8%減額となりました。この結果、当年度の収支差引は2,450,000円の利益となり、前年度繰越利益剰余金、制度改正に伴うその他未処分利益剰余金変動額を合わせた当年度未処分利益剰余金は110,560,000円となりました。続きまして2ページをご覧ください。資本的収支につきましては収入総額は建設改良事業のための企業債借入金と道路関連事業に伴う補償金、負担金の繰入金を含め22,020,000円に対し、支出総額は126,620,000円でございます。これによる資本的収支の不足額104,950,000円は過年度分損益勘定留保資金等で補填をいたしました。続いて5ページをお願いいたします。貸借対照表による26年度末における飯島町水道事業の資産合計は3,095,160,000円となりました。主な事業につきましては道路改良関連での配水管布設工事を1件、消火栓新設2基、水道事業単独改良工事5件を実施しております。また樽ヶ沢浄水場関係では避雷機能増強工事を行っております。本年度の配水管の布設総延長は1,312メートルで総延長146,630メートルとなりました。以上で説明を終わらせていただきます。よろしくをお願いいたします。

議長 ここで休憩といたします。再開時刻を午後1時といたします。休憩。

午前10時45分 休憩

午後 1時00分 再開

議長 休憩を解き会議を再開いたします。ここで監査委員の決算審査報告を求めます。堀内監査委員をお願いいたします。

堀内監査委員 それでは平成26年度決算審査報告を申し上げます。本来であれば橋場代表監査委員よりご報告をするところでございますが、諸般の事情により橋場代表監査委員に代わりまして私から決算審査の結果について報告を申し上げます。決算審査意見書につきましては既にお手元に配布されておりますので、この意見書に基づいて審査結果の報告を申し上げます。決算内容につきましては先ほど町長、会計課長、建設水道課長から提案説明がありました。これと重複するところがあるかと思いますが、お許しをいただき、決算審査において確認してきた内容につきまして報告をさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

それでは初めに平成26年度飯島町一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに基金運用状況審査意見書に基づいてご報告をいたします。審査意見書の1ページをお開きをいただきたいと思っております。審査の概要であります。審査対象は平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算、平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算、平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算、平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算、平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算、平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算、以上6会計。それから附属書類としましては平成26年度飯島町各会計歳入歳出決算事項別明細書、平成26年度飯島町各会計実質収支に関する調書、平成26年度飯島町各会計財産に関する調書、それから基金運用状況につき

ましては平成26年度飯島町各基金運用状況調書でございます。それから審査の期間につきましては平成27年の7月30日から8月11日のうちで5日間を実施をいたしました。審査の方法につきましては平成26年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び基金運用状況調書等について関係諸帳簿、証拠書類と照合し、計数の確認と併せて予算執行は適正かつ効率的か、財政運営及び資金収支は健全かつ効率的か、また事務の合理化、経費削減に努力しているかなどに視点を置き、更には既に実施してあります例月出納検査の状況も参考にして審査を実施をいたしました。また事業の内容等につきましては行政報告書を中心にして関係職員から説明を求め、行政評価書に基づく事務事業評価についても併せて審査を行いました。

審査の結果でございますが、審査に付された各会計決算書、事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書並びに各基金の運用状況報告書につきましては、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は誤りがないものと認めました。また予算の執行及び財政運営状況についてもともに適正であることを確認をいたしました。

次に総括的な意見でございますが、平成26年度はアベノミクスによる景気回復を民需主導の持続可能な成長につなげ、その成果を全国各地に届けるという意気込みの下に政府の政策取り組みがなされてきたところでございます。地方経済は先行き不透明な状況からなかなか脱しきれない状況の中ではありますが、業種や地域によってアンバランスがあるもののわずかながら景気回復の気配を感じつつある、まあそんな1年であったと思います。また広島の土石流災害、御嶽山の噴火、長野県西部地震など全国的にも県内でも大きな災害が発生しましたが、幸いに当地域では大きな災害もなく穏やかな年であったと思います。こうした状況の中、当町は第5次総合計画前期計画4年目の年であり、「人と緑かがやくふれあいのまち」を目指して取り組んできた年でもありました。今回の決算審査を通じて一貫して認められるのは、決算内容については職員が決められた予算目的に基づき的確に効率的にかつ真剣に取り組んできた姿の反映であり、その努力を評価するものであります。また行政評価書において各課の自己評価はそのほとんどの項目についてA評価を示しているが、納得できる評価として認めました。

次に町の財政状況については、地方交付税は減少したものの町税及び補助金の増加により収入増となりました。併せて歳出も増加し前年度を上回る決算規模となりました。地方公共団体の財政力を示す財政力指数は3年連続同数値の0.39を維持しており、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は前年の75.8から1.65ポイント増加し、77.6とやや悪化しているものの、それぞれ大きな変動もなく推移しております。また実質的な公債費が財政に及ぼす負担を占めず指標である実質公債費比率も積極的な起債の繰り上げ償還により前年度より1.8ポイント減少し11.9となっております。それぞれの会計の決算状況については、一般会計においては補助金・交付金を積極的に活用し、予算に沿った運営が行われたこと、また特別会計では各会計において黒字の結果であることを確認をいたしました。次に財政調整基金については前年対比100.2と微増、減債基金については前年対比77.4%と大幅に減少しておりますが、起債の繰り上げ償還の資金として取り崩した結果でありまして、いずれも財政環境の変化への対応等が適切に行われているものと確認をいたしました。これらの結果につきましては、平成21年度から改善してきております数年来の基準を維持しており、今後の経済情勢の好転による収増などにより

更なる改善に向かうことを期待するところであります。

次に行財政運営にあたって、歳入に関しては町税、国民健康保険税等の収納率が向上しており収入未済額の解消に向けた努力の成果が認められます。今後も一層の収納確保に努められることを期待いたします。歳出に関しては外部委託の推進、指定管理者制度の活用、組織機構の見直し等、積極的に取り組んでいることが伺えます。さらに一層の経費削減を図るとともに効率的、効果的な予算の執行に努めることを期待いたします。また引き続き、常日頃から町民ニーズを的確に把握し、最小の経費で最大の効果が上がるよう一層の住民サービスの向上に努められることを望みます。更に地域活性化につなげる取り組みとして新たな取り組みとして採用されました地域おこし協力隊、また、まちなか活性化協議会につきましては目的に沿った活動によります町の活性化の起爆剤として期待するところでございます。

次に、行政手続法の改正は平成27年4月1日から施行が、法律の施行が行われておりますが、条例改正が未整備であります。幸い関連事案の発生がありませんでしたが、早期な対応を求めます。なおこの件につきましては先程の本会議で条例改正が可決をされておりますので付け加えさせていただきます。また予算編成において道路維持費のような住民生活に密着した経常的な事業費につきましては、当初予算で多くを計上することについて提案をしてきたところでございますが、本年はある程度の上積みがなされたことを評価し、今後もそうした配慮が続けられることを要望いたします。

最後に、今回の決算審査においては「公の施設の指定管理者」について、その内容及び管理の状況確認を重点実施しましたが、おおむね適正であると認められたことを付記をいたしたいと思います。

次に決算の概要でございます。決算状況につきましては、町長及び会計管理者から提案説明の中で縷々説明をされておりますので、重複するかと思います。主だった問題についてだけを申し上げて、あとは省略をさせていただきたいと思っております。一般会計及び特別会計5会計を合わせて歳出決算総額は7,415,330,000円、対前年比275,540,000円3.9%の増加となりました。いずれの会計も実質収支は黒字決算となっております。収入未済額の状況につきましては58,580,000円で3年連続減少しております。対前年比では20,250,000円25.7%と大きな減少となっております。平成26年度の市町村税の決算状況速報によりますと、飯島町の徴収率順位は県下77市町村の上から14番目ということで収納率の高さが伺えます。また基金の状況でございますが、基金につきましては一般会計及び5つの特別会計を含めまして8ページの表の通り14の基金を保有しております。特徴的なこととしましては「ふるさといいじま応援基金」これのふるさと納税の大幅増加により前年度より8.5%と大きな伸びを示しております。以上で一般会計及び5つの特別会計の決算審査報告といたします。

続きまして、平成26年度水道事業会計審査意見書について申し上げます。平成26年度飯島町水道事業会計決算審査意見書1ページをお開きください。審査の対象につきましては平成26年度飯島町水道事業会計。審査の期日につきましては平成27年6月22日に実施をいたしました。審査の方法につきましては、町長から審査に付託された決算財務諸表並びに決算報告書が平成26年度における水道事業の県営成績と、財政状況を適正に表示しているかどうかについて、関係諸帳簿及び例月出納検査の結果などと照合をして検

証をいたしました。審査の結果、損益計算書、貸借対照表などの決算諸表並びにその他付属書類については計数に誤りがなく正確に記載されており、当会計年度における水道事業の経営成績及び財政状況を的確に表示しているものと認められました。また、現金、預金、基金の管理につきましても適正に行われていることを確認をいたしました。

それでは総括的な意見を申し上げます。まず1つとして、平成26年度においては年間を通じて断水などに至る大きな災害もなく、安定給水ができたことで水道事業の役割を果たしたことを確認をいたしました。また関係職員の常時適切な管理運営に関ってきたことも安全安心な給水が保たれたものとして評価をいたします。2つ目として、有収水量は前年比わずかに減少し、給水収益は減少しております。有収率も77.9%で前年より0.4%減少しているとまあそんな状況でございます。ただ平成23年度に策定の水道ビジョン、これに掲げた目標有収率77.5%をクリアしていることを確認をしております。人口減少に伴う給水人口の減少は有収水量の減少にもつながっておりでございます。まあ今後、石綿セメント管の更新など漏水防止対策を進め、引き続き安定経営の基盤となる有収水量の向上に努められることを期待をいたします。3つ目として、当年度の営業利益は23,000,000円余となっており経営努力が認められるところでございます。今後、据え置き期間が経過する企業債の返還や、老朽化がうかがえる機械施設の更新など厳しい経営環境が見込まれる中、資金的にも厳しさが予想されます。効率的な運営になお一層の取り組みを期待をいたします。4つ目として、水道使用料の未収金については徐々に減少し、新たな発生防止に対する努力が認められます。時効発生防止のために内容証明による督促状の発行など未収金解消に努められることを望みます。

続きまして決算概要ですが、決算概要につきましては、それぞれ当局からも提案説明がございました。省略して主だった点について申し上げます。まず業務実績では給水件数が前年比41件の増加をしております。まあしかし逆に給水人口は46人減少しております。また有収水量は人口減少の影響、また夏場の天候不順そういう影響もありまして、前年度の97.8%に止まりまして2.2%の減少を示し、給水収益に影響をきたしております。また決算報告書では損益計算書が示されておりますが、営業利益は23,495,000円であります。経常収支につきましては6ページの収益212,673,000円から7ページの費用210,221,000円を差し引いた結果、当年度の経常収益は2,452,000円となっております。また9ページの未収金の状況につきましては3,176,000円ということで年々減少を示しております。なお、平成26年度からは地方公営企業会計の会計基準の見直しが行われておりまして、民間企業会計の原則を取り入れた制度へ移行していくと、いうことになっております。前年度と比較すると数値が大きく違った部分がありますがそんな状況でございます。以上水道事業会計の決算審査報告とさせていただきます。

続きまして、飯島町財政健全化及び経営健全化審査につきましては、同時に実施をいたしましたので併せてご報告を申し上げます。平成26年度飯島町財政健全化及び経営健全化審査意見書1ページをお開きをいただきたいと思います。先ず飯島町財政健全化審査について申し上げます。審査の対象につきましては、平成26年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算、並びに水道事業会計決算に関わる地方公共団体の健全化に関する法律第3条で定める実質赤字比率、連結実施赤字比率、実質公債費比率、及び将来負担比率、並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類を対象といたしまして、平成27年8月18日

に実施をいたしました。審査の方法につきましては、審査に付された平成26年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに水道事業会計決算に関わる健全化判断比率が関係法令に準拠して、適正に算定されているかどうかについてを主眼におき、算定の基礎となる事項を記載した書類と歳入歳出決算書、同付属書類等を照合し、関係職員の説明を聴取して必要と認めた審査を実施をいたしました。審査の結果、総合意見としては審査に付された、下の表ですが、健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類はいずれも関係法令に準拠して適正に作成されているものと認められました。この表で、実質赤字比率、連結実質赤字比率につきましては、先ほど町長から説明がありましたように、数字が載っておりません。平成26年度につきましては黒字のためこの数字が記載されないということになっております。個別意見としましては、実質赤字比率については平成26年度の一般会計の実質収支額は174,521,000円の黒字であり、良好な状況にあると認められました。連結実質赤字比率については、平成26年度全会計を対象とした実質収支は675,367,000円の黒字決算であり、良好な状態にあると認められました。次に実質公債費比率につきましては、平成26年度の実質公債費比率は11.9で、前年度より1.8ポイント改善され、早期健全化基準25%を下回る水準にあります。地方債許可団体移行基準である18%を超えないよう状況に応じた繰上償還などの適正な対応を求めます。次に将来負担比率についてでございますが、平成26年度の将来負担比率は78%で、早期健全化基準の350%を大きく下回り健全な状態であると認めております。従って、是正改善を要する事項は特にございません。

続きまして、平成26年度飯島町水道会計の経営健全化審査について意見を申し上げます。3ページに水道の関係が載っておりますのでお願いします。審査の対象は平成26年度の飯島町水道事業会計決算に関わる地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条で定める資金不足比率及びその算定基礎となる事項を記載した書類を審査対象としまして、8月18日に実施をいたしました。審査の方法につきましては、平成26年度決算に係る資金不足比率が関係法令に準拠し、適正に算定されているかどうかを主眼として算定の基礎となる事項を記載した書類と決算書、同付属書類等を照合し、また関係職員の説明を聴取し、必要と認める審査を実施をいたしました。審査の結果でございますが、審査に付された3ページの表の通り、資金不足比率及び算定の基礎となる事項を記載した書類はいずれも関係法令に準拠し、適正に作成されているものと認めました。従って平成26年度の資金不足は発生していません。個別意見としましては水道事業会計の決算審査意見書、別のものですが、その11ページ、一番後ろのところですが、に記載されております財務の短期流動性を示す実質流動化比率につきましては374.6%となっております。また資金不足比率はマイナス152.3、実際にはそういう数字になっておりますので資金不足は発生にしていなと、そういうことでございます。経営健全化基準の20%と比較をしますと極めて良好な状況であると認めます。従って是正勧告をする事項については指摘すべき事項は特段ありません。

以上、一般会計、特別会計を対象として財政の健全化について、及び水道事業の経営健全化については極めて良好な数字を確認をいたしました。しかしながら行政施設や水道施設の老朽化、また多様な住民要望、少子高齢化対策、人口減少対策、など今後の行政運営を考えると、課題も山積しております。今後も住民福祉の向上、安心で安全なまちづくり

を進めるため、より一層、財政健全化に努めていただくことを願い、平成26年度飯島町7会計の決算審査及び財政及び経営健全化審査の結果の報告を終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長 これから、ただ今の決算審査報告について質疑を行います。なお、質疑事項については監査委員の職務の範囲を超えることのないよう、ご留意をお願いいたします。

それでは質疑に入ります。質疑ありませんか。

(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。これで決算審査報告に対する質疑を終わります。堀内監査委員には大変ご苦労様でした。

暫時休憩といたします。

(暫時休憩)

議長 会議を再開いたします。これから平成26年度会計決算7議案について一括して総括質疑を行います。なお先程各常任委員会へ審査を付託することに決定しておりますので、本日は総括的な事項について質疑されるようお願いいたします。

それでは質疑に入ります。質疑はありませんか。

4番

折山議員

それじゃあ無いようですので、ちょっと私の方から1点、水道事業会計について伺いたいと思います。監査委員に対する質問ではございませんが、飯島町水道事業会計決算審査意見書、監査委員さんのお造りになった資料の2ページをお開きいただきたいと思いますが、ちょっとその水道事業の方なんです、やはりあの先行き人口減少、企業活動いろんなことなかで、経営の心配はされるわけなんです、先ほども監査委員報告の中で触れられておりましたが、有収水量、売った水の量が落ち込んでいる、一方では給水件数は増えている、でこれその資料を見ますと生活水、かなり大きく落ち込んでいる、営業の方も落ち込んでいる、企業活動、工場の方も落ち込んでいる、ということなんです、社会情勢を考えると決して25年度が景気がよかったというふうには読み取れないわけで、逆に26年度のある時から若干経済的な活動が活発になってきているんじゃないかと。あのちょっとこの表の読み取り方を町ではどのような分析をされているのか、有収水量が落ちてきている分析、もしあのされておるようでしたらお尋ねをしたいと思います。

建設水道課長

ただいま有収水量の関係、その分析関係ということでご質問いただいております。水道事業の決算書の9ページにも同じように表を申し上げたところであります。9ページにつきましては給水件数及び給水量の推移ということで申し上げております。あのただいまこの数値を表にしたグラフにしたものでございます。22年度からここに申し上げておるところでございます。年間の給水量につきましては22、23、24、25と900,000立方メートルの給水量があったわけでありまして、今年になって26年度になりまして900,000台を割ったという状況を確認したところでございます。この内容につきまして詳細の内容等の吟味等はできていないわけでありまして、まあ状況の推移を見る、また27年度の実績数値を見るというのが現状であります。ただ平成27年度、毎月の例月の確認をする中でいけば概ね26年度と大体同じような、ちょっと今、数値は手元ありませんけれども、大体似たか、というようなまあそんなような状況は確認ができておるところでございます。以上です。

議 長 はい他にはありませんか。
(なしの声)

議 長 これで質疑を終わります。議案を付託するに当たり、各常任委員会の審査区分について事務局長から申し上げます。
宮下事務局長。
事務局長 (審査区分説明)

議 長 お諮りします。決算7議案の委員会審査区分については、ただいま事務局長説明の審査区分のとおり決定することにご異議ありませんか。
(異議なしの声)

議 長 異議なしと認めます。従って第3号議案から第9号議案までの平成26年度決算7議案については、この審査区分により各常任委員会へ審査を付託します。

議 長 次に、

日程第13 第10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算(第2号)

日程第14 第11号議案平成27年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算
(第1号)

日程第15 第12号議案平成27年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算
(第1号)

日程第16 第13号議案平成27年度飯島町介護保険特別会計補正予算(第1号)

日程第17 第14号議案平成27年度飯島町公共下水道事業特別会計補正予算
(第1号)

日程第18 第15号議案平成27年度飯島町農業集落排水事業特別会計補正予算
(第1号)

日程第19 第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算(第1号)

以上7議案につきましては一括して提案理由の説明を求め、それぞれの案件ごと質疑、討論、採決を行うことといたします。それでは本7議案について提案理由の説明を求めます。

町 長 それでは第10号議案から第16号議案について一括して提案理由の説明を申し上げます。先ず第10号議案平成27年度一般会計の補正予算(第2号)についてを申し上げます。予算の規模につきましては歳入歳出予算の総額にそれぞれ221,602,000円を追加し、歳入歳出それぞれ4,691,825,000円とするものであります。今回の補正につきましては来年の新町発足で60周年記念の町の町勢要覧の作成に係る債務負担行為の追加1件、及び平成26年度の決算がまとまり繰越金が確定したこと、それから普通地方交付税の額が確定したことなどによる予算措置を行うものであります。主な歳入の内容といたしましては、前年度の繰越金と普通地方交付税の額の確定に伴いおよそ220,000,000円、賦課の確定による固定資産税を46,000,000円、田切の道の駅機能分について長野県からの受託事業収入およそ60,000,000円の増額補正を計上いたしました。一方、農村地域防災減災事業補助金について交付決定によりおよそ30,000,000円の減額補正をいたしました。主な歳出の内容といたしましては、千人塚公園にある紅葉園の建物購入等に約38,000,000円、道路維持補修へのおよそ20,000,000円、土地開発公社への運営補助金30,000,000円の補正を

計上いたしました。また今後、実質公債費比率の上昇の抑制や各種施設の維持管理費の増加等が想定をされる中、将来を見据えた対応として基金残高と借入金の繰上償還の財源確保を目的に、当初予算に計上した減債基金以外の各種基金の繰入金およそ 82,000,000 円を減額するとともに、減債基金で 40,000,000 円、公共施設等整備基金 40,000,000 円、地域福祉基金 30,000,000 円、高度情報化基金 5,000,000 円をそれぞれ積み立てるよう計上をいたしました。その他、各種事務事業に対応する必要な経費を計上したところでございます。

続きまして、第 1 1 号議案平成 2 7 年度国民健康保険特別会計の補正予算（第 1 号）について申し上げます。予算規模につきましては、歳入歳出予算の総額にそれぞれ 46,166,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 1,166,431,000 円とするものであります。今回の補正につきましては、平成 2 6 年度決算額の確定や過年度の療養給付費交付金及び国庫支出金の確定、2 7 年度の前期高齢者交付金、介護納付金、後期高齢者支援金、及び前期高齢者納付金がそれぞれ確定したことにより関係項目を補正するものであります。歳入では繰越金で 33,556,000 円、前期高齢者交付金 12,610,000 円をそれぞれ増額計上をいたしました。歳出では介護納付金 2,578,000 円、前期高齢者納付金 160,000 円をそれぞれ減額し、後期高齢者支援金等 19,840,000 円、諸支出金といたしまして国庫及び退職者医療療養給付費過年度清算分の償還金を 13,598,000、予備費を 15,466,000 円をそれぞれ増額するものであります。

続きまして、第 1 2 号議案平成 2 7 年度後期高齢者医療特別会計の補正予算（第 1 号）について申し上げます。今回の補正につきましては、歳入歳出予算の総額にそれぞれ 1,157,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 166,678,000 円とするものであります。平成 2 6 年度出納期間中の保険料徴収分の前年度繰越金の確定により、後期高齢者広域連合に納付するために補正を行うものであります。歳入では繰越金で 1,157,000 円を計上し、歳出では後期高齢者医療広域連合納付金といたしまして同額を増額するものであります。

続きまして、第 1 3 号議案平成 2 7 年度介護保険特別会計の補正予算の（第 1 号）について申し上げます。今回の補正につきましては、歳入歳出予算の総額にそれぞれ 14,852,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 1,054,294,000 円とするものであります。歳入につきましては平成 2 6 年度決算の確定に伴い、繰越金 14,213,000 円、追加交付が見込まれることから前年度の地域支援事業に係る支払い基金からの交付金 639,000 円をそれぞれ増額するものであります。歳出につきましては、地域支援事業に係る公用車関係費用を 82,000 円、平成 2 6 年度分の介護給付費地域支援事業に係る国庫支出金及び介護給付費に係る支払基金交付金返還金で 4,371,000 円をそれぞれ増額をし、差額の 10,399,000 円は予備費を増額するものであります。

続きまして、第 1 4 号議案平成 2 7 年度飯島町公共下水道事業特別会計の補正予算（第 1 号）について申し上げます。今回の補正につきましては、歳入歳出予算の総額にそれぞれ 25,270,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 404,848,000 円とするものであります。歳入につきましては繰越金で 25,270,000 円を計上し、歳出につきましては予備費を同額の 25,270,000 円増額をするものであります。

続きまして、第 1 5 号議案平成 2 7 年度飯島町農業集落排水事業特別会計の補正予算（第 1 号）について申し上げます。今回の補正につきましては、歳入歳出予算の総額にそ

それぞれ 23,503,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 290,383,000 円とするものであります。歳入につきましては、繰越金 21,439,000 円、田切の道の駅の加入金として分担金及び負担金を 2,064,000 円それぞれ増額するものであります。歳出につきましては、農業集落排水事業費 1,800,000 円、管理費で 2,064,000 円、予備費 19,639,000 円をそれぞれ増額するものであります。

続きまして、第 16 号議案平成 27 年度水道事業会計補正予算の（第 1 号）について申し上げます。今回の補正につきましては、資本的収支に係る補正であります。資本的収支の収入といたしまして、繰入金を遠距離給水工事負担金として 500,000 円増額し、収入総額を 68,330,000 円とするものであります。支出につきましては、配水施設費を遠距離給水工事費として 500,000 円増額し、支出総額を 169,505,000 円とするものであります。

以上それぞれの補正予算につきまして説明申し上げましたが、細部につきましては第 10 号議案の一般会計につきましては担当課長からそれぞれ説明を申し上げて、11 号議案から 16 号議案の特別会計についてはご質問によって説明申し上げますので、よろしくご審議をいただきまして、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

企画政策課長

(補足説明)

総務課長

(補足説明)

企画政策課長

(補足説明)

住民税務課長

(補足説明)

健康福祉課長

(補足説明)

産業振興課長

(補足説明)

建設水道課長

(補足説明)

教育次長

(補足説明)

議 長

ただいまのあの補足説明のうちで、最初に鎌倉企画財政課長と申し上げましたが、正しくは企画政策課長でございます。2 回目の時には正しく名前を呼んだわけでございますが、ここで訂正してお詫びを申し上げます。

議 長

提案理由の説明がありました。初めに第 10 号議案平成 27 年度飯島町一般会計補正予算（第 2 号）の質疑を行います。

なお本案は先ほど各常任委員会へ審査を付託することに決定しておりますので、総括的な事項について質疑されるようお願いをいたします。質疑はありませんか。

2 番

北沢議員

今年の平成 27 年度予算を通じまして地元要望に対する、例えば道路維持費などの予算計上の方法が新たに住民要望に沿った形で計上されていることは非常に喜ばしいことでもあります。そこでその関係について何点かの項目に亘ってお伺いしておきたいと思っておりますけれども、まああの 9 月の議会っていうのは前年度の決算の剰余金が生じまして、若干あのその使い道についてまあ有効に使うという、そういった意味合いにおいては 1 つあの補正財源が生じる予算でございます。そこで住民要望と現状の予算計上の関係についてお伺いをしたいと思います。道路維持費、先ほども補正予算ございました。補修、除雪機の補助、現物給付、それから水路の維持関係、それから防犯で言えば防犯灯の補助、それから交通安全でいけば交通安全施設の整備、それから消防でいけば消防施設整備事業交付金、自主防災組織整備事業補助金、それからまあこれは多分無いと思っておりますけれども確認のために

伺いますが、地域からまあ児童遊園が無いというような声があるわけですが、小規模児童遊園地の補助金、それからですね先ほども補正がありました、協働のまちづくり推進事業補助金、まあこういった住民密着で住民が主導で行う事業に対する住民要望というのが毎年町の方に上がってきていると思いますけれども、今回の補正をもってこれらの要望に対する達成率といいますか、要望に対する応えですね、どのぐらいのものが推進されるのか、例えば道路維持費であればまあ必要な部分の当面緊急性のある概ねの事業がこれで推進されるのかどうか、まあそういった点について各項目に亘ってまあ要望があるのかないのかも含めてお伺いをしておきたいと思います。

総務課長

それではあの総務課分から説明申し上げますが、前段のあの自主防災組織の施設整備の補助金につきましては、補足説明の中で申し上げました。9つの自主防災会から1,300,000円余り、事業費に直しますと1,600,000円余りの申請がございまして1,300,000円ほどを交付決定するところでございます。それから防犯灯の設置の関係でございまして、11の耕地・自治会から17箇所の要望がございました。で、必要性あるいは緊急性等を現地調査の上ですね、9耕地・自治会の9箇所に交付決定をしております。それから消防施設の整備事業の関係でございまして、こちらは4つの耕地・自治会と1つの区から申請がございました。申請に基づきいずれも交付決定をしております。それからもう1点、消防施設費整備事業中の消火栓の新設関係でございまして、こちらはあの2耕地から要望がございまして、1つについては交付決定をし、1つについては現在審査中でございます。それからカーブミラーの、これは現物支給になりますが、9つの耕地・自治会から14箇所の要望がございました。こちらもある現地を調査をしまして必要性あるいは緊急性を勘案する中で7耕地・自治会の7箇所を決定し交付決定をしております。以上でございます。

企画政策課長

企画政策課関係については協働のまちづくりの推進事業補助金でございまして、現在のところ6つの団体に交付決定されております。現段階であと3件ほど相談等来られて交付決定見込みということのなかから補正をさせていただいておりますのでよろしくお願いたします。

産業振興課長

産業振興課関係につきましては、水路それから農地整備の地元要望をいただいております。平成27年につきましては6耕地から直接要望いただいておりますし、また多面的機能支払につきましては、それぞれ地区の委員会を通じて対応しているところでございます。要望カ所につきましては、あのなるべく多面的機能支払で行える部分につきましては地域の協働の作業の中でやっていただくということで進めておりますけれども、大規模なものにつきましては国・県の現地調査を通じまして事業を要望しているところであります。その結果今回の補正で上げましたけれども、日曾利の芦の沢の地区につきましては県からの助成金をいただいて事業を実施するというようになっております。その他あの4区の連絡協議会等から、今回陳情も上がっておりますけれども、新井等の整備につきましてはこちらも国・県の方に要望を上げているところでございます。その他あの年次計画によりましてそれぞれ地区の要望をあの5年くらいのスパンの中で事業を実施するような形で要望しているところでございます。以上です。

建設水道課長

それでは建設水道課関係の道路舗装・補修関係の要望の関係ということでございます。この27年度までに要望箇所があった全体の補修要望箇所については157箇所、今まで

要望がございます。で要望の中から緊急度等優先順位を決めまして、本年度補正も含めまして56箇所を施工する予定ということでもあります。実施率については35%となるところでございます。続きまして現物支給関係でございますけれども、こちらにつきましては耕地・自治会等から要望がまいりましたら全て100%対応するというところで考えておるところであります。同じく除雪機機械の購入補助でございますけれども、今回19件分ということをお願いをしたところでもありますけれども、こちらにつきましても要望があったところについては100%対応ということで進めてまいりたいと思います。以上です。

教員次長
議長
6番

小規模児童遊園の補助金に関しまして、あの今のところ申請はございません。以上です。他にございませんか。

堀内議員

ちょっとお門違いの質問になるかもしれませんが、その諸収入で、14ページですけれども、諸収入で土木費受託事業収入でこの財源は道の駅のトイレ部分だと言うんですが、最初の方に予算計上ないんだけど、実際にはどういう形、前もう予算化してあるんだか、その点について伺います。

産業振興課長

こちらのあの道の駅田切の里の事業につきましては26年度の繰越事業ということで、こちらの総額345,000,000円の中に入っているものでございます。そのうち県の受託事業分ということで収入で今回上げさせていただいております。

6番

堀内議員

そうするともう繰越しの中にその財源も入っておるといふふうに理解していいんですか。

企画政策課長

平成26年度の補正予算をいただくときに、このプロジェクト事業の工事請負費とともに、県施工分も一緒にやるということで補正をさせていただきました。で県の施工分の歳入分については平成27年度分で予算するというので、あの議会の中でもご説明をさせていただいたと思います。あのこの関係についても多分あのその時に質問がございまして、そういう説明をさせていただいております。で会計上はそういう形でも問題ないという形でお答えしていると思いますのでよろしく願いいたします。

議長

11番

竹沢議員

はい他にありませんか。

2点質問させていただきます。歳入の地方交付税ですけれども104,000,000ほど、あのたくさんいただいて結構ですが、今町は地方創生総合戦略ということでまあ良い企画ができることを期待するわけですけれども、多分その国の方ではこの交付税の中で少子化対策などについてもこの配慮されて交付されておるのではないかというふうに思うわけですが、そこら辺の中身もしわかりましたらお願いします。2点目、歳出の19ページかな、水力発電ですけれどもあの大いにこれから取り組んでいただくのは結構であります、具体的に3箇所とはどこを指すか。以上2点お願いします。

企画政策課長

あの地方創生に絡みます少子化対策、実はあの当初の先行分の時にも少子化対策の分を創設させていただいたんですが、少子化対策については別の少子化対策単独の補助金があるから、そちらを活用しなさいということで、細かい部分での少子化対策は出てまいりません。ただ今回の普通地方交付税の補正の中に、まあ人口減対策それぞれの市町村で取り組みなさいよという、そういうものを含めた中での普通交付税に、少子化対策じゃないですが人口減対策について含められて交付されておりますのでよろしく願いいたします。

住民税務課長 小水力発電の調査事業の予定地3箇所でございますが、まず1箇所目でございます。

^{ひうちがいと}火打垣外沢、石曾根でございます。火打垣外沢川でございます。それから2つ目が鳥居原

の飯島浄化センターの流末でございます。それから3箇所目は七久保地区の北村の^{さがさか}三貫坂
でございます。以上でございます。

議 長
4番
折山議員

他にございませんか。

ちょっと総括的ではございませんが、ここでしかお聞きできないんで伺いたいと思いま
す。15ページ、公有財産購入費、先ほどの説明で重機、備品、建物、水道の権利、とい
うふうに予算の内容お伺いしたんですが、まああの今の管理を所有者についてはまあ長年
に亘ってまあ営業を通じて千人塚の観光に長い間ご貢献をいただいて感謝申し上げると
ころなんですが、まあ主な部分が縁が切れるのであれば、完全にまあ手が切れたほうがいい
なということで何点かお伺いします。あそこにはあのバンガローがありますが、多分、町
から貸付られて営業をしているのかしていないのか。しているとすればその縁は切れるの
かどうか。またあの釣り券を長い間販売の補助をしながら収入を得てきた経過がございま
すが、その部分について、まあこれはあのまちづくりセンターになろうかと思えますが、
縁が切れるのかどうか。それから長年あの周辺の草刈りを行ってまいりましたが、そこも
収入を得ているはずでその縁が切れるかどうか。長年のまあ貢献は貢献として全ての縁
を切ることが今後の千人塚の観光振興には大事なことだと思いますが、その点の整理が
ついでの補正予算であるかどうか。1点お伺いします。

2点目、これもやっぱりあの聞く機会が今日ここでしかございませんが、19ページ、
環境衛生費で共同墓地環境整備事業の補助金が出るということなんですが、多分あの管理
団体があってそこへ補助を出していくのだろうと思うんですが、今まであの公の部分の共
有の部分の道路の修繕とかそういったような、あるいは破損してしまった部分の修繕とか
いうような格好はあったと思うんですが、補助金を出しながら環境整備をやっていく
という制度は今現在あるんでしょうか。で何かに基づいてこれ出すと思うんですが、これか
ら今後要望が出てくれば環境整備に対する助成はしていくんでしょうか。以上2点お伺い
いたします。

副町長

旅館の紅葉園の購入につきましてでございますが、まだあの最終的な確認が本人と取れ
ておりませんが、大筋合意にきておるということで、今、折山議員の方から言われ
た課題についても最終的な詰めをしていきたいというふうに思っております。先ずあの1
点目のバンガローでございますけれども、あれは今無償で1年契約で貸付をしております。
あの使えるようでしたらどうぞお使いくださいというような形でございますので、これは
あの契約が切れますのでその時点で解消していきたいと思っておりますが、できれば今度の旅館
の建物購入の時期に合わせて一応解消できるように本人とも話をしたいなというふうに思
っております。それから釣り券の方につきましては今現在あのまちづくりセンターで対応
しておりますが、あそこにシルバー人材の皆さんが常駐していただきますので、そ
こで釣り券の方は今取り扱っているというふうに理解をしておりますので、これについ
ては問題ないかなというふうに理解をしております。それからあの草刈りにつきましては、

これも本人と1年契約で更新をしておるところでございますが、これもあそこに旅館経営をしているという便利さから、またあの常にあそこを見ておっていただけるということから、あそのトイレ、それからバンガローの付近というような範囲を限定しての契約でございます。これも今度の建物購入のタイミングを見て、その時期にこれを解消して全てをシルバー人材の方の委託に切り替えていきたいなということで、本人とは最終のまとめをしたいなというふうに思っておりますのでよろしくをお願いします。

住民税務課長

19ページの共同墓地の整備事業の関係でございます。共同墓地環境整備事業補助金交付要綱という要綱に基づいて支出をしておるわけでございます。事業費の2分の1以内で補助金を出すということで、過去にも出した経過もございましたのでよろしくをお願いしたいと思います。

議 長

はい他にございませんか。

(なしの声)

議 長

これで質疑を終わります。

議案を付託するに当り各常任委員会の審査区分について事務局長から申し上げます。

事務局長

(審査区分説明)

議 長

お諮りします。第10号議案の委員会審査区分については、ただいま事務局長説明の審査区分のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長

異議なしと認めます。従って第10号議案については、この審査区分により各常任委員会へ審査を付託します。

議 長

次に、第11号議案平成27年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)の質疑を行います。質疑はありませんか。

(なしの声)

議 長

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議 長

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第11号議案平成27年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)を採決いたします。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長

異議なしと認めます。従って第11号議案は原案のとおり可決されました。

議 長

続いて、第12号議案平成27年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について質疑を行います。質疑はありませんか。

(なしの声)

議 長

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議 長

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第12号議案平成27年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）を採決いたします。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（異議なしの声）

議長 異議なしと認めます。従って第12号議案は原案のとおり可決されました。

議長 次に、第13号議案平成27年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第1号）の質疑を行います。質疑はありますか。

（なしの声）

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

（なしの声）

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第13号議案平成27年度飯島町介護保険特別会計補正予算（第1号）を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（異議なしの声）

議長 異議なしと認めます。従って第13号議案は原案のとおり可決されました。

議長 続いて、第14号議案平成27年度飯島町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）の質疑を行います。質疑はありますか。

（なしの声）

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

（なしの声）

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第14号議案平成27年度飯島町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（異議なしの声）

議長 異議なしと認めます。従って第14号議案は原案のとおり可決されました。

議長 次に、第15号議案平成27年度飯島町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）の質疑を行います。質疑はありますか。

（なしの声）

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

（なしの声）

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第15号議案平成27年度飯島町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。従って第15号議案は原案のとおり可決されました。

議長 続いて、第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算(第1号)の質疑を行います。なお本案は常任委員会へ審査を付託することに決定しておりますので、総括的な事項について質疑されるようお願いをいたします。質疑はありませんか。

(なしの声)

議長 これで質疑を終わります。

議案を付託するに当たり常任委員会の審査区分について事務局長から申し上げます。

事務局長 (審査区分説明)

議長 お諮りします。第16号議案の委員会審査区分について、ただいま事務局長説明の審査区分のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。

従って、従って第16号議案については総務産業委員会へ審査を付託します。

議長 日程第20 発議第10号飯島町議会会議規則の一部を改正する規則を議題とします。本案に対する提出者の趣旨説明を求めます。

2番 北沢正文 議員。

2番

北沢議員 それでは、発議第10号飯島町議会会議規則の一部を改正する規則について趣旨説明を申し上げます。ご承知いただきますとおり、町議会議員の被選挙権は25歳以上であります。議会議員として活動するに支障のある事項、あるいはその手続きについて有権者の理解が得られるようあらかじめ定めておくことが必要であります。今回の一部改正は社会情勢を勘案し、議会議員の出産の場合の欠席届出について規定をするものであります。ご理解の上ご賛同を賜りますようお願いを申し上げます。

議長 これから質疑を行います。質疑はありませんか。

(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。北沢議員自席へお戻り下さい。

これから討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第10号飯島町議会会議規則の一部を改正する規則を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。従って発議第10号は原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩といたします。

[議長退場、副議長が議長席へ]

(追加議案の配布)

副議長 休憩を解き会議を再開いたします。

本日付で松下議長より総務産業委員に係る常任委員の辞任願が提出されました。地方自治法第117条の規定により松下議長が退場しておりますので、地方自治法第106条の規定により副議長が議長の職務を行いますのでよろしくお願いをいたします。

お諮りします。議長の常任委員辞任の件を日程に追加し、追加日程第1として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

副議長 異議なしと認めます。従って議長の常任委員辞任の件を日程に追加し、追加日程第1として直ちに議題とすることに決定いたしました。

副議長 追加日程第1 議長の常任委員辞任の件を議題といたします。事務局長に辞任願を朗読させます。

宮下事務局長。

事務局長 (辞任願朗読)

副議長 お諮りいたします。松下議長の常任委員の辞任を許可することにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

副議長 異議なしと認めます。

従って松下議長の常任委員の辞任を許可することに決定をいたしました。

ここで休憩といたします。再開時刻は庁内放送をもってお知らせをいたします。休憩。

午後 2時45分 休憩

午後 3時45分 再開

議長 休憩を解き会議を再開いたします。
先ほどは私の申し出に対しまして許可をいただきました。感謝を申し上げます。

議長 それでは日程第21 第10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算(第2号)
日程第22 第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算(第1号)
以上の2議案を一括議題とします。
本案については各常任委員会に審査を付託し、ただいまお手元へ配布のとおり各委員長より委員会審査報告書が提出されております。ここで議事進行についてお諮りいたします。本案の審議については各委員長より委員会審査報告を求め、これに対する質疑の後、討論・採決をしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。これから各委員長から審査報告を求めます。

初めに、久保島総務産業委員長。

総務産業
委員長

総務産業委員会の審査報告を申し上げます。第10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算(第2号)分割付託分について審査の結果、お手元に配布の報告書のとおり可決すべきものと決定いたしました。審査の過程で出されました主な意見ですが、土地開発公社の本当に補助金が必要なのか? これに対しまして、今82,000,000円の損失があり少

しずつでも補てんをしてほしい。それから高度情報化基金また積立がされているが計画はどうなっているのか？ 実施計画で追ってはいるんですが長期計画というのはないということで、今後計画作りをしていきたい。それから討論ですが、前向きな予算であり賛成をする。次に土地開発公社の補助金をです。ね。今まで専決でしていたけれども、補正に盛ったということは非常に評価できると、このことによって賛成とする。以上の意見がございました。

続きまして、第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算（第1号）につきましては、お手元に配布のとおり可決すべきものと決定いたしました。質疑、討論等特別にございませんでした。以上報告とさせていただきます。

議長 これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

総務産業委員長自席へお戻り下さい。

中村社会文教委員長。

社会文教
委員長

それでは社会文教委員会の委員会審査報告を申し上げます。第10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算（第2号）における当委員会に分割付託されました案件を審査するため、本日午後3時より委員会を開催いたしました。内容を慎重に審査した結果、お手元の報告書のとおり可決すべきものと決定いたしました。なお審査の過程で出された主な内容を申し上げます。ページを申し上げますが、もしご覧になる方がいたら参考になさってください。ページ24、5631図書館システムについて、駒ヶ根を除く上伊那広域7市町村が同一管理運用されることになった。これは図書館システムについての質問でございます。続いて現行、新システムの費用面とどうなのかについては、現行より少なくなると見込まれる。図書カードについてですが、図書カードは現行のものを使える。また今後学校図書についても使えるような方向で検討をしていくということでした。続いて同じページ5321の中学校教育振興費では、講演会の内容は？ 平野啓子さんの講演会については生徒対象の内容で10月上旬を予定しているとのことでした。以上が質疑の内容です。討論では、図書館システムが新しくなるので利用者の利便性も向上されると思われ賛成とする。以上です。

議長 これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

社会文教委員長自席へお戻り下さい。

以上で平成27年度補正予算関係2議案に対する委員長報告及びこれに対する質疑を終わります。これから議案ごとに討論・採決を行います。

議長 最初に第10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算（第2号）に対する討論を行います。討論はありませんか。

8番

浜田議員

この予算を可決すべきものとの立場から討論いたします。例えば高度情報化基金等につ

いてはですね、技術の進展が非常に速いので、やはり長期を見通して二重投資にならないような留意をお願いしたいと、まあそんなような点はいくつか見受けられましたけれども、まあ全体といたしまして、例えば公有財産の購入あるいはバランスに目配りした健全財政化の項目等が盛り込まれていますので、この予算を可決すべきであるというふうに考えます。

議 長 反対討論はありませんか。
(なしの声)

議 長 賛成討論ありませんか。
(なしの声)

議 長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第10号議案平成27年度飯島町一般会計補正予算(第2号)を採決します。お諮りします。本案に対する各委員長の報告はそれぞれ可決です。本案は委員長報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長 異議なしと認めます。従って第10号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 次に、第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算(第1号)に対する討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議 長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第16号議案平成27年度飯島町水道事業会計補正予算(第1号)を採決します。お諮りします。本案に対する総務産業委員長の報告は可決です。本案は委員長報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長 異議なしと認めます。従って第16号議案は原案のとおり可決されました。

議 長 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日の会議を閉じこれで散会とします。ご苦労様でした。

午後 3時54分 散会

平成27年9月飯島町議会定例会議事日程（第2号）

平成27年9月10日 午前9時10分開議

1 開議宣告

1 議事日程の報告

日程第1 一般質問

通告者

久保島 巖 議員

北沢正文 議員

折山 誠 議員

竹沢秀幸 議員

坂本紀子 議員

中村明美 議員

○出席議員（12名）

1番 本多 昇	2番 北沢正文
3番 久保島 巖	4番 折山 誠
5番 橋場みどり	6番 堀内克美
7番 三浦寿美子	8番 浜田 稔
9番 中村明美	10番 坂本紀子
11番 竹沢秀幸	12番 松下寿雄

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者																
飯島町長 高坂宗昭	<table border="0"> <tr> <td>副町長</td> <td>箕浦税夫</td> </tr> <tr> <td>総務課長</td> <td>宮沢卓美</td> </tr> <tr> <td>企画政策課長</td> <td>鎌倉清治</td> </tr> <tr> <td>住民税務課長</td> <td>大久保富平</td> </tr> <tr> <td>健康福祉課長</td> <td>宮下 寛</td> </tr> <tr> <td>産業振興課長</td> <td>唐沢 隆</td> </tr> <tr> <td>建設水道課長</td> <td>田沢義郎</td> </tr> <tr> <td>会計管理者</td> <td>堀内喜美江</td> </tr> </table>	副町長	箕浦税夫	総務課長	宮沢卓美	企画政策課長	鎌倉清治	住民税務課長	大久保富平	健康福祉課長	宮下 寛	産業振興課長	唐沢 隆	建設水道課長	田沢義郎	会計管理者	堀内喜美江
副町長	箕浦税夫																
総務課長	宮沢卓美																
企画政策課長	鎌倉清治																
住民税務課長	大久保富平																
健康福祉課長	宮下 寛																
産業振興課長	唐沢 隆																
建設水道課長	田沢義郎																
会計管理者	堀内喜美江																
飯島町教育委員会	<table border="0"> <tr> <td>教育長</td> <td>山田敏郎</td> </tr> <tr> <td>教育次長</td> <td>小林美恵</td> </tr> </table>	教育長	山田敏郎	教育次長	小林美恵												
教育長	山田敏郎																
教育次長	小林美恵																

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	宮下 務
議会事務局書記	千村弥紀

本会議再開

開 議 議 長	平成27年9月10日 午前9時10分 おはようございます。これから本日の会議を開きます。本日の議事日程はお手元に配布のとおりです。
議 長	日程第1 これから一般質問を行います。 通告順に質問を許します。なお一般質問は通告制ですので質問趣旨に則り、明確に質問するようお願いをいたします。
3番 久保島議員	3番 久保島 巖 議員 それでは通告に従いまして一般質問を始めてまいります。通告時とは多少様相が変わってまいりましたので、通告に従いまして行いますが、多少ニュアンス的に違うところがあるかもしれませんがよろしくお願ひいたします。第1点目は11月執行の飯島町長選に関するものでございます。2点目はホームページの取り組みについて、3点目は地域おこし協力隊について、の3点を質問いたします。 まず最初でございます。飯島町選挙管理委員会から11月29日任期満了になります飯島町長の選挙日程が11月10日告示、15日投開票と既に発表されております。高坂町長の去就が目されていたわけなんです、先日9月8日の朝刊です、大きく取り上げられまして、青天の霹靂と申しますか町内に衝撃をもたらしたところでございます。町長は今年の夏、ちょっと体調を崩されてですねお体を心配する向きもあったわけでございますけれども、私の拝見する限りすっかり復調されて、般若湯の方もですねだいぶ行かれるようになったということをお見せしております、以前と変わらないなというふうに思っております。ますます元気だなというふうに認識をしておりました。この夏もですねこの猛暑の中、東京、名古屋、長野と、まあ他にもほうぼうの陳情やですね出先機関の会議等、精力的にこなされていると様子をお見せしておりました。中にはですね遠方まで日帰りしてトンボ帰るといふようなこともしょっちゅうのようでもございました。そんな中で報道されていることがホントかやというふうに思っているところでございまして、その真意についてお伺いをしたいと思います。
町 長	改めましておはようございます。それでは今議会一般質問の最初の質問者でいらっしゃいます久保島議員のご質問にお答えをしております。最初のご質問は、今ございました任期満了に伴う11月10日告示、15日投票をもって執行をされます町長選挙について、私の思い、その出馬の意思があるか否かと思っておりますけれども、お答えをしてみたいと思っております。今お話にもございましたように、このことにつきましては一部新聞報道がなされましたが、ここに改めてその意思を表明させていただきたいというふうに思っております。早いもので平成15年の11月に、後援会をはじめ有権者の皆様の絶大なご支援をいただきまして、町政を担当させていただいてから3期12年が過ぎようとしております。この12年間、国政、県政の動向とともに、大きく揺れ動く国や地方をはじめ、世界の社会経済情勢に翻弄をされながらも町政の様々な課題に対して、支えていただいた議会をはじめ町

民の皆様、全職員の皆様の深いご理解ご協力とご支援をいただきまして、ひたすら町民福祉の向上と町の振興の発展のために精一杯取り組ませてまいりましたが、この間お陰様で、今日もそうでありますけれども、全国各地では大きな災害の発生もある中、当町では大きな自然災害や社会を騒がすような特別な事件、事故もなく、その成果という点では自分自身到底満足のいくものではありませんし、個々の住民の皆さん、個々の地域の皆さんの要望や課題については十分な対応ができなかったことも多々ありまして、大変申し訳なく思っておりますが、第4次、第5次総合計画に基づく基本計画、実施計画、その他個別の諸計画や各年度ごとの予算計画に基づいて大変厳しい財政事情の連続でありましたが、概ね計画に沿った行政運営をやってこられたことを大変ありがたく思っております。これもひとえに議会の皆さんをはじめ町民の皆様、職員の皆様の私にお寄せいただいたお力、ご厚情の賜物と衷心より感謝とお礼を申し上げる次第でございます。そうした中この春以降、町長選の日程が選管から発表されたこともありまして、次期に向けた対応をどう考えるかということについて、マスコミの皆さんをはじめ次第に巷間耳に入るようになりましたが、現職にあるものが軽々にそうしたことに触れてコメントを出すべきではないという考え方の下に、今は任期いっぱい職責を果たすのみと申し上げて今日に至りました。その一方でそうしたことが家内をはじめ家族や近親も少しずつ気になるところとなりまして、最近に至って自らの出処進退の方向を明らかにすることが、これまた現職の責任でもあるというふうに思いつつ、これまでの歩みや自分なりの評価、町政の現状とこれからの課題、自分の健康状態、年齢のこと、そして家庭の事情等々、様々な考えを巡らせてまいりましたが、率直に申し上げまして私は4年前の3期目の出馬に際し、1期目に蒔いた種を2期目に育て、3期目に皆さんと共にその収穫を味わいたいと公約をいたしました。そしてその目標に向かって取り組んでまいりました。一方、世の中のスピード、変化というものは地方自治においても想像以上のものがあり、町政もそれらの変化に的確、機敏に対応していかなければなりません、そういう意味で十分な収穫に現在至っていない点も多々ありますけれども、懸案の諸課題に対して一定の方向性だけは見いだせたのではないかとこのようにも思っております。そうした様々のことを踏まえて熟慮を重ねた結果、この3期12年を節目として11月29日の今期任期を満了をもって現職を退任をさせていただきたく決意をし、先般後援会に対してその旨をお伝えし了承をいただき、本日、久保島議員の質問にお答えする形ではありますけれども、この場をお借りして私はここに謹んで議会並びに町民の皆様に、今任期をもっての退任を正式に表明をさせていただくとともに、残された任期最後の一日まで職務をまっとうしてまいりますのでよろしくご賢察賜りますようお願いを申し上げます。以上であります。

久保島議員

はい承りました。過去3回の選挙の内ですとね2回が無投票ということでございました。今回まあ多選の批判というんですかね無投票に対する危惧感っていうのか、出馬意向もあるということで会社社長の新人の方が意向を表明しております。まだ正式に出馬表明があったわけではありませんし、マニフェストの発表もありません。争点は何なのかということもはっきりはしませんけれども、その辺を町長どう捉えていらっしゃるのか、今回の決断に対してはまあ関係はないというふうに思いますけれども、確かに住民の中には選挙をしないといけないよという声、それから今度は飯島地区から出て欲しいとか、それから役場内にこだわらない、偏らないそんな人事が欲しい人身一新がほしいねという声も

確かにあるわけでございまして、その辺も含めて町長どんなふうに捉えておられるかお気持ちをお聞かせいただきたいと思ひます

町 長

まあ今後迎えるこの選挙に対しまして、今お話の新人の方がまあ出馬の意向を示されたということについて、私自身がコメントすることはいたしませんけれども、いずれにいたしましてもこの民主主義の原点は政策に基づく選挙による選任、投票による政治参加であります。町民本来の住民本位の実現可能な政策、持続可能な政策に基づいた議論が行われまして選挙が行われることを期待しておるといふ心境でございます。

久保島議員

まあ必ずですね民意が反映されるような選挙が行われるとよろしいのかなというふうに思ひます。さて、前回当選のですね4年前、平成23年の12月に町長冒頭の施政方針でですね、第5次総合計画の「人と緑かがやくふれあいのまち」を目指して6つの柱を基本にまちづくりを進めていきますというお話をされました。ここでですね今はちょっとお話もございましたように、3期12年を振り返っていただくといふとちょっと時間が足りないかもしれませんけれども、特に人口増対策それから定住促進で知名度のアップとか、買い物客の地元滞留率の低下による商業の低迷に対する振興策とか、それから人口増活性化を目指して定住促進室を新設いたしましたし、町を積極的にPRしていくと、情報発信をしながら定住促進に進めていきたいと、それから中心商店街と沿線を結ぶ土地利用計画や商業振興政策を早急に練り上げて中型スーパーの誘致、道の駅的な地元特産品の直売所、こんなところを検討していきたいというお話もされました。また6次産業化を進め伊南バイパス開通を契機に地域産業と結びつけた商業振興を図っていききたいと、まあそんなようなことを話されておりました。伊南バイパスも30年には田切中央から南田切ですかねそれから駒ヶ根辻沢まで開通するということは、高坂町長の絶大なる働きかけで確約がとれているというふうな感じでございます。またとても不可能とされていた道の駅「田切の里」まあ仮称ですけども、それも町長の粘り強い折衝の結果、県が折れたというんですかね認可をしたということでございます。また地域介護空間整備事業ではとても町の規模には想像もつかないような件数と金額を厚労省から引き出してきたと、この辺のところは非常に高く評価をいたしたいと、いふふうに思ひます。多くの事業を取り組まれ多くの業績を上げたということでございます。しかしまだ先ほど町長おっしゃっていましたように、未到達のことやですね事業があるわけでございまして、反省事項また残された課題もあるように拝察いたします。高坂町長がすべて一人でやれというわけではございませんで、これまでも言ったつもりはありません。で、まあ強力なスタッフや有能な頭脳集団まあこれが必要なわけですし、また町民の危機意識というのにも必要になってくるというふうに思ひます。まあその意味で民間からまた外部から人材を招聘し、住民・町民のサービス向上のために職員一丸となっていくことも必要だといふふうに思ひます。どうもみますとまじめで固いというのがわが職員の皆さんでございまして、それはそれで結構なんですけれども、これからの行政経営っていうのはやっぱりそれだけではやっていかれないと、柔軟な発想と果敢な挑戦、行動力でお客様である住民の立場に立った対応というのが求められてくるだろうというふうに思ひます。まあ私も一度でいいので一般質問で高坂町長から三振をとってやろうと思ひまして、なまくらではありませんけれども直球を投げてまいりました。まあその思いは果たせず終わってしまうというのがちょっと残念でありますので、町長はですね人材登用を大幅に大胆に実施していただく中で、残された課題を検証し

てですねそれを成し遂げる。そんなことも私は必要だというふうに思いまして、今一度考え直して立ち上がろうというお気持ちがないかどうか、私はそれを望むんですがいかがでしょうか。

町長

お言葉は大変ありがたいわけでありますけれども、今あの、これまで振り返っての足跡は若干触れていただきましたけれども、まだあの3カ月近く任期を残しておりますし、これからまだまだ山場でまとめ上げなければならない課題も山積しておりますので、今申し上げたこととも含めてですね、いずれまたあの整理して、まあ自分でも整理出来ておりませんので、私の思いをお伝えする機会を持っていただくことになろうかと思っておりますので、今日のところはそうしたことでご容赦いただきたいというふうに思います。個々の問題については触れさせていただくことは控えさせていただきますが、お言葉ではありますけれども今さっきもお答えしたとおりでございますので、そのようにお受け止めいただきたいというふうに思います。

久保島議員

はいそうしましたらですね私の通告しておりました1の4につきましては割愛させていただきたいというふうに思いますのでよろしく願いいたします。続きまして2番目の項目にまいりたいと思います。町長3期目の就任の施政方針で申されておりましたように、人口増対策のために定住促進を進めていくためには町のPR、情報発信が欠かせません。定住促進室でフェイスブックなどですねSNSを使ってこまめに書き込んでおります。ほとんど毎日1件、2件あります。まあその日その日の飯島町の様子などがアップされてですね非常に好評を得ております。まあしかしやっぱり町のホームページにアクセスして見るというのがまあ一般的でございます。ところがこのホームページが誠にわかりにくい、扱いづらい。でこの事は以前から議会でも一般質問でも取り上げられましたし、審議の中でも話題になってきているところでございます。まあそれに対応してですね大幅な改訂をすべく民間のプログラマーを正規職員として採用したところでございます。ところがですね見てみますとまだ改訂された様子はありませんし、どうなっているのかなというふうに思います。町外の方からはですねまだ準備中のページもあるということでございます。そこが非常に不案内だと。それからどこに何があるのかよくわからないということも言われております。またわれわれの同級生の同級会がこの間あったんですが、その時にも飯島のページはどうも情けねえなあと、どうもアピールしているようには見えねえと、というようなクレームももらっているところでございます。まあ改訂スケジュールっていうんですかね今年度いっぱいには多分やるんだろうというふうに思いますけれども、その辺がどうなっているのかなというふうに思います。私もあのホームページを持っているわけですが、まあこれなかなかリニューアル大変でして四苦八苦しているんですが、まあそれとはレベルが違うわけですし、町のページとなれば町の窓というふうになるわけですので、簡単にはいかんだろうというふうに思います。技術もセンスも時間も当然必要になってくるというふうに思います。で、これだけの項目でございますので複雑なリンクも必要になってくるだろうし、それに対するバグというものは許されないと思います。まあ根気のいる検証作業も必要だろうというふうに思います。第一にですねクリエイティブっていうんですかね、そのいわゆる創作活動のひとつでございますので時間が要します。片手間でちょこちょこつとやるというわけにはとてもいかないというふうに思いまして、専門的に時間を割いてやる必要があるだろうというふうに思います。まあそうしないと当初の

目的は達成できないというふうに思います。議会でもですねICT化を目指しておりまして、配布文書のデータ化とかですね、日程、スケジュール共有とか、会議通知出欠席の連絡などタブレットでしようよということも考えています。将来的にはこの本会議のこの模様や一般質問の内容や、それからあの委員会の模様等ですね You Tube などを使ったもので映像配信したいというふうにも考えて、北沢議会運営委員長進めているところでございます。まあそのためにもですねそのホームページっていうのは時代に合ったそのものにしていただかないといけないと、まあ議会の立場から言うのもなんですが、それを求めるところでございます。ホームページを早急にその改訂すべきであると、その体制をとってもらいたいというふうに思います。またちょっと蛇足になりますけれども、今急激にスマホが浸透しておりまして、その方でインターネットを見るという方もいらっしゃる、そこで求められてくるのがWi-Fiスポットでございます。で、Wi-Fiスポットの町というようなこととなりますとですね非常にアピール度が高いというふうに思いますので、それを是非ですねトップページに載せてもらうような形がいいのかなというふうに思います。で、町の要所要所にですね公衆無線 LAN というか要するにWi-Fiスポットをですね設置して来訪者のサービス、また災害なんかの時にも非常に役立つかなというふうに思います。で、まず最初にですね庁舎の中、それから文化館等にですね設置したらいいかなというふうに思います。まあその辺も併せてホームページの改訂のスケジュール、それから体制づくり、Wi-Fiスポットなどお答えをいただきたいというふうに思います。

町 長

次のご質問であります、なおまあ久保島議員の以下の質問、それから次からまた各議員の皆さんからのご質問もお受けしてお答えをしておりますけれども、私のお答えといたしましては今申し上げましたように、あくまであの現町長としての私の思いの範囲でお答えをしておりますので、その点是非ご理解をいただきたいというふうに思います。そこでホームページの改訂更新を早急に進めるべきだということにつきまして、この対応をいかにかということであります。概略私の方から申し上げてまた担当課長の方から細部スケジュール的なものを申し上げたいというふうに思います。あのすべてのまあ町の職員の採用につきましては専門職や、まあごく限られた専門職や、それから嘱託職員といったこの一部の職種を除きまして、特定の業務に専念させるための採用はいたしておりません。ただあのいずれの部署についても適材適所の観点で職員を配置しておりまして、とりわけ情報担当部署に関しましては、情報システムに関する知識を持った職員を配置をするように努めておるのが現状でございます。お話ございましたように、これからの行政まさにこの町からの迅速で的確な情報発信については、最大限最重要、大変重要であるというふうに認識をいたしておりますので、今後速やかに対応をしております。現状、課題、スケジュール、それから今お話のありましたWi-Fi、まあこれは公衆無線と言いますか、そうしたことも含めて担当の総務課長の方から説明を申し上げます。

総務課長

ホームページの現状については今の久保島議員ご指摘のとおりでございます、早急なリニューアルが必要ということはある職員共通の認識でございます。で、私の方からあのこのホームページのリニューアルについてこれまでの経過と、それから進捗状況、それから体制づくり、それから今ご提案のありましたWi-Fiスポットの関係について申し上げます。先ずあの、現在のホームページへの情報掲載の関係でございますが、現状としては課や係ごとにそれぞれの職員が行っております。でこれはあの仕事のサイクルの中で情報

発信も大変大切な仕事の1つであると、そういったことからその内容に最も精通した職員が行うことが望ましいと、こういう考え方に基づいてこうした運用をしているところでございますが、あのホームページに関する一定の知識がないとなかなかそういった情報を更新できない、掲載できないという課題があるために課や係によって情報発信に温度差が生じてきております。でこれがタイムリーな、あるいはあの十分な情報発信につながっていないということにつながっているかと思えます。でこうしたことからこれまでのあの検討の中ではサーバーを含む環境を一新をして、専任職員を配置してホームページの構築から情報発信を含めた運用まで、その専任職員に一元化するというところでタイムリーで強力な情報発信につなげようということでも検討してまいりました。で今年度当初からそのリニューアルに向けまして具体的に検討に入ったところでありますが、あのその検討の中でいくつか基本的な問題がありまして、その方針転換が必要になってきたということでもございます。その課題の大きなものの1つとしては、現行のホームページの運用形態でありまして、現在はあのCEKとそれから当町を含む伊南の3市町村4団体で共同で運用をする、こういう形態をとっております。で、26年度当初にサーバー等の機器更新が行われたばかりでありまして、この枠組みから脱退して新たなホームページの構築・運用方式を導入するという事は、しばらくの間まあ当面は困難な状況になるということが判明しております。それからもう1点、ホームページへの情報掲載のあり方としまして、情報発信を専門職員に一元化する、これはまあ理想ではあるんですが、やはりあの従来通りその内容に最も精通している職員が行うこと、これがふさわしいのではないかという意見が多数を占めまして、ただしまあ必要な情報を常に最新情報として提供していくということを職員一丸となって取り組むということを確認しております。でこれを受けまして既存の運用形態の中でできる限り自由にカスタマイズできる方法・手法を取り入れてリニューアルするという方向に方針を転換したところであります。これによってリニューアル全体の日程は少し遅れ気味でございますが、元々あの平成28年2月の本稼働を目指しておりました。で現在はそれに向けましてページ構成の再検討を進めているところでございます。それからもう1点あのご指摘の組織としての問題であります。この情報システム部門についてはこの提案のホームページのリニューアル、それから情報セキュリティ対策、更には庁内イントラネットの更新作業、それからマイナンバー制度の対応、こういったあの緊急を要する課題が山積をしている状況にございまして、現在、情報担当職員については係内の他の業務も担っているということもありまして、なかなか情報システムの業務に専念できないという状況にございます。そこでまあできる限り情報システム業務に専念できるように総務課全体で今体制を整えているところでございます。で、このリニューアルに当たりましては使いやすく検索しやすい、これはまあ最低条件になります。それから当然必要な最新情報が入手できる、まずこういったホームページにすることは最低条件として、まあそういったことによって利用者の満足度が高まるような、更には町のイメージアップにつながるようなホームページを目指して、年度内のできる限り早い時期のリニューアルを目指して最善を尽くしていく覚悟でございます。それから付け加えますとあのこの情報発信については5次総後期計画でも重点プロジェクトの1つとして取り上げてございます。あの現行のこういう組織体制の中で果たして情報発信がより強化できるかという課題もありますので、これはあの庁内全体のあの体制づくりということも課題になってまいりますが、今後検討

する必要があるだろうというふうに考えております。

それからWi-Fiスポットの町を目指してはというご提案でございまして、あのただいま議員ご指摘の通りですね、あのモバイル機器が大変主流になってきておりまして、やはりあのどこでも情報に取りつくとができるということで、こういったWi-Fiスポット、まあ公衆無線LANというような言い方もしますが、この構築はやはり必要だろうというふうに感じております。であのご指摘のとおりこの役場には当然まあやがて必要になるだろうと、で加えて先ほどもご提案のあったとおり防災対策の一環として、やはりあの役場は防災ステーションになっておりますのでこの本部機能、それから例えば各地区に1カ所程度そういった情報を発信できる仕組みが必要だろうというふうには考えます。それからもう1点はあの観光面でもですね、今あの外国人旅行客があので日本を訪れた際にこういった情報発信の仕組みが無いことで大変不満があるということをおっしゃっております。で、国でも2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目指す形で、こういった公衆無線LANの構築を推進しているという実態もございまして。従ってあのちょっと時期は定かではございませんが、なんらかの計画を立てて進めていく必要があるだろうと考えております。

久保島議員

はいお聞きいたしました。28年の2月本格稼働ということを目指していくということでございます。是非とも期待をしているところでございます。写真等もですねあの町内にはいろいろなカメラ好きな方もいらっしゃいますので、その辺の写真を使うということでもまた、皆さんの私の写真が載っているんだよということもあるかと思っておりますので、その辺も是非取り組んでですね、皆さんで作りに上げていくというようなホームページになっていったらいいかなというふうに思います。また職員の皆さんがですね大変その自分の仕事の合間の中でアップをしていかなきゃいけないということになりますので、その辺のところも少しですね人的な余裕も必要なんだろうというふうに思います。是非ともですね議会の方も簡単にそのわれわれの活動がですねアップできるような体制を望みたいというふうに思います。

次にまいります。3番です。平成24年の9月一般質問、私の一般質問でですね、地域おこし協力隊の採用を提案をいたしました。町長はその折にですね定住促進の1つの形であって、効果が期待できるので来年度採用に向けた取り組みをしていきたいというふうにおっしゃられております。3人の方が採用されて平成26年4月から隊員がまいりました。ところがですねちょっとずいぶん様相が違うなあというふうに思っていたところでございます。どこかでボタンの掛け違いが起きてしまったというふうに思うところでございます。で1名の隊員は昨年度いっぱい3月で退団っていうんですかね、お帰りになっちゃった。そりゃまあそうだろうなあというふうに思うんですね。というのは、まるで役場職員になっちゃったようなんですね。地域おこし協力隊は、地域おこし協力隊じゃなくて役場おこし協力隊になっちゃったのかなというふうに、私の中ではちょっと考えているところでございます。残った2人はですね確実に成果を上げておりますし頑張っていますよね。で住民の間に溶け込んで非常に素晴らしいというふうに思います。で彼らは非常に優秀であると同時にですね対応力が優れているからできたんだろうというふうに思います。まあしかしそれに甘えておっついていいのかということでもありますね。役場の臨時職員を採用したわけじゃないので、総務省の助成のある3年間のうちで飯島町に自立して暮らしていける、そういう仕

事を見つけてもらって飯島町に定住してもらおうというのが本来の筋ですよ。ところがですね今のままで月曜日から金曜日まで朝8時から5時までですか？ 終日勤務。デスクワークをしていたんじゃないですかね3年後の見通しも計画が立ちません。私のイメージでいけば、たぶんですね月曜日の朝登庁して先週の活動など報告すると、そして今週の予定等を確認して、もうお昼には帰ると、で火曜日から日曜まで全部の時間を自由に自立のために使ってもらおうと、そうしないと3年後の自立っていうのはできないというふうに思います。他の市町村の地域おこし協力隊はまさしくそのようにやっているわけでございます。もちろんその隊員にですね、担ってもらいたい仕事というものはあるわけでございますので、まあそれは必要な時にデスクワークをすればいい。庁舎にですね必要なときに出かけて行って仕事をする。連絡がちゃんと取れるようにしておけばそれで済むわけです。もちろんその仕事ですね3年後自立定住につながるということであれば話は別だというふうに思います。私も総務産業委員会で徳島県に上勝町を尋ねてまいりました。ごみゼロ宣言をした町でございまして、ごみゼロを担っている法人っていうんですかねNPOがございまして、その職員に地域おこし協力隊の隊員が採用されて、今年から活動していると。で彼女は、この仕事を是非軌道に乗せて、この仕事で町に暮らしていける、そういう道筋を3年の間に立てて行きたいというふうにおっしゃって活動しておられます。まあそれであれば問題はない。しかし3年後飯島の職員になるということであれば今のままでいいんですが、そうではないというふうに思うんですね。このままでいきますと第1期生は全滅しかねません。もう任期が半分過ぎちゃっているわけですから、まあ早急にですね対応をする必要があると。また今現在もですね第2期の会員募集をしていると思いますが、同じような処遇ではですねとてもこぞって集まってくるというようなことは望めないだろうというふうに思いますし、もし来たとしても途中離脱が起きてしまうだろうというふうに思いますし、クレームが入るだろうというふうに思います。先日議会ではですね隊員と懇談会を持ち、隊員の希望や悩みを聞いて是非励ましたいということで申し入れをいたしました。ところがですねどこからかストップが掛かり実施ができませんでした。議員がそんなことに関わるんじゃないっておっしゃるんでしょうか。それとも議員からは隔離しておきたいということなんですか。まあ議員がだめでもですね町長や副町長、隊員とのコミュニケーションを取ってですね、隊員の考え方や希望、意向をですね、で不平不満はないか、そのへんを把握していると思いますけれども、もし無いようでしたら至急コミュニケーションをとっていただきたいとします。

もう1つの心配はですね、総務省から目的外流用じゃないの、と言われなかなと心配しているんですね。交付金の返還だけでなくペナルティーを科せられないかなと、まあ老婆心ながらそんなことも考えます。地域おこし協力隊は定住促進の1つということでございますので企画政策課の所管だというふうに私は認識しているんですが、臨時職員の対応で問題ないのかどうか、その辺のお答えも求めていきたいというふうに思います。私の考え方でいきますとですね、明日からでも、明日からでも制服やですね勤務時間は無くして開放し、自由な活動ができるようにするべきというふうに思いますがいかがでしょうか。

町 長

次のご質問は地域おこしの協力隊への適切な対応ということでご質問でございます。概略私の方から基本的な考え方を申し上げて、またあの企画政策課長の方から実態的な部分

を、それからまた常に接しておりますのでその辺のところをご報告させていただきたいというふうに思います。地域おこし協力隊制度、これにつきましては都市地域から地方に生活の拠点を移していただく中で、市町村が地域おこし協力隊を委嘱して一定期間、地域おこし支援などに取り組んでいただき、そしてその結果として地域への定住を図る取り組みと理解しております、今、久保島議員も言われたとおりだというふうに思います。そこでこの制度に飯島町が取り組むにあたりまして、活動内容であります地域おこし支援につきましては、まああの不慣れた土地に飛び込んで来られる方に、何でもいから地域おこし支援をとお願ひしても返ってまあ戸惑ってしまうのではないかというようなことや、町が地域おこし協力隊員を公務員として採用することについて、住民の皆様にもご理解いただけること、また行政施策の中で新しい発想等に期待する分野などを踏まえた中で、具体的なテーマをもって募集をしておるとというのが考え方でございます。募集要綱に基づきましてそれぞれの活動内容に意欲のある方が申し込まれた中で採用に至っております、現在もそれぞれの分野で積極的に取り組んでいただいておりますことは既にご承知のとおりでございます。当初あの町へ初めて来て、いろいろとまあ戸惑いもあったんではないかというふうに思うわけですが、担当や協力隊の総括担当などの相談や調整などを重ねながら活動して、最近では地域や関係する皆さんとも慣れ親しんでいただいて、実際に当初のころから格段にまあ違って溶け込んでいただいて、その成果もだいぶ上がってきたというふうに思うわけでございます、ただ、お一人少しあの自らのちょっと事情で辞められた方もおって残念であったわけでございますけれども、今後そうしたことを充足しながらですね、またこの目的に向かって是非この協力隊制度というものを維持して、力になっていただくように、また定住につながるよう努力をしまいたいというふうに思っております、私もあの折々こうした協力隊の皆さん方と相談や声かけをしながらコミュニケーションを図っております、お一人の方についてはここへ世帯を持っていたというようにもございまして、大変あのありがたく思っておりますので、若干あの現場的な内容・取り組みについて課長の方からご説明を申し上げます。

企画政策課長

それではあの私の方からあの地域おこし協力隊の皆さんとの、まあいろいろと今お話があったことに対しましてお話をさせていただきますが、あの平成26年の4月から協力隊の皆さん採用してきたわけですが、26年の3月にまああの町はこういうもんだよとか、それからあの勤務時間とかそこら辺の話をさせていただきました。まああの募集要綱に基づいて応募していただいた方でありまして、それでそれに基づいた中で業務をやっていたかというように、3月に一応あの大きな話をさせていただきまして、4月以降はそれぞれの業務に就いていただいて、それぞれ所管の中で業務をやっていたわけですが、まああのそれ以降でございますけれども、まあいろいろと先ほど町長が申し上げましたように、入った時点では戸惑いがあったり、まあ地域になかなか溶け込むことができなかったりというのをいろいろ悩みがあったと思います。であの4月以降即ではございませんでしたけれど、平成26年のまあ5月ぐらいから今まで延べ23回ほど担当ないしは課長、係長なりを含めてそれぞれあのいろいろお聞きしたりして、なるべく本人の意向に沿うような形で調整をさせていただきました。まああのそれがもし現在の段階でまあ足りないということがあのようなことのようにございまして、まあちょっとまた本人たちとも話をしなくちゃいけないかなと思います。あの希望の部分について

は自由な形で言っていただけのシステムになっております。ですので、あのもし不都合なことがあれば言っていたければいいと思いますし、あのまた改めて打ち合わせをすることも考えますので、その中でもまたあの現在あの飯島町にそれぞれ住んでいただいておりますが、あの定住に向けての形もそれぞれの中で相談に乗っていきたいというように考えておりますのでよろしくお願ひします。

久保島議員 企画政策課長にお伺ひします。議員が励ましたり交流会を持ったりしたらまずいんではないか。

企画政策課長 あの先程言われた関係につきましては、あのプライベートな形でやるっていうことでしたので、あの別に企画政策課の方にはお話をいただかなくても直接本人に言っていたければいいですよっていう、そういう話をさせていただいた経過がございます。あの励ましていただくことについては別になんら問題はありませんのでよろしくお願ひします。

久保島議員 はいこれで終わります。

議 長 2番 北沢正文 議員。

2番

北沢議員

それでは一般質問を行いたいと思います。先ず最初にあの通告してあります質問でございますけれども、非核平和宣言への具体的な取り組みについてであります。この質問については平成24年9月の定例会の一般質問で取り上げさせていただきましたので議事録に残っているかと思ひます。当時は他の市町村では黙とうを呼びかけているところがあるのに、飯島町では行わないのかといった町民の声を代弁したものでありましたが、その時の総務課長のお答えでは、取り組む方向で検討したいとのことでした。戦後70年の本年も行われませんでした、その後の答弁に沿った検討が行われたのか、その経過の説明を求めます。

町 長

それでは北沢議員のご質問にお答えをしまひます。まず最初に非核平和宣言への具体的な取り組みということで、このそれぞれの平和記念式典等に合わせた黙とうへの住民への呼び掛けの検討経過でございます。今お話のように、かつて北沢議員からの一般質問もいただきました。それ以前にもまたあの国の方から黙とうの呼びかけも聞いておりました、随時まあいろんな形であのこのことについては対応してきたわけでございますけれども、最近では平成25年度には8月15日の全国戦没者追悼式に合わせて、防災無線で町民の皆様への黙とうの呼び掛けを行ったところでございます。引き続き取り組む予定でございましたけれども、その時点であの庁舎内におきましてはまあ職員、それからたまたまそこに来ておられる来庁者につきましてはあの、町の外の掲揚台に半旗を掲げて黙とうを行いましたけれども、その後まあ手違いと申しては何でございますけれども、準備が整わなくて昨年と今年は防災無線での一般への呼び掛けは実施できませんでした。このことについてはお詫びを申し上げたいというふうに思ひます。今後は非核平和宣言の町として広島、長崎の平和記念式典、並びに全国戦没者追悼式に合わせて防災無線での黙とうの呼び掛けを行ってまいりたいというふうに考えております。それから広くまあ非核平和宣言への具体的な取り組みということでもございますので申し上げたいと思ひますけれども、これらへのまあ具体的な取り組みといたしましては、まあ平和を願ひ核兵器廃絶に向けた平和首長会議での取り組みに賛同をして、飯島町も同会議への加盟をいたしております。町

といたしましては非核平和宣言の町として平和への意識を高めているところでありまして、実行委員会が主催しております反核平和の灯のリレー、各核兵器廃絶上伊那網の目平和大行進や、上伊那非核平和行進での来庁時には理事者も出向いて激励のあいさつ等をしておりますので、加えて今後ともそうしたことの意識を深めてまいりたいというふうに考えております。以上であります。

北沢議員

今後行っていただけるというご答弁でございました。特に言うことはございませんが、まああの町長は今議会冒頭のごあいさつの中で、現在の国の重大な議題であります安保関連法案の取り扱いに触れられました。その中で非核平和宣言の町を行っている町だからこそその所信を表明されております。そのことは翌日の信濃毎日新聞でも報道されておりますので、多くの町民の皆さんも町長のお考えを承知しているところでありまして、町の議会では議会改革の中で毎回議会に臨む町長の所信表明、冒頭のごあいさつを聞いたうえで一般質問を行いたいということにいたしまして、今年の6月定例会から試行を行っております。今回はこの改革に沿って私は質問をいたしましたというふうに思っております。今後とも町長のお考えと町民の声が合致する部分ではできるだけ速やかに施策として反映させることが望ましいと思います。久保島議員の質問によりまして高坂町長の定例会での冒頭のごあいさつはまあこの9月の定例会が最後の機会になったと思います。非核平和への思いは未長く引き継いでいただくよう念願するものであります。

続いて次の質問に移ります。基本計画の関係でございますけれども、基本計画は今策定中の後期計画から議会議決を経て決定される、こういった方向に改めて最初の計画となるわけでございます。議会としてもこのことの重要度と責任を重く受け止めるものであります。これからの質問は今日的な情勢を受け、まあ町長の次期への所信の表明を受けて質問する内容で、議論するつもりはありませんけれども、大変長期に亘って行政をリードしてこられた高坂町長ならではのお考えを是非お聞かせをいただきたいと思っておりますので、お答えをいただきたいと思っております。1つは行政手法の課題であります。行政の横の連携による施策効果の向上策についてどのように考えているかという、古くて新しい課題であります。行政サービスの受け手である住民一人ひとりに対し、どう効率的にサービスを提供していくか。効率的な行政運営の課題として言われていることでありますので、行政経験豊富な高坂町長のことであります、常に頭のどこかに置いておられるかと思っております。過去のことではなくこれからのことをどう考えていくのかお伺いをいたしたいと思っております。私は後期計画の策定期の今だからこそ、こうした仕掛けをするに最適だと考えるものでありますので今回質問するものであります。

町 長

次のご質問は後期の基本計画に関連をして、行政のこの横の連携による政策効果の向上策ということに触れての、縦割り行政の弊害をなくして効率的な行政運営のためにも、今度の計画策定は絶好の機会であるというふうに触れられまして、それに対してどう取り組むかということでございます。まさにおっしゃる通りでございます。効率的な行政運営を推進するには、縦割りの弊害を排除して横の連携を取りながら進めることが必要であるというふうに私も考えておりますし、最近このことは県政におきましても国政におきましても非常に高く叫ばれて実践しつつある課題でございます。そこで今回の後期基本計画におきましても、検証及び策定作業の段階で関係の課、係で連携を取りながら、いわゆる横の連携を取りながらですね、業務を進めてまいりました。特にあのプロジェクトでは課の枠

を超えて横断的にこの政策の掘り起こしを行って、ワークショップ等を行うなどして綿密に連携を取りながら進めてきたところをごさいます、振り返ってそうした過程で一定の効果が表れつつあるのかなあということで、現在素々案の中でまあ検討しておるわけをごさいます。最終的なまとめはその辺も狙いを定めてまとめ上げていくことをまあ今期待しておるわけをごさいます。このことはまあ全職員共通の認識に基づいて、更に全耕地・自治会において住民懇談会も開催をして、課を超えてあるいは担当を超えてそれに職員も参加し、説明をし、ご意見等を要望をお聞きして持ち帰ってきております。そのことを現在進めております計画検討においてまあできるだけ反映するように、引き続き横の連携を取りながら進めていくことが是非必要でございますので、そうした考え方で進めてまいりますので是非ご理解をいただきたいというふうに思います。

北沢議員

現在の策定の作業においてもそういった手法を取り入れるべく内容を考えていると、こういったご答弁でございました。まあ若干あの私が今回受けた意識、今回素々案を見させていただいたわけでごさいますけれども、まあその部分とちょっとイメージが違うなという部分がございますので、2、3この問題について触れさせていただきたいとします。まず1つはあの提案でございませけれども、現在、後期計画の策定中ではありますが、この後期計画、言うまでもなく今、町長のおっしゃる通り行政施策の方向をまあ示したうえで、目標の達成には町民の皆さんと課題を共有することや、ましてや職員が施策全体を共有して効率的な行政運営を目指すことが必要であると、こういった方向では今の町長のご答弁も一致をしているところであります。まあ今回の素々案を見るとですね、連携がどうもちぐはぐと感ずるところが大分あるように見受けたもんですから、今回まあ質問をしたわけでごさいます、縦割り施策や目標が表されている、まあこれが縦割りで施策やその目標、まあそういったものが表れているのではないかというように見受けられるところが何箇所かあったということでごさいます。まあそこで提案する内容は関連する施策の体系、まあこういったものはまあ再掲載して言ひましてあの、まあ例えば健康づくりであれば当然あの生涯スポーツの部分の目標とも合致する部分がございますので、まあその双方にですね載せて、まあどちらかが主体をもって行うとしても、この項目は、この項目でも目標とするところだよというような、そういった表し方をしていくとですね、施策体系をまあ見たときにわかりやすく理解もし易いと、それで職員としてもどなたがそれを担当されてもですね、それを見ることによって横の連携を意識すると、まあこういった効果があるのではないかというふうに私考えて、そういった方法で後期計画の施策の体系とまあ課題等も共有するような、そういった表し方をしたらどうかと、まあそのことによって今後5年間を進める、実際に活動する、そういった職員の皆さんもそういったことを意識するのではないかと、こんなふうに考えるところでありまして提案するところではありますが、いかがでしょうか。

町長

今あの素々案をもって基本構想審議会でもまあ進めておるこの議論の中でございませけれども、今ご質問のこの連携に伴うこの施策の表示的な部分をどうまあ分かりやすく捉えていくかということになるかと思ひます。あの今のご意見は私どもの方もこれからあの素々案のまとまったものをまた議会へお示しをして、そこでまあいろいろとご指摘をいただひてまとめ上げていきたいというふうに思ひておりますので、是非またそれぞれの議員の皆さん方もまたその折りには是非お出しいたひきたいと、いろんな面で思ひますが、あ

の具体的に1つこの施策の再掲の表示の問題を今お話があったわけでございまして、この再掲、いわゆる関連する諸事業、課題を関連する部分であるの再びまあ掲げて連携を持たせるということはとても大事なことだろうというふうに思います。であの前期計画にはこのことが表示をされていないということからまあそうした基づいたご質問・ご指摘だというふうに思いますけれども、あのできるだけ分かりやすくしていかなきゃいけないと、それから連携・体系付けていくことがまた横の連携と、政策のあの実行にも非常にあの効率的になるのではないかとというようなこともありますので、今考えておりますのは連携度という意味で再掲の部分を表示してまいりたいという前提で今あの協議を進めておりますので、また素案を見ていただく形の中でひとつご覧をいただきたいというふうに思います。

北沢議員

それでは次の質問でございしますが、まあ同じ括りの中です、今回、町民の皆さんに暮らしの便利帳が配布されております。まああのこういったものがあの各自治会を通じて各家庭に届いているかと思えます。これは町民の皆さんに保存版として身近なところに是非置いていただいて、是非活用していただきたいと、行政が提供しているサービスを的確に受け取るためにも、これを身近なところに置いていただいて手引書として活用していただけたらと思うところでもあります。昨年の6月の定例会で提案をしてPPPの手法を取り入れていただきました。これはあのいわゆる民間資金を活用してこういったものを作ったらどうかと、こういった内容でございすけれども、その後取り上げていただきまして町内や飯島町に関係のある事業所や業者の皆さんのご協力の下、民間資金で出来上がったことは大変ありがたく感じる場所でもあります。ところで質問でございすけれども、職員の方々の手元にはこの暮らしの便利帳はいつも置いてあるのか。また必要に応じて持ち歩いているかということでもあります。職員は住民に接するとき自分の専任の仕事だけでなく、行政の全体を意識する必要があります。横の連携を図り効率的な行政を推進する一歩ではないかと思ひ質問するものでありますが、第1、職員にはこれを配布してあるでしょうか。

町長

まああのできるだけ町民の皆さん方に、この町の行政の実態、暮らしの実態というものをお伝えをして理解しておっていただきたいという趣旨のもとにこの作成をした暮らしの便利帳でございす。まあ職員の配布のこともございすけれども、あのこれ7月にまああの配布をさせていただいたわけでもございすけれども、あの非常にあの私ながらにも思ひますが、よく出来て分かりやすいのではないかなというふうに思ひておひまして、町民の皆さんも是非これはあの座右に置いていただいてです、何かありましたらひとつこちらの方へまたご紹介いただければというふうに思ひておひすし、それから第一これを職員が会得していないとまずいということは当然のことでもございまして、これもあの同様に全書籍版としてまああの職員に対しては各課へは当然配置をしてございすし、ホームページでも十分即座に見れる形になっておひすので、これを有効に活用して町民にPRをするようにということで、常に指示をしておひす。まあ実際にあの毎日靴へ入れてこの持ち歩いているかどうかということにつきましては、ちょっと私の時点では把握しておひせんけれども、いずれにいたしましてもこれはあの町の発信の情報そのものでございすので、職員も自分のこととしてひとつ常に聞かればお答えできるような対応を是非してほしいというふうにこれからもしてまいりたいと。あのちなみに8月に基本計画に關しまして耕地・自治会懇談をいたしました。私も何ヶ所か回らせていただきましたけれども、

同席した職員は必ずこの手帳を机の上に出しているいろいろな質問にお答えできたのではないかとこのように思っております。

北沢議員

活用していただいているということでもありますのでよろしいわけではありますが、まああのこの行政の制度っていうのはどんどん変わってまいりますので、この私が先般、先に質問したときにも、そのいわゆる行政制度が変わる、このことによってこの暮らしの便利帳がまあ古くなってしまふという弊害があるよと、こんな検討事項もあるというお話もございました。一回出して終わりではなくて、今後もまあその制度の更新を図るためにもある程度続けて、こういったことの手法を取り入れていただくのがよろしいかと思ひますし、職員のみなさんも細かい制度には精通してなくても、こういう制度があるよということを知れば住民の皆さんは、ああ、あるんなら該当のするところへ行つて相談をすれば細かい内容が分かるなど、こんなことが出来るわけでもありますので、是非有効な活用をできたらと考えるところであります。

3番目の質問に移ります。後期基本計画の課題と施策の捉え方についての質問であります。これも私の主観が入っておりますので、まあ考え方についてまあ理事者の考え方と合うかどうかこれから質問をしてまいりたいと思ひますが、私が考える現代的課題、これが何故素々案に捉えられていないか、具体的に項目を示してお伺いをしたいと思います。先ず食育の問題であります。食育基本法が平成17年に制定されました。制定後10年が経過していますが、このテーマはなかなか簡単には達成できるものではなく、今日的行政課題であると思ひます。法の施行に関しては7項目の取り組みの例示が当時ございまして、家庭、学校、保育所等の食育の推進、地域における食生活の改善、生産者と消費者の交流の促進、環境の調和のとれた農林業の活性化、などであります。縦割りでこれでは申し上げますと健康増進の分野、教育の分野、農林施策の分野などに及ぶと思ひますが、先ほど質問した横の連携等の内容によれば、それぞれの記述はそれぞれの部署で行政の推進テーマとなりうる項目であります。これが今回まあ出ていないということでありまして、その他にまあ同じような感覚で捉えますと地産地消の問題、それから健康寿命の問題、まあ健康寿命については後ほど同僚議員から細かい質問がなされておりますので簡単に結構であります。それから食農についてもこれも同じ内容でありまして、今日的課題でありその施策は複数の場所で施策の方向が示されるべきものというふうに私は考えておりますが、何故素々案段階では明確に捉えられていないのか伺ひます。

町長

後期基本計画の課題としてこの施策のとらえ方について、最近のまあ現代的な課題として大変まあ要素の強い課題として、今進めております基本計画の中に表示がややもするとどうも表れていないのではないかとこのよう事項として、いくつかのまあ項目についてのご質問をいただきました。食育、地産地消、健康寿命、食農、それぞれあの今、これからもそうありますけれども、大変あの地域としてはここに住む人としては重要な課題であるということ正面から取り組んでいかなければならない、いずれも、しかもまたこれはあのそれぞれの項目ごとに先ほど申し上げた横の連携、町民の皆さんにとつてみればいろんなあの範囲の広いこの関わりの持つ課題でありますだけに、今後このことは重点的に進めていかなきゃならないひとつのジャンルの一つであるというふうに思ひしております。であの全然ないということではないわけでもございまして、またあのよく見ていただきたいと思ひますが、この基本計画に掲げるもの、それから少しその表示表現が薄いもの、掲げ

であるものについて素々案の中では示してあるわけですが、ひと整理しなければいけないというふうに今あの段階だと思いますが、今ご指摘いただいた各それぞれの項目につきましては、取り組み方の考え方も含めていくつか項目がございますのでそれぞれの担当課長の方から説明をさせていただきたいと思います。

教育長

それではあの教育委員会に関わる事項が多くありますし、先に食育をご指摘ありますので私の方からお答えをさせていただきます。あの食育についてはあの後期基本計画素々案の中です、第4節の基本施策の3、まあ次世代を担う人づくりの主要施策としてまあ位置付けてあります。まあこれらを基本的構えとして地域の協力の下に食に関する学習は引き続き取り組んでいく考えであります。あの食育の推進はまあ教育委員会だけで行えるものではありません。ご指摘のように関係する部署と横断的に連絡をとって進めていくつもりでありますけれども、内容によってはやはり濃淡の差が生じてくるのはこれは致し方ないと思っております。あの子どもの健全な心と体づくりを念頭に、まあ地域の協力の下に食に関わる学習を進めていきたいとこんなふうに考えております。議員のご指摘にもあったようにですね、食育推進計画に基づいて町民一人ひとり乳幼児から高齢者までの健全な食生活を実践するという、まあ活き活きとした活力のある暮らしができるようにまあ食育を推進していくと、現在の食育を担当しているまあ教育委員会の立場からお答えしましたので、以下あの地産地消、それから健康寿命、食農に関わるのはそれぞれの担当課長の方から随時お答えいたしますのでご理解をお願いいたします。

産業振興課長

地産地消と食農の関係についてご説明申し上げます。前期のあの計画の中ではあの主要施策にあります地産地消、食農に関する項目を掲げてまいりましたけれども、後期計画の素々案では掲げてございません。これにつきましては今回のその後期計画の主要施策として、喫緊に取り組まなければならない課題として、農家が減少する中で担い手をいかに確保していくかということ。それから今 1,000 ヘクタール自然共生農場ずっと続けてきたわけですが、このものをいかにPRしながら販売促進をしていくかということ。それからもう1つ最大の課題として、これからの農村をどのように守っていくかということ、まあ農家が減少をしていきますので農家だけではなくて地域全体でこの農地、農村を守っていくということを、この3つの課題を重点課題として今回の素々案に掲げたところであります。で、併せましてあの個別計画ということで、現在町で持っております農業農村活性化計画、これは「地域複合営農への道パートIV」でございますけれども、こちら併せて計画の見直しを進めているところであります。この中にはあの現在、前期の1次計画と呼んでおりますけれども、1次計画の中では9項目に亘って主要施策を掲げてあります。その中に地産地消と食農についても施策を掲げてございます。で、これからの5年後の後期計画、2次計画と呼んでおりますけれども、その計画の中では具体的な内容を掲げながら施策の中で展開しております。で今回の後期計画では実際に行動する具体的な内容も含めた中で計画を策定しておりますので、その中で他課との連携をしながら地産地消、食農について進めてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

健康福祉課長

それでは私の方から健康寿命につきましてお答えをしたいと思います。健康寿命につきましては後期基本計画第2節、基本施策の2、保健事業の充実の5に健康づくり事業の推進の中に盛り込んでございます。具体的には分野ごとの個別計画がございまして、来年度からまた新しい飯島町の健康づくり計画を策定し、実施する年に当たって、今年度が策定

する年に当たっておりますので、その中の重要課題として取り組んでいくつもりでございます。また県の方でもエースプロジェクトと申しまして健康に関する事業を推進しているということでございまして、また後の議員さんの質問にもお答えをいたしますが、その中でも町も取り組んでまいるといことで計画に載せてございますのでよろしくお願いをいたします。以上です。

北沢議員

まああのこれからの命題をどうしても振り分けをしなければならぬと、まあその中で今度の後期計画は目標を絞ってその達成を確保していくと、まあそういった基本的な方針のもとに、ある部分ではこのいわゆる後期計画に載っていないと、けれどもそれを具体的に実践する細部の個別計画の中にはそれを表記されているというようなお答えだったかと思えます。まあしかし、先ほど言いましたように、食育は教育委員会が主管で進めている内容でありますけれども、その分野は複数の課に及んでいるわけでありまして、先ほど私が言いましたように、食育を推進するということであれば健康増進の分野、それからいわゆる農業振興の分野にもまあそういったことが再掲されていてもおかしくはないというふうにと考えるとあります。まあそういった意識を持って是非進めさせていただきたいということ、まあそれとですね、もう1つはあの、まあ例えば食農の問題がございまして。これは食農の分野と言いますと子どもたちを対象としたこともひとつ考えられるわけでありまして、例えば学校教育だとか生涯学習の分野、それから先ほど担い手の確保という問題があったわけですが、食農という問題については将来の農業の理解者を深めるという点では担い手対策も食農の分野であります。まあそういった意味から考えるとやはりどこかに載ってほしいなというふうに感じるところであります。まああの今回はそういったことでまだ策定途中でありますので、1つの意見として最終的に聞きをいただければ、今日のところは論議をしないという前提で私は話をしておりますので、まあ今後の中で検討できる分野は取り上げていただけたらというふうにと考えるとあります。

まあもう1つの問題に移らせていただきますが、伊南バイパスの全線開通の目標があるわけございまして、先ほど久保島議員の町長の成果の中の1つとしても挙げられておりまして、この全線開通でございますけれども、この後期計画の中ではそのちょうど中盤でございます平成30年度、これに確実視されておるわけでございます。この実現につきましては町長も並々ならぬ努力をされてまいりまして、目標を竣工を目前としてご勇退されますことは誠に残念であります、このご努力に対し敬意を表すものであります。今素々案で開通後の姿が見えないという問題を通告してございます。開通後をどう予測しどう対処するのか方向が見えないということでありまして、現状と課題には少し記述があるものの、それに対する諸施策の体系が整備されていないように思います。開通にご努力をされてこられた町長としてどんな思いを描いておられるのかお伺いしておきたいと思えます。

町長

同じくまああの後期計画の捉え方の中で伊南バイパスの開通後の姿というものが、それぞれのまあ施策の上でどう表示を位置付けていくかということが少し見えないというご指摘かと思えます。まあ具体的にはあの町図への表示の問題だとか、観光パンフレットあるいは観光ルート、土地利用というようなことで、ちょっとあの個別的な案件になるわけでございますけれども、全体といたしましてはあの今お話のように平成30年度と申しますか、まあ平成30年も4月から31年の3月までありますけれども、今のお話の中ではできるだけまあ一日も早く、あまり寒くならないうちの30年度という形で今お願いを、

だいたいあの先が見えてきておるのかなというふうに思っておりますので、鋭意工事が進められますように精一杯現在努めておるところでございます。であのこうした個々の問題につきましては当然これはあの今進めております道の駅仮称「田切の里」もそうでございますし、それから沿線の土地利用、それからそこにまあできるだけある程度あのまあ景観協定の問題もあるわけでありましてけれども、この賑わいが醸し出せるような施策を導入していかなくやならんということで、これはあの町が一人考えておってもどうにもなるわけでもございませぬけれども、いろんなまあチャンネルを使ってそうしたことの実現に向けていかなくやならないと、その考え方はまあ基本計画に入れなければならないという思いでやっておりますので、そんなことでひとつあの今後最後のまとめの段階でもまたひとつご意見をいただければと、お示しをいたしますのでお願いしたいと思います。あの取り分けあの今バイパスに関連した道の駅、それからその周辺の土地整備というようなこともこれからまた更に加わってくるかと思っておりますし、それからもっと先を言いますと12年後のリニアの開通、これは飯田近辺に駅が出来るわけでありましてけれども、これと伊南バイパス交通アクセスというものは飯田線そのものと当然これは連携していかなくやならん、そこに伊南バイパスあるいは竜東線の価値観が出てくる、またそうしていかなばならないというふうに思っておりますし、それから同じ道路でもこの進めております三遠南信自動車道、これはあの浜松までの完成目標はまだ示されておられませんけれども、いずれにしてもまあまだ10年以上かかるのではないかと思います、途中まではもう5～6年ぐらいにはひとつ県内は完成していくかもしれないという期待心を持って、今鋭意工事が進められておりますので、この太平洋側との人的交流、定住促進についてもこの伊南バイパスは飯島のみならずですね、これは伊那谷全体の一つの方向付けを今しておるわけでございますので、そんなことも連携をしながら町の思いを基本計画の中へやっぱり入れていくべきだというふうに思っておりますので、是非今後ともご協力ご理解をいただきたいというふうに思います。

北沢議員

総体的な全体のお考えについては町長の考えを現在お聞きをしたところであります。まああのそういった強い思いがあつて伊南バイパスが出来上がったわけでございますので、これは将来に亘って、出来ただけではなくて、それを有効に活用する方向で町の今後計画の中に盛り込んでいただけたらというふうに感じるところであります。まああの時間の関係で調整のためにそこに括弧書きで通告してございます。若干時間がありますのでちょっと申し上げてみたいと思います。まああの具体的な項目でこれがあのいわゆる後期計画に盛る、盛らないということではございませぬけれども、まあ関連する考え方の中で、例えば町図、それから観光パンフレットの印刷、まあこういったものがいわゆる開通後の姿として早目から対応していく必要があるのではないかと。従って開通時にはこういったものはもう既に出来上がっている必要があるのではないかとというふうに考えるところであります。そのぐらいのいわゆる対外に対する施策の効果を積極的にですねアピールしていく必要があるのではないかと。それからもう1つは先般ちょっと時間がなくなりましたので、観光ルートの問題について先の議会では質問できませんでしたけれども、例えば駒ヶ根のインターなり松川のインターで降りて、まあ両サイド2つの道の駅があるわけでございます、駒ヶ根から降りますと田切の道の駅をバイパスを通過して、田切の道の駅を通過して堂前線でいわゆる中央アルプスの景観を楽しんでいただき、で七久保の道の駅を経

由する段階で南アルプスの景観を楽しんでいただくというような、町のいわゆる観光ルートです。町内の、まあそういったものを軸にしたその観光開発っていいですか、まあいわゆる外部から来た皆さんに対する誘導策、まあこういったようなことも検討されるべきでありましょうし、土地利用の誘導策という点では今、町長がまあ町としてどういうふう

に今後取り組んでいくか示していきたいということでございましたけれども、飯島町が下水道の配管、それから上水道の配管、こういったものを先行投資をしてですね誘導策をできればいいんですが、なかなかこれは経費の関係で難しいかと思えます。ということになりますと現在いわゆるそういったものが町内に布設をされているわけでございますので、まあ支障がなければ上水道網それから下水道網、こういったようなものも積極的に公開をしてですね、まあこういった部分については土地利用として併せて、まあこういうインフラの整備が済んでいるので有効活用ができる部分があるよと、まあそういったようなものも含めて総括的にこの誘導策をするような展開をすると、まあこういったようなことが考えられるわけでございます、そういった積極的なですね誘導策というようなものも当然町では検討されるべきではないかというふうに考えるところでありますが、まあ今ちょっと細かい問題でございますので、お答えもなかなか難しいと思えますけれども、まあこういったいわゆる考え方の基本的な部分については、ご提案申し上げた内容はいかがでしょうか。

町 長

まああの町図やパンフレット等のことについてはまたあの課長の方から考え方を申し上げますけれども、このバイパスの開通、それからまあ6次産業化を目指したまあ道の駅の2つの問題、それから現在ある広域農道あるいは県道飯島との連携、それから当然あの中央高速では具体的に駒ヶ根のサービスエリアからのスマートインターが養命酒の下へ降りてくるという形になりますと、飯島町にとっては非常にメリットがあると、でこの後あの折山議員の質問にもちょっと関連して出てまいりますけれども、これからのひとつの町をひとつの方向を考える中で、やはりあの千人塚観光、県立公園の位置付けが今県の方で検討されておりますけれども、これらもまあひとつあのインバウンド観光、まあいわゆる外国人の方をお迎えする1つの受け皿に相応しいようなことも、計画の中でもう一度あそこらを中心にして、それから今ある町の観光資源というものをどう有機的に回遊して結び付けていくかということで、もう一辺あの根本的に練り直さなきゃいけないということに思っておりますので、その辺のところはまだあの詳細な具体的な計画は基本計画の中へ盛りませんけれども、その芽出しだけはしていかなくちゃいけないだろうというふうに思っておりますのでそのことと、それからあのやはり人口を増やして定住促進を図っていくということになればインフラ整備がどうしても必要であるということは当然であります。上下水道、これはあのなかなか現状の町の財政の中では先行して先行投資の中で、あの全然そうした未開のところへ布設をしてあらかじめこちらへというわけにはまいりませんけれども、かなりあの既設のそうした整備が整っておる中で適住地もございまして、農業農振との関係もございましてを調整しながらですね誘導をしていくような土地利用政策をしていかなくちゃいけないというふうに思っておりますので、そんな考え方でまあ進めてまいります、具体的な個々の問題につきましてはひとつあの課長の方から申し上げますのでお含みいただきたいと思えます。

企画政策課長

それではあの町図の関係でございますけれども、あの企画政策課の方でその印刷関係担当

しておりますけれど、あのご指摘ありますようにバイパスは現在載っておりません。実はあの平成20年、一番最近では平成20年に印刷したものがまあ相当数残っているということで、まああの丁度後期の基本計画の中間ぐらいと開通が一緒のぐらいというように考えておりますので、先ほどお話がありましたような感じでそこらへんを目安に新たな道路網等を入れた中での印刷を考えております。

産業振興課長

観光パンフレットと観光ルートの関係ですけれども、観光パンフレットにつきましては2年に1回の更新をしております。で前回といますか今年の3月に更新しております、その中にはあのバイパス等の位置図等も入れてありますし、田切の道の駅の予定地ということでも掲載してございます。まあ今後あの新たな展開も出てまいりますので、2年に1度ということですので、道の駅がオープンした時点でまた再度見直しをしながら策定をしてみたいと思います。観光ルート等につきましてはあの平成12年の時にですね観光基本計画というのを立てまして、町の観光の方針を定めたものがございます。まあその後まあ財政状況の悪化もありまして、観光面では改訂等しておりませんが、本年度中に観光基本計画まあ観光振興計画ですけれども、改訂しながらその中で具体的な観光ルートの開発ですとか、あるいは先ほど町長が申しあげました千人塚の新たな展開、そういったものを位置付けてまいりたいと思います。なおまた近隣と提携しながら観光ルート等については検討してまいりますけれども、現在研究会を立ち上げてましてジオパーク、エコパークという構想の中で、この中央アルプスを活用した伊南4カ市町村でどのような形で活用しながら観光につなげていくかということで研究会を立ち上げたので、そういったものも参考にしながら町としての方針を定めてまいりたいと考えております。

北沢議員

それではあの最後の質問に移りたいと思います。最後の質問でございますけれども、住民要望があるのに実際活用が見込まれない補助事業の見直しの考え方があるかという内容でございます。まああのこれも将来に亘ることでございますので基本的なことだけお伺いをしておきたいと思っております。まあ代表的なものとして小規模児童遊園地設置事業補助金を取り上げたいと思っておりますが、議会は基本条例を具体的に執行するために各種団体と懇談会を実施しておりますが、今回いいちゃんまちづくり連絡協議会と懇談を行いました。この中でも出ましたし、いろんな子育て中の皆さんと懇談すると出てくるのは、身近なところに子どもたちと遊べる公園、児童公園が欲しいというお話であります。一方これに対応する施策として小規模の公園をつくる補助金が町の制度としてあるわけですが、これは実際に使われたことがあるのでしょうか。子育て中の皆さんが現実この公園を造るといふ住民要望を実現するためには、相当のエネルギーが必要であります。制度が有効に生かされるための障壁など検討されてはと考えるところであります。その結果、制度の改正、実現のための方策として補助額の増額、早期に実現するための時限的な土地、あるいは究極は児童福祉法や都市公園法などによる公的公園の建設など検討する事項は多方面にあると思っております。「いつか補助金の活用があるだろう」ではなく、子育てにおいては前向きな検討が必要ではないか。またこれを例に基本計画実現のための現在の補助金制度の全般的な見直しをし、時限的措置を検討するなど5年間で進めるべき目標にメリハリをつけたらどうかと提案するものでありますが、どう考えるか伺います。

教育長

あの全体的な補助金制度の見直しということについては、ちょっとあの担当が違いますので例として挙げていただきました小規模児童遊園への関わる事業の補助制度について、

教育委員会が担当しておりますのでお答えいたしますが、これまでの実績についてですけれども、5件の活用申請がありまして、700,000余の事業実績がありますし、もう1つあの有利なあの補助制度がありまして、それを活用していただいた地区もありまして、合わせますと児童遊園に関わる事業これまで6,000,000近くの実績があります。であの今ご指摘のなかなか進まないということでもありますけれども、あの児童遊園の遊具に関わる事故や、それから遊具に対する保守管理といった責任の所在どこにあるのかと、まあそこをめぐってですね設置を思いとどまったり、これまでの中であの子どもが減ってきたということと、こうした安全上の配慮から撤去されてしまったという逆の例もあります。でこうした背景を考えますとあの地域住民のその具体的な要望や、設置した後のですね想定される利用度合い、進め方など総合的に地域の皆さんともにですね検討していかなくてはならないのではないかなというふうに思っております、これがなかなかあの利用制度につながらないということでもあります。あのまあ他方面でですね、あのこの制度がありますよという積極的な宣伝がなかなかできなかったという宣伝不足の面もこちらでも否定できませんので、これから制度の周知を図っていきたいというふうに思っております。であの制度の見直し、事業補助金の額については常にあの不断の見直しや検討を進めていくという立場でありますけれども、まあ他の子育て制度とのバランス、有効性等を保ってですね、子どもやあの子育て世代の最善の利益になるものはなにかということを常に総合的に考えていく必要があるのではないかなというふうに考えております。

企画政策課長

全体的な補助金の見直しについて最後にお言葉ありましたので、あの当時ふるさとづくり計画で補助金からあの金品給付等いろいろ見直しするという形の中でやってまいりましたけれど、なかなかその改革的な形でできなかった部分があります。ということは時代の要請の部分があったりしてあの逆に補助金等の要綱が増えてきたということもありますけれど、今回あの行革プランの中に細かくは謳ってございませんけれど、あの徐々にその部分また改めて検討する時期もくるかなと思いますけれど、現段階で今はどうするっていう形はございませんが、いつかの時点でそれは検討させていただきたいというように思います。

議長

ここで休憩といたします。再開時刻を11時10分といたします。休憩。

午前10時51分 休憩

午前11時10分 再開

議長

休憩を解き会議を再開します。一般質問を続けます。

4番 折山 誠 議員

4番

折山議員

通告順に質問をしております。項目の1、後期総合計画に提案ということでお伺いをいたしますが、トップバッターの久保島議員の質問に対しまして、町長、今町長選には出馬をしないという意向を明確に伝えられたところございまして、これから私お聞きすることは担当しない方にその実施を迫る、このような内容になってしまいまして、ちょっと質問がしづらくなってしまった訳なんです、考えますとまあ町長に昨年でしたかね、私、

総合計画に関連して質問をさせていただきました。町長、ちょうど後期計画の策定の佳境の時に任期を迎えるわけなんです、どういう立ち位置でこの計画策定に臨みますかという質問させていただいた折に、任期一杯まで自分の仕事を粛々として行っていくというそういうご答弁でした。残ったあの時間はですね総合計画のやはり佳境で、これまで地域の懇談会を重ねているんなあの町民の意見があったかと思います。またこう一般質問を通じての議員の意見、こういったものがこれからまあ集約をなされて1つの骨格がこう出来上がっていく大事な時期を町長は担当されるということで、その責任という分野でこれからの質問を行ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。ちょっと風邪ひいて喉が痛いんでいつものように大きな声が出ないかもしれませんがお願いします。あの住民の皆さんの中にはですね、あの懇談会の折りも多分まあ時間の制約もあり、全員が発言するというような機会はなかったかと思います。あのなかなか人前でモノを言えない住民の皆さんが多くて、その皆さんのやっぱり思いとか気持っていうのは当然大事なわけでありまして、そこをまあ我々議員が汲み取ってこういう場面で町長に問うていく、こういうのが我々の大きな仕事かなというふうに考えております。以下総合計画に対する町民の声6つを質問要旨として掲げてございますので伺ってまいります。

初めに質問要旨1の1、水道事業の中川村との統合あるいは水の販売、こういったことについて平成25年12月の定例会で私質問をさせていただきました。2年近い時間があれから経過しております。もうちょっと記憶から消えている部分があるかと思うので繰り返して申し上げますが、ちょっとあの状況も2年経ちますとあの有収水量等、水道事業の基本的な数値も変わっておりまして、まあそれは新しいもので考えればいいわけでありまして、12月に行った質問の要旨はですね、上水道の給水エリアを中川村の一部と統合できないか。両町村でそのような検討を始めてほしいということをもとめてものでございます。この質問の背景には平成32年を展望した飯島町の地域水道ビジョン、これがございまして、現、樽ヶ沢の浄水場これは日曾利を除く全可住地域対象に給水人口11,000人、1日最大給水量5,700 $\text{m}^3 \cdot \text{t}$ 、こういった浄水能力を有しております。これに対して実績ですが過日配布されました平成26年度事業の監査委員決算審査意見書、これを見ますと給水人口は9,648人、1日平均給水量は2,448 $\text{m}^3 \cdot \text{t}$ 、こういうこととなっております。前回のあの25年に申し上げたときよりも更に減っているわけです。これは人口減少等あります。能力の半分に満たない販売で経営をしているという状況です。このビジョンによりますと給水人口を、給水量ともに平成32年度まで減少傾向が続いていくというふうに予想しておりまして、経営課題としてはリーマンショックの影響によって21年度赤字経営に転じた以降、まあ黒字回復はしているわけなんですけど厳しさは増している。それで今後の見通しとしては企業債の償還ピーク、そして老朽施設の更新、こういったもので更に厳しい環境を余儀なくされていく、こういったことを記載してあるわけでありまして、で、どう対応するかというと、必要に応じて料金の改定を検討せざるを得ないというようなビジョンのくくりになっておろうかと思っております。つまりですね安全安定給水の経営基盤確立のために料金の改定という厳しい現実を町民に突きつけているのがこの水道ビジョンであります。一方、隣接する中川村、25年にも申し上げましたが、安定して取水できる河川、表流水がなくて村の水源を井戸に多くを求めている。あの答弁の中でも所管課長からそういうような報告もありました。その井戸も急峻な地形であるとなかなか

か安定して汲み上げていけない、こういったあの慢性的な水不足に悩んでいるのが中川村の実態であって、隣接する、お互いにまああの能力の半分しか売れない飯島町と水不足に悩む中川村が力を合わせれば安定した経営になるんじゃないのという提案をさせていただいたところでございます。これは2年前であります。それでその折りに町長からは、やはりあの相手方もあること、関係法令もあること、だから関係各方面を交えて検討する、こういったお答えをいただきました。2年経過をいたしました。関係方面や中川村との協議は進んでいるのか、その検討経過はどうなっているのか、この点についてお伺いをいたします。

町 長

それでは折山議員のご質問にお答えをしてみたいと思います。後期総合計画これまでもいろいろ触れてご質問をいただいておりますけれども、これに関しましてまあ様々なご提案をいただきまして、特に先ずあの水道事業について中川村との経営統合といった視点のご提案を引き続きいただきました。お話ございましたように、このことについては平成25年おとしの12月の議会でもこのご提案をいただいて、それぞれお答えして経過をしてきております。まああの中川の、まあ飯島の水道経営、それから中川の水道経営、それぞれいろんなあの事情があるわけでございますが、何とかまあ健全給水を安定給水を飯島の場合はさせていただいておる。料金体系につきましてもここ5年ほど全然まあ改定することなくまあ維持できておるということで、大変感謝を申し上げておるわけです。そこでまあ現在あのお話のように少子高齢化、人口減少の時代に突入して今後の水道事業の経営環境、益々まあ厳しくなるということが予想されておりますし、先の決算報告でも給水、有収水量、1人当たりの給水量、減少傾向にあるという数字が出ておりますが、あの当然その部分もちろん人口減に伴ってあるわけでございますが、ひとつあの昨年、一昨年ぐらいですけれども、町のあの大口消費を水を消費する企業がございまして、これがあのやはりあの経費効率の部分で深井戸を掘ったということになっております。そのことが少しあのダイレクトに影響したということは否めないわけでありまして、まあそうした要素を除いても今後そうしたことは当然まあいくだらうというふうに思うわけございまして、それでそこであの特に中川村との関わり、問題でございます。中川村でも同じように水道ビジョンというのが策定されておまして、ここでは平成26年3月に策定された中川村水道ビジョンの中で、むしろ向う先方さんの方から飯島町から渇水時などの緊急のみの受水を受けている針ヶ平や特に横前地籍の一部地域において、将来的には常用水源として飯島から受水することを視野に入れて協議をしていく、とまあこれは向うの考え方なんでございまして、これにつきましては中川村からの申し出がございまして、ご質問をいただいた以降も現在3回ほどその事務レベルでの協議を重ねてまいりました。まあいろいろなかなかこの水道統合ということになりますと難しい問題をクリアしていかなくやならん問題がございまして、その最大のこの課題でありますのがこの水利権の問題と、それからその許可水量、まあこれはあの渇水期等々含めましてどうしても経営統合になると毎年あの受水量は年々中川村も飯島も減るという傾向にはあるとは思いますが、やり最大限のものは確保していかなくやならんという形になりまして、言ってみればこれは増加枠、この可能性についてその有無はどうなのかということに伴ってのまあ事業認可の問題。それから当然まあ料金体系、費用等の、それからどうしてもその自然水でありますので、天候に左右されることが非常に多いという形になります。その時のまあ渇水時の

問題や大きな災害があったときに既存の町独自の水道と中川統合した場合のその給水優先度、優先性をどう捉えるかというこれは直接地域住民に関わる問題でございますので、そうした問題もまあいろいろと様々な課題を抱えておるわけでございます、同時にまたその辺の折衝につきましては許認可団体、それから当然中川村との先方さんとの関わりもあるわけでございますので、その調整をしていくと、まあそれがあの生みの苦しみという形になろうかと思えますけれども、従ってあの現段階では事業全体での統合といったことについての整理したものはまだ見えてきておりません。いろんなあの許可水源、許可者であります天竜川上流河川事務所等ともいろいろとあのお話を聞いたりしておりますけれども、ちょっとまだ現在思うような進み方は出来ておりません。で一方であの平成25年の3月に策定されました国の新水道ビジョン、これにおきましては、この発展的な広域化としての水道事業の広域化検討を進めることが望まれるという位置付けになっておりまして、これはやっぱりあの経費対効果、経営効率の問題があので分に大きな要素になっているんだらうというふうに思いますが、これが望まれておるということで、このほどこれを受けて長野県の水道ビジョンの策定にあたっては広域水道のあり方に関与したいという形になっておりますので、当然あの県とも相談をしていくという課題でございます。で、今お話にございましたように飯島町の水道事業につきましても今後予想される人口減少に対する水道使用料金の落ち込み、あるいは施設の長寿命化の問題が現実的な問題として降りかかってきておりますし、それから更新の問題も控えておる、従いましてこれはあの統合を考える上でやはりあのスケールメリットを目指した経営効率、事業継続というのもの、これはあの町の負担の面でいきますと料金の低減化やそれから安定給水と事業経営というものにも当然あの1つの選択肢の中では捉えていく必要があるというふうに、このことは今もそう思っております。従ってあの今後5年間の計画の中でこれがあの経営統合が実現するということはとても確約できる話ではございませんけれども、いずれにしましても関係方面と今後話を進めてですね、国の県の方向もそういう方向にちょっと振れてまいりましたので、いろんなあの補助制度も当然出てくるかと思えます。従って今計画にはそのことをきちんと位置付けて、統合に関する研究検討の位置付けだけはしてまいりたいと、こういうことで今後基本構想審議会の中のご審議の中で練っていただきたいというふうに思っておりますのでよろしくご理解いただきたいと思います。以上であります。

折山議員

はいあの、そうですねあの2年間実はじっと我慢をしてまいりました。水道料金っていうのはまああの日々使うもので、住民の一世帯一世帯が毎日この当町は高いと言われていた水道料金払ってきているんで、まあ一刻も早く手をつける、検討していく、改善をしていくというのが大事なことだし、そういった内容の施策ではないかなというふうに2年間辛抱してまいりましたが、町長から明確なご答弁をいただきましたが、もう少しちょっとお聞きしてまいります。当町、多年に亘りまして基本構想では人口12,000人を標榜してまいりました。また水道施設の建設当時というのはいわゆる高度経済成長期であって企業活動も活発化していく、こういったことを前提としたあの浄水場の設計・建設であったかというふうに思います。また配水管路網の計画であったかというふうに思います。従いまして現施設の規模は現実とは相当かい離れた大きなあの当町の規模としては大きなものであり、人口減少とともに世帯当りの配水管の布設延長、これは長大化を、人口減っていくわけです。あるいは世帯がまあこれから横ばいになるのか、いわゆる人口1人当たり

にしてみると長大化をしていくわけですね。戸数が少なくなりますから。というのはこれは効率の悪い施設運営、これが今後余儀なくされている。今後そういった不効率性は進行していく、こういった現実が目の前にあるということなんです。で経営基盤安定を進めるのであれば売れる水の量を多くする、こういうのが企業的な発想で、後にいわゆる企業的な感度であの事業をやっていくとかあの前期の計画には明記してあるわけですね。企業感度というのはどういうことかって言ったらそういうことなんです。水を売って収入を得ている事業所があればいかにしたら多く水が売れるかということを経営に近いところまで水を売っていくという政策が住民福利の向上にやっぱり資していくということになるわけでありまして、先ほど町長深い井戸の話が出ました。大きく水を使ってくださるところが深井戸を掘ってしまった、これは企業経営として当然ですよ。高い水道料金を求められたら深井戸を掘ることといわゆる経費計算をして、どっちがこの会社が将来展望したときに得なのかという金勘定をするわけですね。その結果が飯島町の水道料金であったら深井戸を選択した方がいいよ、これはもう今後も続くはずですよ。水をたくさん使う企業がやっぱり高い、近隣に比べて高い水道料金を設定していれば当然そういうことが進んでいくかというふうに思います。中川村との事業の部分統合、現施設で供給可能な中川村のエリア販売すること、これは1つの手法としては極めて有効なものだということでございます。また町長そういうご認識の上で後期の計画の中に位置付けていただくということをお答えいただいたので、続きましてちょっと認識は共有できたということで、今度は料金のことを伺います。あの所管課の水道係長にこのあいだ資料をいただきました。平成24年4月27日の信濃毎日新聞の特集記事が組まれているわけなんです。それでこれは県内77市町村の水道料金が比較をされているわけなんです。それで高い順にあの自治体を並べて結構大きな特集記事になっているわけなんです。タイトルは「青い金」なんです。「青い金」。蛇口の向こう1,767の源というようなことで、料金の開きは5.2倍だそうです。一番高いところと一番安いところの差は5.2倍に開いている。これによりますと、ここで比較したものはあの県内の平均的な世帯の水道の使用量、これは毎月20m³ということ想定しているそうでもあります。試しにあの監査委員さんの今回の有収水量の平均を件数で割ってみて、月のボリュームに換算してみるとまさしく飯島町も20m³なんです。でこれはまああの工場の大企業の1軒と世帯の1軒とはこれは全く中身は違うわけなんです。まあ奇しくも飯島町の1件平均当りのあの水道使用量っていうのは月平均20トン、20m³、こういったところで先ほどの町長のご答弁で5年間据え置いてきたということは、この料金体系、他所が上げていけばもうちょっと縮まっているかもしれませんが、この資料だけでものを申していきますと、当町は高い方から77市町村中6番目4,053円なんです、20m³使っているお宅が毎月払っていく使用料金は、中川村は伊南だけで見ていきますと中川村は20番目で3,559円、井戸を掘りながら苦労して配水をしている施設的には効率の悪い中川村は3,549円。うちは4,000円を超えている。駒ヶ根市が41番目で3,150円。宮田村は51番目で2,940円という金額なんです。県下で最も高いのは生坂村7,000円。もっとも安価なのは南相木1,334円。こういったまあ料金、これはですねそれぞれの市町村の選択肢で勝手に決めているわけじゃなくて、水源がないところは高い水を他所から買っている。またあの集落が標高の高いところにあるところへ水道を送ろうとしたらポンプで圧をかけて送っていかなければならない、それぞれのいろんな事

情がある中での、これはやむを得ない料金差だというふうに思うわけです。がこれはやっぱりスケールメリットは必ずここでは生きてくるはずで、あの町長は先ほど同僚議員の方から、難しい各自治体に1つしか認められない道の駅を町長情熱と想いの中で2つ引っ張ってきました。で先程お聞きしておったのはこういう課題があつてこういう課題があつてと課題を並べられて、ということでご説明をお伺いしたんですが、道の駅2つ引っ張ってくるなんていったらもっと大きい課題があつたわけです。でも町長のその情熱で、やったんですね。水道料金1世帯の料金を引き下げるために、中川の安定給水を確保するために、まあ本当はこの先情熱を傾け続けていただきたかつたわけなんです、他に譲とするんであれば先ほど申されたとおり、総合計画の後期の中へきちんと明示をして、やるはこれ難しいと思います。相手もある法令もある、ですからお互いに検討研究を始めていく、この文言は是非明確に位置付けていただけるというお話でしたが、是非そのことは実現をしていただきたいと思います。これ町長に再度くどうようですが、今申し上げた上伊那で最も高く、県下で77市町村中6番目にあるこの水道料金、これはいわゆる住民の目線で見ると町長どんなように受けとめていらっしゃるでしょうか。まあその事実を町長のご認識をくどうもう一度お伺いしたいと思います。

町 長

今あのお話のあつた2012年、平成24年の信濃毎日新聞の記事、ちょっと私もあの担当課の方から今ここへ見ておるわけでありましたが、3年後の現在の料金体系がどうなつておるかということとはちょっと私も承知してなくて恐縮なんですけれども、いずれにしてもあの町は他の市町村に比べて高い位置にあるということももう昔からその通りであります。いろんなあの水道経営っていうのはこの特殊な事情があるわけでありまして、一方であの一層この公営企業が法適用という形になってまいります。この中にはかなりあの料金を抑える福祉的な側面を捉えてですね、一般会計からの補てんをしながらやっている市町村もかなりあるというふうに聞いておりますし、それから深井戸、表流水、というようなことで考えますと、日曾利を除いて飯島町はすべて与田切のまあ雪解け水といいますか、これを使って言ってみれば結果的には非常に美味しい水だということはこれほどどこにも負けないトップではないかというふうに自負しておるわけでありまして、そこにはやっぱり自然現象でございますので災害には至らなくてもやはりあの濁るということは宿命であります。濁度が増すという形でその対応を施設的にはきちんとあの薬剤注入も含めてですねやっておるのがこの現状でございますので、どうしてもあのコスト対独立採算の中で考えますとこういう位置付けになるということでございます。従つてあのできれば低い方がいいわけでありまして、現実の姿はこういう姿だということで町民の皆さんにもご理解をいただいて、ただまあなんとか経営努力の中で今までこれを5年あまり維持してきたということは是非ご理解をいただきたいというふうに思います。

折山議員

あの今言われたまあ濁度を落とすしていくためのまあ経費が高い、これはあのみんなあの水源は井戸ではなくてやっぱりあの表流水を取つてやっているとところが多いわけでありまして。みんな同様の状況なんですけどただうちの特性はね、あのオンボロ沢とかそういうあの崩落が上流部でねあるようなそういう地形があるということで、より他所よりも厳しいまあそういう濁度調整をしていく経費が掛かるということもあのそのとおりでございます。あのやはりこういう政策を町長に求めていくのは私の常の姿勢でしたが、町長今度はあの退任をされるという前提で、やっぱりあの仕事は所管の部署の人間が情熱をもって取り組

まないといけないと思います。いくら町長が旗を振っても所管の部署が同じ思いにならないといけないと思います。町長縷々ご答弁いただきました。これを受けて町長がいなくなってから新しい町長が来てから所管がこれに取り組んでいくことになるわけなんです、所管課長の熱い思いをここでちょっと語っていただきたいなあというふうに思いますのでお願いします。

建設水道課長

所管の思いということでご質問をいただいた内容でございます。あの内容的にはいろいろな課題があるという状況でございますけれども、先ほども町長の答弁の中にもございました、そういった大きな課題等につきましてはやはり後期の総合計画、これの上水道事業の充実という中の主要施策の中に位置付けをさせていただいて、事業の持続可能な経営基盤ということで研究検討を進めてまいりたいと思いますのでよろしくをお願いします。

折山議員

はいあのこの後期の計画、これはあの町の住民の合意に基づいた最高の計画になりますので、そこへ位置付けていただくということは誰がこの後来てもこの方針を外していくということは、これは住民総意にも反してしまうということになりますので、ありがたいご答弁をいただいたというふうに思います。それではあのこの要旨については終わって次へまいりたいと思います。

質問要旨1の2、自治会等未加入者の防災訓練と災害時の対応。これについて伺いたいと思います。先のあの飯島町の一斉の防災訓練、これはあの私新田なんです、新田自治会でも自治会の避難訓練があったわけでございます。その訓練がちょうどあいにくの雨でしたもんで集会施設の中で総括的なことを行ったわけなんです、その中で参加者から自治会内の未加入者はどうするのか、こういった質問が役員に投げかけられました。これに対して自治会長からは、自治会への加入・未加入にかかわらず人道的な見地で対応していかなければならないと、こういうふうに答えられていて見事なご答弁だというふうに思いました。まあそこでちょっとあの気になったんですが、有事に際しての未加入者と自治会との関わり方、これは自治会の方はあの未加入者をなんとなくは分かっているんですが、多分町からはいろんな守秘義務とかそういったことの中で、誰がお宅のエリアの中にこういう方がいる、家族構成はこうだ、こんなことは多分情報提供できないし、していないと思うんですね。そうすると有事のときにはこの皆さんはどういうふうな行動をすればいいかっていうようなことは、どういうふうに指導されていくのか、あるいは後期の計画の中ではどんなふうに位置付けていくのか。あの外国人とか障がい者とかこういういわゆる言語、身体、こういったものを弱者として位置付けた対策っていうのはあの明示されておるわけですね。そこにはあのやはり他所から見えて自治体に入っていない、またこういう方が、これは本当は良くないんですが結構ちょっと初期の段階では増えるっていうような気がするわけです。この皆さんもやっぱりあの同じ町民でありますので、安全を配慮した施策は大事なと思いますが、これに関しては後期の中ではどんなお考えを持っているのか、素々案の中ではちょっと住民懇談会の資料見たんですがあまり明確になっていないような気がするんですが、その辺のお考えを町長にお伺いします。

町長

次はあの自治会等に未加入者の防災訓練というよりもまあ防災体制の参加、あるいは災害時への対応ということになるわけでありまして。これはあのなかなか平常時ではそうあまりこう現実的な緊迫感ないわけでありまして、まあ今日もあの茨城や栃木の方で出ております、ああした状態になりますともうそんなことは言うておれないという現実的な厳しい

問題がありますが、平常時でなかなかこのことをどう対応するかが難しい、常に難しい問題でどこの地域や市町村も悩んでおるんだろうというふうに思います。そこでちょっと実態を申し上げますと、当町の耕地・自治会未加入者は世帯にいたしますと650世帯でございます約。その内あの施設等に入所されている高齢者等を除きますと約500世帯が存在しておるとい形になります。でこれらの世帯はあの500世帯と言ってもまあ民間のアパート等に入居をしておる方が半数以上で、しかもまああの派遣社員等の短期的な方、それから单身の方も相当おるといことでございますので、なかなかその辺のところも難しいということになります。であのこの方々のみを対象とした防災訓練というのは町では特別やっておりますし、今あの新田耕地を例にされて総代さんの大変ありがたい取り組み考え方を披瀝いただいたということで感謝しておりますけれども、全くその通りだといふふうに思います。あの町としてはそのどのくらい今度の8月末の防災訓練に未加入者が参加したというデータは持っておりませんが、そんな考え方の中で今後やっぱりあの浸透していく必要があるんだといふふうに思っております、やはりあのそれぞれ個人が各地域の訓練に自主的にまあ参加いただきたいと、これは今まで耕地に入っておったから、入っていないからというこの垣根の問題ではなくてですね、やっぱり率先して自主的に参加していただきたいといふふうに望むことが大切だろうといふふうに考えておりますし、そうしたことを含めて本年度も是非参加をいただきたいと、そういうことも含めてということで、思いからあの前日に私自身であの防災無線と有線告知放送を通じて全町民にまあ呼びかけをさせていただきましたし、それから今回あの初めて飯島町にいらっしゃる方の携帯電話をお持ちの方すべてに緊急速報メールというものをお届けをして、避難呼びかけを耕地・自治会未加入者にも届く形で行ってまいりました。まあそのあの結果等についての把握はまあこれからちょっとあのまとまる段階だといふふうに思いますけれども、今回のまあ防災訓練を通じて、このことについての具体例等につきまして総務課長の方から補足して申し上げますので、お聞きいただきたいといふふうに思います。

総務課長

災害時の対応でございますが、これは耕地・自治会、加入、未加入を問わず全世帯に配布してございますハザードマップ、それからあの防災ガイドブック、これをベースに行動をしていただくこととなります。周知については今町長申したとおり、防災無線やいろいろなメディアを通じて周知をしてまいります。でまずあのハザードマップにつきましてはあの最寄の避難所までの経路、それから危険カ所の確認、こういったことに利用いただくために平成25年度に作成をしたものでございます。あの耕地、自治会未加入世帯にも郵送してございます。それから今回新たにあの更新をしました防災ガイドブックについては、同様に郵送する方向で今準備を進めております。いずれにしてもあの日ごろ備えておくべき事項、それからあらゆる災害に対応した対策等を掲載しておりますので、あのいざという時のために一度目を通していただき、冷静な行動がとれるようにしていただきたいといふふうに思います。それからあの耕地・自治会加入、未加入にかかわらずということで、今も議員それから町長から話がありましたとおりでございますが、あの災害時あるいは避難勧告、避難指示が出たような場合は、最寄りの避難所あるいは避難場所に避難いただくこととなりますので、先ずあの自分の身は自分で守ると、これが基本でございますので、日ごろから最寄りの避難所、その経路、それから危険カ所の確認、これをですね夜間を含めて様々な条件の中でも自主的に避難ができるということまで準備をしていた

できますようお願いをするところでございます。で併せて是非こうした訓練の際には主体的に参加をいただきたいという思いでございます。あのよく言われますのは、まあ何かの時に助けになるのが隣近所ということと言われるわけでありまして、あのどうか隣近所で声を掛け合えるようなまあ日ごろからのお付き合いですね、これを是非していただいて、まあ訓練等がある際にはまあお互いに是非声を掛け合っていてですね、一緒に訓練に参加していただくというお付き合いをしていただければ大変ありがたいと思っております。それからあの耕地・自治会においてはあの訓練、避難の際にそういった方も集まる一緒になるわけですが、どうかあの分け隔てのない対応をとっていただきますようお願いをするものでございます。

折山議員

あの町長のまあ命を受けて石巻へ行ったときがあるんですが、例えばあの未加入者の皆さん、配食をするって言ったときにはあるグループが作られるわけなんです、あの避難所において。あの食事を受け取るとかね、その時にあの未加入者の皆さんって多分個々になっちゃう、未加入者だけが1つのグループを作るってなかなかその場で急には難しいと思うんですね、そうすると例えば自治会単位のようなこういう団体、括りが出てくると思うんですね。そうすると耕地加入未加入であれ、その自治会を通して配食を受け取るってというようなことに多分なってくるのかなあっていうようなことを思うわけなんです。でまあそういったようなあの有事の際の仕組みづくり、ちょっと構想を今からして計画の中に位置付けて、だからそういうことを通す中で自治会に未加入だった皆さんも徐々に自治会の中へ入って来ていただけるような交流が進んでいくといいなということを申し上げて、次の質問へ移ってまいります。

1の3、質問要旨1の3でございます。鳥羽市との相互応援協定後、取り組みと交流はどうなっているの、これは町民の声です。で、せっかく海のある町との交流が始まりまして、後期計画では今後の関係強化どのように位置付けられるのかなということをお伺いしたいと思います。まああの例えば蕎麦の会では鳥羽へ行って提供してきたりとか、まあ個別の交流はあのあろうかと思えます。ところが行政が主導をして向こうの市民とこちらの町民、まあいろんなまあ交流の仕方、これ町長展望されてきたと思うんです。それをまあ言われてもおりますし、後期計画ではどのような位置付けをなされるのか町長に伺います。

町 長

同じくまあ後期計画に組み込む1つの要素としての鳥羽市、まあこれはあの友好提携も一般的にそうでございますけれども、相互応援協定後の取り組みの中で今後どう発展させていくかということになります。平成24年の11月6日に災害相互応援の協定を調印して、あの三重県の志摩半島に位置する大変あの温暖な気候に恵まれた、特にあの海の幸の豊富な観光都市という位置付けで、特にあの離れた場所にありますけれども最初は相互災害時応援協定というところからスタートいたしました。今のところあのそうした緊急、相互応援協定に基づくような発動したケースはちょっと出ておりませんが、実はあの昨日のちょうど今頃の時間でございますけれども、今日はまあ関東の方が非常にあれですが、昨日朝方からお昼午後にかけて非常にあの紀伊半島、尾鷲から志摩半島それから鳥羽もそうでございますけれども大雨が降って通過したわけでありまして。台風18号。それであのちょっと心配でありましたので直接私あの市長さんに電話をかけてですね、あのちょっと特別災害指定地域にはまだなっていないけれどもお昼のニュースにも鳥羽が出た、見ていただいた方あるかと思いますが、電話で確認したら99ミリの降雨量ですね降り始めから、

それで2、000世帯に今避難勧告をしたところだということで、生々しくまあ市長さんの声、ただあの人災的なことは何も出ていないので応援協定に基づいたそのことの対応はいかがなものでしょうかということで、あの十分対応できておるのでご心配今のところ無くということでしたので、まあ安堵しておりますけれども、まあそんなようなことでもございます。それからあと今後のというか今までもそうでございますけれども、今後の発展交流ということについてはあの今年もあの夏祭りの花火にちょうどあの町の花火屋さんが今年もご用命をいただいたということでございますので、議長さんとともにちょっと日帰りで行ってまいりましたけれども、これはあの鳥羽の港まつり等を含めてですね非常にあの行き来が協定時よりも頻繁になってまいりました。それからあそこにあの鳥羽マルシェという海産物センターができて、昨年オープンしたわけでありまして、ここにあのJA上伊那飯島の支所のマーケットを通じてですね、常時あの定期便で飯島町の豊富な美味しい果物野菜等を定期便で送って販売いただいておりますということでございます。今後もまあ今度できる田切のまあ道の駅、場合によたらまたあの七久保の道の駅の方も思っておりますけれども、とりあえずあのその構想の中に鳥羽の鮮魚、牡蠣から始まってアワビ、サザエ、いろんな豊富な海産物がございますので、まあ毎日あの定期的というかどうかちょっとわかりませんが、それを入れ込むということで今発足した株式会社の中でもいろいろと検討をいただいておりますということでございますし、それからまあそういうことをずっと重ねてまいりまして、いずれは向うの市長さんの考え方も、私も飯島町もそうでございますけれども、いわゆる実質的な友好提携を結んで、更に交流を海の幸、山の幸、それから人的交流、少しまあ4時間前後時間が掛かるわけでありまして、非常にこれはあのこれからサミットと申しましてあの鳥羽もその近隣の志摩市、知名度も上がってまいりますので、是非ひとつそのことを期待をかけながら、同じあの向うも思いだと思います。あの市長さんが今後どういふふうになるろうとも、こっこの町長がどうなるろうとも、そういうことであの今あの表現的には基本計画の中で友好都市との更なる推進というような形になるろうかと思っておりますけれども、具体的に今あるこの友好提携のことの発展をきちんとまあ表現の中へ入れてですね、またそれぞれのお立場で交流を深めて行っていただきたいというふうに考えております。

折山議員
町長

今語られた思いは後期計画の中へ文言として入れ込まれますか、伺います。

あの鳥羽市という固有名詞で入れるかどうか、もうちょっとあの詰めさせていただきたいと思いますが、いずれにしても斑鳩町の問題もありますし、それから今後新たなまたそうした友好提携、これはあの交流ということのテーマはこれからの大きな1つの地方の課題であると思っておりますので、そうしたものを網羅した中でこのイメージとして入れ込むということが必要ではないかというふうに思います。鳥羽という言葉の中で入れるかどうかもうちょっとまた当局とも調整してみたいと思っております。

折山議員

まああの斑鳩はあの充実した交流が進んでおりますし、まあ鳥羽という言葉を入れることで海との交流ということが町民の間に当然こうイメージが湧きますので、是非その言葉は入れていただきたいというふうに求めます。それではあの次の質問へ移ってまいります。ちょっとここからはあのいわゆる総合計画、後期の計画、こういったものはあのちょっと必要、やらなければならないものと、町民と一緒に夢を見合うものと両方必要かなと思います。これからはまああの夢を見るという部分でご質問をしてみたいと思っております。

質問要旨1の4、「水の駅」を整備してはという、これもあの他県から移住してきたご夫妻の声です。与田切公園のあの越百の水はこれほどいいねえということだそうです。そして施設を充実して「水の駅」として町民の皆さんの憩いの場、観光客誘致、こういったことにつなげていったらどうかという提案が寄せられました。あの水の駅っていうのはあの、どうもウィキペディアやなんかで引くと特定の企業の給水の施設を多くは指すようでありますが、中には何々溪谷水の駅といったような名称でアスレチックを置いたり、美味しい水を飲んでいただいたり、といったようなそういう施設を総称している部分もあるようであります。が、ここで言っている水の駅はまあ越百の水をベースに、あの一帯をまあ車が進入できるようにし、まあちょっとあの交流できるような設備をまあ充足しながら、駅としての機能を持たせられないかなということの提案で、まあこの辺についても他所から来た方のまああの新しい目線での提言ですので、どういうようにお考えになるかお聞きしたいと思います。ただその方が言っていたんですが、ここへ来た移住当時っていうのは見るものすべてが新鮮で感動の連続だったそうです。しかしながら今日の私どもと同様に、年数を経過していくとその本当に新鮮な素晴らしさをこう少しずつあの消えていくようであります。ですから私どもはこの感覚があるうちにできるだけ飯島町へ提言をしていきたい、こういったようなことを申されておりました。そのご夫婦の提案である水の駅、どの様な受け止め方されたでしょうかお伺いします。

町 長

あのはっきり申し上げて大賛成であります。あの駅というのはまあいろいろあのイメージあるわけでありましてけれども、あの果たしてこの、まあ道の駅あたりはこれは国土交通省の所管としての正式な登録要素を持っておるわけでありまして、この水の駅という呼び方がどなたがまああれしたか、まあ先例があるんだろうというふうに思いますけれども、そうしたあの手続き的な登録的なものは無いように思います。それだけにまた1つの任意の発想の中でやるのが面白いんじゃないかというふうに思っておりますし、それからまあ1つのこの水というものを捉えた場合に、それからあそこには与田切の河川もあります。少しあの木が繁ってきてイメージが悪いじゃないかということが、まあ今建設事務所の方へいろいろお願いしておりますけれども、まあなんとかしてまいります。一番のあれはあそこに湧き出る中央アルプスの伏流水であるこの美味しい水と、非常にあの水質的にも保健所のお墨付きでありますので、そこに付いておる名前が「越百の水」と、100歳を超える水なんだと、昨日も一昨日ですか全国町村会長の藤原川上村長さんこっちへ来ていただきまして飲んでいただきましたけれども、1杯飲むと10歳長生き、2杯飲むと20歳長生きして、すべて100歳以上の寿命、これはあの健康寿命の先ほどの言葉にもつながっていくということでPRをしておきましたけれども、あのなかなかこれを商品化するっていうような形になりますと、費用対効果の問題で、また保健所の手続き等まあ固い話になるんですが、こういう難しい問題がありますけれども、是非ひとつこれを知名度を養老水的な意味です。ね。上げていく、そのキャッチフレーズが看板がまあ「水の駅」ということは大変面白い発想だというふうに思っておりますので、このネーミングを大切にしながら、いわゆるこれも1つの町の情報発信の要素として捉えてですね、どういう表現になるかはわかりませんが事務方ともこの構想を入れるようにということで進んでおりますので、ひとつご理解をいただきたいというふうに、まあちょっと立ち寄って一杯喉を潤してという発想よろしいかと思います。

折山議員

あのまだあんまり広く浸透していないんで、使い物勝ちで早くやっちゃうといいのかなという気がしますんで、まああの後期の計画の中で位置付けて取り組まれるというご決意をお伺いいたしました。続きまして質問要旨1の5、1の6、1の7と残っているわけですが、時間がございませんので、ちょっとあの1の7については町長任期を目前に就任来の総括と今後のまちづくりに向けての考えをお伺いする予定でございましたが、町長先程久保島議員の質問に答えられて、まだ時間を残していると、その間任期を一生懸命全うしていく、然るべき時に総括的なこと、またまちづくりに対する思いはまた別の機会に語るということを申されておりますので、この質問要旨については3期12年に亘る町へのお取り組み、に対する労いの言葉をここでかけさせていただいて、戻って質問要旨1の5へ移ってまいりたいと思います。

質問要旨1の5、中央アルプス山麓遊覧ヘリ定期便を計画しては、これ町民の提案であります。また質問要旨1の6一括して行います。千人塚周辺に観光牧場を計画しては、これも町民の声であります。遊覧ヘリについてはこれはあの飯島町のこの伊那谷の特有の田切地形でありますとか、オンボロ沢、こういったあのちょっと上空から見て回るあのいろんな地形の特性があるではないか、これでひとつを営業的なことが考えられないかね、という提案。またあの観光牧場については千人塚周辺の農地の後継者不足による今後の心配、その他荒地の拡大、こういったものを捉える中で、また一帯の観光っていうことを今後組上げていく中で検討できないか、こういった提案がございましたが一括してお答えをいただきたいと思います。

町長

まあその1つであるこの山麓観光のヘリの定期便計画、申し訳無いんですけども、こちらの方は私としてはあまり賛成できないかなというふうに思います。あのかつてあのフェスティバルと田切の中でやりました1回7,000円。10分間。なかなかあまり希望者がなくて途中で止めてしまいました。であのまあ町単独ではそういうことだろうと、とても合う話ではないということと同時に、やっぱりこれはあの広域的に捉えていく必要があるということと同時に、先ほども申し上げましたけれども、この伊那谷全体をジオパーク化、国立公園化を目指したいというような動きも今出ておりますので、こうしたあの広域的に捉えて、それをひとつの、この百間ナギあたりは非常に目玉だと思いますから、ひとつ捉えていくことをまあ今後いろんな場面であのジオパーク構想の中にも入れて提案することはやぶさかではないというふうに思っておりますし、それから千人塚近辺のこの観光、まあ全般的に町の観光そうでございますけれども、ひとつの周遊、あるいはこれもまあ広域観光化の中の位置付けでやって、観光基本計画をかなり大幅に修正して将来展望をしていきたいということは先ほど申し上げましたけれども、ただあの大きなこの牧場という形になりますと、これはあの乗馬や体験乗馬みたいなものはいいいわけでありまして、そこにはやはりあの裏返しとしてあの環境問題の臭気の問題もありますし、それから当然、ハエやブヨですか、というようなものも当然出てまいりまして、近所にはまあ食堂もあつたり、それから来た観光客に都会の方にまあ蚊に刺されることがしょっちゅうということも、なかなかその牧場には発生しがちでありますから、その辺も十分また調整してまいりますので、ちょっと慎重にこれは検討する必要があるということでございますので、いずれにしてもこれは今後のまあ課題であろうと考えております。

折山議員 終わります。

議 長 ここで昼食のため休憩といたします。再開時刻は午後1時30分とします。休憩。

午後12時 2分 休憩

午後 1時30分 再開

議 長 休憩を解き会議を再開します。休憩前に引き続き一般質問を行います。

11番 竹沢秀幸 議員

11番
竹沢議員

早速であります。通告に基づき具体的な質問に入ります。本日冒頭、同僚議員の質問により、高坂町長3期12年間、飯島町のリーダーとして町民の幸せのために尽力されたわけでありまして、この11月をもって任期満了により退任されることとなったわけでありまして、心から敬意を表するものでございます。私も町民の皆さんの洗礼を受けて議員として3期目でありまして、この間振り返ってみますと高坂町長と10年6カ月に亘りまして、一般質問など通じ提言申し上げてくる中でいくつかのま政策実現もあつたりしたわけで、思い出しまして感無量の思いでございます。今議会の一般質問のやりとりがまあ高坂町長と最後の機会になるわけでありまして、是非あの思う存分な答弁を願い、町の当面する将来を語り合いたいなあとと思うところでございます。

第1の質問に入ります。先般町が行いました第5次総合計画の住民説明会の中でも出された意見でございますけれども、我が町が少子高齢化が進む、という形の中で、最重要課題として医師確保が必要であるという町民の皆さんの声があるところでございます。そこで現在町内には4人の開業医の先生がいらっしゃるわけですが、一部高齢化も進んでおりまして、現状はどうかということでもあります。具体的には飯島町七久保診療所、飯島診療所、生協診療所、のどかクリニック、であるわけですが、平日のですね夜はそれぞれの先生みなお家へ帰っちゃいまして飯島町にいないわけでございます。それから日曜・祭日については休診ということで、従ってまあ各先生が各医療機関にいる時間帯というのは僅かであってまあ夜いないと、こういうことでの夜不安な部分を町民のみなさんも感じておるところでございます。そういう意味からいいますと飯島町に住所のある先生が欲しいのは町民の願いではないかなあというふうに思うところでございます。ちょっと話は変わりますが、私あの2人の今申し上げた医療機関のうちの2人の先生から直接伺ったことがあるわけですが、学校医の問題についてでありますけれども、4人の内1人の先生の方はですね現在協力していただいているという現状でございます。で、先般町の医師会においてもこの意見がN先生から提案されていると思っておりますけれども、まあこちら辺も含めまして現状の町の医師の現状というのをどういうふうに捉えておるかについて先ずお伺いをします。

町 長 それでは竹沢議員の質問にお答えをしてみたいと思います。冒頭お話にございましたが、竹沢議員とも本当にいろんな思い出がこう去来しまして、私も感慨無量のものがあるわけでございますけれども、まあ議員とも最後のご質問のお答えということになるわけでございますが、まずこの医師確保に向けてどう取り組むかという課題の中で、町内の開

業医の現状をどう捉えているかということになります。お話にありましたように、飯島町には現在開業医の先生方4医院があるわけですが、それぞれ飯島町民の健康の維持や疾病の重症化予防に取り組まれておまして、地域医療に大変まあ貢献をいただいておりますということで、心から敬意と感謝を申し上げておるところでございます。ご質問のように開業医の先生それぞれあの高齢化の方がおられるわけですが、皆様が60歳以上の先生方ということになります。先生方には生涯現役で診療をいただくことを切にお願いしておりますけれども、現実問題としてこのままの状況での10年先、20年先を考えたときには、やはりこれはあの大変飯島の地域医療は厳しいということになるわけでございます。今あの夜間の対応、先生がまあ夜・昼常駐というお話にも触れてございましたが、まあこの辺につきましては非常にあの各、特に町や村あたりの開業医の先生は非常にあのご苦労があるということになるわけですが、その分まあ私どもあの昭和病院を核としたまあ急性期とまでいかななくても急性期ぐらいの対応については、まあ今度のあの救急救命の消防署の配置の対応も含めてですね、なんとかギリギリその対応は24時間対応が可能というふうにはまあ理解をしておるわけですが、それでもやっぱりあの身近に我が町の先生がおられるということは大変あの手強いわけでございますので、そうした考え方の下にこの今後の地域医療っていいですか地元の開業医の先生方をお願いする力というものは是非必要というふうに思っておりますし、将来の町の医療体制にも危機感を持っていかなきゃならんというふうに考えております。まあ町内の先生方それぞれあの医療懇談会等も開催をしております、今もお話ございましたが、先生自身もこの開業医、自分たちの後継問題について大変ご心配もいただいておりますので、町共々に検討してほしいと、また及ばずながら力もご意見も申し上げていきたいというふうに言っておりますので、その辺も含めてまた後ほどいろいろ対応については質問いただけたらと思いますけれども、そのようにひとつスクラムを組んでこの、今後期待をしてみたいというふうに考えております。

竹沢議員

ただ今答弁ありましたように、現在の4人の先生方も含めてご協力いただく中で、今後の医師確保を含めた対応について取り組んでいきたいというお話でございます。そこで具体的な話ですが、あの以前にも質問したことがございますけれども、七久保診療所でございますけれども今、H先生も今79歳ということで高齢なわけでありまして、飯島町のために伊那から通って頑張っていたいただいておりますけれども、あの先生が元気のうちに後継者を確保していただくことが近々の課題かなというふうに思うわけでありまして、この課題についてどう取り組むのかについてお尋ねをいたします。

町 長

具体的に七久保診療所の医師の先生の問題でございます。まあ問題と言いますかあの今後どう対応をお願いしていくかということで、古くからこの七久保地区には診療所という位置付けで、かつてはあの直営診療所ということでやってまいりましたけれども、今は全面的な委託の診療所ということになっておまして、七久保唯一のまあ地域医療の要として広瀬先生に頑張っていたいただいております。これはあの平成7年からお世話になっておるわけですが、ちょうどまあ20年の経過を経ました。年齢についても今お話のあった年齢でございますけれども、大変あの、ちょっと一時入院等もあったようでございますけれども、また元気になられて今大変頑張っていたいただいておりますので、私もいろいろとあの昵懇にお付き合いをしてさせていただいて、この気力体力はまだまだ

だなどいうふう感じておる次第でございます。で当然のことながら先ほどのお話と同じように、行く行くは先生自身も心配しとっていただいておりますので、何としましてこれはあの七久保が医者がないというような話になると非常にこれはあのエリア的にも困るわけでありまして、今からその対応も先生と一緒にやっていくと。何年か前になりますけれども先生と一緒にあの手蔓がございまして、横浜の方へも一緒に行っていただきまして、まだあの脈は通じておるわけでございますけれども、またこの辺についても具体的にまた詰めをしていかなきゃというふうに思っております。そんなことであの七久保診療所の医師の現在、これは将来確保の問題についても引き続き同様に大変重要な案件として課題として捉えてまいります。

竹沢議員

はい 続いての課題ですけれども、わが飯島町は医師確保のために開業医支援の補助金制度などについて、高坂町長をして過去に創設をしておるわけでございます。内容についてはご案内のように開業資金補助金上限 15,000,000 円、土地と建物及び償却資産の賃借料上限 2,000,000 円、の制度があります。この他にもあの奨学基金制度で医師確保のための制度なんかもあるわけでありまして、町としてこのたび全国へ向けて、開業医が飯島町へ来てもらうためにということで、開業医向け飯島町医療圏分析資料なるものをこの7月に作成をしたところだと思っております。また来る11月1日の日に医院開業個別相談会なるものを開催をして、そうした機会を設けるとこういう計画があるようでございます。現在の医療制度の中では今後益々在宅ということの方へシフトするということで、医療も在宅、介護も在宅ということになりまして、そのための医師もまた更に必要になるとこういうのが課題になるわけでありまして、まあそうした意味でこの取り組みとして全国に向けて、飯島町では是非この医院開業をしていただくための取り組みを始めていくということはあの評価するわけですが、この開業医向け飯島町医療圏分析資料などについての作った目的と内容等についてお伺いをいたします。

町 長

今のお話は町がほぼまあ作成が終わっておりますけれども、この医師確保のためのマニュアルのまあことでございます。この医師確保のマニュアルにつきましては具体的な名称としては開業医に向けた飯島町の医師医療分析資料という位置付けにしてあるわけでございます。今年度に入りましてコンサルにまあ医療圏分析を含めた資料作成を委託して、これはあの地域の実情、医療圏エリア、それから医療の実状、医師の現状といったようなものを総合的に判断をして、担当職員も加わってですね何回も検討会を行って作成をしてきて、今日に至るという形でございまして、まあ今後あの医師の確保についてただあの来てください、来てください、足りないんで、というような程度ではなかなかこれはあの限られた医師の数でございますので到底おぼつかないということでございます。やはりあのこうしたあの医師確保に向けた、どういうふうにあの地域としてこの医療問題を捉えて、それを先生にどういうふうにあまひとつあのこう理解をいただいてやっていくかと、専門家の目である程度分析した目でみないとなかなかあの町独自で理事者以下担当で頑張ってみても限界があるだろうというふうに考えたわけございまして、そのことをやってまいりました。内容につきましてはあの当然町の全体紹介、それから人口などの将来の動向、それから町内の医療機関の情報、近隣の病院あるいは介護施設の状況、それから診療保険の調査、それから町の開業医の支援補助制度の紹介、あるいは事業計画、それから開業適地の候補のエリアの問題、それから医師会や行政情報等との関連の捉え方、更には開業を

お考えの先生が欲しいであろう情報を網羅した総合的な資料になっておると、これをもってまあ全国に発信してお医者さんに来ていただくことに結び付けてまいりたいというふうに考えた次第でございまして、これに加えて5次総合計画のアンケートや医療・介護関係者の声を併せて載せまして、誘致にかける住民の熱い思いを総合的に載せたものでございます。この資料につきましても8月の末に町内の医師会、歯科医師会をお願いいたしまして、先生方にやっぱりあの現場の立場からの、ご覧をいただいて意見を伺ってまとめたものです。だいたい最終稿となった次第でございまして、この内容をもって今後さらに広報活動を進めていきたいというふうに考えております。全議員の皆さん方にこのことも知っていただきたいということで、今議会の最終日の全員協議会でこのことをご説明申し上げてまいりたいというふうに考えておりますのでよろしくをお願いいたします。

竹沢議員

詳細についてまた全協で、ということでもありますので、そのときにまた詳細について説明を求めます。まあそうしたあのマニュアルも作りながらですね、これからまあ全国展開してまあ医師確保をしていくということであるわけですが、開業医のまあ候補がある程度絞られた段階でですね、担当職員ですとか担当課長、そして理事者において、まあ腰弁当で医師確保に取り組む姿勢があるかどうかということでお尋ねするわけですが、2つの例をあの申し上げますが、1つはあの構成前の社会文教委員会で島根県津和野町へ視察に行ったわけですが、そこではあの医師確保のために担当課長が全国の大学病院などへ医師確保のために営業活動を年間通じて、まあ相当日数を割いて取り組んでおるといってお話がありました。それからお隣のN村でございますけれども、過去の話でございますけれども診療所の医師を確保するためにN村役場の当時のK課長さんがですね、東京へ腰弁当でお百度参りをしてドクターを獲得し医師確保を成功して、今現在この診療所はあの飯島の方も含めて大いに利用者も増えて繁栄しておる後継者も多いようであります。こうしたあの事例を含めましてですね、あの現在開業医で4名いる先生の人脈だとか、まあそういうものも含めてある程度候補が絞られた場合の最後の詰め、こうしたものについて腰弁当で医師確保するそういう心構えがあるかどうかについてお尋ねします。

町長

まあこの医師確保についてまあ腰弁当でもって取り組む姿勢があるかどうかということございまして、やはりあの今言ったこの誘致資料、マニュアルだけをもって発信しておってもなかなかこれは実現するものではないということだと思います。そこにはやっぱり実際に赴いて町の実情やなんかをお話を申し上げて、やっぱりあの意の疎通、意思を通わせて初めてまあいろんな取っ掛かりになるんだろうというふうに思っておりますので、あのそうした考え方もってあのまあ毎日毎日行脚するわけにもまいりませんが、できるだけそういうように努めてまいりたいというふうに思いますし、私自身もあの先の廣瀬先生との関わりについてもあの直接遠くまで出向いたりして、それから町の出身の先生にも、例えば湯澤幸雄先生とかいろいろおられますので、また町へも来ていただいたということでそんなお願いもしてございますけれども、あの特にあの七久保診療所の歴代の先生は全てあのこちらのお願いすることによって回った結果でまあ来ていただいたということで、もう竹沢議員もご承知かと思えます。もう小さいころからのあれだと思いますけれども、すべてその結果であの先生が来ていただいた、廣瀬先生にしても然りでございます。それから同時にあのいろんな伝手を頼ってまあやってまいりましたし、これからもそうしてまいりますが、1つあの本年度のご承知のように健康福祉大会、開催をいた

しましたが、ここでご講演をいただきました信州大学附属病院の本郷院長先生、来ていただきました。これもまあ1つの人脈といえば人脈でございますけれども、なかなか松本信大の院長先生が直接町へ来てご講演をいただくなんていうことはあまり例がないようでございますけれども、その熱意を買っていただいて講演をいただき、その折にもいろいろとあの町の中も回っていただいたりして、奥さん同伴で来ていただきましたけれども、町の医師の確保の要請を行ってまいりました。これはまああのもう1つにはやはり同じ課題として、私どもの昭和伊南総合病院の医師確保の問題にも信大の先生、本郷先生大変お世話になったりしてパイプがつながっておりますけれども、これはまああの常勤病院医師の問題であり、それからまた個々の開業医の先生とのパイプも必要という形で、なかなかあの大変だっただと思いますけれども、そんなご協力もするからというようなことで、今後お願いしてまいります。それからあの全国に向けての誘致活動、先ほどもちょっと触れましたけれども、いわゆるあの時代の流れの中に乗りまして、医師が閲覧するサイトの登録などのインターネットを活用した取り組みを検討しておりますのでございます。それからまた医師が大変ほとんどの先生が全国的に購読しておる医療系の新聞がございます。具体的にはこれはあの医療タイムスという新聞でございますけれども、ついここ数日前ですかあのそんなこともいたしまして、あの先程の開業医資金の補助金、ここにちょっとあの例がございます。また後で見ていただきたいと思いますが、「飯島町で開業しませんか」というタイトルの中で、あの支援制度の内容は現状を少し載せたものを広告で、またいくらか反響があればというふうに期待しておりますけれども、そんなようなこと。それから先程作成したこのマニュアル的な作成資料をもとに、この秋に開業医支援の相談会を行うべく今準備を進めておるということでご理解をいただきたいと思っております。この相談会に1人でも2人でも先生が相談会場に来ていただけるように頑張っている所存でございます。それから全国的なまあ医師不足ということになりますが、当町出身で他の地域で活躍をしておられる先生方にも声をかけていただきたい。先程のあの横浜の先生あるいは名古屋大学、いま他の病院の院長さんをやっておられる湯澤先生もそうでございますが、他にまあ信大病院の中でまあ教授級の先生が、竹沢議員の極地元でもいらっしゃいますけれども先生もおられまして、この間も本郷先生紹介するんでよく相談に乗ってやってほしいというようなことも言っていただいて、いずれあのこの地域医療・在宅医療を目指す先生も大分あのそういう部分に特化した先生もおられるようでございますので、これがこの開業に結びつけていくようになっていただければ大変ありがたいなということでございますので、その他あの少し心当たりの先生もおられますので、みんな一緒になってまあひとつ腰弁当といえますか、そういう足を運んででもですね、いろんな面でまた医師確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

竹沢議員

それぞれ答弁ありました。伊南行政組合でも然り、上伊那広域連合の議会でも然りで、伊南では昭和病院の医師の確保の問題、上伊那では上伊那全体の3つの医療機関の医師の問題とかで、医師確保というのは極めて重要な課題で、まあ上伊那も木曾に次いで医師の数が少ない地区ということ、こういうことでありまして、そういう中でまた飯島町へということは大変な課題でありますけれども、ただいまあの答弁いただいたところですが、信州大学の本郷先生や、またインターネット、医療タイムス、今回作成したマニュアル、1月1日に開催予定の相談会、またあの当町出身のドクターの先生方との人脈、こういう

のも生かして腰弁当をして努力していきたいという答弁をいただいたところでありますので、是非医師確保に向けて努力をいただきたいと思えます。もう1つは、今まで申し上げたのは現在医師として活躍している人を飯島町へ招致するという問題ですが、もう1つは将来飯島町出身の方が勉強してですね、またあの飯島町へ戻って開業していただくという、若者を育てていくという意味でのことですので、飯島町では学生への奨学金制度もできておるわけで、現実利用されている方もいるというように伺っております。で要は飯島町で開業できるように誘導していくということが必要なわけでありまして、高坂町長もご承知のように、七久保出身でT県の大学医学部でまあ勉強中の若い青年がいるようでもあります。まあこうした人も含めですね、例えば卒業後は昭和伊南総合病院へ来ていただいて、そこで技術を高めて、その後この飯島で開業していただくと、そんなようなあの道筋をね作っていただくのもどうかなあということで、まあ具体的な事例で申し上げましたけれども、あのいわゆる飯島町に生まれた方が飯島町で医師になるように上手に育てていって、そして飯島町へ戻ってきてもらうというこういう若者向けにそういう誘導策をいかが考えるかについてお尋ねします。

町 長

今までのあの医師確保につきましては、すでにあのインターンを終えて現場で研修生なりの立場でお医者さんの誘致確保ということでございますが、今度のはあの、まあ医者の方の卵と云うのは失礼かもしれませんが、医学生に対するあの今からのアタックも必要ではないかということでその通りだと思います。だからここの開業医支援と同時に奨学金の貸与につきましても医学生を入れたということがまあそこにあるわけでございますので、両方でやっていく必要があるというふうに思っております。あの信州大学につきましても医学生のまあ学生の実地研修等というようなことの中で、いろいろあのあちこちの地域に出向いて地域医療に目を向けたこの1つの研修カリキュラムもあるというようなことで、本郷先生も言っていておられますのでその辺のことと、それからあの縁故的にもですねやっぱりあの飯島町内関係する方の、あるいは親戚の方にもおられるんじゃないかと思えますけれども、まあ飯島に限らずですね、また近隣のこれからこの非常に環境の良いところでお医者さんもやっぱりやっていただく、子どもを育てることも含めてですね、奥さんの理解もいただいてというような総合的なまあひとつのあれでもってやっていくということがいいんじゃないかというふうに思っておりますし、それから今お話がありました、私もすぐ近所に、北陸の方のいま大学院の医学生でありますけれども、これにちょっとまあひとつ期待するところ大であります、これはあの親様をいま介して、一辺またあの機会があったらあの出向いてみたいと思っておりますが、ちょっと夏休みにお目にかかれなかったもんですからあれですけども、その辺も含めてですね、郷土愛とともにまあひとつその辺のところを何とかと思って期待しておるところでございます。

竹沢議員

いくつかの項目についてお尋ねをいたしました。いずれにいたしましても町民の皆さんが健康で長生きしていただくためにも、医師確保は極めて重要な課題でありますので、今後とも是非精力的に取り組んでいただきたいと思えます。それでは通告の2つ目の質問に入ります。現在の町の大型バスでございますけれども、これは平成9年の11月に当時高坂町長の時ですが金額で19,000,000円ほどで35人乗りのバスを導入したところであります。導入後18年の年月時間が過ぎたわけでありまして、走行距離もお聞きすると223万キロほどございまして、まあ長年経過しておりますのでまあ足回りも衰えまして、床

下にはまあ塩化ナトリウムなどによる錆や穴もあくようなこういう状況にまあなってきたという担当者のお話でございます。そこでまあ全国を長年走り続けてきた大型バスにですね感謝しつつも、更新の時期に差し掛かってきておるのではないかとということで、町の実施計画においても平成28年度が計画されているやに理解しておりますので、新町発足60周年記念のですね冠事業として是非この更新することを提案をいたしたいと思えます。なおあの乗車定員ですけれどもあの担当者もお伺いしましたところ、当時は35人乗りでよかったんですけれども、高速料金の関係でその人数によってですね高速料金が違うということがありまして、29人乗りくらいにしますとこの料金が下がって少し節約できると、こんなようなこともあるようでありまして、近隣のあの市町村の最近の導入事例でもあのそんなことも考慮して導入されておるようであります。従いまして乗車定員の見直しなど含めて更新を提案をいたしたいと思えます。現在ですと18年に立ったもんですけれども、価格でだいたい23,000,000円くらいするそうでございますので、まあこれはあの一気に設備投資しますと財政負担も大きいものですから、できれば5年間ぐらいのリースで購入すれば財政負担もまあ緩和できるかなあと、こういうことで以上、大型バスを新しく28年度に導入したらどうかということについて提案します。

町長

次はあの公用車であります町の大型バスの購入如何の問題でございますが、今あのキロ数とかいろいろお話がありました、ちょっとそういう内容につきましては総務課長から現況を申し上げますが、ちょっと私の聞いておるところによりますと運転手サイド、特にちょっと高速道路なんか走るとずっと振れたり、それから床にちょっと穴が開きつつあるというようなことで、どうも危険な状態になってきつつあるということで聞いております。でこの購入に関しましては今それぞれの課長の方から町長あまり確約したようなことを言わなんでしょうというふうに言われておりますけれども、まあこれはあの危険があつてはまずいわけでございますので、28年度購入に向けて精一杯まあそれに向けて申し送っていきいたいというふうと考えておりますのでよろしくお願ひします。

総務課長

それではあの私の方から現状とそれから見直しについて申し上げます。あのこういったバス、公用車のバスでございますので、1つはあの安全な運行をするということが第一条件かと思えます。2つ目にあの現在の環境対策をクリアするといひますか、これに向けての対応が必要だろうと。加えてあのバスが頻繁に遠隔地を走るもんですから町の広告塔としての役割を果たしていったらどうかと、そんな考え方もございまして、こういった面を含めて更新をしたらどうかということで考えております。で先ずあの安全な運行のための車体の状況、先ほど議員ご指摘の通りでございますので省略いたしますが、その排出ガスの関係についてはあの大変そのガス規制厳しくなつてきておりまして、すでに法律ができて対応しているところですが、特にあの首都圏を含む対策地域、ここはあの通過する場合にはそういった基準をクリアしたバスでないと通過できないという事情もあつて、例えば一都三県行くような場合には現行のバスでは行けないということになります。こういった地域が愛知圏域、大阪圏域にございまして。それからもう1つはあの町バスの広告宣伝効果ですね、あの町のアピールとか情報発信、こういったことのまあ策の1つとしてですね、あの車体の一部をラッピングと言ひまして、そこにあの宣伝を張り付けるような形になるんですが、これをして町の地名度ですとかイメージアップを図っていきたいと、これも併せて検討してまいりたいと思っております。あのラッピングというのは具体的には車体に

シールを張ってまあ広告として活用するという手法でございますが、あの町の特徴である、一見見てああこれは素晴らしいところだなと、まあ誰もが見ていいなというようなそういうイメージの写真とかあるいは図案によって、町を積極的にPRしていきたいというふうに考えております。それから公用車の更新の手法でございますが、あの大きくは購入する場合とリース契約ということがあるわけですが、やはりあの財源の平準化という視点からリース契約がふさわしいのではないかと考えています。それから先程あの乗車人数のお話でしたが、30名以上の場合のバスですね、高速料金が特大車の扱いになります。29名までは大型車としての取り扱いになりまして、だいぶあの料金が違ってまいりますので、29人乗りにして車体は現在と同じくらいの大きさで少しあの座席間隔を開けるようにしてゆったりする中でまあ29人乗りにしたらどうかという考えでございます。それからもう1点、あのバスの発注から納車までの期間でございますが、業者に伺いますと今1年を要するというふうに聞いております。従ってあのそれらを踏まえた中で計画的に進めていきたいと考えておりますが、あのいろいろ調整する中で28年度が実現できればということで先ほど町長が申したとおりでございます。よろしくお願ひします。

竹沢議員

町として導入の方向で既にもう検討を始められているというふうに受け止めました。安全対策、排出ガス規制の問題、広告宣伝効果、ラッピングによる手法、それからリース契約による支払い方法、また乗車定員について30人以下にすることによる高速料金の軽減と車内のゆったり感、まあこうしたものができるかなあということございまして、納車にまあ1年かかるということであるようでありますので、先ほど町長も引き継ぐということでもありますので、是非28年度導入に向けてきちんと引き継ぎをしていただきたいと思ひます。

それではあの最後の質問に入ります。先日の町で行った防災訓練の時に、避難する前に各家庭において白いタオルを表示していくと、こういうことを取り組みをいたしまして、現在あの多分各自治会、耕地の方からこの防災訓練の報告書が届いてきておまして、そこであのある程度どのくらい白いタオルを使ったかというのが分かるんじゃないかと思ひますが、あの1つはこの白いタオルの表示をしたことについての目的とまあ成果といひますか、まあこちら辺について分かっていることがあったらお答えをいただきたいと思ひます。で、これはこれとして更にもう一歩前へ進むという意味で、これから提案を申し上げます。大規模な土砂災害や地震などの際にですね、住民が避難状況や傷病者の有無などを周囲に知らせるため、今回行われました白いタオルから一歩前進して3色の旗、を提案いたします。お手元にあの配布してありますのは、茅野市における2012年の7月に局地的な豪雨が発生いたしまして、この時にまあ土砂崩れが起きまして住宅が損壊するなどの被害が出ておまして、停電になってしまひまして電話を使っての情報収集がほとんどできなかつたという教訓の中から、安否確認の方法として3色旗を導入したところであります。具体的にはあの災害時安否確認のための、お手元の新聞のコピーのようですね、ポリエステル製で出来ておまして、これはA3の大きさの旗ですけれども、これにあの木の棒を付けたものでございまして、これが3色あります。色は赤と黄色と青ということでございまして、赤が救助が必要だということを表示するものであります。黄色が自宅内で現在避難中ですよということを表示するものであります。青は自宅以外の安全な場所に現在避難しておりますよということを表示して使うものであります。で、例えばこれが導入

されて来年この防災訓練にもし使うことになりますとですね、普通の人はまあ青旗を玄関へ表示して自治会の集会施設とかそういうところへ避難場所へ集まると、こういうことになるのかなと思うわけでありまして。まあ一定の費用も掛かりますけれど、あの茅野だけでなくて他でもこういう取り組みが始まっておるようでありまして。ので、1つは前段の飯島町で行われた白いタオルやりましたが、これの目的と効果。それから今回提案する3色の旗、この2つについてお答えをいただきたいと思っております。

町 長

最後のご質問は、災害時に旗のまあ識別をして安否確認をするというご提案で全戸配布したらどうかということでございます。お話にございましたように、あの発災時からすぐに必要になってくる行動として安否確認というものが最も重要と考えております。今回の防災訓練ではその必要性からすでに一部の地域では行われていますこの、無事避難を完了したことを示すこととして白色のタオルを、まあ白というか、白タオルを玄関先の人目に付く場所に表示して避難をしていただくよう説明会でもお願いをしました。実際にあのどれだけの家実践して、どれだけの地域でその確認までなされたかは把握しておりませんが、またいろいろとあの情報を得たいと思っておりますけれども、少なくともどの家庭にもある身近なものの安否の表示をすることは訓練では有効であるということと思っておりますし、訓練のみならずこれが実践でも当然あの安否確認のうえでは、把握の上でも重要だというふうに考えております。で、ご質問ではその安否確認の状況をもっと詳しくこの3段階、3色に色分けした旗を表示をするということございまして、これはあの非常に把握する側の方では細分化されておるために表示はその分かりやすいという、安否確認の手段としては有効だというふうに考えますが、その一方でやっぱりあの避難する側としては、この地震のように突発的に発生した災害で1秒1局を争うようなこの状況の中で、果たしてその冷静にそのことが色分けでできるかどうかという、避難していないか、しているかというようなことも含めて単純の方がいいという場合もあるかもしれませんので、いろんなケースを想定する中で、今町の方ではあの一応白旗で安否確認ということ念頭に置いてまいりますけれども、ご提案のありましたこの3色で色分けしてその全容を把握するということも含めてですね、今後避難行動の支援者に対する周知方法とその確認方法というものをもう一辺やっぱり掘り下げて研究してみたいということ考えておりますのでよろしくお願いいたします。

竹沢議員

町としては先般行った白いタオルにつきましては、無事避難というまあ表示ができるということで、私はあの効果があったものかなと思っております。ただあの実際避難に遭っちゃった場合ですが訓練ではなくて。そうしたときにそれぞれの状況に応じて識別することによる、今度は救助側の人から見たときの対応の仕方というのもあの3色にすることによってきっちり分かったら、あのレッドカード、イエローカードとかそういうことですが、そういう意味合いもありますのであの現在の方法を含めて研究していただけるということありますので、そうしたことを求めて質問を終わりにいたします。

議 長

10番 坂本紀子 議員

10番

坂本議員

それでは通告に従いまして一般質問をいたします。自分たちでまちづくりをしようとする住民意識は進んできたのか、というテーマについてであります。平成17年の1月に行

われた3市町村の合併するかしないかの住民意向調査の結果、それぞれが自立の道を歩むことになって10年が経ちました。国の三位一体の改革に伴い、その後自治体も国に依存しないで、持続可能な地域社会をつくることを求められてきました。その中から生まれた協働のまちづくりの考え方でした。町長は就任以来、行政も住民とともに汗を流してやっというように様々な政策を展開されたこの10年だったと思います。三位一体の改革の中、補助金のカットや地方交付税が減額される中、自立していくための課題であった人件費の削減、公債費の抑制、実質公債費比率の改善、財政調整基金の増額に取り組み、役場職員にも意識改革を促してきました。新しい取り組みとして行政評価書の作成、人事評価制度、定住促進室の立ち上げなどの、まだまだありますが、これらが積み上げられてくれば今後実を結んでいくものと思われま。住民の中には変化が遅いといわれる方もおられますが、確実にその成果は進んできていると私は評価するところ。しかし地区によっては、また年代によっては私の目から見ると先に述べた協働のまちづくりの考えの本質を理解していない住民の方がまだまだ多いと感じております。現在私は基本構想審議会のメンバーで、過去5年間の様々な政策の検証シートを見ながら、他の審議会のメンバーと共に後期基本計画の素案のチェックをしています。この検証シートは非常に分かりやすく、行政が何をやっているのか住民の方も読めば分かる内容となっております。1-1として協働のまちづくりの考えを住民に浸透させるためにも、検証シートを使って住民の方に外部評価をしてもらう仕組みづくりを提案します。町長のお考えをお尋ねしたいと思います。

町 長

坂本議員からは先ず、まあ合併議論を経て自立の道を選択をして、自分たちの責任と考え方の中でまちづくりをしていこうということでスタートして、私も就任以来、特にあの最初のころは合併議論、大変まあ最終的には法定合併協議会まで結成をして、その是非を議論してまいりました。今あのその選択肢として住民公聴会で最終的に住民の意思を決めたというふうに言われましたけれども、これはあの実は住民投票条例というものを制定をして、最終的には住民投票をもって選択の道を選んだということでございますので、ひとつそのようにご理解をいただきたいというふうに思います。で、ご質問のありました基本計画の検証シートでございますが、前期基本計画に掲げた諸施策を推進するために実施をした前期5カ年間の各種事業の状況をまとめ、およそ100ページに亘るものがこの検証シートでございます。長期中期の計画策定時において関係者にご覧いただくことは必要であるというふうには考えますけれども、なかなかあの膨大なページ数でもありますし、各自が積極的に見ていただくということは大変膨大な資料かというふうにも考えます。すでにあのホームページではこのことがアップされておるわけでありまして、そこであの行政の政策や施策についての評価の方法として、住民満足度調査の実施のほかには事務事業評価の内部評価というものをまあ実施しておるわけでございます。また昨年からは外部評価の試行を始めました。この外部評価の制度について検討を進めて、精度を高めながら限られた財源を有効的に各種事業に反映させる行政評価制度を確立してまいりたいと考えておりますので、この基本計画の検証シート、全戸にというわけにはちょっとなかなかまだ至らないのでは、できないのではないかとこのように今考えておるところでございます。

坂本議員

私のちょっと言い方が悪かったんですが、あの全戸という、全戸はそれは私もあのそういう形ではなく、やはりですねあの検証されるメンバーにまあこの検証シートを使って検

証されるというこの2つ目のことにかかってくるわけですが、そのような思いで言ったわけですが、今後ですねこの外部評価ということをやっていく必要性は行政としても感じているということでお話を伺いました。2つ目ですが、現在行われている基本構想審議会の進め方は、私はまあ初めて審議会のメンバーになったわけですが、そのやり方の方法という点ではあまり以前と変わらないというように見受けられます。あの現在の委員は全部で15人です。この方たちがですね1つのテーブルで議論をしているわけですが、あのやはりですね15人のメンバーで議論というのはちょっと話が盛り上がらないし、またあの1回の会議がだいたい3時間半、1回休憩が入りますけれども、3時間半をやるわけです。そして提案されている議事の内容はですね8プロジェクトの内容をあの審議するわけですが、それを一気に3つということもありまして、あの審議委員のメンバーの方たちも終わったらもうすごぐったりという感じで、あのやっぱりですねこの3つやるというのは非常にあの難しいのではないかということも感じながらやっておりますが、そういうわけでもう少しですねあの短い、要するにあの会議ってやっぱり2時間ぐらいがいいんじゃないかと思うわけです。そしたら2時間でできるというのはやっぱり一つ一つのテーマについて深く論議するという形がいいと思います。であの現在この15人のメンバーという中には若者とかですね子育て世代の母親とか高齢者はおりません。この審議内容というのはそれぞれがですね住民自身に関わってくる事なのに政策に該当する方がいないというのは、協働のまちづくりっていうことを考えていきますとあの非常に無理があるのではないかと思うわけです。もう少し具体的に言いますとこの政策ごとにですね5〜6人ぐらいのチームで1つの課題を審議する、それを2時間ぐらいで一分野を話合う、そうしますとあの日数はかかりますけれども、あのより深く一人ひとりが内容を把握し、意見も出てくると私は思うわけです。例えばあの現在1の項目であります「だれもが健康と笑顔で暮らせるまちづくり」と2番目の「みんなが支え合う福祉のまちづくり」という内容は、保健予防、医療体制、障がい児者の福祉、介護サービス、一人親支援、それから社会保障についてで、内容があの似ております。でこの分野に当てはまる委員はと考えるとまず、例えばですね障がい者かもしくは障がい児の親とか、一人親家庭の方、高齢者、自宅で介護をしている方、それからまたは介護施設で働いている方、子育て中の方が対象になると思うわけです。で、そういう人たちが委員になっていただければ直接自分たちに関わってくる内容であるので、もっと深いあの議論になるし、それから具体的な政策の提案もなせると思うわけです。で会議の時間帯は現在昼間やっておりますけれども、こういう方たちの対象委員メンバーによっては時間帯も夜ということも考えながら2時間を取ってもらうという、こういうことなんです、こういう面倒で時間のかかる作業ですが、担当職員と住民とが身近に頭を付き合わせて会議をする、そういう状況を作る、そういった丁寧な取り組みをしないと、住民自身も自分に関わるサービスなのに町は何もやってくれないとこういったことになります。で行政が進んだサービスをしているのにもかかわらず知らない、ということになってしまい、分からないのではなく知ろうとしないという点も問題ではあります、もう少し改善されるかと思えます。またこの計画立案に関わるだけではなく、関わった人は途中で2年後ぐらいにこの計画を検証する、あの先ほどあの検証シートを使ってあの長期間でば一つとやるのではなく、2年ごとにですね細かく検証しながら方向性をですねあのやっぱり詰めていくっていう、そういうことを

検討されてはいかがでしょうか。

町 長

現在まあ後期基本計画を審議していただいておりますその母体である基本構想審議会、坂本議員もまあ委員として加わっていただいて、本当にあのご苦労さまでございますし、まあ今お話のように会議が終わるとぐったりしてしまうというようなこともお聞きして、本当にあのご苦労をおかけしておりますが、それだけにこの長期構想に基づく基本計画の策定というものは大変重要であり真剣勝負の議論だということの裏返しではないかというふうに思うわけでありまして、あの会議の運営の内容につきましてはあの理事者は常時出ておるわけではございません。ひとまずあのそちらの方へ委ねてが審議を進行して、最終的にはまた答申をいただくという形になるわけでございますけれども、またあの企画政策課長、常時担当として出席しておりますので補足説明をいたしますけれども、特にあの委員のメンバーの中にまあ若者と高齢者というひとつのアレがあります。あの前回の基本構想のときにもそうだったんですが、若者はその昼間の会議にはなかなか出れないというようなこと公募も含めてですね、逆に夜の会議になると年寄りにはちょっと無理だというような、そういういろいろギャップもあったりして、まあ全体としてはこうした15名の推薦母体をお願いした上で、あの必ずしも若者がいないというわけではございません。メンバー見ていただいてご承知かと思っておりますけれども、そうした中堅クラスの職員もおりますし、男女の比率の問題もあると思っておりますし、それからこの会議の持ち方につきましても、会議の持ち方としてはこの分科会的にこう区分けしてですね、それでまた全体まとめをというような手法も取り入れられておる制度になっておるわけでございますが、これはまああの基本構想審議会の内部で方法を選択していただいておりますということでございますので、いずれにいたしましてもこれはあの今メンバーを代えて議論をまた重ねていくというわけにもまいりませんし、もうだいぶ大詰めになってきておりますので、そのようにまあひとつお願いをしてまいりたいというふうに思います。それからこの基本構想審議会というのはあのまあ初めてかと思っておりますけれども、常設機関という形になっております今。それでこれがあの答申をいただきゃあそれで終わりというわけではございません。その後あの前の計画以降反省としてやっぱり検証、追跡が必要ではないかという考え方でできておりますので、毎年1回はまあ基本構想審議会をお願いして、その進捗状況をご報告申し上げておるといのが姿でございますので、そのところはひとつご理解をいただいて、任期のある間また坂本議員にもご協力をいただきたいということでございます。若干あの運営の内容についての細部につきましては企画政策課長の方からご説明を申し上げます。

企画政策課長

今回の後期の基本計画を策定する審議にあたりまして、最初の時に基本構想審議会の皆さんにあの今回の計画は第5次総合計画のを基にした後期の基本計画ということで、総合計画が基本になっているということで、前期の時にはあの素案策定委員会という形で設けさせていただきましたけれども、今回については基本構想審議会の中の任務の中にございます調査・審議するっていうのの中から基本構想審議会の皆さんに素々案について協議をしていただいて素案の策定をさせていただくというお話をさせていただいた経過がございます。そのときにあの今のご提案をいただければ、あの皆さんでそれも審議できたんじゃないかなというふうに思います。ですのであのまあちょっとこの時期になっちゃったものですから、あの先ほど町長が申し上げましたように、ちょっと時間の関係無理かな、と思っておりますけれども、この後、後期の基本計画の要するに評価的なものについても基本構想審議会

の皆さんについてはその任務になっておりますので、それをあの適宜評価等していただきながら、この5年後にはまた6次の計画が入ってきますので、その際にはまた別個なその策定委員会というのが設けるのがいいのではないかなという気がいたしますので、是非またその時にはご協力いただきたいというように思いますのでよろしく願いいたします。

坂本議員

あの現在もう進行中なので今の時点でね、あれこれこういうふうに変えろというわけではなく、この次の6次の時にはですね今回のその状況を見た中で、あのやはりやりやすいというかもちょっと具体的に、だから先程も言いましたように、やはりあの自分の問題として考えられる少人数のメンバーで、あの1つのプロジェクトを2時間で審議するというのを、8あったら8チーム作るというように、8かないしは同じような保健医療だったら保健医療のメンバーで2つの課題をやるとかね、そういうふうにしていった方が突っ込んだ議論ができるんじゃないかと私は思っております。というのは実は宮田の方でもこれをおやっておるんですけど、かかっている時間がやっぱりうちの町でやっているより倍ぐらいかけてやっています。そこにはあの大学の先生も絡んだりしながらやっておるのを聞いておまして、まあ今回私初めてだったので、最初の段階にそういうふうにならば今先ほど課長は言われたんですが、最初は分からなかったもので、あのまあその流れに沿ってと思ってやって、今だいたい審議8までは終わってきた段階でおりますが、次回のですねあの6次計画のときにはもう少し今回の反省をその6次にあの繋げていただいて、あのもっとですね住民自身の声を聞くようなあの、ああいうたくさんの人では話せない方もいらっしゃるんで、6人ぐらいでしたらもっとあのぎっくばらんな意見がねたくさん出てくると思うんです。なのでそういうようなやり方も検討していただきたいと思うのと、もう1つですねあのまあ最後のまあ途中でですね定期的にあのその検証するということをおっしゃったんですけども、それがあの報告のみに終わらないで、その例えば1年経ってそちらから報告があるだけではなくて、こちら聞いている方のね意見も聞いて、例えばそれが足りないとか、あのこういうふうにならば少し訂正した方がいいとかっていうことがあればそれをすぐですね実行部隊の方に載せていただくという、そういうこともやっていただきたいと思えますけれどもそういう点は今後のことですねけれどもいかがでしょうか。

町長

まああのここでお答えということよりもですね、これはあのまあ坂本議員加わっていただいておりますこの審議会が、ひとまずこの後期計画のまとめをしていただいて、その後いろいろなまたあの反省材料、反省会もあると思いますので、そこで集約をいただいて次のステップに持っていくということで、我々はそれを参考にしながらまたスタッフ一同次の計画に向けていくことがいいのではないかなというふうに思います。一応あのご意見としてお聞きしておきたいと思えます。

坂本議員

はい、次は1の3であります。後期基本計画の素々案をもって全自治会、耕地を回りましたけれども、その出席人数や住民の反応はどうだったかという質問であります。出された意見の中で特にあの多かった分野は何だったのでしょうか。それからそれらの分析は現在されているならその結果も教えていただきたいと思えます。

町長

次のご質問はあのやはりこの後期計画の素々案に盛り込むべき住民の皆さんの声を聞くためにですね、8月1ヶ月かかって全職員が42耕地・自治会を回らせていただきました。それであのまだ最終的なまとめには意見集約になっておりませんが、出席者数は1,252人、平均まあ30人の出席状況というふうに聞いております。5年前の22年、平

成22年の実績ではこれが1,120名ということでございますけども、まあ若干30人ぐらい増えたかというふうに思いますが、ただあの月の前半についてはこの説明会のための出席をいただいたということでございますが、後半の方は耕地、自治会の常会あたりに兼ねてですねご出席をいただいたということで、ほとんどあの全住民の方、耕地・自治会の方という地区もかなりあったということで、結果的にそういう数字になったわけでございます。それで私も何か所か出席をしたり、それから一応まだ、まとまり上がっておりませんけれども、そのことを十分まとめて基本構想審議会にまあご報告をして、素案にどうという範囲内でまあ反映していくかということのこれからの作業にあるわけでございますが、やはりあの私の感じたこと、それから他の方で出たことを漏れ聞きますと、やはりあの関心事は人口減少問題、それから定住促進、それから買い物身近にできる場所がないというようなこと、それから人口増を言っているんだけど雇用の確保は大丈夫なのか、できるかどうか、それから公共交通の問題、それから自治会のあり方、福祉、観光、大変多くのご質問やご意見をいただいたというふうにこちらとしては捉えておりますので、これを集約してまいりたいというふうに思っております。まあ私どもが常にあの行政の施策として課題として捉えていることを、やっぱり住民の皆さん方も同じように感じておるんだなということの裏付けではないかというふうに思っております。であの現場、それぞれの説明会の場所ではなかなかその道に通じたまあ理事者はじめ担当者がない、いわゆる言ってみれば保育園長あたりもまあチーフで行ったカ所も何カ所もあります。そのことをいろいろあの産業だ、教育だ、まあ教育の方はいくらかあれだかもしれませんけれども、財政問題だといってもなかなかこれは無理なところがあるわけでございますが、先ほども町民のガイドブックではありませんけれども、やっぱり少し勉強をして町民の皆さんの意見を聴くとともに、自分自身も職員としての勉強ができたのではないかということで、非常にこれはあの人材育成、研修の面からも効果があったなあと、果実は得たものが大きかったのではないかというふうに、全体としては有意義な懇談会が出来たのではないかというふうに思っております。こうした出された意見・質問整理いたしまして、今後公表してまいりますのでひとつよろしくご協力をお願いしたいと思っております。

坂本議員

たくさんの方が見えられたようで、あのなかなか充実した自治会の内容だったようでございますが、新田はあのちょっと出席人数が少なく、私も自分のところへ行けなかったんでまずかったんですけども、まあそういう少ないところもあったようで、あのそれでもこれだけ30人以上前回より増えていたってことはですね、あの聞いていただいた方がやはりあの基本計画っていうものをですね、あの自分たちの身近なものと感じられたのではないかと思うし、また出てきた意見がですね今後あの素々案の中に盛り込まれていくことを願っております。

1の4としてですね、このまちづくりということにはですね、町外から来られた人たちも関わってほしいという私はそう思うわけであります。私はですね自治会に入っている、入っていないに関わらず、この町を好きになって、ここをふるさとと感じてほしいと願うわけです。そのためにもここに住んでみて1年から3年ぐらい経った方たちと交流することが必要であると思います。定住促進室が中心となり少なくとも年に一度こういうあの新しく入ってこられた方たちと交流会を開いてですね、転入者の方々の意見を聞いたり、またあのその中でまあ地元の方たちとうまくいかないということを尋ねたり、あのそういう

する機会をあのとる機会を提案しますがそれはどうでしょうか。またそれとは別にですね、町内全体の中で地元住民と、それからあのそうやって新しく入ってきた方達と交流するという、そういう機会も作る必要があると思います。今後あの定住促進をあの進めていくということですね、新しく入る方たちも増えてきて、まあ地元、まあ自治会加入の問題も出てきておりますけれども、それ以前にですねやはりあのこの町ですっと住んでいきたいという思いをあのそこで醸し出していただきたいと思いますので、是非そういう機会をつくるということを提案しますが、いかがでしょうか。

町 長

町の町外からのまあ住んでいただく方との交流ということでございまして、そうした交流の機会を作ったらどうかということのご提案でございます。新たにまあ移住されてきた方と地元住民との交流会の機会を持つことは、大変まあ大事な大切なこととして受け止めておりまして、ひとつにはあの今度の懇談会等もややもするとあの町外から移住してきて来られた方の意見もかなり出たというふうに、このまちづくり、いわゆる住んでみた町の印象、これからのまちづくりというものに大きな関心を持っていただいたということの表れではないかというふうに感じておる面もあるわけでございます。そこであの町では移住者と、まあ移住者というふうに呼んではあんまりいけないかもしれませんが、町へ見えた方と地元住民との交流をはじめ、移住後のまあ人脈づくりや移住を希望される方に対するアドバイスやサポート、様々なこの機能を持ち合わせて、1つの試みとしてこの交流組織である飯島大縁会というものを今、企画政策課の定住促進室において立ち上げるように現在進めておりまして、10月12日にこの発足予定で今計画を進めておるということでございます。まあこの飯島大縁会、これはあの字で申しますとこの飲んだり食べたりするこの宴会の宴でなくてですね、ご縁を大事にするというこのご縁の縁を使って大縁会というふうになります。でここではあの季節ごとの交流や体験を軸として、これは2つにまあ大縁会とこの小縁会に分けてですね、それぞれ情報交換を目的とした組み合わせをしながら、地域住民の間の交流拡大による町の活性化を目指していきたいと思っておりますので、またPRしてまいりますけれども、関係の皆さん方の積極的なご参加をいただきたいということをお願いしてまいります。このことが好評であり大変まあ参加が多いということで方向がでますと今後とも続けていくという形になろうと思っております。まあ町はこういうことの音頭をとってまいります、やはりこの基本は地域、既存の住民の方と移住してこられた方の交際面、先ほどからの面もそうでございますし、地域の隣近所のこのコミュニケーション、ふれあいというものがやっぱりこうした地域づくりに必ず欠かせない問題だというふうに考えておりますので、こうしたことを通じてやっぱり終局の目的は、いわゆる移住をした方がいろんな経過を辿りながらも組合等に入っていて、組織に入っていてそして防災も生活も皆で一緒に考えて地域を守っていくということで、この飯島に住んでいただく価値観というものを見いだしていただきたいというふうに期待をしておるところでございます。

坂本議員

はい、今、飯島大縁会と小縁会ということでお話がありました。10月12日ということでもあります。たくさんの方がですねこれにいらしていただいて、あのやっぱり分からないこととか、都会ではこうだったけど田舎ではどうだとか、いろんな意見が出ると思えますけれど、あのやっぱこういうことをやって楽しくとかお互い交流してまあ認め合うとか、そういう形の中で、コミュニティーとしての新しいとか取り組みがまた一

歩進んで、また活性化になっていければいいことだと思いますので頑張ってくださいと思います。

次に1の5であります。先日ですなあ議員全員で視察に行った島根県の海士町はですね約2,400人で、本土からフェリーで1時間ほど掛かる離島の町です。そしてまたその後で総務産業委員会で視察に行った料理のつま物ビジネスで有名な町、上勝町ですが、四国徳島市から車で約1時間ほど入った約1,800人の町、どちらもキーワードになる活発な職員とそれを支え形にしていこうとする住民の政局的な姿にとっても感動し、素晴らしいという感じで私は思いました。どうしたらこんな具合に住民協働ができるのかと非常にあの思いました。上勝町はですね1Q運動といってまちづくりは人づくりの考えの下、町の活性化を図るため知識と知恵を使って若い世代が定住できる地域社会を大勢の住民で自ら考え、実行することをチームを作りやってきました。でこれの取り組みはですね平成5年から町内5地区に亘り現在まで取り組んできました。それらが大きな花を咲かせて、今ではですね日本全国から視察が訪れ、町の旅館も賑っているし、また新しい若い住人も増えております。また海士町もですねあのこのような形で、上勝町も海士町もですね1つの事業だけではなく、それ以外に付随するあの新しい事業も立ち上がってきております。で、どちらの町も決して人口も多くなか当町よりも公共施設も少なく、また少子高齢化率も高い町ですけれども、とても頑張っていると私は見ました。でまあここはどちらかという限界集落に近いところでもあり、また合併もできなかったため、だれもが町を消滅したくないという思いが強いようです。それでこういう形になってきたかと思えます。まちづくりには「やрмаいか」精神がとても大切であると考えさせられました。平成の合併をせず自立を選んだわけですが、現在の住民の意識改革というのは進んできていると町長は考えられますか。またそれはどういった点に表れていると思われませんか。

町長

合併をせずにまあ自立の道を選択したその結果として住民意識改革は進んでおるか、上勝町あるいは隠岐の島の海士町の例を示されてのご質問をいただきましたが、私もあの行きたかったわったわけですけれども、ちょっと海士町、ちょうど重なってしまつて副町長にまあ同行をいただいたということでございます。そこでまあご質問のこの自立を選択し協働のまちづくりを主要な柱に掲げて町政を担ってまいりましたが、少しずつではありますが住民意識は変わってきておるといことは痛切に感じております。そのことはまあ協働のまちづくりの推進事業等の補助金をはじめとしたコミュニティー助成の申請件数もだいぶ増えてきておるとい状況でございますし、それからまた23年度から全地区に地域づくり委員を配置して各地区の地域づくりを支援してまいりました。この12年間、地域づくり委員会、これまでなかったひとつの自らの組織として立ち上がって、そこにまあ行政が支援して人員配置をしたという結果のことがまあ若干なりともそのことにつながっているのではないかというふうに思っております。それから一方、東日本大震災等の大規模地震の災害の教訓から、身近な自治組織のあり方や安全安心の地域づくりの絆の大切さというものも、多くの皆さんが考えられるようになったのではないかというふうに感じてきております。まあしかしながら一方でなかなかこのそれぞれの責任分担、役割分担であります自助・共助・公助のこれが十分に住民の皆さんが自覚を持ってそれを捉えていただいているかどうかといことは不鮮明な点もあるかと思えますけれども、まだまだ私としては不十分であるというふうに思っておる面もでございます。このことはなかなか時

間がかかることだというふうに思います。まずは自らがこの出来るところから積極的に行動して参加をいただくということが大切である。と同時にあの自分の地域は自分の町が一番あの好きだという、このことをやっぱり持っていただかないことにはどうにもならないということを痛切に感じております。他人行儀なようなことをこの地元の足元を見て言っておったんではこれはとてもいい地域づくりはできないんだろうなというふうに思いますし、それからまあ海士町や上勝町、あのいろいろ統計や行政の内容もちょっと垣間見えますと、あの恵まれ過ぎるとやっぱりそうしたこの1つの皆の協働、なんとか自分たちの手で作っていかうというこの連帯感と言いますか悲壮感が生まれないというふうにも思います。これはあの大都市の都会の生活を見ておればまさにそういうことで、まあそれが良いか悪いかは別でございますけれども、やっぱりあの自分たちは自分の地域は自ら切り開いていくんだというこの強い意識がないとこの協働のまちづくり、自助・共助・公助の理念は働かないというふうに、今ここへきて私をつくづく思うわけでありまして、とにかく自分のこの住んでおる地域をやっぱり愛していくという、その気持ちを先ず、厳しいけれどもその認識を自らも持って、それから子どもたちにも家庭にも持って、やっぱりここに地域に力強く生きていくというこの理念が大切ではないかというふうに思っております。

坂本議員

はい私もあの町長が今言ったように、あのこの町が好きだというそこから入って、まあ隣近所それから自治会、それからまあそれとは違ったその町に住む同じ志向の人たちと共に町をつくるというそういう方向であのやっていく、何か自分のやれることをやっていくというそこが大切だと思います。であの先ほどからまああの審議会の内容のことで言いましたけれども、あの職員の方たちもですねこの素々案を作るに当たりやはり時間をかけてあの検証しながら作ったものですので、是非ですねあの住民懇談会での話、それから審議会での話をですね真摯にまあ聞く中で、まあ足りないところは盛り込んだり、また多少の変更もしながらですねあの1回受けてまあそれをあの理解してですね、たけど行政としてはこうあるんだということを投げ返していただいて、まあ聞く私たちもですね、それでもあのこの点はあの強く盛り込みたいとかそういう話も出てくると思いますので、是非あの住民とのキャッチボールが大事だと思うので、それを何度もしながらお互いのやるべきことへの理解を、住民とそれからまた職員とがそれぞれの立場で理解をするということが私は大事だと思うので、そこにやはりあの新しいあの繋がりとか活動とか活性化というものはできると思うので、時間のかかる作業ですけどもしっかり時間を取っていただいて、住民にも理解されて納得できる基本計画の内容としていただきたいと思います。

議 長

ここで休憩といたします。再開時刻を3時10分といたします。休憩。

午後 2時53分 休憩

午後 3時10分 再開

議 長

休憩を解き会議を再開します。一般質問を続けます。

9番 中村明美 議員

9番

中村議員

それでは通告に従いまして一般質問をいたします。高坂町長は1番の久保島議員の質問

の答弁の時に退任を表明されました。今までにない、ちょっと私が今日最後の質問になるわけですが、今までにないこの静かな一般質問かなというふうな感をいたします。しかし高坂町長最後の1日まで責務を全うされるというふうに言われました。任期一杯全町民のために全身全霊で取り組まれると判断いたしまして質問をいたします。

1の質問に移ります。健康寿命を延ばすための更なる施策を。この質問において3つ質問をしております。①病気、介護予防事業をする中で町民の健康管理に対する意識はどの程度と把握しているか。本年3月の長野県健康長寿プロジェクト研究事業報告での健康長寿要因分析によりますと、県の平均寿命は男性80.88歳、女性87.18歳、健康寿命は男性79.46歳、女性84.04歳で、平均寿命、健康寿命ともに全国一位となりました。男性は5年連続、女性は今回沖縄を破り初の1位となりました。松本大学の調査では県内保健所区域10ブロック別でみると、健康長寿はですね伊那ブロックがトップでした。大変喜ばしく思います。さあその中で飯島町はどの位置にあるのか、もし担当課の方で分かっていたら後ほど教えていただきたいというふうに思います。以前あその他の議員の方から、町独自で健康寿命の統計をとる必要があるのではとの質問もありましたが、その後検討されているのかまたお聞かせください。県の統計分析結果内容に戻りますが、長野県の健康長寿の要因として3つ挙げられていました。1、高い就職意欲や積極的な社会活動への参加による生きがいを持った暮らし。2、健康に対する意識の高さと健康づくり活動の成果。3、保健指数が全国4位で高い公衆衛生水準であること。また周産期医療の充実。これは妊娠22週から生後満7日未満までの期間の子どもさんの死亡率ですね、これが全国で長野県は44と死亡率が低いということ。その他に地域に寄り沿った活発な地域医療活動、行政と地域の健康ボランティア、保険補助、食生活改善推進委員などが連携した健康活動が挙げられています。よって長野県では県民の健康に対する意識の高さと、様々な主体の連携した活動の積み重ねが今日の健康長寿に結実している、とまとめられていました。そこで伺います。当町でも健康促進事業として特定検診受診率のアップへの取り組み、病気・介護予防、各種相談など私が思うには県下でも優れた取り組みを行っていると思います。昨今報道機関などの影響もあると思いますが、町の事業によりですね町民の健康への関心も高まってきていると感じます。各事業を通して町民の健康管理に対する意識度はどの程度であると把握しているのかお聞きいたします。

町 長

それでは中村議員の質問にお答えをしておりますが、健康寿命を延ばすための更なる施策をということで、まず病気や介護予防事業に対する町民の健康管理に対する意識度の問題でございます。お話にございましたように、このこれまでは盛んにまあ言われていましたこの平均寿命、これはまあ名実ともに長野県は男女ともトップにあるということでございますが、今盛んにこのことを言われておりますのは、健康長寿という問題がにわかにくローズアップされてきたということで、私もそのように思います。いかに健康で長生きをしていただくか。この平均寿命にこだわるよりもそのことが大切だということで、今後はそういうことに焦点を絞った施策ということになっていくんだろうというふうに思っております。で町のあの把握、認識把握でございます。非常にあの飯島町のみなさんの健康に関する意識は高いというふうにもまあ一言で言えば申し上げたいというふうに思います。このことはあの国保の特定検診の受診率、それから各種のがん検診の受診率、それから骨量検診、肝炎検診などいずれも全国、県下に比べて高い受診率であります。あの若干あの

数字的なものは今も健康長寿の県下の番付とかまあいろいろありますので、まとめて担当課長の方から申し上げますけれども、非常にこの辺のところは率が高いというふうに、これはあの町の誇りでもあろうというふうに思っております。それから乳幼児の検診あるいは育児相談につきましては、ほとんどの方があの受けていただいておりますということでございまして、これがあの個別化になりまして接種率の低下を危惧した予防接種もその後順調にまあ実施をされておるというデータが出ております。それからまた耕地や自治会で各地区で行う健康教室、これはあの健康推進委員の皆さん方が大変まあ現場で活躍をいただいておりますけれども、この健康教室、特にあの高齢者対象の介護予防教室の、まあ出前講座等々あるわけでございますけれども、非常にあの出席率も高いと、どの年代においてもこのように健康への取り組みが非常に高い関心がある状況で、大変ありがたいというふうに思っております。このことが健康長寿につながっていけばというふうに思っております。それからまた一方、町のあの第5次総合計画の2,000人アンケートでも、保健事業の充実の項目にはすべての年代で70%以上の方が重要であるというふうに答えていただいております、この辺からも健康への高い意識があるということが示されております。一方であのかつてこの特定検診が受診率が低いということで心配をしておりましたけれども、これもあの現在あの他の市町村よりも低いなりきには比較的他の市町村よりも高い受診率であると。これもまあ数字また申し上げると思いますが、ただ約50%でございますので、未だにまだ半数の方が受けていないということで、なかなかあの元気なうちは進んで特定検診をとという気分になれないのではないかと、そこをどう切り崩して今のうちからこの対応していくかということが特に若い人たちに啓発をしていく必要があるということでございます。それから国保医療費の外来医療費が安くてまあ入院額が高いということから、どうしてもあの重症になってから医者に飛び込むという傾向もあるということでございますので、この辺もまあ1つの問題点かなというふうにも捉えております。それから介護予防教室に参加している皆さんは、これは自らの健康増進と介護予防のための積極的に取り組んでおられまして、この辺からも健康管理に対する意識は高いというふうにも捉えておりますし、それから例えばあの筋力の維持向上、栄養改善によって生活機能を保って介護予防を図るということを目指して行うこの貯筋教室というのがございますが、これでは参加前と後を比べますと、9割近くの方が体の痛みが無くなったあるいは和らいだというふうに言っておられまして、このことからまああの関心は非常に高いというふうにも捉えております。それから9割以上の方が週2〜3回以上運動をする習慣ができてきたというふうにも答えておられます。このようにまあ各種各様のこの介護予防教室への参加を通じましてですね、町全体としては健康管理、予防対策に係る関心は格段に向上してきておるといことが総じて言えるのではないかとこのように思っております。

健康福祉課長

それはあの今ご質問がございました数字的なものについてお答えをしたいと思います。実はあの議員の質問にございました健康寿命、それから平均寿命につきまして町独自の算定をということでございましたが、昨年度あたりから全県で健康の推進につきまして進めるということで、ACEプロジェクトというのを立ち上げる計画がございまして、県全体でいろいろな数字を出してきておられまして、町もですね先ほどあの議員が申しましたとおり、町としての健康寿命それから平均寿命はですね、一応、厚生労働省の数字とそれから県の算定しました数字に基づきまして出ております。ただしあの12,000人以下の市

町村でございますと1人が死亡とか出生するとだいぶ変わりますので、ちょっと参考値でございますけれども、申し上げてみたいというふうに思います。飯島町ですね、男の方の平均寿命でございますが81.82歳、それに比べまして健康寿命が80.04歳でまあ1.77歳の差があるということでございます。それから女性が平均寿命が87.26歳、健康寿命が84.66歳ということで、いずれにいたしましてもあのまあ長野県の方でも高い方かなというふうに思います。それとあの検診率でございますけれどもあのがんの検診、それから胃、それから大腸、子宮、合わせましてですね、後期計画の26ページに載っておりますけれども、26年では36.8%ということで、国はあの50%を目指しております。まああの上伊那、他の市町村も出しておりますけれども、何番目かというのはちょっと出ておりませんが高い方で、確実に駒ヶ根市さんよりはいいというふうに、この間あの関連の会議ございましたのでそういうことで意見交換をしました中でそういうものが出てまいりました。であのまああのこれからもですね国があの50%を目指しておりますのでそれを目指しまして、国保だけでなくでですね、あの他のまあ働いている方ですね40代50代という方も含めましてまあ啓発に努めてまいりたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

中村議員

町の実態を伺いました。飯島町も健康寿命が男性80.04、女性が84.66、まあ本当に上伊那の中でも高い水準ということでお聞きいたしました。私の回りを近隣を見ても本当に80過ぎの皆さんがね元気であの畑やいろいろな作業にあたって、先頭に立って指導してくれている方も本当に80を過ぎた方たちがかくしゃくと働いてくださっているなというのをあの実感として感じます。であの今町長が言われた中で、特定検診というところがあの受診率がね、なかなか伸びないっていうのがこれがずっと課題になっていたわけで、まあそれをどう解決していったらいいのかということがまあ大きな課題のように受け止めました。そこで次の質問の中に提案を交えてあの質問をしてまいりたいと思います。

②の質問に入ります。厚生労働省によりますと日本人の健康寿命は2013年でかなり低くなりますが、日本人の健康寿命ですね、男性が71.19歳、女性が74.21歳、同じ年の平均寿命に対して男性は約9年、女性は約12年の開きがあるそうです。適度な運動を促すことは増え続ける医療、介護費を抑える上でも重要である。そこで健康づくりへの取り組みに特典を与えるヘルスケアポイント制度を設けることとしています。そして今年5月成立の医療保険制度改革関連法では、保険者の努力義務として健康づくりに関する被保険者の自助努力を支援する規定で、来年4月から施行されます。これは健康づくりへのインセンティブ、まあ動機づけとなるということで、この同ポイントは一定の運動をしたり検診を受けた場合などに付与される。貯まったポイントは自治体で決められた内容のもとと交換できるというものです。この制度を見ますと私が過去2回一般質問で提案してきた内容と重なります。1回目は平成24年6月に全町民が生涯現役で活動でき、健康で豊かな生活につながる施策として、病気予防と健康管理、ボランティアなどの取り組みにポイント還元制度を。2回目は昨年3月です。健康ポイント制度で健康長寿づくりの推進を。そこでは前回質問の検討状況を伺い、町は高齢者対象の飯島版ポイント方式「いちいの会」を、第一段階として取り組むと答えられ現在に至っております。この会は少人数と申しましても20人以下ですかね、のグループから参加できるという方式だと認識して

おります。まあこれは第一歩として評価はするものでありますが、この行政報告書を見ましても、まあ団体数が増えているとか、今までの老人会っていうんですかね、それが名前を変えて「いちいの会」になったということで、全体人口があ参加者人数が増えているのかどうかというのはちょっと疑問であります。私は当初から申し上げていますが、健康管理への意識付けは若年層、今町の方に課題になっております若い世代の特定検診、こういうところも考えますと、そういう若者から取り組む内容を企画していくこと重要であるということを再度申し上げます。ヘルスケアポイント制度はすでに他の自治体ではインセンティブ効果が出ています。以前も申し上げましたが、このような試みは若い世代に対しても町事業に興味を促がせることにつながっていく、ということも望めます。またそういうふうに町事業の中にも興味を持ってもらえるようにつなげていくということにも、努力にもつなげていきたいというふうに考えます。個人が健康意識を高め、楽しく暮らせる環境づくりに取り組むことで医療費給付への費用対効果も望めると考えます。この国の制度化を機会に町は次年度に向けてこのヘルスケアポイント制度を町独自のものとしてですね積極的に活用し、楽しくそして自分の健康管理をして、また町民が皆健康で生活できるようなこういう施策に取り組むべきというふうに考えますがいかがであるか伺います。

町 長

次のご提案、三度まあこのポイント制度の提案をいただいておるわけですが、これまでのまあ2回のご質問の中でのご提案の中で、まあ1つの飯島の試みとしてこの「いちいの会」についてこのことを拡大していこうということで取り組んでおまして、このことにつきましてはあの高齢者クラブのひとつの延長線の健康づくりの取り組みとしてまあ有効であるということでございますので、更にあの対象者を広めてですね、加入組織を広めて今後とも推進してまいりたいということには変わらないわけですが、特にあのご指摘のように若年層ですね、特に40代50代からの健康管理が少しまあ疎かではないかと、特定検診の受診率も含めてまあそう思うわけでありまして、やはりこのところをひとつ啓発していかなきゃならないということでございます。このことがあの際は健康寿命を伸ばすことにつながって、ひいては医療費を抑制していく上で大変重要であるという認識を持っております。そこであ現在長野県では健康長寿の日本一をまあ目指すということで、ACEプロジェクト推進ネットワーク、今年8月に発足をいたしました。内容につきましては後ほどちょっと課長の方からまた補足して申し上げますけれども、是非これはあの町民運動、健康づくり運動として県民運動とともに始めていきたいというふうに思っております。で、体を動かす、それから検診を受ける、健康に食べることを3本の柱としたプロジェクト、これに町も積極的に取り組んでまいります。まあその延長線上として、中村議員これまでも再三まあ提案をいただいたこのポイント制度、ようやくまあ国も腰を動かしてまいりまして、法整備をした上で来年からこのポイント制度に特典を与える、まあどういうポイント、あの特典になるか、現物になるのかちょっとわかりませんが、これに併せてあ各自治体の動きも動きが見えてきたように感じておりますので、町もひとつ、これどういう形であの実現していくかということも十分近隣の、近隣と申しますか今検討しておる自治体とも例を見ながらですね、取り組んでいきたいということで今所管課の方で構想を練っておるところでございますので、またご協力をいただきたいというふうに思っております。以上でございます。

健康福祉課長

それではあ先ほどもちょっと申しましたが、ACEプロジェクトについてご説明を申

上げたいと思います。8月18日の日に、うちの町長も発起人のひとりでございますけれども、長野県の健康長寿日本一を続けていくためのプロジェクトとして、ACEプロジェクト推進ネットワークというのを立ち上げてございます。県下全市町村が参加をいたしまして、その中に民間の企業も全部入ってまいりまして、ヘルスケア産業を全部含めまして、まああのおぎのや、タニタの関係ですとかそういうところも全部入ってきております。そういうところも全部入って、先進事例といたしまして松本の市で取り組んでおりますヘルスケア産業とのコラボ事業ですとか、それから上田市さんが進めておりますそれこそあのヘルスケアポイントを付けたような事業ですとか、そういうものをですね先進事例で紹介する中で、皆一緒になってやっていきたいと思いますというふうになっております。それからあの先ほど町長答弁の中にございましたように、若年層の中40代50代になりますと働き盛りで、お昼はまあコンビニ弁当ですとか、そういうものを使う方もいらっしゃいますので、そこら辺まで全部まあ含んだようなプロジェクトでございまして、飯島町といたしましてもこれをまあ一緒になって進めていくことが健康長寿につながるというふうに考えております。ですので、これをまあ県下の方で進める中で、うちでも積極的に取り入れて啓発と合わせてやっていきたいなというふうに考えております。それと議員のご質問でございますヘルスケアポイントにつきましてはですね、まあ近隣ではですねまだあの導入でまああのちょっと制度がはっきりしておりませんでしたので、やって伊那市さんが若干試行的にやっております。南箕輪もですねちょっと若干試行的にやっております、まあ村の事業ですとか市の事業に限って参加された方に、例えばあの健康教室が2ポイントですとか、それから検診を受けると3ポイントですとか、そういうのをまあちょっとあの申告制ですとか、それからアナログでスタンプカードを付けていとか、そういう方法でやっております。でそういうあの意見交換会もあの上伊那市町村の課長会の中で出ておりますので、そういうのをまあ参考にさせていただいてですね、まあ今後、健康長寿を目指す町として1つの手段ではないかなというふうに思っておりますので、研究をさせていただいて来年度、また今年あの飯島町の健康づくり計画を来年度から作る予定になっておりますので、その中でまた検討させていただきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

中村議員

前向きに取り組んでいかれるように思われます。ただあの近隣のまあ市町村を見るのもいいんですけども、飯島町の実態をよく把握してですね、あのみんなが参加しやすいようなポイント制度、そして若い人から参加できるような、これはあの国から交付金というものが付くと思います。そうなりますとあの年齢が例えばある程度国で区切ってきたとしたら、もうちょっと前倒しをして町があまあ財源を出してでも若い世代のところから参加して健康意識が付くような、そういうものを是非構築していただきたいと思います。

では1の3の質問に移ります。健康づくりへの取り組みとしてもう1つ提案いたします。それは誰もが知るところであります2020年に東京オリンピックが開催されます。それに向けて今は国立球技場やロゴマークなど振り出しに戻って検討がされたり大変複雑な感もありますが、それは別といたしまして、日本に再びオリンピックが来るということは、若いアスリートをはじめ子どもたちなど日本国民にとって大変喜ばしく開催を待ちわびるものであります。以前テレビで見たのですが、高齢者の健康づくりにおいて「元気で東京

オリンピックまでは」と題してですね、健康寿命を伸ばすための取り組みをしているところがありました。まあなるほどなあ、楽しい目標を作ることは取っ掛かりやすいことで、その発想に関心をいたしました。運動と健康、言うまでもなく密接な関係であります。今年7月社会文教委員会が教育委員会、健康福祉課と行った学習会の中で、委員から出た案ですが、東京オリンピックをきっかけに町民が身体を動かす習慣をできるよう健康管理の推進を図ったらどうか、との意見がありました。その席では教育長も大変共感をされていたように記憶をしております。そこでは一定の場所に集まって運動する他に、まあ交通安全週間と同様に町民に運動の日または運動の週を設けて、そしてこう流してはどうかということがありまして、全町民に呼び掛けていくことは自発的な運動、健康管理への啓発活動となり、町民の健康意識が増すように思いました。また、ふるさとの愛・いいねいいじま、これは健康体操もイメージして作成されています。そのような週や日に学校などで踊ること、また町民同士で踊ること、これは町民の曲や踊りの浸透にもつなげていけると思っています。これは例であります、この東京オリンピックを起爆剤にした運動、健康促進事業は財政面であまり心配ないと思っておりますので、次年度実施に向けた検討を求めますが教育長お考えを伺います。

教育長

議員もお話にありましたように、健康づくり、それから健康寿命を延ばすことに果たす運動・スポーツの役割というのはまったくその通りであります。昨今です、ねオリンピックのごたごたを見るにつけてですね、やはり世界のアスリートを迎えるには透明性のあるオリンピック憲章に基づいた運営がなされることを大変期待するものであります。そうしたあの進捗がですね今のお話のあるように、じゃあオリンピックを観に行くためにそこまで頑張るといふ動機づけにもなるかと思っておりますが、いずれにしても国の方の関係であります、1国民として是非オリンピックばかりではなく、障がい者のスポーツでありますパラリンピックも含めて、感動的な歴史に残る大会運営を期待するものであります。現在あのこれまであの63年から進めてきた、昭和61年ですね、61年度から毎月第3日曜日に、その後第2土曜日になったわけですが、ファミリースポーツの集いということで町内4つの体育館を開放して町民の皆さんに利用をしていただきました。まあこの中にはこうした開放日を楽しみにしている町民の方も大勢おり、家族あるいはグループでの利用が多かったというふうに思っています。で今年度からは名称をですねファミリーということに限定せず、だれでも使っていただけるということで体育館開放日と改めまして気兼ねな利用を呼び掛けているところであります。まああのスポーツ推進委員を指導員としてニュースポーツを体験することもできますし、まあ幅広い利活用をお願いしているところであります。少人数でも体育館を利用できますので健康増進のために多くの皆さんに使っていただきたいと思っておりますし、またあの運動施設ではスポーツに関わる方々から具体的な改修提案といいますか提言を寄せられておりますので、そういうことも参考にですね、是非健康づくり、健康寿命を延ばす意味での運動を提供できる環境を更に整えていきたいというふうに思っております。あの告知の方法について具体的にご提案ですけれども、あのいま交通安全のこと、防犯のこと、それからあの緊急災害のこと、いろいろなあのアナウンスがされておりますので、どういう告知の方法だとか周知がいいのかということは、実際に関係するところで詰めてですね取り組んでいきたいと思っておりますけれども、いずれにしても議員提案の、「さあ皆さんこの日、この週は運動をやりましょう」というよ

うな提言といえますか環境作りは進めていきたいというふうに考えております。

中村議員

是非あの町民がそういう健康づくりというのの起爆剤になって、楽しくですわね体を動かせるようなそんな対策をとっていただくことを期待いたしまして2の質問に移ります。防災対策で耕地・自治会未加入者への周知徹底はされているか。この件におきましてはあの先ほど折山議員の方から質問がありました。ですので、まあ重複しないように質問をいたしたいと思います。今年も8月30日に防災訓練が行われました。私は地元上ノ原耕地で参加いたしました。雨降りでしたが今年は初めて小・中学校の子どもたちも幾人か参加して、学校からの呼びかけには効果があることを感じた次第です。次年度以降も教育現場から子どもたちへ防災訓練参加の徹底を望みます。また今回参加した子どもたちに感想・意見を聴き取って次回に活かしていけたらというふうに思います。もし、また防災訓練が済んで間もないわけですが、学校の情報等がもし教育長の耳に入っておりますらまたあのお話を聞かせていただけたらと思います。防災訓練では耕地・自治会で第一避難場所に集合し安否確認を行うことになっています。しかし町は今年の訓練で耕地・自治会未加入者においての安否確認を行わないと全協の席で言われました。そこで遺憾に思い今回質問したというわけでございます。町には飯島町に住民票がある人は災害時において皆平等に安全確保ができる環境の構築が求められます。そこで災害時における耕地・自治会未加入者の安全な避難経路、避難場所、安否確認方法の周知と避難訓練の参加状況ということで伺いたいと思いますが、先ほどその状況においては、周知においてはハザードマップまたは未加入者にも配布している。避難所へは自主的な参加をするようになっていたり、隣近所で声を掛け合う、各耕地では分け隔てなく対応してほしいというふうに町は考えているようでありました。防災の対策においては各耕地・自治会によってまちまちであります。耕地未加入者に連絡するということが徹底されない耕地や自治会も多くあるのではないかとこのように認識しております。平常時はなかなか難しいということを先程の質問の時に町長言われておりましたが、それはもってのほかでありまして、今日もですわね今回も凄い台風が来て、まあ幸い私たちの町には何の被害もないわけでありましてけれども、凄いあの床下浸水床上、河原氾濫という事態が出ております。まあ訓練というものものの必要性、いざとなったときにスムーズに避難できるのはやっぱり訓練が大事だというふうに思いますので、その訓練強化ということが大事に思います。日ごろの訓練があつて初めて、いざとなったときに生きてくる。で、今のこの状況をですわね今町が耕地未加入者に対して避難訓練というか避難情報というのを出しているこの現状を、これでいいというふうに判断しているのか、もっとこうしていきたいというふうなことであるのか、その辺を伺います。

町長

次のご質問は災害対策で耕地や自治会未加入者のこの訓練参加と、いざという時の周知徹底に関しまして安全な避難経路の問題、それから避難場所、安否確認の方法、それから訓練の参加状況、それから全体としての課題ということでご質問でございます。先の折山議員とも重なる部分もあるわけでありましてけれども、今あの少しあの触れてお話がありましたように、先ずこの耕地・自治会未加入者の安全避難経路、避難場所の問題でありますけれども、町への転入時の折りには役場住民係の窓口でハザードマップと防災ガイドブックを言葉を添えて配布をいたしております。これはまあこれを渡せばまあ全てこれは知っていただいておりますというわけにはなかなかまいりません。時間の制限もございまして、手

続きに来てこの防災・ハザードマップの内容を逐一説明をするということはとてもまあこれは無理なことですので、やっぱりこれはあの持ち帰っていただいて、やっぱりあの住民のここへ住む一人になったというこの自覚も含めてですね、やっぱり精通をしていただく、自らの身を守るという観点でひとつ承知していただきたいということをお願いしたいというふうに思っております。それからこれによってまあ耕地・自治会未加入者も安全な避難経路や避難場所を日ごろから把握していただくという啓発をして、また承知をしていただいきたいというふうに思っておりますが、なかなかこれはあのその根底には未加入というそのもう少し以前の問題があるわけでごさいます、そのこと自体がなかなか頭が痛い。で、かといってじゃあ災害が出たあるいは訓練を実施する、災害の時には訓練に基づいたある程度この体験がないと急に災害といってもなかなかこれは統一した行動対応ができるものではないわけでありまして、その辺をまあどうするかということが非常にあの頭の痛いところということであります。まあ今回の訓練につきましても全町にまあ無線等で呼びかけたり、防災無線で呼びかけたり、個別放送をしたりしてやってまいりましたけれども、やっぱりこれはあの受け止めていただく方がその自覚を持っていたかかないことには、いくら耕地総代さんや自治会長さんや町が呼びかけてもなかなかこれは難しいだろうなということで、そこをどう今後対応していくかということが問題であります。従ってあの先ほど未加入者がこう生活していく上で平和な何も無いときには、これはまあこう平常時のような感じで過ぎるわけでごさいますけれども、そういうことを想定した、いざという折にはやはりあの地域と連帯感がないと避難にしても避難生活にしてもですねうまくいかないと。これはあの住民でありますので当然あの耕地の未加入の有無がそのことに差別されてはならないし、当然そうした被災者の方も同じようにこれは歩調を合わせてお願いしていかなくやならんということでごさいますから、いろんなまあ知恵を絞っていかなくやなりませんけれども、いずれにいたしましてもこれは、より大切なことは未加入者の皆さんもそれからそこに住む地域のみなさんも一緒になってその認識を共有していただいて、そうしたことを踏まえてあのやはり加入の、入っていただいて日ごろのコミュニケーションに加わっていただくということでない、いくら町がこれはあの、入ってください、地元の総代さんや会長さんが努力いただいてもなかなか実現できないということにまあ返ってしまうわけでありまして、またいろんな方策を取り混ぜてですね、このことに取り組んでいきたいというふうに考えております。

中村議員

各耕地や自治会の加入条件というのは、まあ様々あるということは私も承知しております。そしてその壁を破るのは難しいということも感じております。しかし未加入者にとってもですね加入できない理由が様々あるでしょう。で今後は時代の変化も考慮し、地域の伝統も継承していけるように、あの双方が歩み寄りですね、うまくいけるようになっていくことが望ましいのですが、もちろん町長も努力していると思いますが、なかなかそれが納得のいく結果が得られていない。しかし今回この改訂された防災ブックですけれどもね、その中には地域ぐるみで防災対策をと、ページの大見出しにつづっています。であるならば耕地・自治会未加入者も防災訓練に参加して地域の避難所に行けるように、この防災ということに限って耕地・自治会の範囲の中でやっていくというですね、そういうふうにはできないか。現段階では未加入者の方々は参加しにくい状況なんですね。自発的に自発的にと言いますがけれども、あのまあもし自分がそういう立場で見知らぬ土地に行くと、何らか

の事情でなかなかその自治会に入れないということがあった場合なんですけれども、そういうことも考えたときにある条件というものができていて、じゃあ防災のときと、例えば何か大きなイベントのときとか、敬老会とか、そういうときには耕地の組織を使ってやりましょうということ、協力しましょうということ、できたらいいいというふうに思いますね。あの自主防災組織というものもありますが、それも耕地の中ということで、どうしても耕地・自治会単位というふうな動きでしか、まだ住民は把握できていません。未加入者の人たちにも声をかけるということはなかなかあのまだ徹底されていないような気もいたします。もちろんすごくあの熱心にゆき届いている自治会・耕地もあります。そのバラつきというのがやっぱり、バラつきをなくするのがその行政の力ではないかというふうに思います。先ほども申し上げましたが、昨今の気象状況をみても不安定でゲリラ豪雨、またはいつ起こるか分からない地震の心配もあります。でこのようなことを踏まえてですね、耕地・自治会において条件を設けて、そして未加入者も災害時は一緒に行動するというような、そういうふうにとっていただけたらというふうに思います。未加入者が地域の活動に理解されるよう徐々に解け込めるような取り組みが必要だと思います。それがまずはそういうみんなが災害、命を守るっていうときに一致団結する、その防災訓練または防災災害のことをまああのこう想定して訓練をする、そういう中からコミュニケーションがとれたりということもあるような気がいたします。そこで町がもっと積極的にこの双方の課題の壁を破るために、もちろん区会にも加わっていただき、四区の中にもいろいろ違った条件があつてですね、難しいことがあると思います。そういうことの壁を破るために町とまたは区会が加わり耕地や自治会と更に検討を重ねて、この災害時の対応を早急にですねあの対応するための地域づくりに取り組んでいくということが大事ではないかなというふうに思います。でこのことが充実してくると、やはり災害に強い町、災害も起こることは少ないんだけど、可能性は少ないけれども、災害が起きてもこう地域の守り合いが強いということが定住促進にもつながっていくのではないかなというふうに私は考えます。先ほど高坂町長のお話、今までのご苦勞をお聞きいたしました、耕地加入においては、今まで懇談会を設けて双方の思いを伺い、解決には苦慮されてきたことは承知しております。しかし災害や町の将来を見据えていく上で、未加入者対応を今後どうしていかなければならないとお考えか、私の提案も含めて町長のお考えを再度伺います。

町 長

まあこのことに関してはおっしゃるとおりだというふうに私も思いますし、また一方では非常にあの理想的だなあというふうに思うわけですが、現実なかなか厳しいというのがこの姿だというふうに思います。災害に限っての限定版的に地域が一体となると、これはまあ割り切れればそれはそういうことかと思えますけれども、まあ現実問題としてですね、その根底には日頃のこのふれあい、コミュニケーションというものがやっぱりひとつの底にあるというふうに思っております。やはりあの耕地加入の負担が掛かるというような問題でありますとかですね、まあ今までやってきた中では、ゴミは出すんだけどおつきあいは何もしないとか、消防の仮に防災・火災等に対しても、あるいは除雪という問題に対しても、生活道路の確保という問題についても、その他河川清掃や道路愛護といった問題も含めても、これは既存の組織が対応しても未加入者の衆は大方がこれは外で見ておるということの中で、果たしてそう理想どおりなこのコミュニケーションが防災に限って生まれるのかどうかということは、これはいつの議論でもそうなんですけれども、立

場を代えて言えばそれはおかしいんじゃないという話になってしまうということですから、まあひとつにはこれはあのあつてはならないことでありますけれども、ひとつそうした現実の体験がありますとですね、やっぱりこれはそれを超えて一体化がなければというふうに思うわけですが、そのことによってまあ一緒になって加入も行動も地域のふれあい、コミュニケーションもということになりますけれども、これはまあそんな仮定な話をしておっても仕方ございませんので、是非ひとつあの町も今後ともそうだと思いますけれども、双方のまあ気持ちを糸で繋ぐようなことをもっともっとやりながらですね、それで特にあの入ってきた移住された方についても、先ほども申し上げましたこの地域への愛着というこの、良くてこの町へ来ていただいたわけでありますから、そこのところはやっぱり、この共に暮らしていくというその責任、義務というものも感じていただいてですね、それから手を差し伸べる方もやっぱりあの現実的なことばっかでなくて少し包容力を持った形の中で時間をかけてその融和を図っていくと、そこに必ず一体感が生まれてくるんだろうと、耕地・自治会加入に結び付いていくだろうと、まあこれもまあ理想の話なんですけれどもなかなか現実には厳しいかなと思います、そういう努力をまあ機会あるごとに重ねたりしてやっていく以外にないんだろうというふうに思っております。従ってこれはあのなかなか時間の掛かる問題かと思えますし、まあ一部にはそうしたことがあの生まれてきておる方も地域も事実でありますので、どうか耕地・自治会の皆さんと共々にですね、まあ議会の皆さん方もそうした住民の皆さん方の代弁者のお一人お一人でもあるわけですから、是非力を貸していただきたいなというふうに思うわけでございます。そんな考え方でございます。

中村議員

はい、時間のかかる問題かというふうに思いますが、やはり先程耕地の中を懇談会で説明された中で、町民が一番関心をというか思っていた課題が人口増ということを町長が言われました。町民もやはり人口増を考えているのであれば、新たに来た人たちにやっぱり気持ちを寄せていく、そして還元をしていく、そういうような働きかけができるように行政の方も働きかけることを要望しまして終わりいたします。

議 長

以上で本日の日程は終了しました。これをもって散会とします。ご苦労様でした。

午後 4時00分 散会

平成27年9月飯島町議会定例会議事日程（第3号）

平成27年9月11日 午前9時10分開議

1 開議宣告

1 議事日程の報告

日程第1 一般質問

通告者

本多 昇 議員

三浦寿美子 議員

浜田 稔 議員

○出席議員（12名）

1番 本多 昇	2番 北沢正文
3番 久保島 巖	4番 折山 誠
5番 橋場みどり	6番 堀内克美
7番 三浦寿美子	8番 浜田 稔
9番 中村明美	10番 坂本紀子
11番 竹沢秀幸	12番 松下寿雄

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者																
飯島町長 高坂宗昭	<table border="0"> <tr> <td>副町長</td> <td>箕浦税夫</td> </tr> <tr> <td>総務課長</td> <td>宮沢卓美</td> </tr> <tr> <td>企画政策課長</td> <td>鎌倉清治</td> </tr> <tr> <td>住民税務課長</td> <td>大久保富平</td> </tr> <tr> <td>健康福祉課長</td> <td>宮下 寛</td> </tr> <tr> <td>産業振興課長</td> <td>唐沢 隆</td> </tr> <tr> <td>建設水道課長</td> <td>田沢義郎</td> </tr> <tr> <td>会計管理者</td> <td>堀内喜美江</td> </tr> </table>	副町長	箕浦税夫	総務課長	宮沢卓美	企画政策課長	鎌倉清治	住民税務課長	大久保富平	健康福祉課長	宮下 寛	産業振興課長	唐沢 隆	建設水道課長	田沢義郎	会計管理者	堀内喜美江
副町長	箕浦税夫																
総務課長	宮沢卓美																
企画政策課長	鎌倉清治																
住民税務課長	大久保富平																
健康福祉課長	宮下 寛																
産業振興課長	唐沢 隆																
建設水道課長	田沢義郎																
会計管理者	堀内喜美江																
飯島町教育委員会	<table border="0"> <tr> <td>教育長</td> <td>山田敏郎</td> </tr> <tr> <td>教育次長</td> <td>小林美恵</td> </tr> </table>	教育長	山田敏郎	教育次長	小林美恵												
教育長	山田敏郎																
教育次長	小林美恵																

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	宮下 務
議会事務局書記	千村弥紀

本会議再開

開 議 議 長	平成27年9月11日 午前9時10分 おはようございます。これから本日の会議を開きます。議事日程についてはお手元に配布のとおりです。
議 長	日程第1 一般質問を行います。通告順に質問を許します。 1番 本多 昇 議員
1番 本多議員	おはようございます。通告に従い平成26年度決算について、行財政改革プランについて、2つの質問をします。昨日の町長選への不出馬の表明を聞き、大変残念であり大変悲しく思っております。最後の質問となります。今回の質問については町長の責任があるところですので的確にお答えください。 1番目の質問です。平成26年度決算について、1の1。財政調整基金が10億円となったが今後の方針は、の質問です。実質収支が174,520,000円の黒字決算となりました。実質収支が多く見えますが専決補正予算の見直しによるもので、同じような見方をするならば25年度は237,520,000円です。25年度と比較すれば減少しております。しかしこれが整合性のある決算ではないかと思えます。実質単年度収支も95,740,000円の黒字。専決補正予算を見直したことを含め大いに評価するものです。さて財政調整基金ですが、25年度は26年6月の定例会において3月31日付専決により補正予算50,000,000の計上により998,960,000円となりました。26年度は利子の増加分で1,000,000,000円となりました。財政調整基金積み立ての今後の方針を町長にお伺いします。
町 長	おはようございます。それでは本多議員のご質問にお答えをしておりますけれども、冒頭私の退任に触れてのお言葉をいただきまして大変恐縮し感謝しております。大変お世話になりましたありがとうございます。先ず平成26年度の決算について、この財政調整基金が1,000,000,000円となったことの今後の方針についてでございます。考え方でございます。町の財政調整基金の残高につきましては平成26年度末の決算で1,000,878,000円となったところであります。財政調整基金の積立額の目標額については行財政の改革プランにおいて当初700,000,000円というふうに設定をしておりましたところではありますが、今年度行財政改革プランの改定の中でその目標値について、類似団体の状況等とも勘案しながら1,000,000,000円を目途を維持するというふうに設定をさせていただきまして、当面これを基本としてまいりたいというふうに考えております。これにつきましてはあの標準財政規模というのがあるわけでありまして、この概ね3分の1程度を最低の目安とするというまあ県の指導が前から出されておるわけでありまして、だいたいこの数字とも合致をしておるといふ額でありますので、そのようにしてまいりたいと思っておりますが、なおあの将来の様々な財政負担、財政調整基金ばかりではございませんけれども、他の社会資本整備や福祉基金といった今後の需要の増大も予想されますので、こうした見通しとバランスを考える中で、やはりあの積み立てるばかりではなくてですね、住民要望に対するこのバランスも十分考慮しながらこの有効活用について併せて検討していくことが大切であろう

というふうに考えておる次第でございます。

本多議員

よく解りました。私も考えは同じであります。次の質問です。1の2、普通建設事業の町単独事業が100,000,000円減少したのはなぜか。の質問です。決算概要書に普通建設事業が75,060,000円、12.2%の増額となったと書いてあります。しかし単独事業では過去4年間を見ますと、23年度は432,650,000円、24年度は370,540,000円、25年度は424,220,000円、26年度は323,390,000円となっており、4年間の中で一番少なく、前年より100,000,000円、約24%も減少しております。道路改良工事等の住民要望が多いにもかかわらず、単独事業が100,000,000円も減少してしまったのはなぜか町長にお伺いします。

町長

次のご質問はこの普通建設事業におきます町の単独事業の分野で約100,000,000円減少したこの理由については何かということでございます。お話にございましたように平成26年度におけます普通建設事業のうちの単独事業については、およそ今お話がありましたように100,000,000円、率にいたしますと23.8%の減であります。補助事業というのがひとつつま一方であるわけでございます。やはりあの住民要望を満たすにはどうしてもこの単独事業と補助事業を組み合わせ、如何にこの町の社会資本整備、インフラの整備というものを進めていくかということが、ひとつの併せ技みたいな感じになるわけでございますけれども、そういうことであの併せてまあ考えて予算編成をしておるところでございます。どちらもまあ住民要望の期待に沿っていきたくと、そういう事業でございます。そういう意味であのこの補助、単独の両事業を併せた普通建設事業、これ全体で見ますと前年度に比べておよそ75,000,000円、12.2%の増となっておりますこともご理解いただきたいと。であのこのことは基本的な考え方といたしましてはあの同じ住民要望の中の公共事業として、単独事業で取り組めば一般財源の負担は当然あの自前の財源そのもので、ほぼ一般財源で充当しなければならないわけでございますが、活用できる補助事業であればできる限りまあ有利な補助事業、あるいは起債事業というのがセットになってまいります。これを活用して一般財源負担をできる限り減らしていくことが得策であるということから、このバランスの中で考えてまいりますのでそのようにご理解いただいて、まあ年度・年度によってあの国の補助事業採択等の基準もいろいろ変わってまいりますので、必ずしもあの足して一定の数字というわけにはまいりませんが、そういう組み合わせの中で弾力的に事業を取り組んでおることをご理解いただきたいと。で年度によってまあ今いうようにあの事業内容に違いがありますけれども、平成26年度につきましてはそういった考え方に沿って各種事業に取り組んだ結果であるということをご理解いただきたいと思えます。それから特にあの住民要望の多い道路関係でございますけれども、これはあの町道整備事業の決算額だけで見ますと、前年度に比べておよそ10,000,000円、10.1%増というふうになっておりますし、それからあの道路改良、維持補修につきましてもいわゆる補助、この補助事業を活用できる道路改良事業につきましては補助事業で取り組んで、それ以外はまあ細かなものは単独事業で取り組んでいくということでやっておりまして、今年もあの27年度になりますけれども、あのかなり増額して当初予算、補正予算で対応させていただいておるということ併せてご理解いただきたいと。であの各地区のいろんなあの要望事項、それからその他いろいろ具体的にあのございますので、少しあの内容を担当課長の方から補足して説明をさせていただきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

本多議員
町 長
企画政策課長

はい。
それじゃあお願いいたします。
それではあのただいま町長が申し上げましたように、補助事業と単独事業を合わせますと12%ほど増えております。ただあの議員お話がありましたように、単独事業分だけ見ますとおっしゃられたとおり100,000,000円分ばかり減少しております。であの普通建設単独事業分のみ何が減少したかっていうことだけ概略だけ申し上げます。平成25年度と26年度の比較でございますが、先ずあの減少したものでございますが、CATVの伝送路高度化事業の負担金、これはまあ光化の事業でございますが、これが90,000,000円ほど減額しております。それから防災対策費の中の行政防災無線のデジタル化、この事業が完了したということで72,000,000円ほど減少しております。それから道路改良関係でございますが、地方特定道路整備事業、これ追引南田切幹1号、これが完了しておりますのでこれが45,000,000円ほど減額、それから町営住宅の耐震、それから長寿命化に伴います割賦で返済をしておりますが、その分の減額分が29,000,000円ほど、それから地域福祉センターの施設の修繕工事、これが16,000,000円ほど減額しております。それから消防団車両25年度と26年度2年間で更新をしてきておりますが、その車両の更新分の減額が9,000,000円ほどございます。それから今度は逆に26年度増えた分でございます。田切の道の駅の用地の取得費とそれから設計費、でこれが59,000,000円ほど増えております。それから非常用の発電施設ということで文化館と役場庁舎のところに太陽光発電、これを設置しております。それから文化館には非常用の発電機も設置しております。これが合わせまして約77,000,000円ほど増えております。それから26年度坊主平にトイレを設置しております。12,000,000円ほどここで増えております。それからただいま町長の方からも申し上げましたように、町道の改良分でございますが道路舗装それから一般の道路改良合わせまして10,000,000円ほど増えているという状況で、まああのトータル差引いたしますと約100,000,000円という状況でございます。

本多議員

大変よく分かりました。ありがとうございます。次の質問です。1の3、中央道跨道橋に関する工事の町の負担は適正か、の質問です。町内には中央道の跨道橋が26カ所あり、町が管理しているのは道路橋12カ所、水路橋13カ所の25カ所と中川村が林道として管理している1カ所があります。26年度中央道跨道橋の道路橋に関する工事費は35,160,000円で、町の負担は先16,360,000円、国等の負担は18,800,000円で、47%も負担しています。長寿命化対策工事に関しては40%の負担、他の工事は町の負担になっていると思います。現場を見てみますが工事がずさんでコンクリートの厚みがなく鉄筋が見えていたり、木屑が入っていたり、考えられない工事が行われています。過去のずさんな工事による修繕に対し町で負担することなく、すべて国とNEXCOで実施すべきではないかと思います。町の負担に対する基準があるのか、負担が軽くなることはないのか、適正な負担なのか町長にお伺いします。

町 長

次のご質問はこの中央道の跨道橋に関する工事の町負担の問題でございまして、私自身も本当にこのことにつきましては開通後40年余りをまあ経過して、このことは今振り返ってみてですねこの町の国策で開けたこの中央道でありますけれども、この通る地形からくるこの町の宿命の1つであるかなというふうに、まあ大変頭の痛い感じ方をしておる訳であります。ちょっと振り返りますが、今お話のように、中央道に架かる橋梁というのは

町内26橋あるわけでありまして。その内飯島町で管理する橋梁25橋、それからその内道路としての橋が12橋、それから農業用水路が目的で跨橋しております水路橋13橋でございます。いずれもこれらの橋は昭和52年の2月に当時の日本道路公団から移管を受けまして、飯島町で管理をしてきたというところでございます、これは当時のまま管理移譲契約と申しますか、移転契約と申しますか、その契約によって、これはあの全町村まあそういう形での管理移管を引き継ぐという全国的な流れの中での一環であったと思えますけれども、以来まあ公団からこの移管を受けて町で管理をしていたところでございます、お話あの建設後40年を超えまして、コンクリートの剥離など老朽化が進んできております。全国的にも高度成長期に建設された橋の老朽化対策が求められる中で、国の指導もありまして、道路橋については平成24年度に飯島町橋梁長寿命化修繕計画を策定いたしまして、緊急度の高い中央道に架かる橋から、道路では国土交通省所管の社会資本整備交付金事業、これはちょっとあの事業の内容にもよりますけれども、国が55%から60%の補助、残りはすべて町でございまして45から40%いわゆるこの差額になります。これを活用して一応まあ詳細な点検と修繕工事を進めているという現状でございます。それから農業用の水路橋も同様でございますけれども、同じように管理移管で以来きておりますが、やはりあの26年度に同じ趣旨で長寿命化の対策の中で点検を行って、来年の28年度からはこれは農林水産省所管の県営、県の事業主体となる農村地域防災減災事業、これはあの少し道路の国交省所管より率がいいわけになりますけれども国が55%、これに県が37%上乗せしまして、町は8%ということで、これはあのいろんな補助事業っていいですかまあこれは県営でございますので補助というわけではございませんけれども、各種の公共事業の中では経済対策を除いて最も有利なまあ事業方式をとるという形で現在進めておりまして、いずれも耐震補強工事を予定していくということでございます。そこでまあ一方で本多議員ご指摘のとおり、つぶさに見ますとご指摘の通りこの木の破片っていいですかそんなような物や、それからコンクリートモルタルの一部剥離の部分、それからこんな工事をしたのかなと思うくらいコンクリートの、水路なんか特に多いんですけども、モルタルコンクリートの薄さが目立ちます。まあ言ってみれば建設当時の施工不良カ所、素人が見てもそんなようなイメージでありまして確認をされておりまして、以前からこれは私も当時の日本道路公団、更には現在中日本高速道路株式会社でございますが、NEXCOへこれは欠陥工事じゃないかということで、同じ目線でこれ全国的にやられたんではとても困ると、特にあの飯島町はこの中央道沿線、恵那山からこっちずっとあの諏訪の方までまいますけれども、飛び抜けてカ所が多いわけですね。これはまああの当時あの真つすぐまあ進めていくという国のひとつの設計上の問題で、どうしてもこの田切地形を縫っていく中央道の飯島地籍でございますので、やむを得なかったかと思えますけれども、この特殊事情を是非ひとつ考慮してほしいということを再三申し上げて、場合によってはこれはあの全国的な運動まで持ち上げていこうという今気運でございますけれども、なかなかガードが堅いわけでございますしハードルは高いというのがいま現実でございます。ただあの少しまあ特別なあの調査に対しての数千万といったような補助は直接NEXCOの方からいただく機会はありますけれども、いよいよこれからが本体工事の本番でございますので、何としましてこれはあの老朽化が進んで、このままやらないというわけにはまいたしませんので、飯島の次に多いのが伊那市でございますけれども、伊那の市長ともい

ろいろ話合って少しまあ運動を大々的にもう少し展開していかなきゃいけんだらうと、いうことでございますので、その辺も進めて、場合によたら議会の皆さん方と一緒にたててですね、また要望活動等もしてまいりたいというふうに思っておりますので、是非ご協力をいただきたい。そういう厳しい状況でございます。

本多議員

よく分かりました。あの町の負担軽減に取り組んでいただきたいと思います。次の質問です。1の4で、ふるさと納税のお礼の対応に不備はないか、の質問です。ふるさと納税は24年度530,000円、25年度1,920,000円、で26年度は16,370,000円と8.5倍の大幅な増となっています。これは担当課の創意工夫により増加したものと思います。大いに評価するものです。益々増加することを願っております。リピーターを増やすためにもお礼の対応に失礼がないようにしなければなりません。お礼の品を送付するときお礼の言葉も入れず、ただ送っているだけと聞いています。お礼に対してどのような対応をとっているか町長にお伺いします。

町長

次はふるさと納税に対するまあお礼等の対応でございます。ふるさと飯島応援寄付金でございますが、毎年まあ特産品を品を変えるなどアイデアを凝らしながら対応しまして、年々多くの皆さん方から貴重な寄付を賜って感謝申し上げておるわけでございます。昨年の平成26年度の実績は16,372,500円、724件でございます。今年に入りまして8月末の時点でございますけれども、約800件、12,000,000とまああの更に増加傾向にあるということで期待をしておるわけでございます。今後どう推移するかまた期待をしてみたいと思いますが、そこでこの寄付金に対するお礼の対応でございますけれども、これはあのご本人様より申し込みをいただきまして、入金を町で確認した後に時機を逸することのないように、このまあこれは事務的な部分でございますが、寄付金の受領証明書とともに私の直筆の名前の入ったお礼状を本人に送らせていただいております。でその後、特産品の適正な出荷時期に合わせて申し込み者へ随時特産品のお礼を送付させていただいております。お礼状の送付を含めた流れはこのようになるわけでございますけれども、担当課も常にまあ常々心のこもった対応を図るように努めておりますので、私もそのことを支持しておりますのでご理解をいただきたいというふうに思います。

本多議員

はい、分かりました。それでですね2つちょっと提案しますので、1つ目です。お礼品の品の中にコメントとともにアンケート付き返信はがきを入れて返礼してほしいと思います。アンケートの内容は検討していただきたいんですが、例えばお礼品が良かったか、悪かったか、お礼の品揃えは良いか、希望する商品、もう一度納税しようかと思うか、のようなアンケートにより、お礼品の満足度がわかります。クレームもあると思います。返礼品に対する新しい商品が発見できるかもしれません。アンケートにより良いアイデアが生まれると思います。2つ目です。1年度1回限りではなく複数回納税ができるようにする。例えば1回に20,000円は大変だけど10,000円ずつ2回、時期と生活費を見ながら納税すれば違うものが2品入ります。この2つの提案について町長の考えをお伺いします。

町長

あの提案をいただきまして、大変あの結構な提案をいただいたというふうに思っておりますが、アンケートにつきましてはあの早速そのような対応をさせていただきたいということと、それからあの2回、3回に分けてまあ寄付をいただくということになります。あの金額を細分化してまあ都度のお礼といいますか返礼をするということもまあいいわけで

ございますけれども、これはあくまでもあの寄付をいただく方の選択の問題だろうというふうに思うわけですね。それでこちらから2回に分けてというようなことを申し上げるのもいかがかというふうに思いますので、あくまでもそれはあの2回でも3回でも結構でございますので、本人の選択に委ねることがよろしいのではないかとこのように思います。

本多議員

町長そう言いましたけれども、ふるさと納税は1回ということでこのパンフレットに書いてあります。それで町長が今、何回でもいいってということになれば是非それを検討してほしいと思いますけれどもどうです。

町 長

あの何回でもいいようなんですけれども、ちょっとそれじゃあ財政の方で。

企画政策課長

えーとあの発足当時はあのまあこれ税金のことを考えて1回というような形でしておりました。まあパンフレット上そういう形で1回ということが残っておりますが、あの今回あのクレジット決済、それからワンストップのまあ税金の対応ですけど、そういう形ができてあの何カ所の市町村にも1人の方がやられている方がおると、いろいろありますので、そのことについては削除させていただくようにいま話をしたところで内部で先ほど言われましたあの特産品の発送時にもアンケート関係ということができましたけれど、まあこれ発送していただける事業者との調整もございますので、あのなるべくそういう形であのご協力いただいて、アンケート的な形ができるような形で、ちょうどあの新年度に向けて制度、制度というか特産品の見直しの時期にきておりますので、併せて前向きな形で実施するような形で検討させていただきたいと思います。

本多議員

今ここ削除してくれるってもパンフレット作ってあるわけなんで、今年はまあ無理だと思っておりますので、これ皆まともに考えれば1回しかできないという頭しかないと思っておりますので、その辺は考えて、まずかったかなあと思っていたきたいと思いますのでよろしくお願ひします。それでは次の質問に入ります。2番目の質問です。行財政改革プランについて。2の1、行政経営とは何か、の質問です。飯島町行財政改革プラン、23年度から27年度までの5カ年、本年度が最終年度となります。現在28年度から32年度改革プランを策定中で、12月には発表されることと思ひます。今の行財政改革プランでは基本理念として成果を重視した行政経営の確立、行政運営から行政経営への転換となっております。運営と経営の違いを考えてみました。インターネットの検索で私の考えと同じ答えがありました。先ず経営とは組織の将来を考えて持続的に利益を得て組織を発展させていくこと。運営とは今ある資源、人、物、金で成果を出しつつ組織を動かしていくこと。町長が考えている行政経営とは何かお伺ひします。

町 長

次のご質問は行財政改革プランにつきまして行政経営とは何か、というこの理念の問題でございます。飯島町行財政改革プランの基本理念に成果を重視した行政経営の確立ということで謳ってございます。これまでの行政は法令の順守や事業執行の手続き、決定の過程が重視をされて事務処理が適正に行われているかどうかにか重点が置かれる、いわゆる行政運営という考え方でありましたが、一方民間企業等では顧客の満足度を第一とする理念がありますように、行政においても行政需要が複雑化・多様化する中で、行政サービスがどれだけ住民ニーズに反映したものかになっているかに視点を置きまして、提供された行政サービスへの住民満足度をその成果として求めると、これが行政経営への転換を目指そうということで行財政改革プランの基本理念として掲げて、次期計画にもそのことを謳ってまいりたいというふうに考えております。

本多議員

ちょっと難しくわかりませんが、一応ですね私は次の質問で行政運営から行政経営へ転換した効果ということで質問します。行財政改革プランの検証資料から、どの部分が行政運営から行政経営に転換したことによって効果が出たのかよくわかりません。私は従来と同じ行政運営をやっていると思っております。行政運営から行政経営に転換したことによる効果を町長にお伺いします。

町長

まあなかなか私自身も一言でこの運営、経営の区別というものは、またあの実態としてどう転換したかということは明確には申し上げにくいわけですが、まあ概念的に申し上げまして、平成23年度よりまあこの行財政改革プランの基本理念に行政経営ということへの転換を謳いまして、今までのコスト削減、それから無駄の削減、人員削減、といったことを重視した量的改革から、この成果を重視した行政経営という方に軸足を置いて取り組んだわけですが、具体的にその一端を申し上げますと、第5次総合計画等におきましては、各種の施策が町民にとってどのくらい必要とされて満足ももっているのかについて、この満足度調査を実施をいたしまして、これを数値化することによってその実態を捉えて、計画策定の指標としてまいりました。その結果についてはすでに公表をさせていただいておりますので、議会にも報告してございますのでご存じかと思っておりますけれども、つまりまあ限られた財源を有効的に活用するために、行政評価によって先ずこの計画策定、これはプランでございます。それから実施の面、これはデュー、そして検証はチェック、更にこれを見直し、アクション、このサイクルでいわゆるPDCA、それぞれの頭文字をとったこのPDCAサイクルの確立を図って、コストや成果を重視した事務事業の見直しを進めてきたということでございまして、現在のところ内部評価はまあ一定の定着をみてまいりましたが、外部評価につきましてはまだまだ試行段階であるということでありまして、さらにこの精度を高めながらですね、各種事業に対する選択と集中、これを徹底させて無駄のない行政経営を確立をしていくことが重要というふうに考えております。それからまた一方である財政分野におきましても、単年度主義あるいは現金主義の単式簿記から貸借対照表等の財務諸表を作成して、その効果を検証して、今後もそれらを活用した財政運営に努めていきたいというふうに考えておるところでございます。その他では職員の育成においては人事評価制度を導入し、それから自己啓発や能力開発、組織の活性化等につながるように取り組んできたところでございます。今後も町民が真に必要な行政サービスを提供するために、成果を重視した行政経営の確立を引き続き目指してまいりたいというところでございます。ただあの私思うわけでありまして、この行政サービス、地方自治というのはこの経営だけではやっぱり成り立たないと、やっぱりあの役場の行政サービスというのは、住民のまあ要望あるいはいろんな意見に対する如何にこのそれを満たしてサービスにつなげていけるかということに基本的にあるわけですが、費用対効果ばかりで片付けるわけにはいかないという面があるわけですが、例えばあの循環バスなんか見ましても、これはあの経営効率的には非常に悪いわけでありまして、あるいはあの福祉の事業なんか非常にそういう点が多いわけですが、やはりそこには住民要望、それから一部の人ではあるけれどもやっぱりそこへ手を差し伸べないとうまくこの住民サービス・住民要望につながっていかないというその部分があるわけですが、決してその面をないがしろにしてもいけないということでございまして、その点もお含みいただいてひとつ基本的には運営か

ら経営ということに転換していくことが何より大事だというふうに思っております。

本多議員

初めてですね、町長が今、費用対効果だけではだめだというふうに言っていますけれども、今まではいろいろ予算要求しますと費用対効果を考えてだめだという形で言っていたと思いますけれど、そこら辺は、私はそういうに捉えているんですけど、町長は言った気持ちはありませんか。

町長

やっぱり限られた財源を有効的にやるのは、どうしてもその限られたお金を有効に使って、それが町民の皆さん方の要望につながっていかなくやいけんということでございますけれども、中にはそうした面もあるという、これは今までもそういうことであの実施計画、予算計画進めてまいりましたので、決してあの転換しておることで決してございません。

本多議員

分かりました。それでですね、私が考えたその主要目標の取り組みの中で、行政経営がスタートした23年度と比較してみました。人件費の削減においては職員分は7,400,000円減少しています。しかし物件費に含む臨時職員、嘱託職員を考えると増加していると思います。物件費に含む臨時職員、嘱託職員の人件費は貸金台帳で簡単に私は把握できると思いますが公表してくれません。人数で判断すると臨時職員、嘱託職員は23年度は88名、26年度は103名で15名増加していますので当然増加していると思います。是非、人件費及び人件費に準ずる費用を公表してほしいと思います。一般会計の25%が人件費と考えるからです。もう1つ、組織機構の改革で効率化においても人数の増加と時間外手当を検証すれば効率化されているとは思われません。もう1つ、健全な財政基盤の確立では主要な財政指数の財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率、23年度から大きな変化はありません。財政調整基金は160,000,000円増加しました。これらは町単独事業が100,000,000円減少したのも要因の1つと考えますが、地方交付税を頼りにして補助事業だけやっていけば基金も増えるし財政指数は改善されます。運営から経営に転換した効果は疑問です。行政運営の範囲だと思いますが、この考え方について町長のご意見をお伺いします。副町長にじゃあお願いします。

副町長

あのただいまあの人件費と人件費に代わるまあ臨時職員への対応のまあ振り替えというか、代わるものとしての内容でございますけれども、まあ賃金の総額については別にあの非公開にする必要はないと思いますので、ちょっとどういう経過があったのか、ちょっとやり取りの経過はわかりませんが、総額についてはあの公表することはならぬ差し支えないと思います。ただあの臨時の方をお願いする部分についてはあの、正規の職員についてはあの行政のプロとして行政運営の中で企画だとか運営とかそういう部分に集中してもらいたいということで、それを補助的にやっていただく方を臨時というふうな形で、できるだけまあ捉えてはおるところでございますけれども、どうしてもちょっと仕事が多くなる関係で臨時の皆さんにもある程度の負荷が掛かるような場面もあろうかと思っておりますけれども、今までのあの平成17年ころからの町の、自立していくという方針の中で、職員の数は100人という、これはあの議会の方へも報告し同意を得て運営をしてきたんですが、この数年に亘りまして正規職員もできるだけ多くしたらどうかという議会の方のお話もありますので、まあその辺で少しずつ行政の経営の中であの方向付けを変えながら、やっていかなくやならないなというふうに思っておるところで、ここ数年少し正規職員の数も増えておるところであります。まあ特にあの増えている部分につきましては専門職の部分です。保健師だとか、それからあの介護保険の絡みにあります、そういったあの資格を持

って仕事をしていただく部分については、できるだけそれを充当していく必要がありますので、そういった部分についてはあの正規の職員を配置し、それ以外のあの所については臨時の職員の皆さんにお手伝いをしていただいて、全体の組織の運営をしていきたいという考え方でやってきておりますので、是非その辺についてもご理解いただきたいと思ます。

本多議員

今言ってくれたんですけれども、その歳出比較分析表の中にその人件費及び人件費に準ずる費用という形でその指標があると思ますので、過去まあ23年からですね是非今の準ずるすべての人件費ですね、人件費及び人件費に準ずる費用、性質別分類上の人件費だけでなく物件費に含まれる臨時職員賃金や補助費等に含まれる公営企業等に対する繰出金のうち、人件費相当分など人件費に準ずる費用も含めて求めたそういう数値があるわけですので、是非それをあの公表していただきたいと思ます。それではこの質問は終わります。

それから私が考える行政経営なんですけれども、町の将来を考えて今ある資源で成果を出しつつ、持続的に利益を得て町を発展させていくことではないかと考えます。単独事業はもちろん補助事業も含め先行した事業により自主財源である町税を増加させていくことが町の利益と考えます。町民税の場合、定住促進により移住者が増加すれば個人町民税が増加します。企業を誘致すれば法人町民税が増加するし、雇用により個人住民税も増加します。固定資産税も増加します。そのためには先行した事業が当然必要となります。23年度と比較すると町税全体では10,100,000円増加しています。しかし町民税は8,200,000円減少しております。個人が13,800,000円増加して法人が22,100,000円の減少です。景気の変動があり予想は大変難しいことですが、27年度予算は18,000,000円の減少を見込んでいます。町民税の増えない寂しい予算です。2つ例を挙げます。役場庁舎、文化館に太陽光発電設備を設置し、売電収入により自主財源が確保できたことは投資のひとつの良い例です。田切の道の駅は補助事業と単独事業で実施する事業で、地元の要望に基づき事業化を進めてきました。行政で建設し管理を民間に委託するわけですが、成功するかどうかわかりません。リスクもあります。しかし町を活性化させ人口9,500人を維持するためにはこのような展開が今後必要ではないでしょうか。個人でも法人でも事業化できるアイデアを出して、ともに研究し、補助事業で行うことができれば補助事業で、できない場合は単独で、行政が主導的に行う、これが行政経営の根幹だと私は考えます。町長は以前より民間でできることは民間でと言っています。今年、議員研修を受けた隠岐ノ島の海士町では、経済規模の小さな地域では民の仕事を官がやるくらいの意気込みが大切であると言っております。私も同じ考えです。町長の考えをお伺いします。

町長

まああの今お話がありましたような基本的な考え方でこれまでもやってまいりましたし、まったくあのこれからもその通りだというふうに思います。やっぱりあの自主財源を如何にして確保していくか、それにはやはりあの企業誘致も定住促進、若者定住も、そこから出てくる果実というものを期待しながら施策を講じていくということにまあ他ならないわけで、そのためにまあ企業誘致もそれから道の駅も、まあリスクもあるわけでありましてけれども、全力で取り組んでいけば必ずそれは成果は見えてくるということでございますので、そういうことで基本計画今策定中でございますけれども、平成28年度以降の施策についてもその辺のところを主眼とした町の方向付けをしていくべきだというふうに考えて

おります。

本多議員 的確な答えありがとうございました。時間がまだありますけれどもこれで質問を終わります。

議 長 ここで暫時休憩とします。そのままお待ちください。

[質問席演台交換]

議 長 会議を再開いたします。

7番 三浦寿美子 議員。

7番

三浦議員 それでは通告に従いまして一般質問を行います。最初にこれからの飯島町の医療、介護の課題についてということで質問をしたいと思います。地域包括ケアシステムの本格実施が平成29年4月に迫っております。辰野町、駒ヶ根市は来年平成28年度から実施をするとし、すでに具体的な準備を行っているという聞いております。その内容について承知をしているかお聞きをいたします。

町 長 それでは三浦議員の質問にお答えをしてみたいと思いますが、まずこれからの町の医療、介護の課題についていくつかのご質問をいただきました。最初に地域包括ケアシステムの地域支援事業の件でございます。辰野町、駒ヶ根も準備を進めておるということでございますが、この総合支援事業の移行につきましては、辰野は27年度、駒ヶ根市は28年からまあ移行するように現在準備を進めておるというふうに承知をいたしております。当町といたしましても29年度に向けて関係機関と情報交換を行って、先進事例などを参考にしながら今準備を進めさせていただいておるという状況でございます。

三浦議員 それではまああの実施をするためには準備が必要ということで、住民の制度に対する理解と支援が必要と言われております。先行している自治体のこの準備のための取り組みについて、状況を把握をしているかどうか、どのような取り組みがあるのかお聞きをしたいと思います。

町 長 準備とそれから今後の具体化に向けての内容というようなことで若干触れて申し上げますが、今お話申し上げましたように、当町では29年度実施に向けて現在準備検討を進めておるということを申し上げておきます。28年度はその移行準備期間として捉えまして、先ずあの生活機能の低下を予防・改善するための目的のリハビリに重点を置いた事業や、認知症の予防あるいは見守りのネットワークの体制づくりというものを下準備として進めてまいりたいというふうに考えております。それからまた高齢者の社会参加や交流を目的とした事業の方向性についても検討をしまして、地域の支えあいの仕組みづくりを行うための生活支援のコーディネーターの設置も考えていかなきゃならんということでございます。それから今後、介護予防に重点を置いたサービスの創出にあたりまして、やはりこの住み慣れた地域でいつまでも健康で生き生きと安心の暮らしが実現できるように、事業目的を明確にして町内事業者への委託を含めた説明や協議を行って、連携をとりながら万端準備をして実施に向けてまいりたいというふうに考えております。

三浦議員 ただいまあの取り組みについてお聞きをしたわけですがけれども、飯島町としてやはり今28年度と言われましたけれども、その前段でかなり準備も行政としての準備は必要かなというふうに思いますし、これから住民の皆さんのこの制度についての理解と協力を得る

ためは、かなりの私は時間が掛かる取り組みが必要というふうに考えておりますが、すでに具体的に住民の皆さんと関わる部分について計画を持っているかどうかお聞きをしたいと思えます。

健康福祉課長

それではあのご質問にお答えしたいと思います。現在のところ地域包括支援センターの方でメニュー作りの準備をしております。先ほど議員の質問にもございましたとおり、駒ヶ根市、それから辰野町が先行してございまして、まああの担当者レベルでは毎月のように意見交換会等を行っております。辰野町につきましてはですね、あの単価、要支援に1・2が市町村事業になるということで単価をこのあいだ公表いたしましたし、伊那市も準じて公表したように聞いております。その関係につきましてはですね、まあ事業者との調整、それから先程申しました生活支援コーディネーターというのがございますが、そこら辺のところをですね地域の皆さんに要になって説明をしていく役割を担っていただこうかなというふうに考えてございまして、これから各地区、それからまあ実際飯島町で考えますと四地区というのがその中に浮かんでくるわけございまして、国のあの指針に基づきますと町全体であるか中学校単位を核とした地域をというふうに書いてございますけれども、飯島の実情を考えますと四区を中心とした身近な地域へご説明を申し上げて、それから基盤づくりを図っていかうということで、先程から申しておりますとおり、28年度にその実施的に入って行こうかなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

三浦議員

それではまだ具体的に何時どんなふうにするための住民説明会とか、まだ具体的にはなっていないというふうに理解をしいいんでしょうか。

健康福祉課長

はいあのこれから計画をお示しをして、住民の皆さんにお示しをしていくということでございますので、まだ準備の段階でございます。

三浦議員

とにかく時間が掛かって理解にもあのかなかなか大変なようですので、是非早い段階で地域の説明もして、住民の皆さんの理解を得て進めていただきたいというふうに思えます。次にですねあの国の地域における医療および介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律というのが、平成26年6月25日に公布をされております。それから介護、医療に関わる法律が順次施行をされてきてございまして、今後は在宅医療に重点が置かれる医療制度になるというふうに言われております。昭和伊南総合病院が平成28年3月1日に開設するとしている地域包括ケア病棟の設置目的からもその重大さが分かります。設置目的には急性期医療、7対1基準看護では診療報酬において平均在日数の短縮、医療看護必要度及び在宅復帰率の基準の厳粛化が進められている。これに伴い急性期病床入院患者は入院医療から在宅医療等への移行について十分な準備期間がとれなくなることから、地域包括ケア病棟を設置し、在宅医療推進への対応を図る。また行政が主導する地域包括ケアシステムとの連携を図り、患者個々に適した在宅等の医療が受けられるよう支援する。と書かれています。地域包括ケア病棟は最長60日の入院期間となっております。在宅とは自宅、有料老人ホーム、高齢者住宅、特別養護老人ホーム等、介護施設を指しているとしています。飯島町に在宅医療を支える医療機関、昼夜を問わず受診往診を受けられる環境があるのか、このことは重大な問題です。現状では高齢者や一人暮らしの人が早期に退院し、在宅医療を受けながら自宅で安心して生活するには大変厳しい医療環境にあり、在宅医療は困難が多いと感じております。現在、退院後の在宅での受診はうまくできているのか、困っているなどの問題はないのか、お聞きをしたいと思いま

す。

町 長

まあそれぞれのあの法律の施行によりまして、いよいよこの在宅介護、在宅医療に向けての国全体の動きが出てまいりました。そこであの高齢者や一人暮らしの人々が退院後に安心して自宅で生活できる医療環境、今後まあどのように対応していくかということになるわけですが、今お話にもございましたけれども、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、地域における医療、介護の関係機関が連携をして、包括的かつ継続的な在宅医療、介護の提供と支えの仕組みづくりが重要となってくると、これが今のこの趣旨でございます。で、医療部門ではあの伊南地区の基幹病院であります、お話にございましたが昭和伊南病院で、地域の包括ケア病棟、平成28年3月に開設をするべく、3階の西病棟に32床を予定をして現在改修工事を進めております。この病棟は地域医療、在宅医療の推進のために急性期医療から経過観察が必要な方、それから病棟から退院して在宅医療などに移行する準備が必要な方、それからまた在宅医療を行っている方が一時的に入院治療が必要になったときにも入院できる病棟ではあるということで、先程最小というふうに言われましたでしょうか、最長ですね。その通りで最大60日入院ができるというシステムになってございます。そこであの介護関係では介護保険制度にも示されておりますが、医療・介護予防、それから住まいと生活支援が一体的に提供されます地域包括ケアシステム、これを地域の自主性や主体性に基づいて、この特性に応じて構築をしていくということが必要であります。それからまた今後の在宅医療・介護につきましても、訪問看護や訪問介護などの公的なサービスの介入については在宅医療・介護を担う事業所が核となって大きな役割を担っていただくということになっていくと思います。とりわけ訪問看護につきましては24時間体制の対応と、それから主治医の連携体制において大変重要なものとなります。在宅での医療・介護を支える中で訪問介護を中心とした体制づくりで、地域における医療体制のあり方について今後ともを検討をしてみたいと。若干あの総括的に申し上げましたけれども、個々にはいろんな課題があるわけでありまして。医師と連携といってもなかなか夜間24時間その対応ができるかどうかということもあるわけでありまして、その辺のところは今後の大きな課題になってくるということでありまして。若干その内容的に担当課長の方から申し上げます。

健康福祉課長

今困っている問題があるかどうかというお話もございました。実はあのまああの今の体制でまいりますと、今、訪問介護体制というのがまあ十分ではないという認識を持っております。24時間のサービスをしていく体制の構築が必要だというふうに考えておまして、今あのちょっとおかしくなりますとすぐ救急車という格好になってまいります。訪問看護体制の中でですねあのまあ主治医の先生と看護師さんが連携をとりながらという体制を構築していくことが、地域の在宅医療を推進していく形になっていくのではないかと。いうふうに考えておまして、現在あの例えば昭和から出てまいりました患者さん、医療がもう病院の方ではないというような格好で在宅へ戻される患者さん、そういう方もいらっしゃいます。中でもあのまあここ私が4月から就任いたしまして何ヶ月か経ちますが、見てみますと何件か出てきて1カ月ぐらいで亡くなっていく患者さんもいらっしゃいます。そういうことになりますと、あと医療が必要になれば最終的には伊那にございます仁愛さんですとか田中病院さんですとか、そういうところへ行く方もいらっしゃいます。

そういうことで問題が多々あるというふうに理解をしておりますので、訪問看護体制と、それから昨日も出ておりましたが、ここにおられる先生方との連携というふうなものを構築していかないと在宅医療はうまくいかないというふうに考えております。またあの上伊那でもですね、上伊那の地域包括医療協議会というまああのものがございまして、公立3病院、それから私立の方の開業している皆さんの医師会も入りまして、我々も入って検討する会議がございまして、その中で介護・医療連携委員会というのをこの間作っていただきまして、その中で在宅医療の上伊那的な推進を図っていかうということで、作業部会みたいなものを作ってやっていかうという話になっておりまして、まあその中でも当然これから29年度に向けての在宅医療の考えが出てくるというふうに考えておりますので、その経過を見守りながら町としても在宅医療ができる、在宅で看取れるという体制をつくってまいりたいと思います。以上でございます。

三浦議員

様子も分かりましたし、私もあのこれから上伊那全体の医療機関、またあのそうした開業医の皆さんなどと連携をして協議をしながら、上伊那全体の医療を考えていかなければならないんじゃないかと思っております、そのことについてもお聞きをしようと思っておりましたが、今あのお答えをいただきましたので、是非あのしっかり協議をしていただいて、この上伊那全体医療が医療過疎と言われないような体制、在宅でいられるような体制を構築していただきたいというふうに思います。それから上伊那ではまあ医療環境ということでは非常にあの大きな問題が出ているというふうに私は思っております、今現在はあの現実問題として病院や開業医など医療機関が集中をしている地域、また医療機関が少なく飯島町のように夜間は医師が不在になってしまう、こんなところもあるわけです。昭和伊南総合病院では希望する治療ができないために伊那中央病院や下伊那地域の病院で手術や治療を受けている人も多のが実態です。一番の原因は医師の体制が整わない、このことにあるというふうに持っております。公立の昭和伊南総合病院や辰野病院、民間の生協病院では医師不足のため診療科目や病床数を減らしています。一方、伊那中央病院は患者を受け入れられないほどいっぱいいっぱいの状況というふうにもお聞きをしております。医師不足に陥った大きな要因は医学生の定員数が少ないこと、医師の研修制度にあるといわれております。特に上伊那地域では木曾に続いて県下で2番目に医師が少ない地域でもあります。整形などの専門的な手術をした町内の私の知り合いの何人もの人が下伊那方面で入院をし、手術を受けております。辰野の人からは諏訪方面や松本方面に行く人が多いとお聞きをしております。過去には伊那に大手の医療法人が上伊那の基準病床数に達する300床の病院を建設する計画が浮上して、地域に根ざした病院が将来増床できなくなると、危機的な状況が生まれました。その対策として経営に厳しい状況の中でいくつかの病院が増床を選択をし、上伊那医療生協では病院化を行いました。しかしその後医師不足などで病床の削減もあり、上伊那圏域外での治療を余儀なくされ、上伊那圏域以外で入院をする患者数も増えています。結果的に上伊那圏域の入院患者は減ることとなっております。このような背景があるにもかかわらず、第6次信州保健医療総合計画では平成25年2月1日現在1,292床あった病床数を43床減らして基準病床数を1,249床とすとしております。全国平均の10万人単位の病床数は1,054床で、上伊那は657床です。人口で割り返すと2,000床あってもよい地域です。医師数は全国平均10万人単位で237.8人に対して上伊那は137.9人と19万人の上伊那では20

0人医師が不足している地域といえます。医療環境の問題は飯島町だけの問題とは言って
いられない状況が起きています。本当に上伊那圏域の基準病床数を減らしてよいのかとい
うことが問われているのではないのでしょうか。医師不足の問題もそれぞれの病院の問題と
して考えるのも限界にきています。その点では先ほど課長の方からもお話がありましたが、
上伊那全体の医療問題として是非その点でも協力をしていただきたいと思っております。け
れども、この上伊那全体の全域の医療問題をどのようにこれから考えていくかという点で見
解がありましたらお聞きをしたいと思います。

町 長

医師不足とそれからそれに対応する県の病床計画との関わりの問題かと思っております。高齢
化社会において医療ニーズは増大をする一方であります。国の医療・介護の相互確保の推
進法、これにおきましては、都道府県は医療計画がひとつとして地域医療構想、これを策
定することとされておりまして、2025年の医療需要を見越して病床数の設定、それか
ら急性期、回復期、慢性期、などの機能分科を進めていくという構想となっております。
このような中で県では将来あるべき医療供給体制を実現するための施設の検討に今入って
おりますが、平成28年度までに医療機能別の病床数などについて地域医療の構想調整会
議というものを設置をして協議、調整を行い、そして今お話の信州総合医療病床計画とい
うものを策定していくということになっておりまして、ご承知のように、上伊那は県内1
0圏域の中でも医師数が2番目に少ない。一番少ないのは木曾圏域ということになります
が、元々まあ医療体制が大変厳しい状況にあると、このことはまあ十分な、裏を返せば医
療に支えられないというまあ現実になるわけでごさいます、大きな原因になっておりま
す。従ってこのような状況をもってこの信州計画が、上伊那圏域の入院病床数の削減とい
うことを打ち出すならばですね、このことは全くもって本末転倒の話であるわけでありま
す。先ず医師の確保をもって国や県は医療需要に応えた上でベッド数の確保が、圏域的に
調整をして決めていくことがまず先決であろうというふうに考えるわけでありまして。従
いまして町といたしましてもこのことに大きな危機感を持っていることは当然でありますけ
れども、伊南地域、昭和基幹病院を持つ地域、それから総合3病院を持つ上伊那圏域、そ
れからこれはあの伊那谷全体の下伊那圏域とも連携をして、あの病気の内容、程度、それ
から患者さんの希望等によってあの郡を跨いだり、また他の圏域の医療、治療を受けるこ
とは、これはあのやぶさかではないわけで、ある程度はやむを得ないと思っております。け
れども、やはりこの医師の必要な確保というものがないと、これは成り立たないというこ
とでごさいます。したがって町民の皆さんが地域で安心して暮らすための医療の確保につ
きましては、過日、9月7日に行われました上伊那圏域及び8市町村の県会議員の現地視察
の折にも要望をいたしまして、公立病院の医師確保、それから地域医療の確保について特
にお願いをしたところであります。安心して暮らせるために医療は欠かせないものであり
ますので、国県の大きな流れの中ではありますが、検討中の事項でありますので今後も住
民の皆さんの要望にお応えしていただくように強く連携をして各市町村、理事者それから
県議の先生方、それから国会議員の先生方巻き込んでですね、このことを強く折りに触
れて機会を見て要望していかなければいけないと考えておる課題でごさいますので、是非、議
会の皆さん町民の皆さん方のご理解もいただきたいと、ご協力をいただきたいというふう
に考えております。

三浦議員

町長の答弁をお聞きしまして、私と同じ考えでおられるということもよくわかりました。

是非、任期いっぱいこのことも全力を尽くしていただき、引き継ぐ新たな町長にもまた全力でこのことについて取り組んでいただきたいなというふうに思います。住民の命が一番ですので是非よろしくお願ひしたいと申します。では次の質問に移りたいと申します。

2つ目は住宅リフォーム支援補助金制度についての質問です。平成23年度から住宅リフォーム支援補助金制度を実施しております。多くの利用がされてまいりました。これまでの利用状況、町内への波及効果についてお聞きをしたいと申します。

町 長

次のご質問は、住宅のリフォーム支援補助金制度に関してでございます。過日、議会の総務産業委員会と商工会との懇談会が行われまして、あの詳細な協議内容についてはご報告をいただいておりますけれども、住宅リフォームの支援補助金に話が及んで、是非まあ継続というようなことも出たようでございますが、これにつきましてはあのこれまで実施をしてまいりまして、一定の成果を上げておると申します。町民の皆さんのニーズや町内の中小企業者、事業者を含めます建設関係事業者への受注機会拡大の側面もございまして、現行制度の継続につきましては前向きに今後とも検討してまいりたいというふうに考えております。なお補助内容につきましてはこれまで1世帯1回限り補助対象工事に要する経費の5%相当、上限100,000円の補助を基本に、今まで毎年延長してきた経過がございますので、すでに事業を実施した方との公平性を保ちつつ、限られた予算を多くの方に使っていただくために現行制度を基本的に運用してまいりたいというふうに考えております。

議 長
町 長

高坂町長。

すみません。どうもだいぶちょっとあのピントが狂ってまいりまして、最初の質問と少し内容が変わったことにお答えしてしまいましたけれども、まあいづれにしてもこれはあの波及効果につきましては、平成23年度から進めておる事業でございます。補助金のトータルでは13,830,000円余り、全体の事業費では421,950,000円というデータが出ておりますので、これも一面、町内建設業者の皆さん方の支えになっておると申します。相当な経済波及効果は表れているというふうに考えております。

三浦議員

お答えをいただきました。町内への波及効果ということでは4年間で400,000,000円を超えているというふうにお聞きをしたところでは、先ほど町長の方からあのお話ありましたように、8月の27日に総務産業委員会と商工会との懇談会が行われ、その中で建設業部会の代表の方から住宅リフォーム支援補助金制度の継続と補助枠の拡大を求める意見があったというふうにお聞きをしました。そこであの最初にまあ私あの住宅リフォームの補助制度をしてはどうかという提案をした者ですので、またその次の提案をしていきたいというふうに思ひましてここでさせていただきますけれども、あの本当に住民の皆さんとまあ町内の業者の皆さんとがうまく関係ができて、この4年間で400,000,000円を超えるという大きな事業となって、町内に大きな波及効果が経済的な波及効果が生まれたという、そういう事業になったというふうに申します。本当にあのこういう厳しいあの経済状況の中、そういう中で少しでも良い生活をしたと、なんとかしたいという住民のニーズと町内の業者の皆さんの何とか仕事をしたいというそうしたニーズがうまく合致をして町内に波及効果が生まれたという、なかなかそこにはない良い制度だなというふうに私自身思ひまして、本当にあのこの波及効果とこの結果を見て感慨深いものがあるわけでは、実際これで実績でこの効果というものがあの実証されたということで、本当にあのうれしい

思いをしているわけですが、一言、言わせていただきますと、行政評価書で私はどんな評価がこの住宅リフォーム支援補助金制度にされているかと、職員の皆さんはどうやって評価をしているのかなと、一生懸命見てみましたがどこにあるのか私の目には触れませんが、とても残念だなと。やっぱりこれだけ実績があるものはやっぱり評価をしていただきたかったというふうに思うわけです。どっかにあの記載があれば、私の見落としであれば教えていただきたいと思いますが、私の目には映りませんでしたのでちょっと残念な気持ちでおるところです。まあ今後もあの、ただいま町長からは継続をしていきたいという旨をお聞きしましたが、それであのまあ最近ですね傾向として補助申請の1件当りの工事費が私は増えているのではないかなというふうに感じております。物価の上昇や消費税の増税の影響も考えられますけれど、補助金があることでリフォームの内容にも変化が出てきているのではないかなというふうにも受け止めるわけです。建設業部会の制度の継続を希望する意見の中に補助枠の拡大を求める声があったとお聞きをしまして、直接行ってお話をどのようなことであの意見を言われたのかお聞きをしに行ってみました。そこでお聞きしてきたことは、まあ物価の上昇と消費税がまあ8%になったということで、仕入れの費用が掛かる、そのために工事費が高くなってお客様の負担にもなっていると。是非、消費税を8%になっているので対象となる工事費の5%の補助率を3%引き上げてほしいというふうに言っておられました。それから全体のそういうわけで工事費が高くなっているんで上限の100,000円を引き上げてもらえないかと、そんなことも言っておりました。それからもう1つは、対象となる工事の内容ですね、見直しをしてほしいと。でその中でまあ身近といえば身近な問題なんですけれども、例えばですね、カーテンレールは補助の対象になるけれどカーテンは対象外になっているそうです。ですけれども工事を業者の皆さんにしてみるとカーテンとレールはセットで工事も引き受けていますし、そのものを受けているのにカーテンレールは補助だけどカーテンはダメといわれるのは非常に納得できないと。1つの工事として認めてほしいとこんなことも言っておられました。まあ他にもあるかと思えますけれども、具体的に例として挙げられてこんな声があるというふうに言われておりました。業者さんの要望意見というのはまあ住宅リフォームをするための制度を活用する、やっぱり住民の皆さんの利便性を優先するというところにあるというふうにお話をしながら感じました。やっぱり顔の見える中での関係ですので、本当にそういう点では住民の皆さんを思いやってお互いにいい仕事をしたい、そういう思いとが合致しているのかなあというふうに受け止めました。こうした中で社会状況も物価の上昇や消費税も上がっていることですので、是非私は利用しやすい制度に見直しをしていく必要があるというふうに感じて帰ってきたところですが、いかがでしょうか。今後継続をするというふうにお聞きをしましたが、内容についてのお考えをお聞きしたいと思います。

町 長

答弁の前後、ちょっと食い違っていて、失礼をいたしましたけれども、内容的にはまあひとつこの制度、評価もいただきましておりますし、私もそのように理解しておりますので、継続していくことがいいのではないかなということと、それからあの確かに消費税、物価等ありまして引き上げることは利用者の皆さん方にとって大変いいことだと思いますが、ちょっとあの政策的な部分が入っておりますので、この場でまたそれぞれの担当受け止めてですね、十分また新年度予算編成の中で検討していただくことがよろしいのではないかなというふうに思っております。それからちょっと私の希望でありますけれども、今あの

メニューの、対象メニューいろいろあったと思いますが、是非ひとつあの耐震的な対応の中で塀の建て替えも入っておりますし、それから下水道事業への引き込み事業、工事これも入っておるかと思しますので、是非ひとつまたそうした考え方促進のためにも積極的に取り組んで活用いただきたいなということを申し上げておきます。

三浦議員

あの是非ねあの今町長も言われましたけれども、飯島町は他所と違って塀にも補助をするということで、本当にあの良いことをやっていると思っておりますし、自慢だと私も思っております。であの耐震という点なんですけれども、あの耐震シェルターっていうのがあのありまして、寝室に設置をするという住宅リフォームだそうです。これはあの全国的にはそこに補助をしている自治体やあの県もあるようなんですけれども、あのまあ特許もあるものもあるのかその辺は私はよくは知りませんけれども、あの寝室にまああの家全体を治すというわけにはいきませんが、病気で寝ているとか、寝ている間とか、そういうときにあの地震が来て家が潰れたときに自分の寝ているところは安全に守られるというための、あの部屋の中にもう1つの部屋を作るというか、あの潰れてもそこは寝ているところは潰れないと、そこは助かるというものなんですけれども、そんなのがあります。それはあの鋼鉄製のものもありますし、木製で作っているところもあるようですけれども、あのまあ今町内の業者の皆さんがそれができるかといえばちょっとあのなんとも言いようがないんですけれども、あのそういう研究もしながら業者の皆さんが住民の皆さんの命を災害から守るという点でも研究をしていくものになればいいなあっていうのは私思っておりますし、是非そういうことも視野に入れた今後のあのメニューというかその工事の対象を検討をしていただきたいと思います。あのホームページを開いていただきますと耐震シェルターっていうのを開けてもらえばそんなのが出てくると思うんですけれども、あのまあ介護が必要な方だったり、お年寄りですぐ逃げることができなかつたり、まあ家をしっかりと改修して安全な耐震のある家に直すということは、本当にあのこの経済的に厳しい中では出来にくいということを思いますけれども、セットでお安いところで20何万、300,000くらいであの枠組みができて、というようなことも紹介もされておりました。であのまあ町内業者の皆さんが対象の住宅リフォームの飯島町の制度ですので、そんなあの是非町内でそういうことを業者さんが開発してほしいなあっていうふうに話をしながらあのお話を聞いてきたんですけれども、是非そういうことも視野に入れたあの広い目でまた検討をしていただきたいと思いますというふうに思います。どうでしょうか。

町長

あのお話のあったようなこのシェルターなるものが対象にするということは、大変結構ないことだというふうに思いますので、また施策としてあの全体の見直しの中でまた研究させていただくと同時に、あの業者の皆さん方にもその技術対応ができるかどうかということも是非ひとつまた研究しておっていただきたいと思いますというふうに思います。

三浦議員

大変あの前向きに答弁をいただきました。是非あの住宅リフォームもいろんな立場で、飯島町のこれからの下水道事業も本当にあの重要な事業でもありますし、繋ぎ込みも必要だと思えます。また耐震の問題では自分のみならず、先ほど町長言われましたように、塀のようにたまたまそこを通行している人があの被害に遭うというようなことがないような対策としては、非常に有効な内容だと思えます。今後に向けて是非あの検討を重ねていただいて良いものにしていただきたいと思いますということを延べまして質問を終わりたいと思えます。

議 長 ここで休憩をとります。再開時刻は10時55分といたします。休憩。

 午前10時39分 休憩

 午前10時55分 再開

議 長 休憩を解き会議を再開します。一般質問を続けます。

 8番 浜田 稔 議員

8番

浜田議員

 それでは通告順に3件質問をいたします。最初の質問は町内企業への支援に関する内容でございます。過日、飯島町商工会等の懇談会を行いまして、まず工業部会から各種展示会への出店補助の充実を求める要望がございました。そこでまず最初にこれまでの補助の実績、またその成果、また補助への考え方について全般的な考え方をお尋ねしたいと思います。

町 長

 それでは今議会一般質問の最後ということで、私のまあ12年間大変お世話になってまいりました議会の一般質問も本当に最後の最後を迎えたわけでありまして、紐解いてみましたら浜田議員さんで444名目ということになるようございました。そういう意味で浜田議員に対しまして感慨を持って誠心誠意お答えをしてみたいと思いますのでよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

 先ず町内企業への支援強化策について、この飯島町商工会工業部、各展示会への出店補助の件でございます。まああの懇談会されたようございまして、これを期待するところも大きいというふうにお聞きをしておるわけでございますが、町では従来からこの製造業の皆さんが工業出展等へ展示する場合のこのブース料を基本といたしまして補助金を支援しております。毎年商工会を通じて500,000円という枠でまあ広報してまいりましたが、近年はあの海外の工業展なんか非常に多くなって機会が上がってきた。そういう出展またする動きもあるというようなことの中で、大規模な工業展なんかとなりますとブース料も高額になるというケースもお聞きしております。従ってあの状況によっては補正予算で対応させていただくというようなこともございました。工業関係以外でも食品や農産物を売り込むための展示会も増えてまいりましたが、自社製品を売り込んで新たな取引につなげる、こういったまあ意欲的な企業の取り組みに対しましては引き続き支援をしていくことがよろしいと必要というふうを考えておりますので、そうした効果も期待をしながら、またあの新たにいろんなあの範囲も多岐に亘ってきたこの工業展だそうでございますので、その対象業種の拡大も視野に入れながら予算措置を講じることがいいんじゃないかというふう考えておりますので、そのようにまた対応することになると思います。今あのその実績等この商談の成立した状況というものも、ちょっと私ども詳しく承知しておりませんが、お答えできる範囲内で実績、商談成立状況等を担当課長の方から説明させていただきます。

産業振興課長

 それでは実績について説明申し上げます。15年ほど前ですけども、その当時はあの浜松等に出席しておりました。その後、横浜、東京等に移しまして、現在は東京を中心として展示会に出展しておまして、それに対して補助をしているという状況であります。細かい内容につきましてはあのまありーマンショックの前後につきましては景気の冷え込み

ということもありましたので、埼玉を中心にブース料の安いところで対応してきたところでありまして、景気がいくらか上向いてきました24年からはまた東京のビックサイトを中心に機械要素展ということで、そちらの方に6月とそれから1月に開催されるわけですが、24年には6月、で今年も6月に出展、もう既にいたしました。で25、26と1月の開催の出展に参加しているところであります。出展企業の数につきましてはまああの4社から6社ということで、まあ残念ながらあの出展企業、固定化しているような状況が続いているところであります。ブースにつきましてはあの3日間開催されるわけですが、大体60,000人から80,000人の来場者がありまして、町ではあの町の企業の方につきましては県の共有ブースということで出展をしております。コマの単価につきましてはあの1社当たり220,000円ということで、本年度はちょっと若干高くなりまして350,000円ほどでありますけれども、それに出展者数を掛けた金額がブース料という形になります。その他あの出張関係の費用ですとか、展示するためのまああの照明等の費用が掛かっているところであります。商談の状況でありますけれども、こちらにつきましては試作依頼ですとか見積り依頼、図面の検討、こういったところがまあ数件あるという状況であります。あと訪問を約束されたり、まあ当然あのブースに来ていただくと名刺交換をするんですけれども、名刺交換はかなりの数に上っているところであります。出展される協議につきましてはやはりあの自社で待っている、そういう待ちの営業からやはりあの攻めの体質、こういった出展することによって全国的なまあ展開、そういったことが期待できるということで、まああの攻めの体質への切り替えが効果的な現れたというのが出ています。またあのやはりあの地道な取り組みでありますので、1回の出展ではなくてやはりあの数年に亘る出展によって、まあ継続的にこういった機会を持ちながら、新規営業の開拓をしていきたいということで取り組んでおられるということであります。先ほど町長申し上げましたように、やはりこういった機会を通じまして、飯島町の優秀なやはり技術力を全国にPRしていくということが非常に重要かと思っておりますので、引き続き対応させていただきたいと思っております。

浜田議員

まあ出展を通して攻めの体質に変わっていく企業さんもあるというお話でありました。また全体に前向きなお話をいただいたように思いますけれども、今のお話をお聞きしてですね、ひとつあの力のある企業にまだ限られているのかなという点が課題かなと。先般あの鳥居原のある会社さんがユニークな技術をビックサイトでですね、単独で展示して非常に大きな反響を得たという話も伺っております。ただまあそんなように本来であればですね、実力で出展出来るに越したことはないというふうに思います。ただ一方で東京一極集中に対してですね、町として町全体の工業の発展を図ることは、町内の経済循環を底上げすることだという意味でですね、それぞれの会社にすべてを委ねるということに留まらないのが本来であろうなというふうに私は思います。でこの展示会にはですね、あのまあテレビなんかで見ますと非常に広大なブースに大勢の人たちが行き交うということで、何をやっているのかというふうな印象もあるわけですが、私自身あの自分で説明員も何回か勤めたこともございますし、おそらく20数年間通っていたという経験もあって、まあそれに照らして考えるとですね、この展示会の意義というのは非常に大きいというふうに個人的には考えています。まず第1点はあの業界の大きな流れを直接肌で掴んでですね、自分の会社の立ち位置を正確に知ることができると、まあこれが大きいというふうに思っ

ています。最近はそのエネルギー関係の展示会に行っているのもその例をとりますと、例えばソーラーパネルや電池はですねもう性能競争の展示はほとんどございません。如何に早くあのパネルの杭を打てるかとかですね、それから個人住宅の屋根にあの瓦を上げるのにもっと大型板の機械を提案してくるとかですね、それからあの電池の場合には大量に出荷のための抜き取りの検査ですね、品質検査をやるとか、電極の間に塗るペーストを如何に均一に平らに塗れるかとか、はっきり言って売電価格が下がる前にどれだけ早くビジネスをやるかということに、すべて業界がフォーカスしている、まあこんな流れが見えてくるわけです。一方例えばその、あの太陽電池じゃなくて二次電池の次にこの技術かなというふうに思っていたブースをいくつか回って見るとですね、実は二番手に甘んじるというか、隙間で生きていくというふうな答えがどこの会社からも出てきて、ああこの産業は頭打ちかなと、まあそんな印象を得たり、それから今課題になっている燃料電池ですね、電気自動車になるのか燃料電池自動車になるのかというふうなブースを見て回るとですね、まだ大学研究所の展示が非常に多いと、まだまだ方向が絞り切れていないのかなと。ただその一方でドイツの検定会社、あのISOみたいなことをやる会社がですね非常に大きなブースを構えていて、水素を運ぶ鉄管の品質ですとか、バルブの規格ですとか、そういうことにアピールをしていると。つまり産業がもう離陸のための助走段階に入っていると、まあそんなことが分かるというふうなことでですね、そういう業界の大きな流れを見ていると自分の会社は、じゃあその急成長飽和から淘汰に移る段階でどんな振る舞いをすればいいのか、あるいは離陸するときに早めに入った方がいいのか、あるいは一定の段階で参入するべきか、そんなようなことの判断材料になるんだろうというふうに思っています。もちろんあの展示会というのはそういう情報だけではなくてですね、一方、展示する立場から見ると、偵察のために同業他社を回ると打ちのめされてですね、帰ってくる場合があると、いうのをしばしばあるわけで、そんなことも含めてあの非常に刺激に満ちた場所ではないかなというふうに思います。それから2番目の意義としてはですね、本音の情報が引き出せるということがあると思います。直接説明員と話をしてみますとその会社の自信度、それから裏付けのあり方、それからあの今後のまあロードマップといいますか戦略ですね、そんなことが聞き出せます。これはネットなんかでは直接見えない情報ですし、この説明員の自信のほどですとか、単に新入社員を出しているのか、あるいは本当に説明できる人間をブースに出しているのか、こんなことの見極めもできるという意味ではですね非常に価値のあるものだというふうに思います。で、3番目は言うまでもないことですが、何よりもまず出会いの場だということになります。で、視察に行く人間、見に行く人間はですね実は単なる物見遊山ではなくて実はかなり必死な場合が多いです。開発部門にしてもそれから生産技術部門にしてもですね、先ず業界全体の流れに乗り遅れてはいけなないので、本当に自分の会社は業界の流れに着いて行っているのか、それから他の会社と差別化というのがどうしても企業にとっては重要なわけですから、そのブースで展示している会社が大きい小さいに関わらずですね、ユニークなもの、それからコストや品質に自信のあるもの、それから新しい部品や材料、アイデア、こういったものを本当に必死で探し求めているというのが見に行く側のあの立場だということなんです。それに応える展示があればですね、それには相応しい反応が得られるんじゃないかというふうに思います。そんなわけで私はあのインターネットで5時間探すよりも、1つのブースで5分間の会話の方がで

すね、きちんとした突っ込みができればはるかに大きな効果が得られるのがこの展示会ではないかというふうに思います。そういう意味ではですね、あの質問自体はあの展示そのものの補助ということでありましてけれども、私個人的にはですね展示を前提として、例えばその前にあの視察の機会を補助して、実際にブースを見て回る目を養うということも実は同じくらい重要なのではないかと。もちろん旅費プラスαなのかもしれませんけれども、その先に展示があるという、ある意味での義務を背負ってですね、トータルとしてのその補助を行ってもいいのではないかというふうに、まあこの問題を考えながらつくづく思った次第です。実際あの新入社員のころは最初会場の広さに圧倒されて、パンフレットを山ほど集めてきて帰ってくるだけというあのこともありますけれども、まあそれも経験を積みばですね的確なあの展示の見方、それからブースの展開の仕方、これができるのではないかというふうに思います。まあそういう意味でこれまでもやってきているというお話でしたけれども、あの固定化の枠をもうひとつ広げてですね、町全体の企業を浮揚させるという意味でもう一步進んだ補助制度にしてはどうかというふうに思いますけれども、改めて町長の見解をお伺いしたいと思います。

町長

まああの様々な展示会のブースを通じて、その成果、効果というものが大変期待されるんだと、得るところは大きいというまあお話で、その通りだというふうに思います。非常にあの今グローバル的なひとつの世界観でのまあひとつの製造、物造りという形になろうかと思しますので、今お話のあったようなことにつきましてもまたしっかりあの所管とともに受け止めてですね、多様な1つの支援がどうできるのかということも含めて検討させていただきたいというふうに思います。

浜田議員

前向きのご答弁いただきました。あの先ほどのブース料、企業によって高いか安いかはそれぞれまあいろいろ見方があると思いますけれども、あのまあ実際に町内にはですね、これまで展示には出ていないかもしれないけれども、それぞれ技術や生産に磨きをかけられながら、まだ広く発信する機会を得ていない企業が少なからずあるのではないかというふうに私は思っております。ある、昔話になりますけれども、私の同僚が探し当てた材料メーカーがございましてですね、とてもユニークだったんで聞いてみたらなんと会社から30分ほどのところにあったという例がございました。知らなかったんですね。でブースに行って初めて分かったというぐらい、あの出会いとはそんなもんじゃないかなというふうに私を思っております。そういった意味でですね、あの限られた企業に限定されずに飯島町が企業全体として他の市町村よりも高い感度で全国に打って出るためのですね、まあ先ほど答弁の中にもございましたけれども、攻めの事業開拓に後押しをしていただきたいということをお願いして次に移りたいと思います。

次は同じく懇談会で出た話ではありますけれども、あの建設業の公共事業にですね、もう1つ後押しをいただきたいという話がございました。もう少し大きく見てみますと、現在まあバブル崩壊以後ということになるかもしれませんが、全国で様々な産業の寡占化が進んでいるというふうに私は感じています。特に有名なのは金融機関で、以前は30以上の都市銀行がありました。で護送船団方式と言われてですね、一番遅い船足に合わせて一艘も遅れを出さない倒産する銀行はない、という時代がずっと続いてきたわけですが、1990年のバブル崩壊でこの護送船団方式は事実上解消されて、現在はもう3大メガバンクに収束されてしまったと。途中いろんな銀行があったけれどももう名

前が覚えておられないくらいですね。で寡占化はもちろん他の鉄鋼業界など重厚長大に限らずですね、流通やディテールにも広がっていることは指摘するまでもないと思います。先般の懇談会ではお酒の卸も非常に限定されてしまったと、選ぶ側から選ばれる側になったのかなという不安を私は感じながら聞いていたわけでありまして。そういう意味での競争力強化のために当然寡占化というのは進むわけですが、それはいいことばかりではないというふうに私は思っています。具体的に例えばアメリカの今のあの宇宙ステーションへの打ち上げをやっているのは新興企業です。それからフェイスブックですとかその他の産業もですね、実は寡占化したところから出てきているわけではない。でそういう意味ではですね寡占化ばかりが競争力の源泉ではないんじゃないかというふうに思っています。でそういう意味で巨大産業ではないところがそれなりに頑張るといことは、とりわけ地方の経済にとっては重要な意味を持つのではないかと思います。地場産業が縮小していけば雇用の機会が減ってですね、更には先ほどアメリカの例で紹介したような新しい産業の芽も摘むようなことになりかねない。で、特にこの飯島町内にとってみれば経済循環のポンプとしての企業の役割というのは極めて大きいわけですから、そこが弱くなっていくということはですね、工業部門、建設部門、併せて非常に重要な問題になることは言うまでもありません。で、話を戻してその公共事業、特に建設部門でありますけれども以前に比べてやはり国の受注が減っていると、これはあの一時公共事業をやりすぎたのか、あるいは復興との兼ね合いがあったのか、あの人員不足があるということもその1つのあの背景だというふうに思いますけれども、何はともあれあの町のポンプになっている企業さんのですね受注の機会の拡大というのをやはりもうひとつ後押ししていただきたいというふうに思うわけです。地域貢献度でもって総合評価の落札方式で、町に貢献しているからという制度もあるようですけれども、調べてみますと多分1回ぐらいやっただけですかね、使いにくかったようですけれども、あのまあそういう中でですね、どんな策があるのかということについて町の建設業界の現状についてどんなふうに把握しておられるのか、またそれへの対応をどんなふうに考えておられるのかをお聞かせ願いたいと思います。

町 長

次のご質問は町内に還流する公共事業という点に触れられまして、まああの様々な公の物件調達もまあ含めての考え方になるかと思っておりますけれども、まあ町はあの予算執行に当たってですね、その財源ができるだけ町内にこの還流することはとても大切なことだというふうに、前々から私も思っておりますし、これはあの浜田議員、先般の中部伊那の研修会の折りに中島副知事が来て、まあいろいろあの壁もあるんだけれども、やはり基本としてそのことが地域創生、活性化につながるというような、ちょっと触れて講演があったことをご記憶かと思っておりますけれども、まあそういうことだろうというふうに思います。それである町では公共工事の発注や備品や消耗品などの購入につきましても、できる限りまあ町内業者に請け負っていただけるようにまあ配慮をしておるということではありますが、業務内容によっては町外の業者に見積り等お願いすることもあるということもございます、特にあの公共工事、大きくなればなるほど、まあこれはあの公共事業の入札適正化法という1つの法律がまあある訳なんです、最近はかなりあの国県の事業そちらへシフトを重きを置いて、まあ一般公募型というような流れになっておりまして、そこのまた中々隘路がまあこの還流と問題については地元がなかなか取れないというまあ悩みもあるわけでございます、ひとつの課題かなあということを感じております。で、まあこの予算

執行に当たっては経費節減は必要不可欠、これは大前提になるわけでございますけれども、やはりあのこの契約の透明性、平等性確保のためにも、ひとつのまあ見積りや入札によった基準で請負業者を決定するという事は、1つのルールでございましてけれども、その許される範囲内で今後とも町内業者の利用に努めてまいりたいというふうに考えておりますし、それから町民の皆様や町内企業のみなさんも是非、町内の業者を利用させていただくと、公、民間問わずですねそういう認識を持って対応していただければありがたいんじゃないかなというふうに思います。なおあの基本的なこの公共工事、備品あるいは消耗品購入といったようなことにつきましては、直接担当しております各課長からその考え方を補足して申し上げたいというふうに思っております。

企画政策課長

それではあの公共工事等の町の方で今行ってます基準を申し上げます。あの建設工事関係中心になりますけれども、基本的には地方自治法を基準にいたしております。でこれを基本にいたしまして建設工事等の入札参加資格審査委員会、それから指名業者選定委員会において方向付けをし、発注基準を定めているところでございます。で大きく分けますと一般競争入札、それから指名競争入札、随契という、この大きく分けて3つになりますけれども、先ず一般競争入札でございまして、20,000,000円以上の大きな工事を該当しております。ただあのこの中には地域要件なども参加資格要件に入れておまして、まああの大きな工事になりますと町外の方も参加資格があるということですので、地域要件を設けて「町内に本店、支店を有する」などを謳ったりしてございます。ただ内容によっては伊南管内のという地域要件も入れる場合もございまして。それから指名競争入札でございまして、1,300,000円を超えるもので20,000,000円未満ということでございまして、基本的には町内の業者5社以上の指名という形で行っております。その中でも発注金額によりまして事業者の格付けもございまして、ですのでそこら辺で指名業者5社以上を指名させていただいているというところでございまして。それから随意契約の関係でございまして、工事関係では1,300,000円以下のものということでございまして、まあ物件的なものも含まれますが、これはまあ地方自治法を基本といたしまして、町では随意契約のガイドラインを設定しております。基本的には町内業者ということでございまして。それからあのまあこれらの指名それから随契も、内容によりましては町内の皆さんではできないものもございまして。これらにつきましては先程町長も申し上げました町外の業者に指名又は見積もりを取る場合もあります。なおあの国の指導では広くオープンにということで、まあ町内にこだわらず発注しろという指導もございまして、町は基本的には町内の事業者が発注をするということを基本としております。なおあの消耗品等につきましても基本は同じでございまして、単価契約、会計課でしておりますので会計課長の方から申し上げます。

会計管理者

ただいま消耗品につきまして会計課の方でということでしたのでご説明申し上げます。基本的には今企画政策課長が申し上げましたように、町内業者を優先的ということでございまして、あの庁内で役場庁舎内で使う物品、又は学校、保育園等で使う物品については、主に使う43品目について町内2業者、また上伊那管内の3業者の5社で見積り入札をさせていただいております。町内の皆様においてはあの特に多く使う紙等については、あの町内の業者のご努力により例年入札に参加していただいて落札しているような形になっております。で、先ほど企画政策課長申し上げましたように、なかなか取り扱っている物品によっては町内だけで賄えないというようなものもございまして、それらにつ

いては駒ヶ根、伊那等の業者をご利用させていただいておるところです。また43品目以外の物品につきましては、あの特殊性のものがあったりとか、できるだけ町内で使えるようなことを考えて職員の方でも発注をかけているような状態でございます。以上です。

大変よくわかりました。実際あの単なる単価競争だけではない部分が当然あるし、まあそれについては配慮いただいていると思いますけれども、あのやはり町内還流という大きな見方での検討をお願いしたいと思います。ずっと以前にあの鳥取県のある市町村がですね、京都大学や鳥取大学の支援を受けて町内の経済循環表で分析をしているというような例もありました。そういうことをやってみるとまた違う姿、違う基準も出てくるのかなというふうに思っていますけれども、まあ今回の質問の範囲を超えていますのでまた別の機会にしたいと思います。ともあれですねあの特効薬はないかもしれませんが、例えば建設業の充実に関して言えばですね、やはりあのいわゆる悪い意味で言われる公共事業ではなくて、真に町のインフラになるような公共事業の拡大、老朽化対策や防災ですね。先ほどの住宅リフォーム含めてですけれども、それからなるべく事業を細かく分けて町内企業が規模や分野に応じて受注する機会を拡大する。それからもう1つ逆の問題でですね、まあ先程あの適正化基準という話もありましたけれども、県や市に比べて飯島町の資格基準というのは非常に曖昧なのではないかというような声も聞こえてきます。いわゆる歩切りが大きすぎるといふような、この辺についてもですね逆にあの公契約条例というふうな考え方もあって、品質を維持するためには適正な支払をすべきだという動きも一方であるわけですから、町内事業者に適切な事業の対価が戻るような検討もしていただきたいものだというふうに思っております。まあいずれにしてもそういったことをこつこつ積み上げながらですね、進めていきたいと思えますし、先ほどの本多議員の質問の中で100,000,000円の減の話がありましたけれども、できるだけ前向きの形で執行していただきたいものだというふうに思います。時間を押してまいりましたので、先程の前向きのご答弁を具体的に執行していただくことを改めてお願いして次の質問に移ります。

2番目の質問は、あの訓練か行事かということで、防災減災の訓練に、いわゆる訓練に関わる質問であります。で昨年の本郷区では、他の区でもどこかあのなさったところがあるかと思えますけれども、防災についての研修会を行ったことがありました。でその研修会の内容とですね、それから町で行っている防災訓練との間にあまりにも大きな格差を感じ続けてきました。でこれはあの私個人だけではなくて、耕地総代も似たような感想をもらしています。で先般あの議会で神戸、淡路島を訪れて改めて大地震のすさまじさを感じましたし、昨日の何でしたっけ、鬼怒川ですか、の氾濫というのもあったわけですが、そういったことを考えてみるとですね、やはり本気での防災をしなければいけないのではないかというふうに思ったわけでありまして。でその研修の中で言われたのは、まず減災だという指摘でありました。で神戸の震災の場合には6,000人以上の方が亡くなったわけですが、亡くなった方の98%が家の中だったということです。で88%が圧死、建物が潰れて亡くなった。あとの10%が焼死、挟まれたまま逃げることができなかったということでもあります。で、つまりですね集会所に集まってからどうするこうするというのは言ってみれば事後的な話で、一番大事なところ、つまりその災害の直後にどうやって命を助けるかというこの基本的なところに取り組まない限り、本当の意味での防災減災にはならないんじゃないかと。ところが非常に率直に言えますけれども、町の防災の

取り組みはですね、この個人的な問題というのを、今の基本の問題を個人任せにしているんじゃないかというふうに私は感じます。例えば寝室の耐震補強、家具の転倒防止や、家具を寝室から遠ざける別の部屋に動かすこと、非常灯を必ず設置すること、出入り口への通路を確保すること、まあこんな点についてですね、町は例えば町民全体の状況というのは本当に把握しているのかと、これを私は大変疑問に感じました。こういったことでですね、先ず一番基本の減災、特に一番初期の減災について、これまでどんなふうに考えてこられたのか、また実際に把握してるのか、この辺についてお尋ねしたいと思います。

町 長

次のご質問は防災に対して、まあ特にあの訓練の中身の問題をまあご質問いただいておりますかと思えます。まあ初期的、特にあの減災に向けた日常活動が少し弱いんじゃないかということに派生してでございます。まあこれはあの災害を想定した防災訓練でありますので、どうしてもこの発災時からの後の対応を訓練することが多いと、いうまあ現実があるわけございまして、一方であの被害を最小限に抑えるという基本的な考え方から、減災に向けた活動、今お話のように大変重要であるというふうにまあ認識いたしております。そこであの町の防災訓練は本年度も地域分散型で、各区の自主防災会が中心となって、それぞれの耕地・自治会の自主防災組織がそれぞれの特徴を生かしたまあ自前の要素を取り入れた訓練を行っていただいておりますと、まあこれはこれであるのよろしいんじゃないかというふうに思いますし、でその中でもあの今年に新たに更新した防災ガイドブックの読み合わせをすることで、防災は元より減災についての学習会を実施していただいたところもあるということでございます。で今後も多くの自主防災会や家庭で日常的に読み合わせや学習会を実施をしていただく中で、減災についての意識やノウハウを高めていただけるものと期待しております。それからまた町でも防災出前講座の学習会の要望があれば、いつでも自主防災会に出向いておりますので、併せてご活用いただきたいということでございます。従ってあの訓練の想定の中では特に初期対応、まあ避難の部分に重きを置いて、その発災の後の対応というのはちょっと今までのこの訓練の中でのメニューの中には少しまあ想定していないという部分があります。まあちょっと緊張感の問題もあろうかと思えますけれども、やはり今後も、昨日、今日のこうしたあの東北、関東のあれを見えますとですね、なかなかこれは想定通りにはいかないということが想定されますので、また総合的に検討していく必要もあるというふうに思っております。

浜田議員

お答えではありますけれども、率直に言って全然私は現実的だと思っていないですね、あの防災訓練というのは、あの実際訓練がですね実態から離れているということ、要素を非常に強く感じました。訓練というのはあくまでも現実には災害が起こったときに、どういうふうに行動するかということに即すべきだということに考えています。人間はパニックに陥ると判断力が非常に低下します。先般もあの火事があった時にですね、普通だったら119番に電話するんですが、その番号が突然思い出せなくなったという方もいらっしゃいました。それからあの日頃公民館に逃げるんだという訓練をずっと繰り返してきた地域がですね、その訓練でその公民館そのものが水没してしまったと、にもかかわらず住民がですね腰に浸かるまでその公民館に向かって歩こうとしたと、そのくらいで日頃の習慣付けというのは恐ろしいものだと、それが最も端的に出たのが釜石市の例ですね。ここはあの本当はこの上へ逃げるはずなんですが、あのちょうど海岸地帯ですから、それだと参加者が少なくなるということで市の防災会館かなんかに集まることにした。それは海岸際

にあるわけです。で実際に津波警報が発令された時にですね、市民の多くはこの会館に向かって集まってしまったと。そこに大津波がやってきて100人以上の方が亡くなった。私も現場に行って見てきましたけれども、訓練というのはそういうもんだというふうに私は思っています。ですので、実際の本番と訓練を区別するなどということは決してやってはならないんだというふうに私は思います。でそういう意味で見えますとですね、まあ今回とんでもないことが実は私の地域でも起こっていました。本郷区ではですね公民館の安全性が確保されたということで、私は一番上の本一耕地にいますけれども、各耕地からですねあの通信手段が断たれたときには徒歩で本郷公民館に集まって報告をしると、現場を知っている人間から見れば冗談じゃないです。これほど危険なことはないと思っています。どこの坂道を見てもですね危険極まるどころです。こんな訓練をしていいのかということですね。それからあの日赤奉仕団をはじめ区の本部にかなりの人たちを集めていますけれども、これはあの人員構成から見るとやはりとんでもないことです。これは次にお話をしますけれども。それからあの訓練に先立って耕地の中での議論の中ではですね、じゃあ今日は訓練だからこうだけ本番の時にはどうするんだという質問が数多く出ました。そのくらい訓練と実際の事故との間には大きな乖離があるというふうに私思っています。で、何故じゃあ区の方に大勢の人間が集めることが不合理なのかということをちょっとご理解いただきたいために、グラフを作ってきました。これがお手元には資料があるかと思えますけれども、ある100人の耕地があったとした場合の人員構成です。人間たぶん100人いると思いますけれども、あの黒でほぼ塗りつぶした人たちはですね、地域に昼間も居る方です。で白い方、これは昼間はどこかにお勤めに出ている方、あるいはあのまあいろんな事情で地元にはいらっしやらない方、で、灰色横線が入ってる方、この方々は要支援、車いすであったり寝たきりであったりこういう方々です。で、75歳以上の方はほとんど地元にはいらっしやいますけれども、その内5人が要支援。で実際に昼間居る方は21人、これは女性も含めてですけれども21の方が昼間に災害が起こった場合にはですね実際に動ける方です。で60歳から74歳の間にも1人要支援の方がいらっしやいます。20歳未満、これはたぶん幼児だと思えますけれども乳幼児が居る。まあこの方も要支援ですね。こうして見た場合に、例えば豪雨、台風あるいは地震で地割れ、このときにこの21人がですね、に何ができるかということを考えてみると、多分6人の要支援者を運び出すだけで、それから75歳以上の方々を安全なところに誘導するだけで、この21人の方々のですね仕事は手いっぱいだろうと思います。担架は4人で運ぶのはもう限界ですね、60キロだとしたら片手に15キロ掛かるわけですから、それで一体何メートル動けるのか、坂道をです。ましてや雨が降っていたり倒木があったりした場合にですね、この要支援者と75歳以上の方を安全な場所に避難させるのがですね、その地域でやれるベストの避難ではないかというふうに思います。でその飯田のボランティア協会の方のセミナーを聞いた時にですね、こう2つ非常に強烈なことをおっしゃっていました。1つはですね、火を消しに行く必要ないと、今は自動的に消火設備になっているからそのために危険を冒す必要はないと、びっくりする答えだったわけです。それからもう1つはですね、地域の全員が集会所に集まることができればその防災はもう二重丸だと、花丸だというふうにおっしゃっていました。そのくらい安否の確認、それから倒壊したところからの救出、これをやるだけでですね、あの防災訓練は100点満点だということがその方のお話だったわ

けです。ついでにもう一言おっしゃっていました。避難所で餓死した方はいないと。そのくらいあの避難所に人を集める、ここに集中することですね、私は防災の一番基本は果たすのではないかと、それ以前に冒頭にお話したように、あの家屋の中での死亡、あるいは安否確認ができないことに対してどうするか。それから先程徒歩でと言いましたけれども、あの中央部分、町なり区との通信手段、下から上への通信手段をどう確保するか。この3つを確保すればですね実は飯島町の防災というのは100点満点ではないかというふうに思うわけです。それに比べて今の防災の計画というのはあまりにもいろいろなことをやり過ぎてはいないだろうか。消火栓もそうです。本郷区では1キロ×1キロ近い広いところでですね20本弱の消火栓がありますけれども、そこにホースを伸ばしてみても届く家はほとんどありません。ここの点検に経費をかけるよりも可搬型のポンプを1台持つか、仮にそうだとした場合でもこの人員ではですね、ホースを伸ばす人員も現実にはないんだということをご理解いただきたい。そういう形式的なことをやるよりもですね、本当にあの根本から今の防災のやり方を見直すべきだというふうに考えますけれども、町長の見解をお伺いしたいと思います。

町 長

まああの通告をいただいております内容からまあ派生してですね、まあいろいろ現実的なまあお話を今お聞きしておりますわけでありまして、あのこうしてまあ資料の実態を見せていただいたり、それからまあ防災訓練、今までの訓練、それからこれはあの訓練マニュアルとかハザードマップであるとか、まあその上には防災計画とかまあいろいろあるわけでありまして、まあ訓練としては100点満点飯島というようなことでありますが、中を紐解いてみますと、これはよりあの実践的に同じハザードマップでもやっぱり地形によってその対応は違うだろう、違わなければ対応できないだろうというようなこともご指摘いただいた、その通りだというふうに思いますので、いずれにいたしましてもこれはあのとにかくあの災害が起きた場合に、あるいは想定される場合には、それを統率して避難をすると、と同時にあの自らの命は自分で守るというその先入観念を植え付けた上で、やっぱり地域としてどう安全対策をとるかということで、まあそこにはあのリーダーも必要だというふうに思うわけですが、併せて動けるにも動けない人もおるんだと、それをどう安否確認してサポートするかということで、いろんなことを組み合わせながらやっていかなきゃならないことは実感するわけですが、通り一遍のこの防災訓練だけではそのことは、あの昨日、今日のあれもテレビで見ても相当なまあ防災訓練をあれ河川、あるいはあの津波の、静岡地震なんかもそうだと思いますけれども、ほとんどその想定外でまあ対応せざるを得ないということでございます。従ってあの今お聞きしたこうしたあのことも、ご指摘いただいたことも含めてですね、よりまあ実践的に、要は少しでも被害をあるいは人命を最小限に食い止めて、そのことをもってまあ勇気を持ってやるということが大切ではないかというふうに思いますので、一気というわけにはいきませんが、徐々にまた地域の実情に合った形でひとつこの防災のあり方というもの、それから訓練のあり方というもの、場合によってはハザードマップの地区別的なものも考えていかなきゃいけないのではないかとこのように思います。

浜田議員

まああの私が本当の最後の質問者になってしまったわけですね、そういったことも含めて今回指摘させていただいたことはまあ課長の皆さんも聞いていただいているわけですので、是非積極的に申し送っていただきたいと思います。

の防災組織を見てもみしたらですね、実は充て職だらけでした。で半分ぐらいが充て職でした。組織は山ほどありました。物資から通報連絡から救出から、とてもこの人員構成ではですねそれほどきれいに作り上げた数ある組織は運用できないというふうに私は感じた次第です。そんなことも含めて実は3番目の質問も用意いたしましたけれども、あの町の構成も変わるという流れの中です、あまり踏み込んだことは申し上げても仕方がないかなという思いもありますので省略したいと思います。本当に私自身が最後の一般質問者になってしまったと、これは単に仕事が遅かったからそうただけなんですけれども、まあいずれにしてもですね、あの先の6月議会でこの近隣の町議がこの議会の一般質問を傍聴しておりました。その中で私にある印象を漏らしていたんですけども、飯島町長の答弁は非常に誠実だったと、そういう感想を持ったというふうに述べておられました。で私も同感でありましてですね、あのそれぞれ見解の違いはあっても常に議員の一般質問に誠実に向き合って答弁をなされてきた町長に敬意を表して質問を終わりたいと思います。

議 長

以上で本日の日程は終了しました。これをもって散会とします。ご苦労様でした。

午前11時42分 散会

平成27年9月飯島町議会定例会議事日程（第4号）

平成27年9月18日 午前9時10分開議

1 開議宣告

1 議事日程の報告

- 日程第1 諸般の報告
- 日程第2 第3号議案 平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程第3 第4号議案 平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第4 第5号議案 平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第5 第6号議案 平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第6 第7号議案 平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第7 第8号議案 平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第8 第9号議案 平成26年度飯島町水道事業会計決算認定について
- 日程第9 第17号議案 平成27年度飯島町文化館防災機能強化事業契約の締結について
- 日程第10 第18号議案 財産の取得について
- 日程第11 請願・陳情等の処理について
- 日程第12 議会閉会中の委員会継続審査について

○出席議員（12名）

1番 本多 昇	2番 北沢正文
3番 久保島 巖	4番 折山 誠
5番 橋場みどり	6番 堀内克美
7番 三浦寿美子	8番 浜田 稔
9番 中村明美	10番 坂本紀子
11番 竹沢秀幸	12番 松下寿雄

○説明のため出席した者

出席を求めた者	委任者																
飯島町長 高坂宗昭	<table border="0"> <tr> <td>副町長</td> <td>箕浦税夫</td> </tr> <tr> <td>総務課長</td> <td>宮沢卓美</td> </tr> <tr> <td>企画政策課長</td> <td>鎌倉清治</td> </tr> <tr> <td>住民税務課長</td> <td>大久保富平</td> </tr> <tr> <td>健康福祉課長</td> <td>宮下 寛</td> </tr> <tr> <td>産業振興課長</td> <td>唐沢 隆</td> </tr> <tr> <td>建設水道課長</td> <td>田沢義郎</td> </tr> <tr> <td>会計管理者</td> <td>堀内喜美江</td> </tr> </table>	副町長	箕浦税夫	総務課長	宮沢卓美	企画政策課長	鎌倉清治	住民税務課長	大久保富平	健康福祉課長	宮下 寛	産業振興課長	唐沢 隆	建設水道課長	田沢義郎	会計管理者	堀内喜美江
副町長	箕浦税夫																
総務課長	宮沢卓美																
企画政策課長	鎌倉清治																
住民税務課長	大久保富平																
健康福祉課長	宮下 寛																
産業振興課長	唐沢 隆																
建設水道課長	田沢義郎																
会計管理者	堀内喜美江																
飯島町農業委員会 会長 森本令子	飯島町農業委員会事務局長 (産業振興課長兼)																
飯島町教育委員会 委員長 下島恭子	<table border="0"> <tr> <td>教育長</td> <td>山田敏郎</td> </tr> <tr> <td>教育次長</td> <td>小林美恵</td> </tr> </table>	教育長	山田敏郎	教育次長	小林美恵												
教育長	山田敏郎																
教育次長	小林美恵																
飯島町監査委員 堀内克美	飯島町監査委員事務局長 (議会事務局長兼)																

○本会議に職務のため出席した者

議会事務局長	宮下 務
議会事務局書記	宮下 弥紀

本会議再開

開 議
議 長

平成27年9月18日 午前9時10分

おはようございます。

町当局並びに議員各位には大変ご苦労さまです。本日をもって今定例会も最終日となりましたが、会期中はそれぞれ本会議をはじめ各委員会における付託案件につきまして大変ご熱心な審査にあたられ感謝を申し上げます。

去る8月31日の本会議におきまして付託いたしました決算案件7件、請願・陳情案件1件について、それぞれの委員長よりお手元に配布のとおり委員会審査報告書並びに請願・陳情審査報告書が提出されております。また本会期中に町長よりお手元に配布の議案2件の提出がありましたので、本日は委員長報告に基づく審議のほか、これらの案件につきましての審議を願うことになっております。各案件につきまして議事運営の諸ルールに則り慎重にご審議の上、適切な議決をされるようお願いをいたします。

それでは、これから本日の会議を開きます。本日の議事日程については、お手元に配布のとおりです。なお先程の町長提出の2議案の審議につきましては、日程第9及び日程第10としておりますので申し添えます。

議長から申し上げます。橋場代表監査委員から欠席の届け出がありましたのでご報告いたします。

議 長

日程第1 諸般の報告を行います。

議会閉会中に全議員視察研修、委員会による視察研修が実施されておりますので、代表者から報告をいただきます。初めに全議員によります視察研修について研修委員を務められました坂本議員から報告を願います。

坂本紀子 議員。

10番
坂本議員

先日、7月6日から3日間、議員全員と副町長と共に島根県の隠岐諸島の3町1村の1つ、海士町にまちおこしの視察に行ってきました。本土から高速フェリーでも2時間掛かり、冬場は欠航するときもあるというハンディキャップのある町です。3番目に大きな島で米も水も魚介類も豊富でコンビニもなく、信号が1つだけある美しい島でした。平成の合併が叫ばれたころは町は地方債が膨らみ破たん寸前でした。平成14年、地縁、血縁を否定した新町長当選から大きく町が変わってきます。県から3町1村の合併を強く進められていましたが、自立の道を選び、職員の意識改革、年功序列を廃止した適材適所主義で改革を進めます。その後、国の三位一体の改革で地方交付税の大幅カットにより、平成20年には財政再建団体へ転落が予想されることとなり、更なる大きな行財政改革を行いました。町長以下3役の給与カットを50%にし、共に職員も22%カット、議員、教育委員、区長も40から10%カットとし、職員数の見直しを図ります。カットした一部を施策に反映してほしいと職員や議会から提案があり、健やか子育て支援条例を制定し、あとは産業振興に当ててきました。町民と危機感を共有化する中で住民意識も大きく変わってきました。第1次産業の再生で島に産業を作り、雇用の場を増やし、外貨を獲得して島を

活性化することを核とし、内部部局の職員を減らし、産業振興と定住対策に重点を置く課を設置します。メインターゲットを東京とし様々の施策を打ってきています。隠岐潮風ファーム、以前は飛騨牛、松坂牛などになる子牛を出荷していました。ここは海の幸が豊富で肉を食べる習慣がなかったからです。それではだめだということで成牛にして牛のまま東京食肉市場まで届け、隠岐牛として買い取ってもらっています。遊休農地や担い手不足の解消が図られ、Iターン3家族が戻ってきました。県の補助金をもらいながら平成15年から立ち上げている事業です。ふるさと海土、海土町で獲れる農水産物を特殊冷凍して島外へ発信し、ブランド化の確立と外貨獲得を目指すということで、国の補助金約2億円と町債約2億円を掛けて平成16年から開始されました。脱サラ、Iターン者の考案で築地市場に岩牡蠣を出荷して所得向上を図るというものです。養殖岩牡蠣ですが売上も伸びて現在1億600万円という売上となり、私たちが見学に行ったところでも3人の若者が働いており、よそ者、若者、ばか者がゼロからスタートした事業でした。ほかにもいくつも事業はやっているわけですが、5年で120世帯202人のIターン者を増やし、国内や海外からの視察者を増やし、交流から新しい価値が想像され活力が生まれてきています。説明をしていただいた課長さんは立て板に水のように、2時間余りでしたが休むことなく情熱を持って話され圧倒されました。動かなければ変わらない。便利なものはなくてもよい。生きるために大事なものはすべてここにあると話された言葉は深く印象に残りました。

7月8日の日には震災後復興した神戸の街並みと、その後に建てられた防災センターを見学しました。改めて地震の被害のすごさを体験し、そして防災の基本的知識を学ばせてもらいました。どちらも議員活動には大切な事柄で、今後の活動に積極的に活かしていきたいと思っております。

議長

次に総務産業委員会の視察研修に関して久保島巖総務産業委員長から報告をお願いいたします。

久保島 巖 委員長。

総務産業
委員長

それでは、総務産業委員会から閉会中の視察研修についてご報告いたします。去る8月19、20日の両日、兵庫県淡路島の北淡町と徳島県上勝町を訪れ、視察研修を行ってまいりました。淡路島の北淡町は阪神淡路大震災の記念公園が整備されておりまして、野島断層保存館というのがございます。当時のズレの大きさそのままに保存されておるところでございまして、背筋の凍るような思いをしたところでございます。保存館の隣接地に断層の上にあって震災に遭った住宅をそのまま保存してありまして、その悲惨な状況も把握してまいりました。敷地内には震災体験館というのがございまして、阪神淡路及び東日本大震災の地震体験ができます。ここを体験しますと実際に起きたときにはこれは身動きができないなというふう感じたものでございます。

徳島県の上勝町は葉っぱビジネスで有名なところでございまして、地域興しをしている町でございます。年収10,000,000円を超えるような葉っぱビジネスのおばちゃんもいるというほどでございまして非常に活発でございます。ただ、葉っぱビジネスで満足することなく様々な取り組みや仕掛けをし町の活性化を図っております。今回はその中でも地域ゼロ・ウェイスト推進活動、いわゆるゴミゼロ推進ということで、ゴミゼロ活動を主体に視察をしてまいりました。上勝町は人口1,717人という非常に小さな町でございまし

て、山間に集落が点在するところがございます。高齢化率は50%という中で町民が危機感を共有しております。ちなみに上勝町ではゴミ収集車というものは回っておりません。生ゴミはすべて各家庭で処理をします。それ以外のゴミは町の入り口にあり、日比ヶ谷ゴミステーションに持ち込みを各町民がするようになっていきました。そして各自で34に分別仕分けをしてまいります。例えば金属でいきますとアルミ缶、スチール缶、スプレー缶、金属製キャップ、それから粗大ゴミというふうに分けるといこととであります。センターには職員1名とシルバー人材の方が2人おまして、お手伝いや指導をしてくれるということとでございます。細かく分別することで引き取り業者というのを探しやすくなっておりまして、業者の方も喜んで引き取ってもらえるということとでございます。ここは土曜、日曜もすべて受け取りをしているということとございまして、年末年始しか休みがないという事業でございます。で、まだ使えそうなものは「くるくるショップ」というのが隣接しておりまして、そこに展示されております。欲しい人は無料で持っていけるというふうなシステムでございます。また衣料とか布類につきましては「くるくる工房」というのがございまして、そこで、カバンとか縫いぐるみとか、まあ着物なんかは洋服に仕立て直すというようなことも行っているところとございます。こうした様々な取り組みの中で2020年までに焼却ゴミをゼロにしようという取り組みとございます。非常に難しいこととありますけれども挑戦を続けているところとございます。そっくり飯島町へ導入しようというには難しいかもしれませんが、この考え方、また町民の取り組みということは大いに参考になるだろうというふうには思っております。今後も議員活動に活かしていきたいというふうには思っております。簡単ですが視察研修の報告とさせていただきます。

議長

続いて、議会広報委員会の視察研修につきまして浜田稔議会広報委員長より報告をお願いいたします。

浜田 委員長。

議会広報
委員長

議会広報委員会は9月4日に東京で編集デザインのセミナーを受講してまいりました。これまで編集作業の効率化を進めておりましたけれども、まあ発行期間も1カ月に定着しましたので、次の取り組みとして、従来のデザインの枠から飛び出して飯島町議会だよりの編集をまったく違う目で見つめ直したいという目的で、編集デザインや出版など広く手掛ける老舗の大手、株式会社コンセントに指導や診断をお願いしました。情報をどんなデザインに乗せて受け手に届けるか、中身を編集して驚きを発見し簡潔に美しく際立たせるか、これまでの研修とは全く違うカルチャーショックの連続でございました。まあその結果を受けて飯島町議会だよりの紙面も実は次の号から横書きに大きく変更する予定でございます。なお本セミナーには総務課文書係、それから委託先の印刷会社のデザイナーの方も参加されたことを付け加えて報告とさせていただきます。

議長

それぞれの皆さんには視察研修大変ご苦労様でございました。以上で諸般の報告を終わります。

ここで議事進行についてお諮りいたします。決算案件、請願・陳情案件につきましてはいずれも各所管の常任委員会へ審査を付託しております。そこで決算案件につきましては一括して各委員長より委員会審査報告を求め、これに対する質疑の後、議案ごとに討論・

採決を行い、請願・陳情案件につきましては総務産業委員長より委員会審査報告を求め、これに対する質疑の後、討論・採決を行いたいと思います。また第17号議案及び第18号議案につきましては議案ごと提案説明・質疑の後、討論・採決を行うことにしたいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長

異議なしと認めます。

議 長

日程第2 第3号議案 平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定について

日程第3 第4号議案 平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

日程第4 第5号議案 平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

日程第5 第6号議案 平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

日程第6 第7号議案 平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

日程第7 第8号議案 平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について

日程第8 第9号議案 平成26年度飯島町水道事業会計決算認定について

以上、第3号議案から第9号議案までの平成26年度決算7議案を一括議題とします。

本案につきましては各常任会に審査を付託してあります。各委員長から一括してそれぞれの議案に対する審査報告を求めます。初めに総務産業委員長の報告を求めます。

久保島 巖 総務産業委員長。

総務産業
委員長

総務産業委員会の決算審査報告を申し上げます。去る8月31日本会議において分割付託されました第3号議案平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算、及び第7号議案平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算、第8号議案平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算、第9号議案平成26年度飯島町水道事業会計決算につきまして、9月14日から16日までの3日間慎重に審査した結果、お手元の報告書のとおり全会計とも認定すべきものと決しましたのでご報告いたします。なお審査の過程で出されました意見を報告いたします。まず一般会計における賛成意見でございますが、実質単年度収支でも100,000,000円余りの黒字となっており、財政的にも健全でバランスのとれたものになっていることを評価する。統計上の錯覚や誤解を招く恐れのある住民1人当りの指数とか、県内77市町村の分類を超えたランキング、これは分析としては適切とは思えないので今後適切な表現を求めたい。維持補修費につきましても町内企業の底上げを含め長期的計画で進めていってほしい。人事評価は能力主義に偏らず新たなメンタルヘルス懸念者を生み出さない対応が求められる。また農地中間管理機構の集約化が郡内2位と進んでいる。しかし大規模農家だけではなく中小規模農家も生きていく道を確認して欲しい。農地は皆のものという考え方を大事にしてほしい。行政報告書に各課の課長総括も乗せて欲しい。また行政評価書も合わせていくと見易いものになって

くるのではないか。防災訓練の具体的かつ実効的な取り組みを期待したい。定住促進策がいろいろな形の中で成果を上げてきている、このことは高く評価する。坊主平に観光トイレが整備され、千人塚公園までの連携した観光施設の開発ができるという見通しが出てきた、このことに期待をするものである。平成25年まで専決処分を当たり前としてきたものですが、26年度から大きく変わった。整合性のある決算になっているということは評価できる。今後も予算計上主義を貫いてもらいたい。行政評価書を、報告書はよくできており、各係長の説明も適切であった。非常に分かりやすかったことも評価できる。よってこれは賛成する。水路、道路、補修改善の喫緊の課題だ。将来を見据えた中で計画的に進めることを更に求めていく。また町内の事業所での物品購入や工事発注など可能な限り進められることを求め賛成とする。

次に、公共下水道事業でございますが、的確に運営されていることを評価する。今後、水洗化率74.8%をさらに向上させる取り組みを求め賛成とする。

続きまして、農業集落排水事業におきましては健全な経営がなされており賛成とする。

水道事業会計では、長期見通しには課題もあるが目下のところ健全であり、運営されていることを評価し賛成とする。また水質管理等も適切で運営も良いと感じている。しかしまだ現在まだ9キロ残っている石綿管の早急な取り換えこれを求めていきたい。それをもって賛成とする。

以上、総務産業委員会の報告といたします。

議長
4番
折山議員

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

ちょっと中身が分からないところがありましたけれども、お分かりになったら教えていただきたい。あの最初の部分で、あのまあ健全財政指数他で何かその財政の出動で1世帯当たりをこう分かりやすくしたようなものが適切な資料でないとか、それからあの何か順位付けが適切でないというようなあの発言があったということなんですが、もしその中身ね、何故ということあればちょっと教えていただきたい。

総務産業
委員長

住民1人当りの借金とかですね、住民1人当たりの費用とかっていうのを出してみてもですね、それは単に人口の問題で割ることであってですね、そのものが行政の運営を表しているものとは言えないという意見がございました。また県内の77市町村のランキングというのが載っているわけですが、これは分類等がございますよね。その分類の中で順位付けをしないと大きな市から小さな市、また産業形態が違うという市町村をですねそのまま比べるということはいかなるものかという意見がございました。もうちょっと適切な表現、分かりやすいものというのがあるのではないかと、そのへんを検討してほしいということでございました。

議長

他にありませんか。

議長

(なしの声)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。久保島総務産業委員長、自席へお戻り下さい。

次に社会文教委員長の報告を求めます。

中村社会文教委員長。

それでは当委員会に付託されました第3号議案平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定について分割付託分、第4号議案平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について、第5号議案平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について、第6号議案平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、を9月14日から16日までの間、関係職員の説明を求め慎重に審査を行いましたのでここで報告を申し上げます。なお質問の内容につきましては質問は「問」、説明は「答」と申し上げますのでよろしくお願いいたします。

健康福祉課で出た質疑を申し上げます。「問」緊急医療キットの活用と評価、改訂状況は。「答」36件のうち22件救急隊で活用されている。利用者評価は今後行っていく。

「問」今後病院から在宅への対応が重要であるがその対策は。「答」退院後、主治医と連携をとり訪問介護になると思う。24時間態勢を将来的に考えていかなければならない。

シェアハウスという考えは難しい。「問」地域介護福祉計画は範囲内であるか。「答」町

はもう1箇所要望が出ている。地域福祉空間事業ではスプリンクラー改修はそのまま継続されるが、高齢者枠は縮小される。「問」後期高齢者医療での2025年問題について会計上はどうか。「答」高齢者人数、診療報酬増により増大する。10年後の見通ししか出ていない。今後、県に統一されてから考えていく。予防医療、在宅医療、在宅福祉を

重視していくよう要望する。「問」定期予防接種が集団から個別接種になって経費は以前に比べてどうか。個人負担はあるか。「答」支出は増えている。法定A類は個人負担がない。意見として、医師確保については、縁のある人で懇話会をつくり、できる手は真剣に

打ってほしい。皆が都会志向でないと思うので取り組みを求める。

教育委員会関係では、「問」まちづくりセンターいいじまに委託の予約システムは手間、利便性など効果が出ているか。「答」インターネット、スマホで予約できるため利便性は

向上しているが、電話予約もあるので二重の作業となっている。以前のように電話が集中することは解消されているが今後改善すべき点もある。「問」総合スポーツクラブの位置

付けは行政側から普及することとなっているので行政報告書に載せる必要があるが。

「答」B&G事務室を事務所としている。施設回りの整備も行っている。来年度から行政報告書に掲載する。「問」田切球場の使用料について駒ヶ根シニアはどうなっているのか。

「答」周辺整備委託料は支払っていない。使用料は環境整備と飯島の児童生徒も加入していることにより無料。「問」信毎データベースの使用状況は。「答」年118回、週3回

程度。役場内利用も入っている。学校事務室でも見られる環境となっている。「問」生活改善について公民館の仕事と捉えるのはおかしいと館長も思っている。取り組みについて

の考えは。「答」今後、館長・主事・支援委員会にて意見を聞いていく。「問」体育館施設の利用状況で野外運動場の利用が減っている理由は何故か。人数集計でなく団体数を集計

する形で利用度がより確実に分かるのではないか。統計の取り方の工夫も考えてほしい。例えば鍵返却時に台帳記載するなど。「答」理由は定かでないが概算で積算している状況

であり正確でない。団体数であれば載せることができると思う。統計方法も検討していく。

「問」飯島文化館が洋式トイレになったが未だコンセントが無いためウォームレットになっていない、改善する予定は。「答」今後検討する。「問」飯島運動場のトイレは子ども

達が使えない。衛生的にも問題がある。改善はどうなっているのか。「答」実施計画で防

災記載で行う。実施計画の先送りとなっている。防災時も含めた施設内容で検討していく。

「問」生涯学習系の事業の中で今後も「まちおこしソング」の普及に向けた取り組みを行っていくか。「答」企画政策課と連携して行っていく。「問」図書館の移動図書館車の状況は大丈夫か。「答」整備しながら行っている。「問」太陽光の売電において七久保小と飯島小は飯島の方が少ないがその違いは。「答」設置場所の関係と飯島小の方が利用量が多いことからそのような結果となる。「問」学校給食センターの利用状況の掲載もしてほしいが。また食育のこれからは。「答」今後、学校給食利用状況について掲載していく。食育推進計画の見直しについては産業振興課、教育委員会、健康福祉課の連携が必要で、平成29年度の計画に合わせ28年度から健康福祉課が総合窓口として行う。

総括質疑です。「問」引きこもり問題は最近の新聞報道によると全国で25万世帯、0.56%、県内でも2,500世帯ほどあり、今後の高齢化に向かい深刻である。教育相談員は行っているが、引きこもり対策も教育委員会単独でなく社会福祉と連携した取り組みをしていくべきだが。「答」社会問題は承知している。原因は様々かと思うので早いうちに対応し芽を摘む必要があると思う。総合教育会議、福祉とともに行っていきたい。

「問」知的障がい者グループホームについて、本人や保護者の高齢化により当事者要望が少なくなっているように思うが。対象者の将来に対して行政が今後の道筋を付けていくべきでは。「答」親の高齢化に伴う対応は大変重要と感じている。障がい者の計画にも入っている。今後については家族会との話し合いを設けたり、親愛の里、社協にも声かけをしてある。「問」福祉タクシー券と循環バスの関係において、循環バスは高齢者を無料とし、循環バス利用度を増すよう検討しては。「答」経路の利用を良くしているがなかなか利用増とならない。全てタクシー券という訳には財政面で無理がある。無料についても声があるが、バス、タクシー券との組み合わせで行っていくしかないと思っている。

「問」財務分析によると正味資産割合は類似団体で比較すると高く、将来世代の負担が先送りされて現世代の負担が多い。一方、将来負担比率は91.2で類似団体69番と高い。他の市町村はゼロとなっているところが大半だが、インフラの修繕等も入れると将来負担はさらに増すことになる。再投資時期、財源状況の見積りも計画が重要であるが、また負担率を減らしていく方向にあるのか。「答」借金の将来負担は常に考えていかなければならないことである。高低差はその年度によって出てくるが、町の公共インフラについては分母になる数字は大きい。基金の積み立てはするが長寿命化への取り組みを行っていく。今後は耐用度将来数字を見ていく。道路、水路、河川の改修は必要である。負担率は住民要望とのバランスをとっていく。「問」教員住宅が本来の目的に使われているのは少なく、定住促進の多目的使用となっている。整理をする段階にきているのではないか。また教職員が地元に住んでもらえる状況を作れないか。「答」本来は教員住宅として建築したが、実態は定住促進の一部として一時的目的に使っている。校長、教頭くらいは地元に住んでもらいたい、不足の事態もあり教員も現在はサラリーマン化している。整理をする必要もある。郡内でも問題ではないかとの話も出ており、教職員には住んでほしいと頼んでいる。「問」奨学金制度を医学生1名が利用していることは大変に良いことと思う。今後利用者が増え基金が不足した場合は積み増しをしてほしいが。「答」できれば昭和伊南病院や地元に戻ってきてほしいので積み増しはしていく。医療確保については厚労省は減少の方向を考えているが、地方は特別枠で増やしているのは救いである。大学に入ってから医

師になるまで8年掛かり、今から対策を講じていくことが必要である。「問」国保会計について平成30年に県一元化が決まっているようだが、運営は自治体単位となっている。そのことで個人負担が多くなり金銭的余裕のない人が医療を受けられない状況もありはしないか。セーフティネットの強化を図るべきでは。資産が所得を産まない状況が多々あり今日の課題ではないか。賦課割合では応能、応益分を検討すべきでは。「答」県一元化資産割について市町村に委ねられているということではない。国保税率での問題があり今後は状況を見ながら検討していくことになると思う。一元化割合等について差があるので県の中で検討されていくと思う。セーフティネットについては軽減し、納め易く、短期証により措置している。また貸付制度での対応も行っている。「問」保健師が産休で減っているが対応が大変ではないか。保健師事業は常にマンパワーであってほしいが。「答」保健師の役割は重要で住民から評価もよく活躍が見られる。支障の出ないようにしていく。育休、産休は嘱託看護師、嘱託職員、嘱託等で対応している。町で看護師を募集しても応募がない。現在、県看護士大でPR活動を行い呼びかけを行っている。今後を期待している。

「問」保健師体制は正規、臨時、嘱託職員で運営しているが、将来を担う保健師の採用が必要ではないか。「答」児童数減少により正規も抱えきれない状況にある。ちなみに松川町、高森町はほとんど臨時職員である。今後バランスとりながら採用していきたい。

「問」行政評価書の評価の仕方が甘いのではないかと感じるが、今後評価のあり方を検討すべきではないか。努力した結果がどうかで評価すべきではないか。「答」成果を求めると、過程を認めての評価か2通りの考え方があると思う。成果も重要だが、目標に向かっての取り組み過程を重視し判断としている。この件では今後の評価判定で検討するよう要望が出されました。

賛成討論では、一般会計、健全財政に配慮した中で各種施策が着実に施行されており、町民福祉の向上、子育て支援、学習の推進などの成果が表れていることを評価する。医療確保対策について実を結んでいる。福祉、医療、介護をはじめ地域と交流を図っている「やすらぎ」などの事業取り組みは大変良い。医師確保奨学金の取り組みも評価する。国保会計では医療費は確実に伸びておりこれからの大きな課題ですが、26年度会計を見ると制度の有効活用による財源の確保など努力が認められ、先を見通して予防への努力も堅実に行われていることを評価する。介護保険事業では介護サービスの増加、介護給付の右肩上がりに対し介護保険の理念である利用者の自立を支えることを念頭に、要介護卒業に向けた行政全般の取り組みも行われていることを評価する。後期高齢者医療保険事業では保険料収納100%を達成しており、関係者の努力を評価する。

以上、主な審査内容の報告といたします。4議案の認定をいただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

議長 これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

中村社会文教委員長自席へお戻り下さい。

以上で平成26年度決算7議案に係る委員長報告及びこれに対する質疑を終わります。

これから議案ごとに討論・採決を行います。

最初に第3号議案平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定について討論を行います。

す。初めに原案に反対討論はありませんか。

(なしの声)

議 長
11番
竹沢議員

賛成討論はありませんか。

それでは平成26年度一般会計決算を認定する立場で討論に参加いたしたいと思います。収支におきましては実質単年度収支 95,740,000 円の黒字を評価いたします。歳入では町税がたばこ税を除き増収となりまして、まあアベノミクス効果が鈍足ではありますが、じわり効果があるのかなと思うところがございます。歳出では公債費が11%減少し、財政調整基金も1,000,000,000 円台となったことを評価いたします。また普通建設事業費は地域介護福祉空間整備事業や田切道の駅の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業、防災関係のハード事業などを評価するものでございます。高坂宗昭町長をしてこの12年間、町民の幸せ、安心安全のまちづくり、福祉増進にご尽力されたことを高く評価するものでございます。本人もおっしゃっているように、種を蒔き、肥培管理を行い、収穫への道筋を付けてきた高坂町長のバイタリティー、国や県の有利な財政支援を獲得し、厳しい町の財政を補ってきたこと、また全国をハードスケジュールの中、家庭への負担も掛けつつも飛び歩き、着実に実績を残した次につなげる幾多の政策課題の方向性を見いだしたことを町民の皆さんと共に高く評価するものであります。今後どなたが町長になりましても我が飯島町は第5次総合計画や地方創生総合戦略など、計画性を持った事務事業の執行が必要なわけでありまして、当然のごとく経常経費の削減、起債の繰り上げ償還、起債発行の抑制などに取り組み、将来負担の軽減、健全な財政運営が求められるところでございます。現在、長野県は77市町村であります。平成26年度決算を認定いたしますが、私が常に申し上げておるように「きらり輝く飯島町」とするため、理事者、職員一丸となって町民の幸せのためなお一層ご尽力いただくことをお願い申し上げまして賛成討論といたします。

議 長

他に討論ありませんか。

(なしの声)

議 長

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第3号議案平成26年度飯島町一般会計歳入歳出決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定するものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議 長

お座りください。起立全員です。従って第3号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議 長

次に第4号議案平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議 長

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第4号議案平成26年度飯島町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定す

るものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議長 お座り下さい。起立全員です。従って第4号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議長 次に第5号議案平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第5号議案平成26年度飯島町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定するものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議長 お座り下さい。起立全員です。従って第5号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議長 次に第6号議案平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第6号議案平成26年度飯島町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定するものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議長 お座り下さい。起立全員です。従って第6号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議長 次に、第7号議案平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第7号議案平成26年度飯島町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定するものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議長 お座り下さい。起立全員です。従って第7号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議長 次に、第8号議案平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第8号議案平成26年度飯島町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定するものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議長 お座り下さい。起立全員です。従って第8号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議長 次に、第9号議案平成26年度飯島町水道事業会計決算認定について討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第9号議案平成26年度飯島町水道事業会計決算認定についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は認定するものです。本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方はご起立願います。

[賛成者起立]

議長 お座りください。起立全員です。従って第9号議案は原案のとおり認定することに決定しました。

議長 日程第9 第17号議案平成27年度飯島町文化館防災機能強化事業契約の締結についてを議題といたします。

事務局長に議案を朗読させます。

(議案朗読)

議長 本案について提案理由の説明を求めます。

町長 それでは、第17号議案平成27年度飯島町文化館防災機能強化事業契約の締結について提案理由の説明を申し上げます。本年9月3日に飯島町財務規則第114条の規定により、一般競争入札を行いました平成27年度飯島町文化館防災機能強化事業について、工事請負契約を締結するため地方自治法第96条、及び飯島町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を求めるものであります。なお当工事の事業費につきましては平成27年度緊急防災減災事業起債を充当するものであり、契約金額は147,420,000円、契約の相手方は株式会社ヤマウラ飯島支店となります。また工期につきましては議会議決の日から平成28年、来年の3月25日を予定しております。細部につきましては教育次長から説明申し上げますので、よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

(補足説明)

教育次長 議長 これから質疑を行います。質疑はありませんか。

10番 坂本議員 これに関った他の入札の会社名とそれと落札率はいくらだったんでしょうか。

企画政策課長 入札につきましては担当所管ではなく企画政策課の方で行っておりますので、その関係

についてご報告させていただきます。入札ですが一般競争入札ということでございます。参加された会社でございますが5社でございます。それから入札の経過でございますけれども、2 回入札を行った後、見積りに1 回行って落札となったところでございます。落札率でございますが99.93%でございます。以上です。

参加された会社でございますが、野村建設株式会社、下平建設株式会社、株式会社ヤマウラ飯島支店、窪田建設株式会社、石田建設株式会社、の5社でございます。

議長 はい他にありませんか。

(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第17号議案平成27年度飯島町文化館防災機能強化事業契約の締結についてを採決いたします。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。従って第17号議案は原案のとおり可決されました。

議長 日程第10 第18号議案財産の取得についてを議題といたします。

事務局長に議案を朗読させます。

事務局長 (議案朗読)

議長 本案に対する提案理由の説明を求めます。

町長 それでは第18号議案財産の取得について提案理由の説明を申し上げます。千人塚公園内にあります紅葉園の取得について、地方自治法第96条及び飯島町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第3条の規定により議会の議決を求めるものでございます。当財産につきましては、近い将来にリニアや三遠南信自動車道の開通、インバウンド観光・グローバル観光の拡大、中央アルプス県立公園の国立もしくは国定公園への格上指定の変更、等々検討されております中で、将来を見越した新たに時代を迎える現時点において上伊那の観光の南の玄関口でもあり、当町の観光資源の中心的な位置付けである千人塚公園や与田切溪谷一帯を、今後魅力ある観光地として当該建物を含めた一体的な計画を進める構想の中で、再開発に向けた1つの拠点として考え取得をするものであります。細部につきましては企画政策課長から説明申し上げますので、よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

企画政策課長 (補足説明)

議長 これから質疑を行います。質疑はありませんか。

4番

折山議員

まあちょっとあの直接この契約ではなくて、関連の質問であります。まあこの契約の相手方はあの町の普通財産であるあの以前は町営のバンガローとかログハウス、これを使つての個人的な営業をしておると思ひますし、またそのことでまあ観光の一翼を担つていただいていたわけなんです。今回このことによりその建物、どういう運営になるの

か、簡単に言うと、かなり老朽化が進んできたログハウスだかと思えます。あの個人の営業であっても町有地の中で町の普通財産貸し付けたもので事故があったりすると支障があるかと思いますが、まあ関連してログハウス、今後どのような位置付けになるのかお伺いします。

副町長

バンガローの件につきましてはあの紅葉園を運営しております高坂勝治氏に今現在無償で管理を、管理というか、「使えるようでしたらどうぞお使い下さい」というような形であの周辺のバンガローお願いをしておりますが、今回の紅葉園の建物、町が買収することによりまして全てその辺についても解消するというところで話をしております。従って財産の取得と同時に町の方で管理するという事になっておりますが、まだ中については修繕をしたり、あるいはあの修繕をしても使用に耐えないのかどうかということをもう一度精査をした中で、あのバンガローのあり方については再検討していく必要があるのではないかとこのように思っておりますのでよろしくお願い致します。

議 長

他にありませんか。

(なしの声)

議 長

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

(なしの声)

議 長

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから第18号議案財産の取得についてを採決いたします。お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

議 長

異議なしと認めます。従って第18号議案は原案のとおり可決されました。

議 長

日程第11 請願・陳情等の処理についてを議題とします。

先ほど申しあげましたとおり、去る8月31日の本会議において所管の常任委員会へ審査を付託しました請願・陳情等について、お手元に配布のとおり総務産業委員長から請願・陳情審査報告書が提出されております。それでは総務産業委員長の報告を求めます。

久保島総務産業委員長。

総務産業
委員長

総務産業委員会から陳情審査報告を申し上げます。去る8月31日定例会初日において総務産業委員会に付託されました、27陳情第3号新井用水路整備の事業採択に係る陳情につきまして、9月15日午前9時10分より現場調査を行い、状態など確認した上、午後1時30分より会議を開き審査いたしました。結果、お手元の報告書のとおり採択すべきものと決しましたのでご報告いたします。なお審査の過程で出されました意見につきまして報告いたします。現地を見たら早急の改修が必要で余裕はないと感じている。従って採択すべきだ。改修に当たっては水利権、流量の一整理必要であるだろうということ。それから自然エネルギー活用の面の取り組みも見越したものが求められる。そんなような注文がついております。また大変崩落の危険を感じる。大変重要な水路でもあり上水道にも影響を与える。今後活用するには早急な改修が必要である。従って採択すべきである。という意見が出されました。以上町に特段のご配慮をいただきますことを求めるものでござ

います。よろしくご審議いただき、ご議決いただきますようお願いを申し上げます。

議長 これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。
(なしの声)

議長 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。久保島総務産業委員長自席へお戻り下さい。

以上で請願・陳情等の処理に係る委員長報告及びこれに対する質疑を終わります。
これから討論・採決を行います。

27陳情第3号「陳情書（飯島区新井用水水路整備に係る事業採択を求める陳情）」について討論を行います。討論はありませんか。

8番
浜田議員 現地視察をしてみましたが、あの身の危険を感じるような非常に急峻な所の水路であるということを改めて実感いたしました。でこれはあの飯島域を潤す非常に重要な水路であり、防災上も重要であるということは言うまでもないと考えます。それと同時にあの水利権の問題も含めましてですね、大変重要な地域でありまして、実はそれに関連して本年だけでも6件、町外の事業者からあそこに小水力発電を建設したいというふうな申し出もあります。これをあの町のために使うことも今後重要でありますので、そういった長期的なことも見越して改修が進まれるように希望いたしまして賛成討論といたします。

議長 他にありませんか。
(なしの声)

議長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから27陳情第3号「陳情書（飯島区新井用水水路整備に係る事業採択を求める陳情）」について採決いたします。お諮りします。本陳情に対する委員長の報告は採択です。本陳情を委員長報告のとおり採択することにご異議ありませんか。
(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。従って27陳情第3号は採択することに決定しました。

議長 日程第12 議会閉会中の委員会継続審査についてを議題とします。
会議規則第72条の規定により、お手元に配布のとおり、議会閉会中の継続審査について各委員長から申し出があります。お諮りします。申し出の事件について、議会閉会中の継続審査とすることにご異議ありませんか。
(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。従って本件については各委員長から申し出のとおり継続審査といたします。

議長 以上で本日の日程は全部終了しましたので会議を閉じます。
ここで町長から議会閉会のごあいさつをいただきます。

町長 それでは9月議会定例会の閉会にあたりまして一言ごあいさつを申し上げます。去る8月31日から本日まで19日間の会期をもって開催をされました9月議会定例会、議員各位におかれましては慎重審議をいただきまして、上程をいたしました各案件の全てを原案のとおり議決・承認をいただきまして誠にありがとうございました。特に今議会は決算議

会として平成26年度の各会計決算に対する審査とともに、条例改正や平成27年度予算の補正案件など重要案件をご審議をいただきました。議案審議並びに一般質問などを通じて数々の貴重なご意見やご提案をいただきましたが、いずれも十分に胸に留め置きまして町民の皆さんの負託に応えるべく、町長以下全職員一丸となって今後の町政運営に慎重かつ全力で取り組んでまいり所存でございます。併せまして今議会には下島教育委員長さん、森本農業委員会会長さんのご出席をいただき、審議をご清聴賜りまして誠にありがとうございました。

さて、今議会でも多くの議員の皆さんから防災に関する一般質問をいただいたところでありますが、折からこの10日から11日にかけて台風18号や秋雨前線の影響で北関東や東北部の広範囲で豪雨による甚大な被害が発生をいたしました。一級河川が氾濫し濁流が住宅を押し流して、収穫直前の農地を茶色に染めるなど、東日本大震災の大津波被害を思い起こさせるような凄惨な光景でありました。災害で亡くなられた方に哀悼の意を表し、被災された皆様方にお見舞いを申し上げますとともに、行方不明の方の一日も早い発見と復旧・復興を心からお祈りを申し上げる次第であります。昨年の広島市を襲った土石流災害同様に夜間の猛烈な雨の中、ただちに命を守る行動をとることの難しさを痛感するとともに、ハード面における防災対策の必要性や更には日ごろから訓練等準備を重ね、有事の際は最悪の状況を想定して早めの避難行動・安全行動をとることの重要性を改めて教訓とすべき災害であったというふうに感じております。

一方、そうした天災の発生や昨日、一昨日のチリ地震でのま津波を心配とされる中で、それをよそに今延長国会の最大の焦点でなっております安保関連法案が、昨日の午後、参議院の特別委員会で強行採決をされ、今日にも本会議に緊急上程をされ、可決成立の可能性大ということになりました。当町をはじめ全国の地方議会の多くが安保関連法案に反対や慎重審議の意思表示をただけに、また国会周辺をはじめ全国各地で行われていた法案反対の集会、更には報道各社の直近の世論調査などからより慎重な対応を期待してまいりましただけに、付帯決議が施されたとはいえ、政権と民意の溝は埋まらないままの決着見通しとなったことに対しまして、甚だ残念に感じておるとともに、おとといからのテレビ等で映し出されております国会内、あるいはその周辺での怒号と混乱の政治劇を見ていますと、政治の貧困とむなしさを感じずにはおられません。最近の国政はこの安保関連法案の議論や原発再稼働問題に見られますように、政権と世論のねじれがあまりにも大き過ぎると感じているところでありまして、国が抱える重要課題が山積をする中で、政府には今一度原点に戻り、真摯に国民の声と向き合う政治を切望してやまないところであります。

さて、台風や秋雨前線の影響で遅れ気味だった圃場はコンバインが急ピッチで稼働をし始め、これから先まさに収穫の秋の最盛期が続きます。今年のコスモスの咲き具合も気になるところであります。この先を毎週のように開催をされますイベントや、農産物、秋の紅葉を求めて県内外から大勢のお客さまが訪れることを期待してやみません。町民の皆様もこうしたイベントに主体的に参加をいただき、是非おもてなしの心を持ってお客さまをお迎えし、一人でも多くの飯島ファンを増やして交流から物流へとつなげて、飯島町全体のイメージアップと活性化にお力添えをいただきますようお願いするところであります。併せてまだまだ台風シーズンが続くわけですが、それぞれのお立場で万全な備えをしていただくとともに、町といたしましても今までも増して万全を期してまいりた

いと考えております。

さて、本定例会は私にとって最後の定例会となりましたが、3期12年間、様々な行政課題に対して真摯な議論を通じて町政の発展にご尽力ご協力を賜りまして、議員の皆様に心から厚くお礼を申し上げますとともに、任期満了まで2カ月余りありますので、いずれ改めてごあいさつ申し上げる機会があるかと思っておりますので、今は任期いっぱい全力で残された町政を推進してまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりましたが、議員各位におかれましては時節柄、健康には十分ご留意をいただき一層のご活躍を心からお祈りを申し上げ、9月議会定例会の閉会にあたってのごあいさつとさせていただきます。誠にありがとうございました。

議 長

以上をもって、平成27年9月飯島町議会定例会を閉会といたします。

午前10時27分 閉会

上記の議事録は、事務局長 宮下 務の記載したものであるが、その内容の相違ないことを証するため、ここに署名する。

飯島町議会議長

署 名 議 員

署 名 議 員